令和３（2021）年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書

いつも、人から。そして、心から。
長崎国際大学
Nagasaki International University

長崎国際大学
自己点検・評価委員会

	教育職員	氏名	頁
	人間社会学部国際観光学科		
1	学部長・教授	池永　正人	1
2	学科長・教授	井上　英也	6
3	教授	落合　知子	11
4	教授	熊谷　賢哉	16
5	教授	滝　知則	20
6	教授	田中　誠	27
7	特任教授(甲)	嶋内　麻佐子	33
8	特任教授(甲)	橋本　健夫	39
9	准教授	大井田　かおり	43
10	准教授	落合　和昭	49
11	准教授	乙須　翼	53
12	准教授	尾場　均	59
13	准教授	佐野　香織	66
14	准教授	城前　奈美	71
15	准教授	城本　高輝	76
16	准教授	新藤　照夫	81
17	准教授	竹田　文雄	86
18	准教授	Thom W. Rawson	90
19	准教授	宮良　俊行	97
20	准教授	森尾　真之	102
21	准教授	山内　美穂	107
22	講師	浦郷　淳	112
23	講師	江島　弘晃	118
24	講師	川上　直彦	123
25	講師	John Patrick Owatari—Dorgan	129
26	講師	神野　周太郎	135
27	講師	高橋　憲司	140
28	講師	陳　慶光	147
29	講師	中島　金太郎	153
30	講師	東出　朋	159
31	講師	Brendan Van Deusen	163
32	助教	相羽　枝莉子	168
33	助教	幸山　智子	173
	人間社会学部社会福祉学科		
1	副学長・教授	木村　勝彦	178
2	学科長・教授	脇野　幸太郎	185
3	教授	大町　いづみ	190
4	教授	齊藤　晋治	195
5	教授	坂本　雅俊	200

	教育職員	氏名	頁
6	教授	中村　龍文	205
7	教授	柳　智盛	209
8	准教授	梅野　潤子	215
9	准教授	大畠　啓	220
10	准教授	韓　榮芝	225
11	講師	浦　秀美	230
12	講師	Virág　Viktor	239
13	講師	野田　健	246
14	講師	久田　貴幸	251
15	講師	裵　孝承	256
16	講師	星野　秀治	260
17	講師	丸山　貴志	264
18	助教	中村　尚生	269
19	助教	向　晃佑	275
20	助手	金子　麻美	279
	健康管理学部健康栄養学科		
1	学部長・教授	野村　秀一	283
2	学科長・教授	熊井　まどか	288
3	教授	岡本　美紀	293
4	教授	古賀　貴子	298
5	教授	佐々木　裕	304
6	教授	水江　文香	308
7	准教授	林　俊介	313
8	准教授	松尾　嘉代子	320
9	准教授	山口　留美	326
10	講師	小田　和人	331
11	講師	川内　美樹	337
12	講師	川野　香織	342
13	講師	髙江洲　有沙	347
14	講師	藤井　俊輔	352
15	講師	宮原　恵子	357
16	講師	吉村　亮二	362
17	助教	射場　仁美	367
18	助教	菊地　優子	371
19	助教	吉永　奈津希	375
20	助手	芦塚　淳美	379
21	助手	井上　朋奈	383
22	助手	嘉数　圭祐	387
23	助手	川邊田　晃司	391
24	助手	古田　美咲	395

	教育職員	氏名	頁
25	助手	山口　捺未	399
26	助手	山下　千尋	403
	薬学部薬学科		
1	学長・教授	安東　由喜雄	407
2	学部長・教授	藤田　英明	414
3	学科長・教授	椛島　力	418
4	教授	市川　和洋	423
5	教授	大磯　茂	428
6	教授	大庭　義史	433
7	教授	小川　由起子	438
8	図書館長・教授	岸原　健二	444
9	教授	隈　博幸	449
10	教授	黒川　健児	454
11	教授	小林　秀光	459
12	教授	佐々木　茂貴	465
13	教授	佐藤　博	471
14	教授	高井　伸彦	477
15	教授	長岡　寛明	482
16	教授	西奥　剛	487
17	教授	早川　正信	492
18	教授	深澤　昌史	496
19	教授	室　高広	501
20	教授	山口　拓	506
21	教授	山口　泰史	512
22	教授	淀　光昭	518
23	准教授	宇都　拓洋	522
24	准教授	太田　一寿	528
25	准教授	神谷　誠太郎	532
26	准教授	神田　紘介	536
27	准教授	田中　宏光	541
28	准教授	山田　耕平	547
29	講師	石原　知明	552
30	講師	榎本　彩乃	557
31	講師	太田　智絵	562
32	講師	相田　美和	568
33	講師	髙崎　伸也	573
34	講師	出口　雄也	578
35	講師	縄田　陽子	583
36	講師	藤井　佑樹	588
37	講師	藤木　司	593

	教育職員	氏名	頁
38	講師	藤本　京子	597
39	講師	吉田　達貞	602
40	助教	大神　正次	607
41	助教	大久保　伸哉	613
42	助教	倉岡　卓也	619
43	助教	末廣　真理恵	623
44	助教	中島　健輔	628
45	助教	中村　沙織	632
46	助教	波多江　日成子	637
47	助教	福森　良	641
48	助教	松下　博昭	646
49	助手	上田　亮太	650
50	助手	髙島　啓吾	654

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 池永　正人

１．教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【R2後期～】	15/15(前期)	4	4	⑥
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	11	⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	⑥
観光地理学	15/15(前期)	2	167	②
観光政策論	15/15(後期)	2	181	②
地理歴史科教育法	15/15(前期)	2	2	④⑦
社会科地理歴史科教育法	15/15(後期)	2	6	④⑦
地理学	15/15(前期)	2	80	②
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	7	⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	7	⑥

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
観光地理特講	15/15(前期)	2	1
観光地理特講	15/15(前期)	2	3
観光自然資源特講	15/15(後期)	2	6
事例研究（観光地理）	15/15(後期)	2	1
特別研究指導Ⅱ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【学部授業】

講義科目の地理学（前期・履修者115名）授業アンケート評価4.4、観光地理学（前期204名）4.4、観光政策論（後期206名）4.5は、いずれも昨年度同様に全15回Zoomによるオンライン授業であり、授業評価は

高かった。パワーポイントによる説明内容、話し方、発声などが良好な点として評された。また、履修者の毎回の課題提出義務は授業の予習・復習を促し、授業内容の関心と理解度を高める効果があったものと認識する。課題としてはオンライン授業90分の参加率を高める必要が生じた。その対策として授業中に不定期に小テストを試みた。

専門演習Ⅱ（7名）は、コロナ禍のなか感染予防をしながら前期は西海国立公園九十九島、後期は阿蘇くじゅう国立公園九重山の両国立公園の観光地調査を実施して、野外調査の手法を指導した。卒業研究（11名）については、各自の研究テーマにそった個別指導を行い全員の卒業論文を完成させることができた。

教職課程の地理歴史科教育法（前期4名）と社会科地理歴史科教育法（後期6名）の授業に関しては、高等学校の地理・歴史教育の内容と歴史的変遷を教授するとともに、学習指導案の作成と模擬授業の個別指導による教育実習の準備を行うことができた。

【大学院授業】

観光学専攻修士課程の講義科目の観光地理特講（前期4名）、観光自然資源特講（後期6名）、事例研究（観光地理）（後期1名）は、毎回予習・復習の課題を与えて専門用語の説明記述レポートを提出させた。また、各自の修士論文に資することを念頭にして、統計数値の表・グラフ表現の技法を指導した。

研究指導については、修業年限内（修士課程2年、博士後期課程3年）の学位論文提出を前提とした指導学生2名の修士論文および博士論文（地域マネジメント専攻）の作成は、盆休みと正月休み以外は毎週定期的に指導を行い、計画どおりの進捗状況にある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

スイスアルプスをフィールドワークにしていることから、コロナ禍において2年連続現地調査が不可能な状況にある。そこで、今年度はこれまで現地で収集した原書や聞き取り・観察調査結果の分析を行った。全国規模の学会誌への論文投稿を実現すべく、目下原稿を執筆中である。

学会活動においては、日本温泉地域学会の事務局・副会長として、総会・研究発表大会・学会誌編集発行など学会運営の円滑な業務遂行に取り組んだ。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

山村順次先生の経歴と観光地づくりの観念／2022年3月／温泉地域研究 第38号／3頁～4頁／単著／特集原稿

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

自由論題研究発表3件の座長／2021年11月28日／日本温泉地域学会　於：群馬県四万温泉

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	国際交流・留学生支援センター長、委員長	バーチャル短期留学の派遣（アメリカ・カリフォルニア州立大学サンマルス校） 阿蘇の学外講座の実施
全学共通教育委員会	委員	なし
教員資格審査委員会	委員	新規採用教員、昇任人事
防火・防災委員会	委員	なし
危機管理委員会	委員	なし
利益相反マネジメント委員会	委員	なし
輸出管理委員会	委員	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	構成員	なし
情報セキュリティ委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学部・大学院の教育活動に関する記事等の大学ホームページ掲載

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州風景街道推進会議	委員	平成19年度～現在に至る	国土交通省九州整備局道路部
ながさきサンセットロード推進協議会	委員	平成19年度～現在に至る	長崎県土木部道路維持課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

ながさきサンセットロード清掃ボランティア活動
実施日：2021年11月20日（土）午前
場　所：大学付近の国道沿い
内　容：ゴミひろい
参加者：15名

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
第19回留学生日本語弁論大会	開国祭の留学生プログラム審査委員長	10月30日（土）	国際交流・留学生支援センター

長崎発グローカル人材育成プログラム	阿蘇の学外講座ー阿蘇の火山と観光活用を学ぶー	12月11日（土）	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
中国・福建技術師範学院との交流協定会議	教育・研究等の交流協定	12月20日	オンライン会議	福建技術師範学院

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

人間社会学部長および大学院人間社会学研究科長の役職は5年目となり、学部・大学院の運営に多くの時間を費やした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響が年間を通じて生じたことで、国際観光学科の観光研修やスポーツ実習、海外留学が催行できず、適切な代替措置も講ずることが困難であった。社会福祉学科においては福祉施設実習の大幅変更はあったが、4年生の国家試験合格支援は所期した目標を達成できた。一方、大学院では博士号の学位授与者2名、観光学専攻と社会福祉学専攻について修士号の学位授与者5名を育成した。

個人の研究活動は、満足のゆく成果を上げることができなかった。次年度は研究論文と著書の執筆に力を入れるように努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 井上　英也

１．教育理念

観光産業を日本の主産業へとの機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な　“おもてなし”　に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、この人材層に高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1.　グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2.　経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3.　地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	17	⑥⑪⑫
ホテル管理論	15/15(後期)	2	83	②④⑤⑥⑦
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	14	②④⑥⑦
専門演習ＩB	15/15(後期)	1	14	②④⑥⑦
IR論	15/15(前期)	2	63	②④⑤⑦⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	10	②④⑥⑦
起業論	15/15(前期)	2	17	②④⑥
Hotel Management	15/15(後期)	2	45	①②④⑤⑥⑦

専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	17	②④⑥⑦
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	17	②④⑥⑦
ホテルビジネス英語	15/15(後期)	2	28	②⑦⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
宿泊業特講	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2021年度に実施したアンケートの”授業に対する満足度”は以下のとおり。

【前期】
・起業論　4.9
・IR論　　4.6

【後期】
・ホテル管理論　4.6
・ホテルビジネス英語　4.6
・Hotel Management　4.6

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
② グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
③ 宿泊業におけるインバウンド戦略
④ 地域の観光振興　ーDestination　Management　Organizationの在り方ー
⑤ 統合型リゾート（IR）における人材マネジメント

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	7万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

九州・長崎から国際観光人材を輩出するための道筋／2021年7月31日／九州・長崎 国際観光人材育成セミナー ～第2回：国際観光人材育成の発展と国際IR産業の実例～

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市次世代創業者育成プログラム共同研究事業	佐世保市	2021年4月1日～2022年3月31日	7万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	なし
自己点検・評価委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員	なし
産学連携・研究支援センター	委員	なし
全学教育会議	構成員	なし
スポーツサポートセンター	センター長	当該センターのセンター長として創設後の運営に貢献した。
地域連携センター	アドバイザー	観光的な観点からの地域連携推進に向けたサポートをした。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	タイプ4WG委員	「社会実装の推進」に向けた活動に関する情報提供をした。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐賀県立白石高等学校出張講義／2021年7月8日／於：白石高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	欠席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
世界に通用する観光人材を長崎から	2022年1月15日	長崎市　出島メッセ	長崎県・カジノオーストリアインターナショナルジャパン

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光審議会	会長	2019年2月～現在に至る	長崎県知事
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会	委員	2017年7月～現在に至る	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会会長
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会	代表理事	2017年3月～現在に至る	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会理事会
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	座長	2021年3月～現在に至る	長崎県IR推進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍により、活動全般において柔軟な対応が迫られる状況の中、教育面においては、遠隔、対面にかかわらずライブで講義を進め、質的な維持はできたと考える。また、国際観光学科の今後に大きな影響を与えるIR誘致に関しては、人材育成面で長崎県、佐世保市および事業者をリードし、本学科の存在感を示すことができたと考える。

以下に今年度の教育面および研究面を総括する。

１．教育

ホテル関連科目については、引き続き、受講生に基礎知識をしっかりと植えつけると共に、実践的な視点を持たせることに注力している。また、ホテル関連科目以外では、講義と演習を組み合わせた「起業論」はグループワークを主体に組み立てた授業のため遠隔には不向きであったが、個人の課題遂行型に切り替えて質の維持を図った。ゼロからビジネスプランを作成しオンラインにて発表することを目標にし、佐世保市が開催するビジネスプランコンテストへの応募を目指した。結果、2組が応募した。

ゼミにおいては、引き続き、地域の要望に応える必要もあり、ホテルオークラおよび化学薬品会社などと連携し、コロナ禍における客室管理に関し実証研究を行った。学生の主体性を重んじることで創造性を育み、その成果物を第三者に伝えるコミュニケーション能力を育成することができた。

２．研究

今年度は、コロナ禍に加え学科運営が多忙であったため具体的な成果を上げられなかった。長崎県および佐世保市が誘致を進めているIRに関しては、国際的な観光人材の育成が求められており、自治体、関連企業、地域の大学との共同研究の受け皿となるコンソーシアムの準備会を組成し、座長として全体の進捗をリードした。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 落合　知子

１．教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから2冊の本を雄山閣から出版した。令和3年5月に『医学・歯学・薬学系博物館事典』を出版した。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習C【R2後期～】	1/45(前期)	1	2	⑦⑪
博物館実習A	1/45(通年)	1	43	⑥⑦⑪
卒業研究【観】	1/30(通年)	4	7	⑫
博物館実習C	1/45(通年)	1	42	⑦⑪
博物館資料保存論	1/30(前期)	2	147	②⑨
博物館資料論	1/30(後期)	2	206	②⑨
専門演習ⅢA	1/30(前期)	1	10	①⑫
専門演習ⅢB	1/30(後期)	1	10	①⑫
日本史	1/30(後期)	2	156	②⑨
博物館実習B	1/45(通年)	1	9	②⑪⑫
生涯学習概論	1/30(前期)	2	150	⑥⑦⑪
博物館概論	1/30(後期)	2	149	②⑨
専門演習ⅠA	1/30(前期)	1	6	⑥⑫
専門演習ⅠB	1/30(後期)	1	6	⑥⑫
専門演習ⅡA	1/30(前期)	1	6	①⑥⑫
専門演習ⅡB	1/30(後期)	1	6	①⑥⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
博物館特講	1/15(後期)	2	4
博物館特講	1/15(後期)	2	2
事例研究（博物館）	1/15(前期)	2	3
特別研究【2年生　半期（～秋）】	1/15(通年)	8	1
特別研究【2年生　通年】	1/30(通年)	8	2
特別研究指導Ⅱ	1/30(通年)	4	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2021年度の授業のうち、講義に関しては受講者が200名を超える科目が多く、全て遠隔指導となった。
博物館実習A,Bは対面で実施することができ、例年通りの教育効果を得ることができた。専門演習についてもすべて対面で行い、論文指導を順調に行うことができ、卒業生全て外部審査からの合格点を得ることができた。
大学院生の指導については、すべての講義、研究指導を対面で実施することができ、学会発表、中間発表、公開試問会なども全員が参加、大学院生の教育効果を発揮することができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

医・歯・薬学系博物館

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	2	0	0	4	4	140万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

医・歯・薬学系博物館事典／共著・編著／2021年5月／雄山閣／325

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

展示史に見る医学系資料／2021年5月／医・歯・薬学系博物館事典／287頁～299頁／単著／論文

医学系資料の展示に関する一考察／2022年3月／長崎国際大学国際観光学会論集／1頁～10頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本遺産「三川内焼」の魅力発信と広報手段開発に関する研究	長崎国際大学国際観光学科共同研究	2021年4月～2022年3月	30万円
展示を利用した茶道教育と学芸員教育の連携に関する研究	長崎国際大学学長裁量経費	2021年5月～2022年3月	30万円
長崎県北地域における文化遺産の確認と継承に関する研究	長崎国際大学国際観光学科共同研究	2021年4月～2022年3月	30万円
遠隔授業及び対面授業に対応した博物館実習教材開発に関する研究	長崎国際大学学長裁量経費	2021年5月～2022年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	副委員長	男女共同参画推進セミナーを企画し、講演会を開催した。
全学教育会議	構成員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

地域文化研究会のフィールド調査（西海市横瀬郷の発掘調査）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学内及び長崎短期大学で展示活動

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席

2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	対象外
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	後日出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	後日出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
板橋区立郷土資料館	運営委員	2018年から現在に至る	板橋区教育委員会
波佐見町歴史文化交流館	委員	2021年7月～現在に至る	波佐見町教育委員会
佐世保市地域文化事業財団	評議員	2015年～現在に至る	佐世保市
長崎県恐竜博物館指定管理者選定委員会	委員	2021年～2021年10月	長崎県教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の主な活動として、学長裁量経費に採択された茶道文化研究所との連携活動が挙げられる。大学祭で本学所蔵の香合の特別展を茶室で、長崎短期大学の茶道大会では貴重資料である鎮信公の巻子本の特別展、及び香合・墨の展示を行い、本学所蔵資料の公開が可能となった。特別展の構想から展示に至るまで、大学院の授業の一環としたことにより、大学院生の博物館学知識と技術の向上につなげることができた。また、コロナ禍においてフィールド調査としての発掘に学生を参加させたことは教育的にも評価できると思われる。研究面においては、『医・歯・薬学系博物館事典』を刊行し、薬学部教員との連携を図ることができた。来年度は薬学系資料の展示を実践し、他学科との連携をより一層図ることを目的とする。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 熊谷　賢哉

１．教育理念

学生に主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
キャンプ実習指導援助	30/30(前期)	2	8	②④
水泳	5/15(通年)	1	23	⑫
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	12	①⑤⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	7	①⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	12	①⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	①⑤⑥
ﾚｼﾞｽﾀﾝｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	15/15(前期)	2	31	④⑩⑪
運動生理学A	15/15(後期)	2	45	②⑩
エアロビクス	3/15(前期)	1	18	②④⑩⑪
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	5	①⑥
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	19	④⑤⑪
健康科学	15/15(前期)	2	24	②⑦⑧⑩⑪
トレーニング論	15/15(前期)	2	64	②⑦⑧⑩⑪
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	7	①⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
まちづくりマネジメント特講	4/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートを行った授業（運動生理学A）では、全ての項目において高評価を得られ満足している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(前期火曜3限)	1	10
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(前期火曜4限)	1	5
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(後期火曜3限)	1	24
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(後期火曜4限)	1	6

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者の健康の維持増進に対する運動の効果

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

スノースポーツ実習が心理的･社会的スキルに及ぼす影響 -転地･プログラム参加効果および効果の持続性に着目して-／2022年3月／長崎国際大学論叢／21頁～30頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	特になし
スポーツサポートセンター	副センター長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ラグビー部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
体育・スポーツに関する最新情報 ～スポーツ法学の観点からみた事例検討と体力トレーニング～	2021年8月1日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

入試募集副委員長として委員長を補佐すると共に、学科内の募集委員として出張講義の手配や入試担当教員の手配を行った。今年度よりスポーツ支援センターの副センター長に任命されたが、こちらの業務に関しては、あまり貢献できなかった。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 滝　知則

１．教育理念

１．教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いるはずである。この人たちには、本学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障がいのある人たちと（今は）ない人たちの文化、地方（農村部）の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときにも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働（グループワーク）や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会（地元）で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べるとき、地方（農村部）の地域社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方（農村部）の地域社会の文化を創造するための大変さ、創造されたすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。
自分自身、都会で働いたり生活したりしたことがある。都会を否定するものでは、ない。同時に、地元に生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人に、学生たちがなってほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいことがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、聞き手に伝わりにくいことが珍しくない。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。
実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実習系科目のフィールドは佐世保市（三川内町と黒島町）と平戸市である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）を行う。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ⅠA	1/15(前期)	1	16	②④⑥
地域連携活動ⅡA	1/15(前期)	1	1	②④⑥
卒業研究【R2後期～】	1/15(前期)	4	4	⑥⑫
卒業研究【観】	1/15(通年)	4	12	⑥⑫
地域連携活動ⅠB	1/15(後期)	1	29	②④⑥
地域連携活動ⅡB	1/15(後期)	1	1	②④⑥
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	1/15(前期)	2	104	①⑥
専門演習ⅡA	1/15(前期)	1	14	④⑥
専門演習ⅡB	1/15(後期)	1	13	④⑥
International Relations	1/15(前期)	2	33	①⑥⑨
専門演習ⅢB	1/15(後期)	1	13	④⑥
ホスピタリティ概論	1/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢA	1/15(前期)	1	13	④⑥
専門演習ⅠA	1/15(前期)	1	12	④⑥
専門演習ⅠB	1/15(後期)	1	12	④⑥
国際交流研究	1/15(前期)	2	109	⑥⑨
ビジネス文書	1/15(後期)	2	149	①⑨
国際関係論	1/15(前期)	2	90	①⑥⑨
政治学	1/15(後期)	2	164	①⑥⑨
比較文化論	1/15(後期)	2	109	⑥⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
国際関係特講	1/15(前期)	2	1
特別研究【2年生　半期（～秋）】	1/15(通年)	8	2
特別研究【2年生　通年】	1/15(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（前期）異文化コミュニケーション論

Q13　（この授業に参加して満足できたか）
R1実績 4.2、R3実績 4.5、推移 0.3

回答の数値のみを見ると、評価が改善したように見える。しかし回答率が低くなってしまった。今後は回答者数が増えるよう、アンケートへの回答の呼びかけを複数回、念入りに行う。

異文化コミュニケーション論の学修内容には、対人コミュニケーションのスキルと異文化の理解の二つ

の側面がある。両者は表裏一体の関係にあるが、履修者の中には、異文化の理解の側面により強い関心を持つ受講生も少なくない。次年度以降も、日本語以外のことばを話す文化をはじめ、私たちにとっての異文化における考え方や行動のしかたの違いの紹介にも、引き続き取り組む。

（後期）比較文化論

Q13　（この授業に参加して満足できたか）
R3実績4.3
この科目のアンケートは、今年度初めて行った。次年度もアンケートを受け、その結果に基づいてさらなる向上策を立て、実施する。

第12週から第14週に、英国のウォーリック大学（UOW）の学生とのオンライン交流（Zoomミーティング）を行った。日本の文化要素について、日本語で話し合うという内容である（アニメ・テレビ、日本料理、日本の音楽・スポーツ、日本の町と観光地、本・音楽と映画）。
本学（NIU）の学生にとっては、英国の学生と日本語で交流する機会となった。UOWの学生にとっては、自分が関心を持つ日本文化について、日本の学生と話す機会となった。さらに、日本語の学習にもなる。
段取りに不十分な点があり、Zoomミーティングに参加できなかった学生もいた。この点の反省は、後述する。交流ができた学生にとっては、充実した交流であったように思われる。お互いに笑顔を見せたり、相手の話を傾聴したりしている様子が見られた。

アンケートの回答率が60%を切ってしまった。前期の異文化コミュニケーション論よりは高かったが、まだ不十分である。アンケート実施前後の受講生への周知を、さらに徹底する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
b. 国際観光がホストとゲストの相互認識（ナショナリズム）に与える影響
c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
d. 引揚の歴史との対比を通しての国際観光の特徴の把握
e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす可能性の調査

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	4	1	0	2	2	31万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

三川内焼美術館と佐世保市うつわ歴史館におけるバリアフリー対策検討の意義／2022年3月／令和3年度学長裁量経費　三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査　調査結果報告書／2頁～3頁／単著／研究ノート

三川内焼美術館と佐世保市うつわ歴史館におけるバリアフリー対応のさらなる向上のポイント／2022年3月／令和3年度学長裁量経費　三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査　調査結果報告書／9頁～15頁／単著／研究ノート

佐世保市立広田小学校でのQSP異文化理解教室／2022年3月／QSP異文化理解教室活動報告書（令和3年度）／2頁～19頁／単著／活動報告

九州文化学園高等学校でのQSP異文化理解教室／2022年3月／QSP異文化理解教室活動報告書（令和3年度）／20頁～22頁／単著／活動報告

初年次・共通教育部門の活動報告／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第5巻／87頁～95頁／共著／活動報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査	長崎国際大学学長裁量経費	2021年5月～2022年3月	19万円
QSP異文化理解教室	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	2021年4月～2022年3月	12万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	選書の学科予算の執行について、入力フォーマットをマナバのコンテンツに掲載し、学科会議で定期的に提出を依頼した。

自己点検・評価委員会	委員	①授業公開アンケート結果の意見交換会（前期、後期）を実施。 ②授業アンケート結果に関する学部長面談結果の委員会への報告（前期、後期）。 ③卒業生アンケートの提出について、学科教員に指導を依頼。リマインダーを学科の４年生グループのコースニュースに複数回掲載。
教育基盤センター運営委員会	委員	①R3年度入学者対象の入学前教育の振り返りアンケートを実施し、学科と委員会に報告。 ②R4年度入学者対象の入学前教育の実施。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

サイレントブルー顧問
ローターアクト顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①九州文化学園高校での異文化理解教室の実施／12月13日／同教室の後半で、九文高校を卒業した国際観光学科グローバルツーリズムコースの在学生に、本学での学修と学生生活を紹介してもらった。
②ニコちゃんダンス録画に参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市行財政改革推進会議	会長	R3.6.4～R5.6.3	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

QSP異文化理解教室（佐世保市立広田小学校　11月5日、2月18日、九州文化学園高等学校　12月13日）
サイレントブルーサークル
ローターアクトサークル

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
国際交流研究	イギリスと日本の観光地を英語と日本語で紹介する（Padletを使用）	2021年4月	ウォーリック大学（リーるい講師）と滝
比較文化論	日本の文化要素（ポピュラー文化と日本食等）を日本語で紹介する（Zoomミーティング）	2021年12月	ウォーリック大学（リーるい講師）と滝

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

特になし。

８．活動全般についての自己点検・評価

（１）教育

＜令和２年度の評価との対比＞
　遠隔授業の進め方については、昨年度に比べて一定の程度改善ができたと考える。黒島における地域連携活動では、自然観光対象への注目度が高かったことは担当教員の事前予想とやや異なった。とはいえ、受講生にとっては学びがいがあったと考える。
＜令和４年度の目標＞
①学部の授業
　講義科目では、学生の関心に応えたり、学生の自発性を発揮してもらったりすることを引き続き行いながら、各科目の所定の目標を実現させる。ゼミでは、各学生のニーズに合わせた指導を、引き続き行う。
②大学院の授業
　今年度は修士課程の３名が修了した。この経験を活かし、令和４年度に入学する２名の指導を、適切に行う。

（２）研究

＜令和２年度の評価との対比＞
　三川内焼観光とバリアフリーに関しては、美術館等での具体的な改善点を見つけることができた。異文化理解教室では、西九州大学との協働（留学生、教員とも）を実現させることができた。
＜令和４年度の目標＞
①三川内焼観光とバリアフリー　今年度までは美術館等での調査を行った。次年度は皿山での調査　を行う。その際、ハード面とソフト面の双方での対応に注目する。
②QSP異文化理解教室　対面と遠隔の双方で実施できるよう、受け入れ先の学校ならびに西九州大学と適切に調整する。

（３）大学運営

＜令和２年度の評価との対比＞
　令和３年度から担当した委員会においても、適切に活動することを心掛けた。
＜令和４年度の目標＞
　図書館委員会、教育基盤センター運営委員会、自己点検・評価委員会（以上全学）、共同研究予算委員会、卒業生支援委員会（以上学科）、観光学論集編集委員会（国際観光学会）の業務を、迅速かつ適切に行う。

（４）社会貢献

＜令和２年度の評価との対比＞
　新型コロナ感染予防の観点から、活動の範囲に制限があった。その中で可能な形で活躍してもらえるようにサークルの部員を応援した。
＜令和４年度の目標＞
①サイレントブルーとローターアクトのそれぞれの部員が、本学の地元である佐世保の地域社会でさらに楽しく活動し、結果としてさらに貢献してもらえるよう、支援を続ける。
②ゼミならびに地域連携活動（三川内と黒島）の活動に、社会貢献（バリアフリー観光、漂着ゴミ清掃）の要素を加える。
③佐世保市行財政改革推進会議の活動を通じ、佐世保市の運営に貢献する。

（５）国際交流

＜令和２年度の評価との対比＞
　ウォーリック大学との交流を継続して行うことができた。
＜令和４年度の目標＞
　次の２件の交流を次年度も行い、これまで以上の成果をあげる。
①QSPイブケン　本学留学生と佐世保市等の小学生・高校生との交流活動
②ウォーリック大学との交流（国際交流研究、比較文化論）

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 田中　誠

１．教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかり行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしたら「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	6	⑥⑫
教育実習A	60/60(通年)	4	13	④
教育実習B	0/40(通年)	2	2	④
事前・事後指導	5/8(通年)	1	15	④⑦
TOEIC対策 B	15/15(後期)	2	63	①⑩
英語科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	4	①⑤
教職実践演習（栄養）	1/15(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習（中・高）	2/15(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	6	①⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	6	①⑥
英語科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	2	①⑤
英語科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	2	①⑤
TOEIC対策Ａ	15/15(前期)	2	60	①⑩
英語科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	1	①⑤
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	①⑥

専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	①⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	3	①⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	2	①⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特講	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も、新型コロナの影響で遠隔授業への対応等、通常の年度とは異なる状況の中で、授業に取り組まなければならない事態となった。それでも授業に関しては、私が最も力を入れている事項であり、今年度も例年通り、熱意のある、わかりやすい授業を展開するために必死で取り組んだ。

講義型の授業では、受講者数の多い授業では、Zoomを使用した授業がメインとなり、様々な事情でリアルタイムで授業を受けられない学生向けに録画もしなければならないので、録画でも授業の質が落ちない内容にするために授業準備に多くの時間を費やした。

前期の「TOEIC対策A」に関しては、遠隔授業も2年目となり、前年度の反省を活かして修正を加えての授業となったが、例年通りに、授業終了時にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらうことは実施した。そして、学生のコメントに関しては次の授業で、manabaのスレッドを使用して、まとめて返信するようにし、双方向型学習が促進されるように努力をした。また、授業外学修の時間を増やすために、２つの課題を毎回与えた。１つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、２つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。この課題に加えて、今年度も、Zoomで行った授業を後からYouTubeでも見ることができるようにしていたので、分かりにくかったところや苦手な事項は、YouTubeを何回も見たという学生もいた。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにしておき、復習がすぐできるような環境も整えた。TOEICの授業は、難易度の高い試験対策なので、Zoomを使用しても、ライブ感のある授業を心がけた。授業時には、熱意の感じられる授業を展開できるように努力をし、授業アンケートでは、７の「熱意の感じられる授業でしたか」については4.8という非常に高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.7と高評価を得ることができた。次年度も引き続き同様の評価を得られるように努力をしたい。

後期の「TOEIC対策B」においては、前年度の授業方法に改善を加え、リスニングはZoomを使用しライブで、リーディングは、何度も繰り返し見ることができるようにYouTubeを使用しての授業という形式で行った。その結果、７の「熱意の感じられる授業でしたか」については、前年度に引き続き4.8という非常に高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.7であった。このように遠隔授業でありながらも高評価を得ることができ、ほっとしている。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、対面授業で行うことができ、双方向型の授業が適切に行えるよう意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせるよう努力した。例年通り、授業外学修時間を確保するために、毎回の課題も課し、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。遠隔の授業が昨年度よりは、減ったとは言え、様々な要因で不安を抱えている学生も多く、その不安を少しでも軽減するために、例年以上にできるだけコミュニケーションを取るように意識して、ゼミ生の指導を行った。

教職科目に関しては、例年通り、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。今年度は、多くの授業を対面で実施できたが、Zoomを使用しての遠隔授業は、中学校や高校でもかなり浸透してきているので、教職の授業でも、Zoomを使用しての模擬授業にも取り組んだ。ICTを活用した授業は、昨年度からの様々な取り組みで、一気にレベルが上がったと思う。この2年間で、10年分先に進んだ感じである。この流れに遅れを取ることのないよう学生と共に努力していきたい。

大学院の科目に関しては、対面の授業がメインで実施できたので、特に大きな問題もなく、今年度も厳

しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。

全体を通しての反省としては、昨年度に比べて、対面での授業が増えたが、まだ遠隔での授業も行う必要があり、そうなるとどうしても、やる気のある学生とそうでない学生の差が大きくなってしまう点について、やる気のない学生のやる気を出させるために、何かもっと工夫できたのではないかという点があげられる。この点は、昨年度からずっと、試行錯誤している状況が続いているが、なかなか思ったほどうまくいかない。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。授業外学修の増加は、簡単にできることではないが、何もしなければ進歩はない。今後とも様々な方策を実施し、ポートフォリオ等を活用して、授業外学修時間の増加に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
TOEIC対策講座（オンデマンド型）	7	50	2021年10月11日～11月19日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・外国語としての英語教育
・教育学
・言語学
・翻訳研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

ICTを活用した遠隔授業（2021年度TOEIC対策A）の実践報告／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要／　69頁～77頁／単著／実践報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Moodle LMSの代替: manabaを使った授業実践／2022年2月18日／日本ムードル協会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	新型コロナ禍の中でも、本学の教育の質が担保できるように、適切な教務運営に尽力した。
全学共通教育委員会	副委員長	全学共通科目の適正な運営のために、教務委員長として、副委員長の役割を務めている。次年度に向けてSDGs関連の内容を必修科目とした「ホスピタリティとSDGs」の設置のために尽力した。
教職課程委員会	委員	教職課程委員会の適切な運営及び資料作成等に尽力した。
教育基盤センター運営委員会	教育基盤センター副センター長、副委員長	教育基盤センターの適切な運営のために、教務委員長として副センター長の役割を務めている。
全学教育会議	構成員	本学における大学及び大学院の教育活動の総合的実施に係る事項について審議を行うために設置された全学教育会議の委員として尽力した。
人事委員会	委員	適切な運営のために、提議要望書の作成などを行った。
カリキュラム委員会（学科）	委員長	国際観光学科のカリキュラム編成、担当者の調整等に尽力した。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員長	コロナ禍で、留学に行くことが困難な厳しい年度の中であっても、グローバルツーリズムコースの適切な運営に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業対策会議　ワーキンググループ（タイプ1）	副WG長	私立大学等改革総合支援事業対策会議のワーキンググループ（タイプ1）副WG長を務めた。

(3) 課外活動の指導等

①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導
②TOEIC対策講座　担当
③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパスにおいて、英語教育、留学等の保護者説明担当

・佐世保地域活性化推進協議会で、本学の取り組みをPR

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
本学の3ポリシーとその達成に向けた教員の役割	2021年4月2日	長崎国際大学	長崎国際大学（新任教員向けFD）
ICT活用による教育内容向上に関する研修会	2021年4月8日	長崎国際大学	長崎国際大学　教務委員会
教員免許更新講習「楽しく英語を指導するための基礎知識」	2021年5月22日	長崎国際大学（オンデマンド）	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
英語教師というお仕事―研究との両立	2021年11月27日	福岡大学（オンライン）	福岡大学大学院英語学英米文学研究学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019年11月～現在に至る	佐世保市
長崎県教員免許状更新講習連絡協議会	委員	2008年7月～現在に至る	長崎県大学・短期大学理事長・学長会
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	2021年4月～現在に至る	九州・長崎 国際観光人材育成コンソーシアム～地方 創生・グローバル人材育成事業～
佐世保地域経済活性化推進協議会　教育関連　ワーキンググループ	委員	2021年7月～12月	佐世保地域経済活性化推進協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

(1) 長崎国際大学　国際観光学会　評議員

(2) 2021年度(令和3年)【学長裁量経費】SDGs推進奨励制度
○申請団体名教職課程委員会・国際観光学科グループ

（田中誠・乙須翼・宮良俊行・神野周太郎・浦郷淳）
○持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観育成事業
○採択額　￥150，000－
○採択日　2021（令和3）年9月29日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

小学校の教員免許状の取得が可能な課程開設の取り組みにおいては、教務課と協力し案の作成に尽力した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の新型コロナの影響下においても、教育の質を下げないために全学の教務委員長として懸命に努力をした。コロナ禍も2年目となり、教職員も疲弊する中、本学の教学事項をどうにか適切に運営できたのは、本学の教職員全員の献身的な努力のおかげだと考えている。感謝したい。
3ポリシーに基づく教育については、点検・評価を行い、改善すべき点をまとめて、次年度以降の実施に反映できるように尽力した。年々、良いものとなるようにPDCAサイクルを適切に回していきたい。

教務委員会の適切な運営のためには、３学部４学科のそれぞれの意見の調整も必要であり、コロナ禍の中で、調整することが困難な点も例年以上に多かったが、概ね適切に運営することができたと思う。

学科のカリキュラム委員長としては、年度途中で離任されたり、次年度からいらっしゃらなくなる教員の対応等で、担当者案の作成には苦労したが、学科の教育課程の適切な運営に寄与できたものと考えている。グローバルツーリズムコース委員長としてのコース運営に関しては、今年度も、ほとんどの学生が留学ができないという厳しい状況ではあったが、グローバルツーリズムコースの授業を担当する教員の献身的な努力により、どうにか運営することができた。留学にいけず、モチベーションの維持が難しい学生も散見され、指導にも手がかかるが、一人一人の学生に丁寧な指導を続けていきたい。このような厳しい状況下での指導は、英語担当教員の一人一人の尽力なしでは、達成できないので、英語担当教員の協力を得て、さらに努力していきたい。

上記以外の活動についても、今年度も昨年度に引き続き、非常に厳しい臨機応変の対応が必要となる事項が多く、文字通り多忙を極めた。体調面では若いときほど無理がきかなくなってきているので、周りの方々に迷惑をかけないように体調管理もしっかりとしていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 嶋内　麻佐子

１．教育理念

私は現在、長崎国際大学茶道文化研究所所長として、全学共通科目である「茶道文化」の講義と実技を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心（ホスピタリティ）を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、不時点前や雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、「正午の茶事」と「卒業の茶事」の2回の茶事を通して、学内外よりお客様をお呼びし、数寄屋での茶事を実践する。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。しかし、今年度はｺﾛﾅ禍の影響のため「観月茶会」および「正午の茶事』は中止とした。その代りとして、「茶道文化Ⅲでは、「ミニ茶会」、茶道文化Ⅳでは、茶事を簡略化した茶会を授業時間内に実施した。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。また、平成31年度に開校した九州文化学園小・中学校の茶道教育も担っており、そこで得た知見を「茶道文化」に反映し､教育活動に活かしている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
茶道文化ⅠA【観】	15/15(前期)	1	98	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB【観】	15/15(後期)	1	89	②③⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	14	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	9	②④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA【福】	15/15(前期)	1	63	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB【福・観光】	15/15(後期)	1	58	②③⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	25	②③④⑥⑦⑨⑪⑫
茶道文化ⅢB	15/15(後期)	1	10	②③④⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	28	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	19	②④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	30	②③④⑥⑦⑨⑪⑫

茶道文化ⅡB	15/15(後期)	1	15	②③④⑥⑦⑨⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	12	②④⑥⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

茶道文化Ⅰでは、アンケートの項目に対して、全体平均と同数の項目が多く見られる。学生の事前学習に関しては3.6とやや平均より下回っている。授業に対する満足度は、平均と同数であったことから一定の評価は得ていることは良好である。茶道文化Ⅱでは、授業に対する満足度は4.8と全体平均しても0.2ポイント高く良好である。濃茶点前修得に向けて、新しい道具を使用したことで茶道に対する知識の広がったことが満足度の向上に繋がった。茶道文化Ⅲでは、満足度が4.6で全体平均とは同数である。昨年度より対面授業の回数を増やすよう計画したことが満足度に繋がったと考える。受講態度は、4.3で全体平均と比較すると0.2ポイント低い。改善として、オンラインの有効活用を試みた所、学生からはオンラインの予習ができる事が良かったとの評価を受けた。茶道文化Ⅳでは、学生の満足度は4.9と、全体平均より0.3ポイント高い。後期は対面授業にて茶会を実施することができたことが満足度の向上に繋がったと思われる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ	15/9(前期)	1	163
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	15/10(前期)	1	193
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ	15/9(後期)	1	163
長崎短期大学	茶道文化Ⅳ	15/9(後期)	1	193
九州文化学園歯科衛生士学院	茶道文化	15/2(前期)	1	27
九州文化学園調理師専修学校	カップリング＆シュガー	15/2(後期)	1	8
九州文化学園中学校1年	日本文化教育	30/30(通年)	1	20
九州文化学園中学校2年	日本文化教育	30/30(通年)	1	22
九州文化学園中学校3年	日本文化教育	30/30(通年)	1	19
九州文化学園小学校1年	日本文化教育	30/29(通年)	1	22
九州文化学園小学校2年	日本文化教育	30/29(通年)	1	20
九州文化学園小学校3年	日本文化教育	30/29(通年)	1	22

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
補助員研修（春）	6	13	2021年3月9日,3月10日、3月12日、3月19日、3月23日、3月24日
補助員研修（夏）	6	13	2021年9月7日、9月8日、9月10日、9月14日9月15日
補助員会議	2	19	2021年7月7日、2022年1月19日
長崎短期大学茶道大会当日指導	3	54	2021年12月11日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業」
「感性を育む大学茶道教育の実践事業」
「小・中学校の取り組みを還元した茶道教育の実践事業」
「茶道と教育について」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「小・中学校の取り組みを還元した茶道教育実践事業」	令和3年度長崎国際大学学長裁量経費採択	2021年4月～2022年3月	30万円
展示を利用した茶道教育と学芸員教育の連携に関する研究	令和3年度長崎国際大学学長裁量経費	2021年4月～2022年3月	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	アドバイザー	２０２２履修証明プログラム、長崎国際大学地域産学官連携活動や包括連携協議団体との会議等の企画内容を協議し、アドバイスを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
茶道文化補助員の教育指導	特任教授	大学規定に沿って補助員の選考を行い、春・夏に補助員研修を企画し、技術指導と教育方法の指導を行った。また、授業終了後の反省会や、１年間全体の反省会を企画し、指導者教育を行った。 また、動画を使い2年生と3年生の茶道文化履修学生に対して補助員活動報告を行った。
九州文化学園小中学校教員の茶道指導	特任教授	小中学校での茶道指導の際に、担当教員に対して授業計画と実施内容技術指導を30回行った。
長崎短期大学・専修学校部門の教職員の茶道指導	特任教授	短期大学と専修学校教職員に対して、授業で使用する動画の指導とアドバイスを行った。さらに12月に長崎短期大学茶道大会時期には、教職員に対して、茶席設置の確認と亭主用道具の選出を行った。
長崎短期大学茶道大会にて、茶道具展示	特任教授	茶道大会開催時に、長崎短期大学展示に茶道具の展示内容の提案並びに道具一式の選択を行った。

(3) 課外活動の指導等

①茶道部顧問　茶道部の茶道活動支援を行っている。今年度は主に、点前指導とクラブ活動支援を行った。

②補助員研修　大学及び小中学校茶道指導のための支援活動を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/7月25日/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/8月8日/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス9月20日/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/3月20日/長崎国際大学（自明堂）
大学祭にて鎮信流茶道紹介/10月30日/長崎国際大学（自明堂）
九州文化学園中学校「3年生の生徒による観月茶会」/11月18日/九州文化学園中学校「わらべの間」

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
新任教員授業研修会「建学の精神と茶道文化」	令和３年１２月１０日	長崎国際大学	長崎国際大学自己点検・評価委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ＮＰＯ法人茶道鎮信流梶の会（全国組織）	幹事	２０１２年～現在に至る	茶道鎮信流　宗家　松浦章
茶道鎮信流佐世保支部	幹事	２００６年～現在に至る	鎮信流佐世保支部　支部長　松浦純二

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①3月19日「松浦史料博物館移動展示」の際の茶席運営実行委員として参加
②3月27日「佐世保松清会総会」運営実行委員として参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

本年度は、中学校の茶道教育が完成年度となる事から、観月茶会を実施した。茶会では、保護者のみの参加とし、その際生徒が自身で制作の抹茶碗を保護者のもとに運び、作法と同時に器作成の完成度も見てもらう事にした。生徒もさることながら保護者も感無量の様子が見られた。この観月茶会は、卒業の行事として、今後継続していきたいと思う。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、オンライン授業と対面授業のして柔軟に対応した。対面授業では、ミニ茶会と卒業茶会を学年を超えて参加する茶会を取り入れ、互いに「見る」「見られる」視点での立ち位置のあり様について考

えてもらった。オンライン授業では授業のポイントを細かに解説し、手元が見やすいように工夫を凝らした。また、学生からの質問をmanabaで受付け、回答をクラス全員で共有するよう情報発信を行った。学生の評価としては、動画を取り入れたことで、とても分かりやすい。また、掛け軸の禅語を学生自身に調べさせたことで、茶道に対する興味関心に繋がった様である。さらに、床の間の花を季節ごとに紹介したシーンでは、花に対する意識が芽生えたとの声が多く寄せられた。

つぎに、九州文化学園小中学校は、対面授業を実施した。小学１・２年生の授業では、40分の集中力維持のために様々な工夫を行った。中学2年生は、茶室と茶道研修所を併用し、授業内容の充実を図った。茶道の時間は生徒達にとって、花を愛でることで命の大切さを学び、掛け軸の意味を通して精神面の向上に繋がった。また、初めて開催の発表会では積極的に参加する様子が見られた。中学3年生は、完成年度でもあることから、保護者を客として招き「観月茶会」を実施した。3年間の集大成でもあることから、生徒、指導者、保護者等一体感となる成果発表の場となった。

研究面では、学長裁量経費が採択され、小中学校で実践している内容を大学の授業でも取り入れてみた。年齢や学年を超えて、同じ作法を実践している事から、今後も小中学校での実践内容を大学の授業にも取り入れていきたいと思っている。

さらに、今年度の学長裁量経費では「小・中学校の取り組みを還元した茶道教育実践事業」が採択され、実施報告書を作成した。（共著）また、「展示をを利用した茶道教育と学芸員教育の連携に関する研究」では、長崎短期大学茶道大会の折に、移動展示の道具の選択を行い、短期大学の学生に対して茶道の知識の向上に繋げることができた。

昨年と同様に、九州文化学園小中学校で茶道を学ぶ児童生徒を対象に、茶道の学習による変化、特に人間形成への影響を検証し、大学における教養教育としての茶道教育の深化とレベルアップにつなげるための研究に繋がっていることから、今後も継続して検証していきたいと思っている。

報道活動では、大学で開催のオープンキャンパスで茶道の企画をし、実施した。（4回）

ワーキング・グループ活動として、補助員指導を春・夏休みを利用して、研修を企画し、指導者研修の向上を目指した。

今年度は、動画と対面を併用した授業を展開したが、動画作成の技術が上がるにつれて、学生の理解度が高まった。さらに手元が分かるように、2台のカメラを使い、撮影方法に工夫を重ねたり、授業では、学生が動画を見るだけではなく、学生も参加する授業内容を取り入れたことで、予習と復習をする学生が増える等、効果が見られた。対面の時間数は少なかったものの、5人1グループの少人数指導が行き届いたことで、点前について確認をする学生の姿が多く見られた。この効果を活かしすべく、すべて実技に頼るのではなく、細かい箇所はむしろ動画を使い、学生が何度も確認できる取り組みが必要であると考える。（毎時間レポート提出にて確認）

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 教授　　氏名 橋本　健夫

1．教育理念

本学が掲げるディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを常に意識し、学生が大学での学びに納得し、主体的に授業に参加するとともに自己学修に励むことができることを目標にして教育を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
教育実習A	0/120(通年)	4	13	④⑥⑦
教育実習B	0/80(通年)	2	2	④⑥⑦
事前・事後指導	1/15(通年)	1	15	④⑥
ビッグデータと持続可能社会	15/30(前期)	2	31	①③④⑥
ホスピタリティ概論	15/30(前期)	2	442	①④⑥⑦
教職実践演習（栄養）	2/30(後期)	2	3	④⑥
教職実践演習（中・高）	2/30(後期)	2	19	④⑥
ダイバーシティとグローバル市民論	15/30(後期)	2	113	①③④⑥
総合的な学習の時間の指導法	9/15(前期)	1	16	①③④⑤

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ｵﾑﾆﾊﾞｽの授業については、授業アンケートを行っていないので受講生の意見は明確にはなっていないが、授業中の態度等から真剣に受講し、考えているようだった。
ビッグデータと持続可能な社会については、計画通りの授業ができ、満足感を感じている。ホスピタリティ概論は年々充実している感じがする。また、ダイバーシティとグローバル市民論に関しても計画通りの実施ができたと思う。また、多人数ではあったが、こまめにコメントを書き、受講生の動向の把握を行った結果、受講生は真面目に書く課題に向き合っていたことが判明した。総合的な学習の時間については、計画通りの授業進行となり、受講生も真面目に取り組んでくれた。授業評価も悪くなかったと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

大学における授業の在り方及び教育改革、並びに学校教育段階での理科教育及び総合的な学習の時間の在り方についての研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ひるまにねむるイヌとネコのひみつ／共著・編著／2021年3月／長崎文献社／55

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

遠隔教育の実施と大学での教育に関する一考察／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要／１頁～17頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

初年次教育のオンラインから見える大学への想い／2021年6月5日／大学教育学会

小学校低学年のがん教育教材としての絵本の制作／2021年9月19日／日本理科教育学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習	2021年5月15日	上五島会場	長崎県免許状更新講習協議会
教員免許状更新講習	2021年5月29日	対馬会場	〃
リケジョプログラム（くすきの杜見学）	2021年9月23日	くすきの杜	佐賀大学
リケジョプログラム（出前授業）	2021年11月25日	郷ノ浦中学校	〃
リケジョプログラム（市民講座）	2021年12月12日	九州文化学園小・中学校	佐賀大学
長崎県総合的な学習の時間研究会	2021年4月13日	長崎市立小江原小学校	長崎県教育委員会
生活科・総合的な学習九州大会	2021年11月19日	〃	〃

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大学入試センター第二部会委員	委員	1年間	大学入試センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

無し

８．活動全般についての自己点検・評価

研究については、当初考えていたがん教育に関する子供向けの著を出版し、それを学会で報告したことによって糸区切りついたと思っている。教育に関しては県下の総合的な学習に関する研究会の指導も行うことができて満足している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 大井田　かおり

1．教育理念

(1)建学の理念を念頭に置いて
若者が考える人間尊重や人間関係と、中高年が考える人間尊重や人間関係にギャップが出て来ている。若者の言い分をきちんと聞いて尊重するように心がけたい。
(2)専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成を念頭に置いて
短期的な視野の利益を追うのではなく、長期的な視野での利益を考えられる人材を育成しなくてはならないと考える。それと同時に、短期的な教育効果を追うのではなく、数年後に「じわじわ効いてくる」教育をこころがけたい。
(3)地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて
「特定の地域しか見えず客観性を失う」状態にならず、地域を愛し貢献するのは意外と難しい。観光には利益の問題がどうしてもからむため、地域を愛することの大切さを伝えると同時に、地域を愛しすぎて客観性を失う怖さも伝えなくてはならないと思う。
(4)異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて
現在の中学校高校教育が英語を重視するため、「異文化理解力＆国際社会貢献力＝語学力」と思い込んでいる学生が少なくない。そのため、英語が苦手な学生は異文化理解への自信を失っている傾向がある。人間はコミュニケーションの多くを非言語的なもので行っている。よって、異文化理解力＆国際社会貢献力と語学力はあまり関係がない（ゼロではないが）。自信を失っている学生にそのへんをうまく伝える方法はないかと模索中である。
(5)専門力に関して
観光学は学際的な学問なので、狭く深く何かを行うのではなく、すべての学問分野に精通することが専門力となる。嫌いな分野や苦手な分野から逃げず、浅くてもかまわないので一通り「かじる」ことが必要となる。苦手なものであっても知的好奇心を失わずにいてもらうための工夫は試行錯誤になると思うが、自分もそこからは逃げないように頑張ろうと思う。
(6)情報収集、分析に関して
間違っても未熟でもいいので、一生懸命考えることの大切さを伝えていきたい。学生は間違えることを恐れ、正解のないことを考える際に模範解答を欲しがる傾向にある。倫理上深刻な問題でない限り、学生が一生懸命考えたことは評価し尊重したい。
(7)コミュニケーション力に関して
学生に上の世代の定義のコミュニケーション力を押し付けないようにしたいと考える。
(8)協働・課題解決力に関して
特にゼミなどでは時々グループ学習を行う。優秀な人は自分が1人でした方が早いため、他の人に任せず、よその人は優秀な人に頼るだけで終わることになりがちである。そうならないための工夫を常に考えることが必要だと思う。
(9)多様性理解力に関して
例えば性に関する多様性を柔軟に受け入れる等、上の世代の教職員が学生に学ぶことも多い。自分も学生に学ぶものは謙虚に学びたいと思う。
授業は常に現在というより、近未来を見据えたうえで、行うように心がけたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【R2後期～】	15/15(前期)	4	1	④⑥⑫
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	11	④⑥⑫
旅行業務エキスパートⅡB	15/15(通年)	2	1	④⑨⑫
卒業研究【後期～】	15/15(後期)	4	1	④⑥⑫
海外旅行実務	15/15(後期)	2	31	②④⑨
海外旅行実務Ⅱ	15/15(前期)	2	11	②④⑨⑫
観光史	15/15(後期)	2	197	②④⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	④⑥⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	12	④⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	④⑥⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	8	④⑥⑫
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	②④⑤⑥
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	②④⑤⑥
海外観光資源B	15/15(前期)	2	18	②④⑥⑨⑫
国際観光論	15/15(後期)	2	225	②④⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	7	④⑥⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	11	④⑥⑫
学際連携研究	4/15(前期)	2	214	②④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
旅行業特講	15/15(後期)	2	1
旅行業特講	15/15(後期)	2	4
事例研究（旅行業）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

総合旅行業務取扱管理者資格試験関係の授業に関しては、授業アンケートのみならず合格者を増加させる必要がある。よって、模擬試験結果がよかった科目はそのやり方を補強するようにし、点数のよくなかった海外観光資源に関しては、今までのような「楽しい地理の授業」をやめ、試験での点数獲得のためのドリルを繰返して行った方がよいと感じた。また、従来は海外観光資源A（竹田先生）でヨーロッパ・南北アメリカ、海外観光資源Ｂではアジア・中東・オセアニア・アフリカという分担をしていたが、模擬試験の結果から、Ｂをやっているうちに、試験問題のほとんどが出るＡの範囲を忘れていることもわかった。よって、試験の点数を上げるため、海外観光資源ＢでＡの内容と合わせて過去問を解くことに徹する必要があると思った。

来年度は試験内容に法律改正に伴う変更も多いため、単位を登録している受講者だけでなく、すでに単位を取得済みの学生にも満足してもらえるように丁寧に解説することが必要と感じられる。

国際観光論は昨年度のアンケート結果があまりよくなかったため、表現方法と内容を全面修正したとこ

ろ、それはよかったと思う。来年度はコロナが完全におさまって対面授業になるならば、留学生も含めた話し合いを授業に取り入れる予定である。
観光史は留学生の負担が大きいので、PowerPointをダウンロードし、ノートを取り損ねても後から見返すことが可能なように工夫した。その他に単語集などがあってもいいかもしれない。
教養セミナーは学生同士のグループの壁をなかなか打破できなかったのが反省点である。どうにかして違うグループの学生とも交流を積極的に持つよう、仲の人同士を離すようにしたが、それによって、逆に話さなくなったりしたので、最初は仲のいい人と話し合いをさせ、意見が出て来たところでグループをチェンジする等のフレキシブルな工夫が必要であったと痛感した。
総合旅行業務取扱管理者資格試験の合格者増加が必須目標なので、まずはそれを念頭に頑張りたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合旅行業務取扱管理者試験勉強会	6	4	8月2日、8月9日、8月23日、8月20日、9月6日、9月13日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

◎観光におけるヴィジュアルコミュニケーション。
　現在は滝先生や韓先生と共にヴィジュアルコミュニケーションからユニバーサルツーリズムを考える研究を行っている。具体的には障がい者と健常者の視点の違いから、障害者にも生活しやすいもしくは観光しやすい町づくりを考察することをテーマとしている。中途視覚障害者は点字を覚えられず、コミュニケーションに困る傾向がある。よって、中途視覚障害者のためのコミュニケーションツールを開発中である。
◎バーチャルリアリティを観光に生かす。
　バーチャル観光の代表ツールは現在HMDである。しかし、江戸時代にはバーチャル観光ツールとしてののぞき眼鏡が長崎から流行している。60年代70年代の高度経済成長期の観光ブームでは、バーチャル観光ツールのビューマスターが爆発的に流行る。観光ブームとバーチャル観光ツールのブームは連動している。そのへんに焦点を当ててみたい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	3	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

令和2年度学長裁量経費　三川内焼を対象とするユニバーサルツーリズムの可能性の調査／共著・編著／2021年3月／長崎国際大学人間社会学研究科／16-23

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

野球場における災害リスクの検討―九州・沖縄地方の野球場を対象として―／2021年9月／観光学25号／51-59／共著／観光フォーラム

プラネタリウムの生解説の特徴分析と分類／2021年9月／観光学25号／83-90／共著／観光フォーラム

バーチャル観光におけるドーム映像の効果的使用法に関する研究／2021年9月／和歌山大学学術リポジトリ博士学位論文一覧／全104ページ（Web用の場合）／単著／博士論文

観光見学施設における肢体不自由者を巡る測量からの提言／2019年9月／観光情報学会第22回研究発表会講演論文集／45-48／共著／講演論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

観光見学施設における肢体不自由者を巡る測量からの提言／2021年9月4日／観光情報学会第22回研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	波佐見町で実施されたボランティア研修に参加した。
旅行業務取扱管理者養成部署委員会	総合担当委員	総合旅行業務取扱管理者試験担当者として、学生を指導した。
オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパス年4回において、ブース担当者以外委員として、主にオープニングに携わった。
観光学論集編集委員	委員	大学院生を主な投稿者とする観光学論集編纂に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

よさこいサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

滝先生の学長裁量経費の研究である三川内のユニバーサルツーリズム・バリアフリーツーリズムの研究班に加わり、三川内で調査を行った。これはSDGsの「3すべての人に健康と福祉を」「4質の高い教育をみんなに」「11住み続けられるまちづくりを」に該当する。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

「観光見学施設における肢体不自由者を巡る測量からの提言」観光情報学会第22回研究発表会優秀賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

今年はまだ新型コロナウイルスの流行がおさまらないため、人が集まるような催し物などができないのが残念だった。来年度新型コロナウイルスの流行がおさまれば、学内ミニドームシアターの公開、ハウステンボスでの皆既月食鑑賞の催し物等を行いたいと考えている。また、少年科学館ともドームシアター番組の作成等を共同で行いたいという話をしている。研究活動については、滝先生がリーダーのバリアフリーツーリズムの研究会で、筆頭著者および発表者になり、学会賞を受賞できたことはよかったと感じている。学長裁量経費による研究であり、前任の三浦先生を引き継ぐ形でメンバーに加わったが、とりあえず1つの形を残すことができた。こちらの研究はSDGｓ目標の「3すべての人に健康と福祉を」「4質の高い教育をみんなに」「11住み続けられるまちづくりを」に合致する。

来年度に向けて、観光研修のコースを1つ作成した。伊勢志摩でバリアフリーツーリズムの研修を行うというコースである。自分でコースを組むのは初めてだが、コロナで中止にならなければと思う。

総合旅行業務取扱管理者資格の合格者は５名で、昨年の４名より１名増加ではあるが、今年度の合格者が極めて少なかったため、総合受験者自体がどのくらいいるのか心配である。新型コロナウイルスの流行で、学生の旅行業に対する熱が冷めている状態である。よって、今後は旅行社の新しい可能性としての宇宙観光のアピールにも力を入れて行くつもりである。秘境観光や宇宙観光はまだまだ旅行社に頼らなくてはならない状況である。なお、今後は着地型観光の旅行社の起業も多くなるはずなので、そのためにも今のうちに資格を取得することをすすめるつもりである。現在、国内・総合を合わせた旅行業務取扱管理者資格保有者の卒業生の進路先を調査中である。もし有資格者が旅行業以外でも有利に就職していることになれば、学生の資格取得意欲も向上すると考えられる。

2021年9月に和歌山大学大学院観光学研究科で「観光学博士」の課程博士を取得した。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 落合　和昭

１．教育理念

建学の理念を基として、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現を図るため、これまでの実務経験を背景にホテルビジネスマネジメントを追求する。また人を育てる喜びを通じて、その普及や浸透を図るとともに、今後一層期待される「事業性を正しく理解し、その向上をもって礎とする」人材の育成と研究を推進し、もって文化と健康を大切にする社会の建設に資する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ホテルオペレーション	15/15(後期)	2	112	②④⑤⑥⑦
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	323	①②⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	②④⑥⑦
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ブライダルマネジメント	15/15(後期)	2	44	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	②④⑥⑦
宿泊業論	15/15(前期)	2	150	②④⑤⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生満足度4.0以上を目標としたが、前期は4.3と4.4（総回答数62、合計満足度4.4）、後期は4.5と4.1（総回答数88、合計満足度4.5）を確保することができた。引き続き公開授業見学や講習会参加などにより更なる改善を模索し、教育効果の向上を図りたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス実務検定（ベーシック2級）に向けたQ-LEARNによる遠隔指導	20	32	2021年10月～2022年3月
ホテルビジネス実務検定（ベーシック2級）団体受験主催	1	21	2022年3月5日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ホテル開発論・顧客満足とホテルの事業性における考察

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	0	0	3	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ホテル・旅館の経営者から次世代へおくる熱いメッセージ／共著・編著／2017年1月／株式会社オータパブリケーションズ／共著：70頁～71頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

市場変動を見据えたホテル開発プロセスの再見／2022年3月／長崎国際大学論叢／85頁～102頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
満足度調査の活用による事業性向上について	一般社団法人　平戸観光協会	2021年3月	
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考（令和2年度）	一般社団法人　宇久町観光協会	2021年3月	
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考（令和3年度）	一般社団法人　宇久町観光協会	2022年3月	

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	2021年度データベース作成、提出済み
ホテル経営管理者	委員長	ホテルビジネス実務検定主幹（2022年3月）
キャリア委員会	長期インターンシップ責任者	長短インターンシップのうち、ホテル関連施設の合計9名（前期：長期5名・短期1名／後期：長期2名・短期1名）を担当し、キャリア開発の促進を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	IR誘致や本学への波及拡大に関して活動を行っている。
オープンキャンパス（合計4回）	ブース責任者等	夏季のオーンキャンパスでは、ホテルまたはブライダルの紹介ブースを3日間設営して、合計157名の生徒に誘致活動を行った。冬季は、保護者向け就職担当デスクを担当した。

(3) 課外活動の指導等

今後の課題としたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

5月27日佐世保東翔高校にて講義を行うとともに、本学の紹介を行い受験の動機付けを図った。
ブライダルマネジメントの授業（施設見学）や、ホテルビジネス実務検定の団体受験に関する本学インターネット記事の草稿を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
サービス業とは	2021年5月27日	佐世保東翔高校	佐世保東翔高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
川棚町観光施設運営あり方検討委員会	委員長	令和3年度～現在に至る	川棚町

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

教養セミナーを通じてSDGｓに関する講義を行い、学生への関心喚起と理解促進を図った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
九州・長崎国際観光人材育成セミナー	主催団体メンバー	7月31日	長崎国際大学	コンソーシアム準備会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

35年間のホテル業経験を経て、大学教員としては初年度となりました。反省点として、教育面ではもっと学生が主体性を持つよう指導を行う、研究面においては学術的な論理展開に不慣れであった、などがあげられます。公開授業やシンポジウムへの参加、多面的な研究活動などを通じて、引き続き向上を図っていきたいと思います。一方で、地域の観光振興に関連する委員会に参加主導する、また学内ではホテルビジネス実務検定試験に向けたプログラムを独自に展開するなど、期待される活動を進めることもできました。ちなみに、検定試験の合格率は85.7％（受験者21名うち合格者18名）となり、全国平均（71.8％）を大幅に上回る結果となりました。今後も国際観光学科に相応しい研究と教育を柱として、観光の振興と人材育成に少しでも寄与できるよう尽力して参ります。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 乙須　翼

1．教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどういう特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史（文化や宗教も含む）や社会（法や制度、政治など）との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人（市民）として生きていくために最後に学ぶ場所であると考えると、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するということである。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
教育実習A	0/60(通年)	4	13	④⑦⑪⑫
教育実習B	0/40(通年)	2	2	④⑦⑪⑫
事前・事後指導	2/8(通年)	1	15	④⑦
栄養教育実習	0/20(通年)	1	3	④⑦⑪⑫

事前・事後指導（栄養）	2/8(通年)	1	3	④⑦
教育原理	15/15(後期)	2	23	①⑩
教師論	15/15(前期)	2	35	①②④⑤⑥⑦⑩⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑩⑫
教職実践演習（栄養）	4/15(後期)	2	3	④⑤⑥⑦⑩⑫
教職実践演習（中・高）	6/15(後期)	2	19	④⑤⑥⑦⑩⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	7	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	4/15(後期)	2	232	②③④⑦⑧⑨⑩⑫
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	⑦⑩⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑩⑫
教育学	15/15(前期)	2	101	②⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の教師論の授業アンケートでは、学生の満足度が4.7と過去最高となり、教養セミナーについては4.4であった。後期の教職実践演習（ｵﾑﾆﾊﾞｽ）のアンケートでは学生の満足度が4.9と5.0であった。今年も遠隔での授業実施期間が長くあったが、遠隔授業も2年目であったことから、昨年度の反省を活かせた部分もあった。特に昨年度より授業中のチャットなどの回数を増やし、出来る限り双方向での授業となるように工夫した。また教養セミナーについては、他の先生に協力を仰ぎ、学生だけでも対面でのコミュニケーションが取れるよう工夫した。ただし、授業アンケートを実施しなかったオンデマンド型の授業では、学生の視聴状況が把握できないこともあり、学生の受講態度やレポートの質にやや問題があった。次年度、遠隔授業が実施される際には、学生の受講態度や学習意欲について、工夫をするよう心掛けたい。
その他、今年度は卒論指導の学年に留学生が多く、日本語のチェックなどに時間を要したが、無事全員卒業論文を書き上げ、就職、大学院進学などにつなげることができた点は良かったと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	34
長崎外国語大学	教育原理	15/15(集中)	2	24

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験2次試験対策	2	2	8/5，その他個別対応

３．研究活動

(1) 研究テーマ

欧米の子ども史（18世紀後半から19世紀初頭のアメリカを中心に）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	0	2	2	24万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

教職課程で学修する学生の評価観に関する研究 ー授業でのルーブリック活用の結果をもとにー／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第5巻／1頁～14頁／共著／論文

教職等支援部門の活動と今後の課題／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第5巻／96頁～97頁／共著／報告

初年次・共通教育部門の活動報告／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第5巻／87頁～95頁／共著／報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観育成事業（共同：浦郷淳・田中誠・乙須翼・宮良俊行・神野周太郎）	2021年度(令和3年)【学長裁量経費】SDGs推進奨励制度	2021年9月-2022年3月	15万円
教職課程で学修する学生の意識変容に関する研究 ―評価の分析を通して―（共同：浦郷淳・乙須翼）	2021年度(令和3年)国際観光学科共同研究費	2021年4月-2022年3月	9万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員	各種アンケート結果に対する学科教員へのフィードバックの依頼、取りまとめ、委員会での報告などを行った。

教職課程委員会	副委員長	教職課程運営の事務的な調整や確認、教育実習や教職実践演習などのオムニバス授業の調整や進行、学生への履修指導などを中心に、教職課程委員長を支援した。その他、教職課程関連のオンラインシンポジウムなどに参加し、次年度から始まる自己点検･評価の義務化等への対応など情報収集に努めた。
教育基盤センター運営委員会	委員	教職等支援部門長（5年目）、教養セミナーワーキング・グループ長（4年目）、紀要編集副委員長（5年目）を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター内教養セミナーワーキング・グループ	ワーキング・グループ長	シラバスの検討、テキストの作成・配布、教材の作成、manabaによる教材発信及び諸連絡、諸部署等との調整、教員用アンケートの実施・分析、教育基盤センター紀要での活動報告、新任教員のための研修会講師等を行った。
教育基盤センター内紀要編集委員会	紀要編集副委員長	編集委員長、また編集委員と共に、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認などを行った。また編集後記の執筆を行った。
国際観光学科内初年次教育委員会	委員長	委員長として、前期は全学の教養セミナーWGとの調整を行い、後期は教材や授業展開の作成と発信、及び教員への連絡等を行い、教養セミナーBの授業運営を中心的に担った。

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

特になし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立早岐小学校 学校評議会	学校評議員	平成23年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市立早岐小学校 学校支援会議「早岐っ子会」委員	委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
九州教育学会理事会	長崎県選出理事	平成31年度～現在に至る	九州教育学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も在宅勤務の期間が長く、物理的に制約が多かったこともあり、特に研究面において研究成果の蓄積が出来なかった。また物理的な面だけでなく、モチベーションや集中力などの面でも研究継続の難しさを感じた一年であった。

教育に関しては遠隔授業に幾分慣れ、遠隔での授業に適した授業方法も少しは修得することができたが、やはり対面に向いている授業では学生とのコミュニケーションが減ったことにより、教育効果が十分得ら

れないと感じた部分もあった。特にゼミ活動や教職学生向けの授業などでは、学生に直接指導する時間が少なかった。
次年度は、学会の大会実施も決まっており、忙しくなることが予想されるが、研究面で今年度よりも実績を積めるよう、努力したい。また教育面でもゼミ生、教職学生の指導にもう少し力を注ぎたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 尾場　均

1．教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」
地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送、などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力（社会人基礎力）を身につけるカリキュラムをつねに考えている。
社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修D	1/30(前期)	2	44	⑦⑩
地域連携活動ⅠA	1/15(前期)	1	39	②④⑥
地域連携活動ⅡA	1/15(前期)	1	1	②④⑥
卒業研究【観】	1/15(通年)	4	10	⑥
地域連携活動ⅠB	1/15(後期)	1	35	②④⑥
地域連携活動ⅡB	1/15(後期)	1	1	②④⑥
専門演習ⅠA	1/15(前期)	1	12	⑥⑪
専門演習ⅠB	1/15(後期)	1	12	⑥⑪
専門演習ⅢA	1/15(前期)	1	11	⑥⑪
専門演習ⅢB	1/15(後期)	1	10	⑥⑪
教養セミナーA【観】	1/15(前期)	1	8	⑥⑪
教養セミナーB【観】	1/15(後期)	1	8	⑥⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【栄】	1/15(前期)	1	62	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【栄】	1/15(後期)	1	65	③
映像文化論	1/15(前期)	2	66	②
情報処理論	1/15(後期)	2	30	②
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡA	1/15(前期)	1	28	③⑪⑫
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡB	1/15(後期)	1	10	③⑪⑫
専門演習ⅡA	1/15(前期)	1	12	⑥⑪
専門演習ⅡB	1/15(後期)	1	11	⑥⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【観】	1/15(前期)	1	88	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【観】	1/15(後期)	1	84	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【観】	1/15(前期)	1	94	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【観】	1/15(後期)	1	90	③

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナー

「聞く・話す・読む・書くの基礎訓練」で前期は「読む・聞く」を中心に学科共通の全学共通内容で実施した。これまで学生の理解や進捗に合わせて授業を進めていたが、今回担当した学生は、宿題やレポート、発表などを休む学生はいなかった。オンラインや対面のハイブリッド授業であったが、しっかりと学ぶ意欲を感じる授業であった。。随時ポートフォリオで共有することでアクティブラーニングを実践する内容ではないことで、学生が興味をもつ工夫が必要である。

学生の参加（ディスカッションなど）を促す内容も、共通のカリキュラムに合わせて取り入れたが、昨年度と同様のコミュニケーション力も重視して内容や貴重な体験など取り入れた内容で評価は高かった。学生にあわせた内容や進め方の工夫が必要でうまく学生にも伝わったと思われる。

共通内容の講義を、学生に興味を持ってもらうための工夫、またやらされ感を持たせない内容を考えた。多少の授業内容の変更や追加も学生のモチベーションを高めるため、教員独自の内容も多少は取り入れ、毎回のレポート提出など、4年間の大学の授業に必要な基礎を身につけるように工夫した。

これまで行っていた、評価の高い、ラジオ放送を基本にグループディスカッションや調査、原稿作成、プレゼンテーションも共通内容から外れないようにして実施したい。

ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ

すべてオンラインで実施して２年目となる。前年度の授業アンケートの評価や意見を参考に目標は同じであるが、内容や課題については修正をおこなった。

特にポートフォリオの機能を有効に使い、学習成果を可視化できたいことである。学生が自分自身のスキル向上を確認できるようにすることで、学生自身の意欲や自信を持つことができたと思われる。

今回も毎回の授業評価と感想、質問を受けるシステムをポートフォリオで実践した。授業の進捗状況や理解度を測れるため、次回の授業で再度繰り返し説明することで、学生自身の理解度も増したことが成績評価でも明確となった。

授業映像も必ずYoutubeで確認できることも満足度が向上したと思われる。

また、情報化社会の様々な技術や最新情報の説明を取り入れ、演習だけではなく学生が興味を持つテーマで現在のIT社会について理解する時間を設けた。キャッシュレス社会やネット社会でマナー、情報の収集術やSNSやスマートフォンのアプリケーション活用などの説明する時間を作った。

授業のスピードに関しては、早い、遅いのコメントもあり、早いの回答の学生に対して、今後改善していきたい。

映像文化論

特に大きな変化もなく、今回はハイブリッドで実施した。

大きく内容を変更した昨年度の内容に情報化社会全般の講義を含めたことで0.2ポイントの上昇したと思われる。これは自由記述でも読み取れる。毎回の授業評価と感想、質問を受けるシステムをポートフォリオで実践した。授業の進捗状況や理解度を測れるため、次回の授業で再度繰り返し説明することで、学生自身の理解度も増したことが成績評価でも明確となった。自由記述「わからない事や作業ミスをしても、質問しやすかったです。」に書かれているように学生の意見を聞ける授業であった。

今年度も90分の講義は全く私語なく受講態度もよく課題等に真剣に取り組んでいた。

昨年度の前期・後期でも課題提出率が100％であったが、今回も同様であった。学生が授業の内容の重要性と興味を持って受講したことがわかる。昨年に変更した内容や進め方で、今年もスコアも向上している。シラバスの生合成を保ちつつ、理解度の低い内容は繰り返し説明をする時間を設けた。この内容で後

期・次年度も実践するが、次回は課題の内容や教科書についても検討する。
遅刻も私語も少なく講義中に注意する機会がなかったが、遅刻者に対しては、すでに進んだ内容について、わからない場合は講義後の必ず聞きに来るように説明していた。昨年と違うところはこの説明であるポートフォリオの活用による授業の内容や学生の毎回の理解度を測ることができるため、授業の内容もその学生に応じて対応できたように思われる。それは自由記述からも読み取れる。授業の方法については高い評価であったが、理解度・満足度も含め努力する。
昨年度も質問１の質問内容がこの講義に適していないと思われると記載した。この評価だけ極端に低い。
毎回の課題は確実に提出しているが、講義の質から予習に取り組む内容ではないが反転授業を取り入れるべきか検討する。

情報処理論
ハイブリッド授業であったが必要な要件を満たすことができた。例えばレコードの仕組みと音色を体験させることや実際に機器に触れることなど、コロナ禍であったが授業の内容を変更して、オンラインと対面の授業を有効に活用することができた。
出席率も高く、また試験の成績もよかった。これは学生自身が学ぶ意欲があること、そしてこれからの社会で必要であるという認識の高さだと思われる。
専門用語や新技術の説明が多く学生には難しい内容であるため、実際に物や映像で説明する工夫をした。
居眠りする学生もほとんどなく、真剣に取組んでいることが授業中でも伝わった。身近な話題を取り入れて説明することも工夫した。スマートフォンとインターネット関連技術革新により、昨年の内容が通用しないことも多くあるが、しっかりと準備をすることで対応できた。
多くの学生に受講して欲しい。

コンピュータ基礎演習ＩＢ
ポートフォリオを活用した復習できる教材により、学生の学習時間の向上を促した。しかし、今回の評価は高くなかった。
この授業は３クラスで実施している。内容や進むスピードはすべて同じ内容であったが、アンケートを実施したクラスだけは、難しい、進み方が早いなどの指摘が多かった。回数の後半では他のクラスと内容を変更をして、ゆっくりと授業をすすめた。
原因は不明であるが、試験内容も他のクラスより低く、コンピュータの操作やスキル向上の問題ではなく、理解度の問題であると回数を重ねるごとに感じた。毎回の授業で毎回行う提出や保存に関しても、理解度が低く、宿題の問題内容が理解できていない学生を多く見受けられた。よって試験も指示された回答ができない学生が多く見られた。
来年度も継続して関心を持ち満足度を向上させるような内容と、授業で提示する課題などをよりわかりやすい表現で説明することを心がけたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	1/15(前期)	2	33

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

GPS情報を活用した地域情報コミュニティの研究
ポートフォリオによる授業の実践とプロジェクト学習
地域活性化イベントの企画運営と回遊分析
社会人基礎力と起業支援、アントレプレナー醸成について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「SDGsゴール3,4,8,17」学生・子供対象イベントの実施	学長裁量経費	2021年6月～2022年3月	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
産学連携・研究支援センター	副委員長	研究活動のために、研究助成の公開や年度の産学連携の研究に貢献した。
国際観光学科企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項
国際観光学科観光マネジメントコース委員会	委員	学科コースの運営・提案に関する事項
国際観光学科カリキュラム委員会	委員	カリキュラムに関する事項

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

企業部サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第10回Made in SASEBOフォトコンテスト
2021年度佐世保市ふるさと納税パンフレット　　2021年5月発行
2021年度佐世保市移住PR冊子「佐世保時間」　　2021年6月発行
2022年3月 広報させぼ　冊子　　2022年3月発行
長崎県内の大学・企業・就活情報紙「長崎新聞 NR（エヌアール）」（2022年3月）
「第26回きらきらフェスティバル in SASEBO」ちらし、パンフレット掲載
FM長崎「新春アニメ音はじめ!!」2022年1月2日放送
テレビ番組「佐世保だよ⁉全員集合」月曜20時（12作品放送）
ラジオ番組「はっぴいRadio場」日曜11時（52回放送）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
学校と共創する美術で学ぶ平和教育教員向け研修「つくる、つたえる、作品鑑賞」 ICTを活用したプレゼンテーション演習編	9月21日	長崎県立美術館	長崎県立美術館

学校と共創する美術で学ぶ平和教育教員向け研修「つくる、つたえる、作品鑑賞」 ICTを活用したプレゼンテーション講義編	9月30日	長崎県立美術館	長崎県立美術館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市過疎等地域振興持続支援事業審査委員会	委員	令和3年4月～現在に至る	佐世保市 企画部 地域政策課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

12月
〇SDGsの取り組みとして教育から伝統文化や文化伝承という視点から年末に中心市街地で開催される「きらきらフェスティバル」で「佐世保短編映画祭」「地域資源を活用した映像制作」「佐世保独楽大会」の企画を実施した。
〇SDGs取り組みとして学生ベンチャー企業の㈱ジャックラビットは、これまで200万円の費用と多額の電気代を使う、ビルのイルミネーションの電飾をAR/VRコンテンツに置き換える実験を行った。
〇地域でのコンピュータ関連の教室での講師

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面において
今年度も専門演習（ゼミ）でのPBLの実践、講義科目の授業改善、ポートフォリオを活用した新しい授業実践に取り組んだ。また映像制作において高度な技術習得の授業内容で教育した。
遠隔授業の運用支援やポートフォリオを活用した授業を実践、PBLの実践では、佐世保文化研究会を設立、佐世保独楽大会の開催、佐世保ふるさと納税パンフレット、佐世保広報誌「させぼ時間」、NR長崎新聞の原稿制作、FM長崎出演と地元FMラジオの番組制作、地元テレビ局での番組制作などによりアントレプレナー醸成などの成果が得られた。
PBLを基本とした教育実践によりテレビ番組「佐世保だョ全員集合!」,ラジオ番組「はっぴいRadio場」を継続できた。
大学ベンチャー起業実践によりキャリア教育も実践できた。

研究面において
スマートフォンカメラによるARシステム。スマートフォンでARタグによる仮想映像のマーカー型AR、空間認識ARを提案した。位置情報を使った観光情報システムの活用も継続して研究する。
映像制作においてNHKおよびJR九州と映像制作。長崎県立美術館でICTを活用したプレゼンテーションの実践をおこなった。

社会貢献・地域連携
渋谷・佐世保短編映画祭、映画の制作など多くの地域イベントを開催した。
佐世保ふるさと納税パンフレット・佐世保広報誌させぼ時間・NR長崎新聞の原稿制作、FM長崎出演。また佐世保文化研究会を立ち上げ、世代間の交流と伝統文化の伝承の場を形成した。
SNSの使った広報活動で「碧波みなと」の運営、学科のSNSアカウントで広報活動に貢献できた。

今後も継続して研究を含めた諸活動を継続する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 佐野　香織

１．教育理念

私の出発点でもあり研究関心は、異なる人々が共に学びよりよい社会を培うための日本語教育です。興味・関心を拡げ深めながら学ぶことと、ことばを共に培う教育実践を国内外で行って参りました。それは、人材育成の観点からも、興味・関心の学びとことばの教育は分けて考えることができるものではなく、共に育み培っていくものであると考えているためです。こうした観点から、研究、学生教育、教師教育の往還をめざし,実践を行っています。具体的には主に以下のようなことをしてきました。

１）ローカルな課題とグローバルな視座の学習デザイン・学習環境設計

①のローカルな発見から課題解決へのプロセスには、成人学習論、学習環境設計の理論が関わっています。自らのローカルな実践をふりかえり、グローバルな視座で主体的に学びあう学習環境デザイン、ラーニングコモンズにおける学習支援環境設計と運営、MOOCsを用いて自己決定感を持ちながら、自己調整学習を可能とする学習支援の企画開発・実践等を行ってきました。

２）協働で地域とことばを創るクリエイティブ・ラーニング

現在、複言語・複文化が進むことが想定される日本社会に対応した新たなことばの考え方、ことばの教育が求められています。留学生は日本の街に一時的に訪れる「お客様」としての存在だけではなく、留学生もまた、市民と一緒に安全で快適な、持続可能なまちを創ることに貢献できる存在です。私は、この「つくる」という経験を通して学び、共にことばをつくる観点から、次のような実践研究をしてきました。　1)「やさしい日本語」をつくる地域実践、2)SDGs達成をめざし、「食品ロス」の課題解決から、文化としてのそのまちの「食」、人のつながりをつくることば、まちの食と人の持続可能な仕組みづくりとモデル化をめざした実践研究

３）「体験の言語化」を通した、社会参加をめざした教育

身の回りの生活や文化を通して、社会にかかわり、社会に働きかけるための新たなことばと学びを「つくる」ことを念頭においた教育をめざします。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習（R2後期～）	30/30(前期)	2	1	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
日本語教育実習	30/30(通年)	2	6	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
日本語A	30/30(前期)	2	9	②③⑧⑨⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑧⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑧⑩
日本語B	30/30(後期)	2	13	②③⑧⑨⑩
日本文化論	8/15(後期)	2	119	①②④⑤
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥
日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝA	15/15(前期)	2	27	②④⑪
日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝB	15/15(後期)	2	34	②④⑪

専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
日本語教授法B	15/15(後期)	2	12	⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

未入国留学生も遠隔の授業に満足している様子がうかがえた。来学期も引き続きがんばりたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

日本語教育、応用言語学、成人教育・学習、省察的実践の学び、生涯学習、支援者教育・学習、組織の学び、ラウンドテーブル、ラーニングコモンズ

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	2	0	3	1	1	182万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Steps in Japanese for Begginers１／共著・編著／2022年2月／早稲田大学日本語教育研究センター／1~106

Steps in Japanese for Begginers2／共著・編著／2022年2月／早稲田大学日本語教育研究センター／1~106

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

多文化共生社会実現に求められる「日本語教育」とはなにか －IR誘致を目ざす佐世保市を事例として－／2022.3／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第5巻／37-49／単著／論文

「体験の言語化」の「ふり返り」を社会に拓き重ねる　往復書簡と実践の跡づけによる長期重層的協働省察記述の試み／2022.12／言語文化教育研究　第19巻／264-280／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

アクティブトランジションとしての対話の機会 ―シャカイジン×ガクセイ　ワークショップの試み―／2022年3月17日／第28回大学教育研究フォーラム

「まちのことばをつくる」プロジェクトにおける「まちのことば」－対話的な自己エスノグラフィーによる分析の試み－／2021年10月24日／日本質的心理学会

「まちの新たな「伝統文化」を「つくる」可能性を探る」／2021年8月21日／第34回日本語教育連絡会議

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　若手研究「日本学研究を担う海外大学若手人材育成：往還する省察的学びのモデル提案と実践研究」	科学研究費補助金	令和元年（2019年～令和3年（2021年）	182万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	令和3年度男女共同参画セミナーを企画、開催した。
キャリア委員会	委員	学生のキャリア意識向上のため、インターンシップ指導に貢献した。
ハラスメント相談員	相談員	特記事項なし
ピアサポート相談員	相談員	特記事項なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス　ブース企画、大学WEBサイト国際観光学科広報　学生の活動について記事掲載した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度第1回長崎県地域日本語教育推進事業総合調整会議	令和3年9月2日	オンライン	長崎県国際課平和推進・国際協力班
文化庁委託令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業プレ企画　「再考・多文化のまちながさき　長崎県で外国人と共に働き・暮らす」	令和3年12月23日	オンライン	NPO法人　国際活動市民中心（CINGA）　共催　公益財団法人長崎県国際交流協会　協力　長崎県
文化庁委託令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業「ながさきWell-being　多文化共生の未来研究」第1回	令和4年1月17日	オンライン	NPO法人　国際活動市民中心（CINGA）　共催　公益財団法人長崎県国際交流協会　協力　長崎県
文化庁委託令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業「ながさきWell-being　多文化共生の未来研究」第2回	令和4年1月31日	オンライン	NPO法人　国際活動市民中心（CINGA）　共催　公益財団法人長崎県国際交流協会　協力　長崎県
文化庁委託令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業「ながさきWell-being　多文化共生の未来研究」第3回	令和4年2月8日	オンライン	NPO法人　国際活動市民中心（CINGA）　共催　公益財団法人長崎県国際交流協会　協力　長崎県
文化庁委託令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業「ながさきWell-being　多文化共生の未来研究」第4回	令和4年2月21日	オンライン	NPO法人　国際活動市民中心（CINGA）　共催　公益財団法人長崎県国際交流協会　協力　長崎県
令和3年度第2回長崎県地域日本語教育推進事業総合調整会議	令和4年3月1日	オンライン	長崎県国際課平和推進・国際協力班

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和3年言語文化教育研究学会第9回研究集会　委員長として企画・運営・参加した。
令和3年日本語教育学会　グローバルにつながるとは？　インタビュー公開収録会　企画・運営
公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会　令和3年日本語教育学会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
Withコロナの日本語教育とつながり	ロシア・ハバロフスク大学の学生との国際交流	令和3年9月~12月	公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会　助成

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍ではあるが、オンラインツールを活用したロシアの大学との国際交流活動、国内では、SDGsをテーマとした国際交流活動を行い、今だからこそできるつながりを今後につなげていく方向性づくりを行った。来年度も引き続き、多様な活動を模索していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 城前　奈美

1．教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修D	30/30(前期)	2	73	⑦⑩
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	14	⑥⑫
旅行業務エキスパートⅠB	8/15(通年)	2	6	①⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	12	⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	11	⑥
旅行業法・約款	15/15(前期)	2	90	①⑨
旅行業務エキスパートⅠA	8/15(前期)	2	11	①⑨
国内旅行実務Ⅱ	8/15(前期)	2	16	①⑥⑨
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	15	⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	15	⑥
観光経済論	15/15(後期)	2	83	⑨
経済学	15/15(前期)	2	231	⑨
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	14	⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	14	⑥
地域観光研究A（ｱｼﾞｱ・ｵｾｱﾆｱ）	15/15(後期)	2	69	⑥⑨
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
観光経済特講	15/15(後期)	2	2
観光経済特講	15/15(後期)	2	3
事例研究（観光経済）	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「教養セミナー」の満足度はは4.4であり、「経済学」の満足度評価は4.4、「観光経済論」の満足度評価は4.2であった。「教養セミナー」は全面対面、「経済学」は全面オンライン、「観光経済論」はハイブリッドであり、ハイブリッドが一番手間がかかり、評価も低く出た。

専門演習ⅡBとⅠBで、グループ研究に取り組み、日本観光研究学会九州韓国南部支部会が主催する学部生論文発表大会に出場し、原口瑞希・草野瑞貴、中尾沙奈、山本健斗のチームが優秀賞（九州観光推進機構賞）を受賞した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	115
九州産業大学	観光政策論	14/14(集中)	2	6

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・学科共同研究「台湾におけるバーチャルツーリズムの量的・質的分析～スポーツ・ツーリズムとエスニック・ツーリズムの観点から～」

・学科共同研究「日本遺産「三川内焼」の魅力発信と広報手段開発に関する研究」

・宇久町観光協会との共同研究「プライベートアイランド構想に向けた既存資源の活用」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	40万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

プライベートアイランド構想に向けた既存資源の活用／2022年3月／令和３年度宇久共同研究報告書

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
宇久共同研究	宇久町観光協会	2020～2021年度	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	副委員長	・大学院ピアサポーターの配置案の調整（前期毎週） ・NPS執行部の月例会出席 ・委員会の事前打ち合わせ ・配慮申請学生の面談（年間約20人） ・合理的配慮の内容検討会議 ・FD研修講師 ・実習先への配慮申請面談
学務委員会	委員	・人間社会学研究科行事のHP記事作成 ・月１回の委員会出席
観光学専攻	副専攻長	・専攻会議の事前打ち合わせ ・入試問題（年間3回分）のとりまとめ ・専攻内修士論文中間発表会の運営 ・修了式の運営
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	・16本の研究倫理申請の審査
（学科内）研修・地域連携委員会	委員長	・委員会の開催、委員会資料の作成、とりまとめ ・学科会議への上程 ・オリエンテーション説明
（学科内）旅行業務取扱管理者養成課程委員会	委員長	・委員のとりまとめ ・国家試験の団体申込みの管理 ・外部・学内の窓口 ・各種資料作成
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	・観光学論集の相見積もり ・投稿原稿の査読
（学科内）カリキュラム委員会	委員	・委員会出席
（学科内）観光マネジメントコース委員会	委員	（特になし）
（学科内）学事委員会	委員	・卒業生支援担当

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP	D委員会幹事校	・D国際交流・観光・まちづくり委員会のとりまとめ ・各会議出席

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部顧問
・練習試合・遠征時の引率
・コロナ下での練習時監視

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス
第１・３回　保護者担当

第２回　観光研修ブース担当
第４回　資格ブース担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
自立的観光地経営の課題Ⅰ・Ⅱ	2021年11月12日	鎮西学院大学大村サテライトキャンパス	鎮西学院大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州・長崎IR区域整備推進有識者会議	委員	2021年度	長崎県
景観審議会	委員	2021年度	佐世保市
日本観光研究学会	倫理委員	2021年度	日本観光研究学会
日本観光研究学会九州韓国南部支部会	副支部長	2021年度	日本観光研究学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
日本観光研究学会全国大会	研究分科会司会進行	2021年12月5日	日本観光研究学会

長崎国際大学国際観光学会	研究分科会司会進行	2021年10月2日	長崎国際大学国際観光学会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・シラバスチェック

７．受賞等

日本観光研究学会九州韓国南部支部会が主催する学部生論文発表大会にて
３年ゼミ（原口瑞希・草野瑞貴、中尾沙奈、山本健斗）が優秀賞（九州観光推進機構賞）を受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、専門演習ⅡBとＩBで、グループ研究に取り組み、日本観光研究学会九州韓国南部支部会が主催する学部生論文発表大会に出場し、原口瑞希・草野瑞貴、中尾沙奈、山本健斗のチームが優秀賞（九州観光推進機構賞）を受賞した。

大学運営面では、CHサポートセンター運営委員会副委員長としての業務と人間社会学研究科観光学専攻副専攻長としての任務、学科内研修・地域連携活動委員会の委員長業務、旅行業務取扱管理者養成課程委員会の委員長業務、QSPのD委員会業務など、多岐にわたり、貢献した。

研究面では、大学運営業務の多忙により、自主的な研究には至らなかった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 城本　高輝

１．教育理念

サービス産業である観光ビジネスは、現在はコロナ禍で停滞しているものの、今後、大きな復活が期待できる分野です。

私は、国土交通省（観光庁）、大阪府都市魅力創造局、公益法人、交通事業者等において、観光白書・観光立国推進基本計画の作成、まちづくり、産学官連携、地域貢献、緊急雇用創出事業等に取り組み、今後の日本経済の発展のためには、観光ビジネスが非常に重要な教育分野であると実感してきました。

今後、観光ビジネスが、さらに飛躍していくためには、「産官学」が連携しながら、重要な役割を果たしていく必要があります。私は、今まで「産官」の立場で、観光ビジネスの発展に尽力してまいりました。

現在は、「学」の分野において、実務家として教育を進め、若い学生に観光学を教えながら、観光ビジネスのさらなる発展に寄与していきたいと考えています。私の実務家としての経験を、学生に教えるだけでなく、生きた模擬体験として、ワーキングなどで活用しています。

近年、観光ビジネスにおいては、一律的な団体旅行よりも、それぞれのお客様のニーズにあわせた多様化、差別化が進んできています。このため、従来型のパッケージツアーよりも、個人の趣向に合わせた体験型の旅行を期待したり、自然ツーリズム、文化ツーリズム等、「コト」を重視するニーズが高まってきており、こうした動きに対応できるよう、世の中の動きをしっかり掴み、それをサービスや価値として提供できる能力が必要であると考えています。

ここ最近は、ウィズコロナ、アフターコロナという視点についても考えて能力が必要です。

また、これからは、会社が個人を育ててくれる時代ではなく、自分で考えてから行動し、自身でスキルアップをしていきながら、自分の働きたい会社に移っていったり、自分で起業していく時代になります。

さらに、観光分野においては、上から目線での理念や言葉の押し付けだけでは、物事は進みません。多くの人とコミュニケーションを図り、多くの人の心を動かすことが出来る能力が必要とされます。こうしたことは、学生にはしっかりと意識しておいていただきたいと思っています。

そのためにも、会社経営のノウハウ、IT等のシステムエンジニアとしてのスキル、着地型旅行商品等のサービス開発能力、ビジネスの場における交渉力、多くの方の共感を得られるプレゼンテーション力等を、少しずつ、学生の間に身につけて欲しいと考えています。

学生時代に実務家から観光ビジネスを学ぶことは、将来のチャレンジの幅を広げる大きな意義があります。私は、学生と細やかにコミュニケーションを図りながら、講義終了後には、知識だけでなく、個々の学生がスキルアップを実感できるような成果を意識して、教育を進めていく所存です。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	12	⑥⑫

教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	15	①⑥⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	15	①⑥⑩
テーマパーク論	15/15(後期)	2	151	①②③④⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	12	⑤⑦⑩
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	⑤⑦⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	7	①⑥⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	7	①⑥⑩
環境デザイン論	15/15(前期)	2	38	⑩⑪⑫
マーケティング論	15/15(前期)	2	156	①④⑥⑩
観光事業論	15/15(前期)	2	221	①②③④⑩
地域振興論	15/15(後期)	2	100	①②③④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光事業特講	15/15(後期)	2	5
事例研究（観光事業）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

コロナ禍であるため、大学の授業はオンライン、ゼミ活動及び大学院の授業は対面となった。

オンライン授業においては、マナバにおいて、レスポン、アンケート、レポート機能が充実しており、特に不自由することはなかった。また、授業を毎回録画することで、オンデマンドへの対応も可能となり、学生の部活・就職活動へ柔軟に対応することが可能となった。

ゼミ活動では、コロナ感染状況を踏まえ、フィールドワークなど対面でしか実施できない内容に取り組んだ。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
東京交通短期大学	鉄道システム論	15/15(前期)	2	67
東京交通短期大学	鉄道工学	15/15(後期)	2	51

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ワーケーション、エリアマネジメント、観光とIT、離島観光、観光経営、産官学連携

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	0	1	1	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

スポーツツーリズムの発展と今後についての考察／2020年12月／埼玉学園大学紀要経済経営学部篇第20号／129-140／単著／論文

新型コロナウィルス(COVID-19)が大阪の宿泊産業に与えた影響および大阪の宿泊産業を支援する施策について／2021年4月／東京交通短期大学研究紀要第26号／3-36／単著／論文

長崎県下のワーケーションについての考察／2021年9月／日本国際観光学会自由論集Vol.4／70-75／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

明石海峡大橋周辺における地震動の４点アレー観測と解析／１９９４年５月／土木学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
プライベートアイランド構想に向けた既存資源の活用	一般社団法人宇久町観光協会	２０２１年４月～２０２２年３月	

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
和歌山大学観光学研究科博士後期課程	ライフスタイルの変化が地域の活性化に与える影響についての考察	2022年4月以降

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	国際観光学会の委員として参加し、学生の就活に貢献した。
キャリア委員会	委員	短期・長期インターンシップの実施・運営し、学生の就活に貢献した。
カリキュラム委員会	委員	国際観光学科のカリキュラム検討をサポートし、学務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光人材育成コンソーシアム九州・長崎準備会	委員	佐世保市へのIR誘致に向けた活動サポートに貢献した。

佐世保地域経済活性化推進協議会　仕事関連ワーキンググループ	委員	佐世保市の産官学連携での地域経済活性化活動をサポート。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスに参加（２０２１年７月２５日、８月８日、９月２０日、２０２２年３月２０日）
場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	欠席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	欠席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
世界遺産検定試験の実施（上期）	７月３日	長崎国際大学	特定非営利活動法人世界遺産アカデミー
世界遺産検定試験の実施（下期）	１２月１１日	長崎国際大学	特定非営利活動法人世界遺産アカデミー

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
一般社団法人大阪府トライアスロン協会	参与	2021年4月～	協会事務局

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍であるため、学生や自分自身の感染リスクを抑えながら、教育、研究、学務に取り組むこととなった。感染リスクが高い時期は主に学内教育・研究に取り組み、感染リスクが低い時期は主に現地フィールドワーク・調査に取り組むことで、特に大きなトラブルもなく、相応の結果を出すことができたと自己評価している。

また、来年度に向けた良い実績を作ることができたので、来年度はこの取り組みをブラッシュアップし、PDCAサイクルに取り組みながら、成果をあげていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 新藤　照夫

1．教育理念

授業内外での学生との双方向のコミュニケーションを重視し、個々の学生が主体的に学修でき、卒業までにそれぞれ独自のホスピタリティを獲得していくことができるよう、教員としてサポートを行っていくことを教育理念としている。授業においては、安心安全の場を設定し、学生が容易に発言できる環境を保持しながら、アクティブラーニングを通じてプレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力を育成することを主眼としている。

英語関連科目において具体的に実践したいことは、次の３点である。①英語により正確かつ迅速に情報を入手し、自発的に意思疎通を図れるようなバランスの取れた４技能の土台を定着させること、②その土台となる技能をもとに、専門領域に関する情報を英語を通じて受信・発信できる実用的な運用力への応用を図ること、③異文化背景を持つ他者との柔軟な異文化コミュニケーション能力の育成に努めることである。その結果、学生が自らのコミュニケーション能力によって得た情報や文化交流から、知見をより豊かにし、グローバルな視野のもと活躍できる人材になることを理想だと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	7	⑥⑫
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝA	15/15(前期)	2	31	②⑩⑪
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	16	④⑩
English Writing SkillsⅡ	30/30(後期)	2	14	④⑧
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	4	④⑤⑥⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	4	④⑤⑥⑩
英語演習ⅡA【観】	15/15(後期)	1	19	①②
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	7	④⑥⑩⑪
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	7	④⑥⑩⑪
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	5	④⑤⑥⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	5	④⑤⑥⑩
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝB	15/15(後期)	2	26	②⑩⑪
言語と文化	15/15(前期)	2	85	②⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

English Writing Skills Ⅰでは、一昨年度との比較になるが、満足度は4.2から0.6ポイント上昇し4.8となった。学生の英語力に応じた授業の改善の成果とともに、個別のサポートの機会を増やしたことが一因かと思われる。

教養セミナーAは全学共通シラバスで実施している。昨年度の前期は実施していないため、経年比較はできないが、一昨年と比較すると、満足度が4.2から4.8へと0.6ポイント上昇したことは大いに評価できる。教養セミナーの取組みへの評価は自由記述からも読み取れる。引き続き現在の取り組みを実践していきたい。また、教員に対する評価は5.0であることから、熱意は伝わっていることがわかる。また、一昨年と比較しても、4.7から5.0というより高い評価を維持しているため、現在の取り組みを継続するとともに、一人一人に公平な姿勢をもって対応したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	32
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	41
福岡大学	フレッシュマン・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	28
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	37
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	31
福岡大学	フレッシュマン・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	34
環太平洋大学	異文化コミュニケーション	15/15(集中)	2	18

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
TOEIC講座（グローバルツーリズムコース TOEICクラブ対象）	1	13	9月～12月の金曜日6限
全国英語プレゼンテーションコンテストの指導	5	5	10/18、10/19、11/18、11/19、11/20

３．研究活動

(1) 研究テーマ

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪の文化的差異

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員長、教務課、学科長との連携を図り、学科内の教務事項の運営に尽力した。
研究センター委員会	副委員長	研究センター委員会の副委員長を務め、委員会の円滑な運営を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

女子ソフトボール同好会を設立し、部長兼監督として、週３日の練習に加え、練習環境整備、運営の基盤づくり、地域連携に尽力した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

女子ソフトボール同好会をSNSとクラウドファンディングで全国的に広報し、１万人以上の閲覧があった。１０/１９(火)長崎新聞のスポーツ欄に掲載された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
実用英語技能検定	面接委員	平成17年4月～現在	公益財団法人日本英語検定協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

【教育】GTコースについては、授業内外での学修支援に努めた。１年生のTOEIC換算の得点は順調に上昇の推移を辿っており、指導の成果が出ている。2年生ゼミでは「第10回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」に参加させ、初出場ながら「Top 50賞」を受賞するなど英語力向上の取り組みを実施した。
【研究】博士論文の執筆を進めている。今年度中の論文提出はやや厳しい状況であるが、次年度前期での提出を目指している。
【社会貢献】高校の出張講義とソフトボールを通じた地域貢献を実施できた。
【大学運営】副学科長として、学科長をサポートしながら学科運営には積極的に寄与した。また、教務課との連携を強化し、相互の業務の効率化に尽力した。オープンキャンパスにはアドバイザー的な立場で関与し、観光志向の女子をターゲットとした企画の創出を促した。
次年度は教育、研究、社会貢献、運営業務のバランスをより良く維持できるように努めたい。

教員個人による諸活動について　令和３(2021)年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 竹田　文雄

１．教育理念

実務家教員であるからこそ出来る教育の在り方を常に考え、そして常に進化向上させていくことに力点を置く。
学生に対しては、常に以下の４点を求めていく。
・世間の動きを知ることを「習慣化」して、様々なことに対して興味や関心を持つようにする。
・自身の意見を「まとめる力」を伸ばす。
・自身のまとめた意見を他者とシェアすることで、自身の意見を「伝える力」を伸ばす。
・意見を出し合うことで、自分自身の「聴く力」と「語る力」を伸ばす。
以上の４点について、学生が自発的に取り組むように後押しをしていく。
そして長崎国際大学の学生を、ホスピタリティに溢れた、どこででも誰とでも堂々と渡り合える社会人となれるように育成していきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
旅行ビジネス英語	15/15(前期)	2	30	②⑩
海外観光資源A	15/15(後期)	2	97	②⑩
地域観光研究C	15/15(前期)	2	91	②⑩
地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ）	15/15(後期)	2	54	②⑩
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	9	②⑩
専門演習ＩB	15/15(後期)	1	9	②⑩
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
航空業論	15/15(前期)	2	168	②⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	8	②⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	8	②⑩
ﾂｱｰﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	15/15(後期)	2	64	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度はスムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面で担当授業の準備とフォローアップを優先させました。その結果、前期授業アンケートの満足度は平均4.6点、後期は同4.4点を獲得しております。ただし、前期・後期のいずれにおいても、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法について改

善の余地が多々あることを自己レビューしております。これらの点は次年度の準備にフィードバックいたします。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・パッケージツアーの変遷と進化（「商品造成」「着地型観光・旅ナカ」）
・統合型リゾート/IR「日本型」の展開

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	１回を除き全入試面接を担当し、志望学生を的確に評価することで、採用活動の質の向上に寄与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

当年度はありませんが、22年度にはアサインを希望いたします。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

無し

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
国際観光について学ぶ	8月2日	宮崎県立日向高校（ZOOM）	宮崎県立日向高校
ホスピタリティの仕事について考える	10月1日	私立聖和女子学園高校	私立聖和女子学園高校
観光に関する模擬授業の受講	12月1日	長崎国際大学	私立聖和女子学園高校

国際観光について学ぶ	3月15日	佐賀県立佐賀東高校	佐賀県立佐賀東高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	令和３年度～現在に至る	長崎県県民生活環境部食品安全・消費生活課
佐世保市スポーツ推進計画策定委員会	委員	令和３年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
九州・長崎　国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	令和３年度～現在に至る	長崎県IR推進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

無し

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

無し

７．受賞等

無し

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度はスムーズな授業運営を第一に考え、全てにおいて担当授業の準備とフォローアップを優先させました。その結果、前期の授業アンケートでの授業満足度は平均4.6点、後期は同4.4点を獲得しております。授業アンケート以外でも、ポートフォリオを通して多くの意見やコメントを学生から得ることができました。

R4年度につきましては、R3年度に得た意見やコメントを担当授業の運営に反映させて、授業運営の一層の充実を図っていきます。また、それだけに留まることなく、大学、学部、学科の運営に一層寄与できるように努めてまいります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 Thom W Rawson

1．教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。
誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。 誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。
私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。 それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。 良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。
We learn things best by doing those things ourselves.
In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences.
A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.
When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英会話	30/30(後期)	2	6	①②③④
英語演習ⅡA【観】	15/15(後期)	1	25	①②
英語演習ⅠA【観】	15/15(前期)	1	22	①②
Practial English ⅡB	30/30(後期)	2	14	①②③④⑤
英語演習ⅠB【福】	15/15(前期)	1	34	①②
English Writing Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	30	④⑧
Practical English ⅠB	30/30(前期)	2	17	①②③④⑤
English Reading SkillsⅡ	30/30(後期)	2	14	①④⑪

English Reading Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	14	①④⑪
Practical English ⅢA	15/15(前期)	1	29	②③④
英語演習ⅡB【福】	15/15(後期)	1	35	①②
英語演習ⅡB【観】	15/15(後期)	1	30	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Information Technology	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

This year, I submitted the course questionnaire for many classes. In English Exercises IA and IIA, I received reasonable results from the students between 3.5 and 4.5 overall. In English Exercises IB and IIB, I also received similar results. These courses were created as on-demand classes due to the pandemic, so these were good results given the environment.

In Practical English IB and IIB, the results were between 4.0 and 5.0 for most categories in the questionnaire. Students were very satisfied with the course. The contents have been refined over many years and the results of those improvements are showing.

In Practical English IIIA, the results were also acceptable. Students appreciated the discussion topics and the focus of the classes. The same can be said for English Writing Skills III. The students wrote many essays and kept a blog for the entire semester writing many thousands of words in English.

Lastly, having English Conversation class in the fall semester was very interesting. The students reported this class as being one of their favorite classes. The questionnaire results were very positive.

今年は、多くの授業で受講アンケートを提出しました。英語演習IA、IIAでは、総合で3.5から4.5とまずまずの結果を得ることができました。英語演習IB、IIBでも、同様の結果を得ることができました。これらの科目は、パンデミックの影響でオンデマンドの授業となったため、その環境を考えると良い結果であった。

実践英語IB・IIBでは、アンケートのほとんどの項目で4.0～5.0という結果であった。生徒の満足度は非常に高かった。長年にわたり改良されてきた内容が、その成果として表れている。

Practical English IIIAにおいても、納得のいく結果であった。学生はディスカッションのトピックや授業の焦点を高く評価している。同じことが英語ライティングスキルIIIにも言える。生徒たちは多くのエッセイを書き、学期中ずっとブログを書き続け、何千語もの英文を書きました。

最後に、秋学期の英会話の授業はとても興味深かったです。生徒たちはこのクラスが好きなクラスの一つであると報告してくれました。アンケートの結果も非常に好意的であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

In the past year, I've conducted research in the following areas:
- Learning Analytics
- Massive Open Online Courseware (on-demand courses)
- International Virtual Exchange
- Extensive Reading in English
- Technology-centered learning

These research areas have been supported by JSPS KAKEN research grants and also by internal grants at our university. The results of these research projects have included papers published in the university's research journal as well as presentations at international conferences online.

この1年間で、私は以下のような研究を行いました。
- ラーニングアナリティクス
- 大規模公開オンラインコースウェア（MOOC、オンデマンドコース）
- 国際的な仮想交流
- 英語でExtensive Reading
- テクノロジーを中心とした学習

これらの研究領域は、日本学術振興会の科学研究費補助金や本学の学内研究費補助金によって支えられています。これらの研究成果は、学内研究誌に掲載された論文のほか、国際会議でのオンライン発表も行っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	11	15	3	3	1677万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

MOOC の方法論を用いたオンデマンド授業の カリキュラム開発について／202103／長崎国際大学論叢／1-15／共著／研究ノート

Moodleで使えるラーニング・アナリティクス／202008／ムードル・ムート・ジャパン2019年年次大会の議事録／4-4／共著／議事録

日本の大学における初年次の英語多読活動についての省察／202003／長崎国際大学論叢／1-7／共著／研究ノート

学生中心の学習を支援するためのムードル・データベースを 利用した活動について／201903／長崎国際大学論叢／31-43／共著／研究ノート

オランダへ留学する学生に対する事前教育／201903／長崎国際大学論叢／1-10／共著／研究ノート

Moodle LTI を使用した活動共有からコース共有へ／201710／ムードル・ムート・ジャパン2017年年次大会の議事録／28-33／共著／議事録

留学準備に対応するグローバルツーリズムコース カリキュラム改善 ―オランダに留学中の学生の事例に関する中間報告／201703／長崎国際大学論叢／127-132／共著／研究ノート

EFL（外国語としての英語）の語彙力向上の手段として 用いられるオリジナルの英文作成に関する調査／201703／長崎国際大学論叢／97-103／共著／研究ノート

アクティブラーニング観光ビデオプロジェクトの指導法の変化／201703／長崎国際大学論叢／91-96／共著／研究ノート

ｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ観光ﾋﾞﾃﾞｵﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ／201603／長崎国際大学論叢／1-11／共著／研究ノート

Moodle 活用によるアクティブ・ラーニング支援／201503／長崎国際大学論叢／13-21／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

オンデマンドコースの3学期分／2022-02-19／日本ムードルムート2022

Moodleのラーニングアナリティクスに関する最新情報／2022-02-19／日本ムードルムート2022

Google AssignmentsとMoodle／2022-02-18／日本ムードルムート2022

IVEプロジェクトによる異文化間フォーラム交流のための「Discussion Metric Reports」について／2022-02-18／日本ムードルムート2022

初心者のためのMoodleコンピテンシーと学習プラン／2022-02-17／日本ムードルムート2022

Moodleでリソースとアクティビティを追加する／2022-02-17／日本ムードルムート2022

Moodleを使った授業／2022-02-17／日本ムードルムート2022

自分の学生をどのように国際的な交流をさせるのか? IVEProjectを活かしましょう！／2021-12-18／GloCALL 2021会議

日本における学業不誠: 注意すべき物語／2021-11-13／2021年 日本言語教育学会（JALT）全国大会

オンデマンド・カリキュラムの開発を振り返って／2021-11-13／2021年 日本言語教育学会（JALT）全国大会

長崎国際大学 QLEARN（Moodle）ワークショップ／2021-09-14／長崎国際大学FD

BigBlueButton（BBB）をみんなに。Scaleliteによるロードバランシング／2021-09-06／2021年北海道夏期Moodleワークショップ

オンデマンド・レッスンのためのMoodle戦略／2020-09-05／ムードル・ウィーク・ジャパン2020

MOOCを作る - 最近のアップデートと例／2020-02-28／日本ムードルムート2020

ラウンドテーブル: Moodleにおけるラーニングアナリティクス開発への期待／2020-02-26／日本ムードルムート2020

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
バーチャルエクスチェンジにおける英語と他文化理解向上	日本学術振興会	2019-04~2022-03	1183万円

ホスピタリティサービス産業のグローバル化に対応した語学研修用MOOC（Massively Open Online Course）の開発	日本学術振興会	2018-04~2022-03	286万円
ラーニングアナリティックスを用いたオンライン外国語学習の実態分析とその教育的応用	日本学術振興会	2018-04~2021-03	208万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	国際交流・留学生支援センター副センター長、副委員長	毎月の教授会に動議やお知らせを配信。また、国際センターからの依頼で、留学準備のお手伝いもしました。
グローバル推進協議会	委員	NIU　QLEARNシステムを使った全コースのカリキュラムの設計と実施を手伝いました。
国際観光学会第	国際交流・留学生支援センター副センター長、副委員長	年刊誌に投稿された研究論文のタイトル翻訳を手伝いました。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

I manage the Nagasaki International University Moodle LMS and surrounding services. NIU QLEARN, BigBlueButton conferencing systems, analytics servers, and the NIU QLEARN Mobile application development and deployment for both iOS and Android systems. I also manage the Nagasaki International University email accounts for all students in the Google Suite for Education system.

長崎国際大学のLMS「Moodle」とその周辺サービスの運営をしています。NIU QLEARN、BigBlueButton会議システム、分析サーバー、NIU QLEARNモバイルアプリケーションの開発およびiOSとAndroidシステム用の展開を行っています。また、Google Suite for Educationシステムで、長崎国際大学の全学生向けメールアカウントの管理も行っています。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	出席

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
International Virtual Exchange project	世界中の学生とのオンライン交流	2021-05~2021-12	The IVEProject (iveproject.org)

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日本ムードルムート2022	会議主催者	2022-02	長崎国際大学	日本中、世界中のMoodleユーザー

(3) その他特記すべき活動

I volunteered to give workshops on using Moodle at Nagasaki International University. I helped new teachers to learn about Moodle (NIU QLEARN) and how to create online contents for

students.長崎国際大学でMoodleを使ったワークショップをボランティアで行いました。私は、新しい先生がMoodle (NIU QLEARN)について学び、学生のためにオンラインコンテンツを作成する方法を手助けしました。

7．受賞等

2021年 ベストイノベーション賞 2位
2017年 Best Open Courseware Award、Honorable Mention受賞
2017年 Best Innovations Award、Honorable Mention受賞
2017年 ベストティーチャー賞
2016年 ベストティーチャー賞
2016年ベストポスター賞
2016年 Best Innovations Award、Honorable Mention受賞
2015年 ベストティーチャー賞
2014年 日本e-Learning大賞 新技術賞
2011年 Best Innovations Award、Honorable Mention受賞
2011 ベスト非常勤講師賞

8．活動全般についての自己点検・評価

Even though our university has been in the pandemic for more than 2 years, I have worked hard to keep a high level of quality work for the students and also for my co-workers.

本学は2年以上前からパンデミックに陥っていますが、学生のために、また同僚のために、高いレベルの仕事を維持することに努めてきました。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 宮良　俊行

1．教育理念

私の教育理念は、目的を果たすために計画的に最も有効な方法を使いつつ、それを実生活に活かすことによって、人間と社会の進歩・発展に貢献することである。

よって、正規授業やゼミ活動、また課外活動において、生涯スポーツ社会の実現を図るために、スポーツの三要素「する」、「みる」、「ささえる」を理解し、実践でき、社会で活躍できる人材の養成に重きをおいて展開します。

担当科目を履修する学生に対しては、「スポーツの素晴らしさ、大切さを正しく伝えることができるメッセンジャー」になるために、スポーツに関連する科目を十分理解し、実践できるように学んでほしいと考えており、そのために、基礎知識の習得やその知識を活かした実践を重要視した授業方法を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	60/60(通年)	4	16	なし
教育実習A	60/60(通年)	4	13	④
教育実習B	60/40(通年)	2	2	④
事前・事後指導	8/8(通年)	1	15	④⑦
ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ	5/15(後期)	1	35	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅱ	13/15(前期)	2	13	⑨⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	16	⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	16	⑤⑥⑦
スポーツ社会学	15/15(前期)	2	94	②③④⑤⑥⑩
球技Ａ	15/15(後期)	1	12	⑩⑪
スポーツ医学	1/15(前期)	2	41	②⑩⑪⑫
教職実践演習（中・高）	2/15(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅳ	13/15(前期)	2	6	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	13/15(後期)	2	12	⑨⑩
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	25	④⑤⑪
専門演習ＩB	15/15(後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪
器械体操	15/15(前期)	1	30	⑪⑫
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツマネジメント	15/15(前期)	2	55	④⑤⑥⑩
球技A	15/15(前期)	1	20	⑩⑪
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪

専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
地域スポーツ	15/15(後期)	2	45	④⑤⑥⑩
スポーツ指導論	5/15(後期)	2	27	②⑤⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

自分なりに授業を工夫して実施したので、それなりの評価をいただいたと思う。これからももっとわかりやすい授業を極めたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	4/30(通年)	2	87
佐世保看護専門学校	健康と生活	1/15(通年)	2	67
九州看護福祉大学	バレーボール	1/8(集中)	1	28
佐世保看護専門学校	実技	1/15(前期)	1	68

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

総合型地域スポーツクラブに関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特にありません。
教職課程委員会	委員	特にありません。
教育基盤センター運営委員会	委員	特にありません。
スポーツサポートセンター	委員	特にありません。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①女子バレーボール部　監督

②長崎県国体成年女子6人制バレーボールチーム　監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

進路説明会　長崎総合科学大学付属高等学校　令和4年2月15日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県部活動の在り方に関する検討委員会	学識経験者	令和3年度	長崎県教育委員会体育保健課
地域スポーツ推進団体連絡会議	学識経験者	令和3年度	（公財）長崎県スポーツ協会
長崎県スポーツ推進審議会	副会長	令和3年度	長崎県　文化観光国際部　スポーツ振興課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

第68回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会　ベスト4

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も含めて12年間、長崎国際大学の発展のため全力で働いてきました。至らぬ点が多々あり、多くの方にご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした。

これからも本学のさらなる発展を祈願しております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 森尾　真之

1．教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。
１．「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
２．「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
３．「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟA	5/30(通年)	2	16	④⑦⑪
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	11	⑥⑫
旅行業務エキスパートⅠB	8/15(通年)	2	6	①⑨
MICE研修	10/10(後期)	1	4	④⑥⑦⑪
地域産業の魅力	15/15(後期)	2	106	①②⑥⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	②⑥⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	8	②⑥⑫
長崎研究	3/15(前期)	2	202	①②
旅行業論	15/15(後期)	2	132	①⑨⑩
旅行業務エキスパートⅠA	8/15(前期)	2	11	①⑨
長期ｲﾝﾀｰ（観ﾏﾈ8)	5/210(前期)	8	8	④⑦⑪
長期ｲﾝﾀｰ（観ﾏﾈ6)	5/210(後期)	6	3	④⑦⑪
国内旅行実務Ⅱ	15/15(前期)	2	16	①⑥⑨
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	②⑥⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	②⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	②⑥⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	②⑥⑫
国内旅行実務	15/15(前期)	2	79	①⑩
MICE論	15/15(後期)	2	66	②⑩
国内観光資源	15/15(前期)	2	105	①⑩

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（観光ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の授業アンケートについては、おおむね4.5～4.7ポイントの評価を得た。この4年間、毎年新規の担当講義があり、実務の実態をできるだけアップデートして、わかりやすく伝えることを心がけて実施してきた。特にコロナ禍で観光産業のありかたや働き方などの価値観が大きく変わり、就活に不安を覚える学生に対してどこまで学習により希望が持てるようにできるかを探りながらカリキュラムの構成を考えている。特にゼミではSDGsについての学びを取り上げ、自分自身の知識の習得もかねて行ってきた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．地域観光マーケティング
①大村湾観光圏としてのマーケティング
②西海市における産品プロモーション
２．地域観光（学校教育旅行誘致）における観光人材育成（平戸市）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	副委員長	キャリアセンターオンラインの立ち上げ
地域連携センター	副センター長	特になし
国際観光学科キャリア委員会	委員長	本年度「実習委員会」から名称変更し、インターンシップ運営だけでなく、全学就職委員会の方針を受けた学科内でのキャリア支援全体を行う委員会に改編。
スポーツサポートセンター会議	委員	特になし
国際観光研究所運営委員	委員	12月10日第1回NIU TOURISM SEMINAR実施 （下記講座欄に記載）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

男女テニス部顧問
ゴルフ部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「観光まちづくりリーダーに求められるコーチング」	12月10日	本学	CoachNexusJapan 福留浩太郎氏
「川棚町観光調査活動発表会」	8月2日	本学	川棚町、川棚観光協会、大崎スローツーリズム協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	2021年4月～2022年3月	東彼杵町長
龍頭泉いこいの広場跡地活用事業者選定委員会	委員	2021年12月～2022年3月	東彼杵町長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2021年10月～2022年2月　大崎シーテラス設立委員会　長崎県観光助成金申請にかかるアドバイザー
2021年11月27日　川棚片島竹灯籠祭り運営準備ボランティア参加（学生3名同行）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

地域連携活動については、前期にゼミ活動も含めて実施できたが、後期はコロナ感染が進み、なかなか

思ったような展開ができなかった。また自身の入院などもあり、関係する方々にもご迷惑をかけた。昨年から平戸市で行った来た観光人材育成の取り組みは来年度市の観光の重点施策として予算化が計画されており、本年度の活動から次年度につながったこともあり、そのほかの継続案件も同様に進めていきたい。さらに国際観光研究所では、学科全体のPR活動を中心に進めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 准教授　　氏名 山内　美穂

1．教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたいと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐぐむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習（R2後期～）	30/30(前期)	2	1	⑪
日本語教育実習	30/30(通年)	2	6	⑪
日本語会話A	30/30(前期)	2	12	②③⑧⑨
日本語会話B	30/30(後期)	2	2	②③⑧⑨
日本事情Ⅰ	15/15(後期)	2	30	①②③⑤⑥
日本語表現法	15/15(前期)	2	110	⑧⑨⑩
日本文化論	15/15(後期)	2	119	①②④⑤
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	①②⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	①②⑥⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥
日本事情Ⅱ	15/15(前期)	2	21	①②③⑤⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
異文化理解特講	15/15(後期)	2	2

異文化理解特講	15/15(後期)	2	4
事例研究（異文化理解）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は「教養セミナーA」と「日本語会話A」、後期に「日本語会話B」でアンケートを実施した。

「教養セミナーA」では平均4.4～4.9点、「日本語会話A」4.6～4.9点、「日本語会話B」では平均5の評価を得た。本学での授業も3年目に入り、授業準備も効率的にできるようになり、授業に新たな工夫や試みを入れられるようになった。コロナの影響で入国できない学生もおり、ハイブリッド授業やオンライン授業だったが、画面の操作にも慣れ、対面でできるようことはオンラインでも挑戦した。

授業アンケートからは学生の評価は概ね「良い」ということであったが、アクションプランにも書いたが、学生個別の到達度には差が大きく、今後は学生個人個人に向き合った指導がさらに必要だと感じた一年であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

【日本語教育のための日本語文法】

日本語が母語ではない人が日本語を勉強するときには、日本語の色々な文法ルールを学ぶが、日本語教育ではそれらを分かりやすく伝えることが大切である。私は文法研究にコーパスや自然会話データを使用し、自然に使われる日本語の中から文法ルールを発見するのが私の手法である。

【留学生教育】

コロナ禍で大きく揺れたこの一年の留学生教育である。最近は異なる文化背景をもつ学生同士が共に学び合う国際共修に興味をもって、実践、研究に取り組んでいる。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

地域滞在型国際共修プログラムを通じた留学生と国内学生の関わり／2021年8月／第26回 留学生教育学会研究発表大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	・新入生オリエンテーションなどでのCHサポートセンター紹介 ・サポートを申請した学生との面談
カリキュラム委員会	委員	・留学生の日本語力向上に向けた日本語科目カリキュラムの改善
学事委員会	委員	・保護者会の準備と実施 ・国際観光学科および観光学専攻卒業式・修了式の準備と実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

１．ダンスサークル顧問

２．チャレンジキャンパスSDGｓ：留学生と日本人学生がともにSDＧｓについて学び、キャンパスからのＳＤＧｓを考える活動の運営（2021年10月～2022年3月）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修	2022年2月18日	オンライン	観光庁
にほんごサポートワークショップ１	2021年12月19日	諫早図書館会議室	いさはや国際交流センター
にほんごサポートワークショップ２	2022年1月16日	オンライン	いさはや国際交流センター
にほんごサポートワークショップ３	2022年2月27日	オンライン	いさはや国際交流センター

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本学に着任して３年目の今年は、環境にも慣れ、委員会活動などでも中心となって動くことも多くなった。授業の準備も効率的にできるようになり授業での新たな工夫や試みなども行った。授業やゼミでの学生との交流も楽しんだ。本年度もコロナウイルス感染拡大の影響で、授業の多数がオンラインによるもので、学生への教育効果がどのくらいだったのかは正直心許ない思いである。しかし、オンライン授業の操作にも慣れ、オンラインでも自身の教育理念を実践すべくいくつかの工夫をして授業を展開したつもりではある。しかし、ゼミ活動や授業外活動など計画していた内容が中止になるなどで、思うように実施できない教育活動もいくつかあった。来年度もコロナの影響はまだ少し続くかもしれないが、さらなる工夫で、学生の学びを充実させる努力は続けるつもりである。

残念なことに科研費の申請を行ったが採択されなかった。非常に悔しく思っている。何が採択に至らない原因なのかしっかり分析して次の挑戦につなげたい。

「国際共修」という研究分野で研究と実践を進めており、来年は論文発表に力を入れたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 浦郷　淳

1．教育理念

I　think I can.
学びは一生涯続くもの。学校は、その価値に気付く場。
子どもは有能な学び手であり、その学びを支える存在として環境が存在する。
教師は一環境であり，学びの邪魔にはなってはならない。
授業は、単に知識を教授するのではなく、先人の知恵でもある知識に問いかけ、新たなものを見い出し、さらに世に発信する契機となるもの。
子どもを信じ、彼らに「I think I can(私にはできると思う)」そんな自信をもたせること。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
教育実習A	0/120(通年)	4	13	なし
教育実習B	0/80(通年)	2	2	なし
事前・事後指導	6/15(通年)	1	15	④⑦
教養セミナーA【観】	30/30(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーB【観】	30/30(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	30/30(前期)	1	8	①②③④⑤
専門演習ⅡB	30/30(後期)	1	8	①②③④⑤
ホスピタリティ概論	6/30(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習（栄養）	6/30(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習（中・高）	6/30(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
教育方法論	30/30(後期)	2	24	①④⑥
特別活動論	30/30(前期)	2	17	①⑤⑪
教育課程論	30/30(前期)	2	17	①⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期授業アンケートは、教養セミナーと特別活動論において実施した。

教養セミナーでは、発表の機会とその発表に対するリフレクションに留意した。結果、満足度は4.1であった。ハイブリッド型の授業も含め、学生のニーズに応じた指導が展開できた。

特別活動論では、小グループでのディスカッションの場を多く設定した。多くの学生から満足度が4.9と満足度の高い回答を得ている。複数の学科をまたいだ授業であるため、より個に応じた指導となるべ

く、予習ー授業ー復習での指導の工夫、改善を行うことができた成果となった。
後期授業アンケートは、専門演習Ⅱと教育方法論において実施した。
専門演習Ⅱでは、未入国学生が3名、未入国を含む留学生が6名いる中で、ハイブリッド型の授業を行った。ディスカッション中心の授業であり、満足度は4.9と高いものであった。学生の状況に応じたコメントなどを行うように努めた。
教育方法論では、毎回のリフレクションに努めた。学生がわからない点に回答するように努め、授業への満足度も22名が満足、全体として満足度が4.8の評価であった。知識を学び、その知識を用いて考える場を提供することができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
教員採用模擬試験	5	8	12月2日～6日
教員採用模擬試験	2	4	２月３日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 経験主義と系統主義を結び付けた教育活動の組織と展開
② グループ・モデレーション法を中心とした指導方法改善に資する評価研修法の開発
③ 児童・生徒の学びを促進する授業展開の在り方

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	1	2	7	5	3	34万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新しい算数研究10月号／共著・編著／2021年10月／東洋館出版社／共著：20頁～23頁

授業力＆学級経営力11月号／共著・編著／2021年10月／明治図書／共著：84頁～86頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

教職課程で学修する学生の評価観に関する研究 –授業でのルーブリック活用の結果をもとに–／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要／1頁～14頁／共著／論文

「ホスピタリティ概論」における遠隔教育についての調査－2020年度と2021年度の比較ー／2022年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要／63頁～67頁／共著／事例報告

教育課程におけるスタートカリキュラムの捉え方に 関する一考察 ー「レイヤー構造」を手がかりとしてー／2022年3月／個性化教育研究13号／25頁～36頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「教育方法としてのICT活用に関する研究～生活科における学校紹介の実践をもとに～」／2021年6月19日／日本生活科・総合的学習教育学会

「外部評価としての保護者の鑑識眼に関する研究－１年生における道徳ノートへのコメントに着目して－」／2021年6月27日／日本カリキュラム学会

「教育方法としての児童の言語活用に関する研究」／2021年8月22日／日本数学教育学会

「保育内容『環境』が数学的な見方・考え方へとつながる場面に関する研究」／2021年8月22日／日本数学教育学会

「小学校１年生における『協働的な学び』に関する研究～生活科・算数科の実践を通して～」／2021年8月29日／日本個性化教育学会

「教えることは教えて，見方・考え方を育む」／2022年1月9日／全国算数授業研究大会

生活科におけるICT活用／2021年11月27日／佐賀県生活科総合的学習研究会秋季大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費・基盤研究（C）研究協力者	関西福祉科学大学・香田健治	2021年7月～ 2023年3月	10万円
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観育成事業	2021年度(令和3年)【学長裁量経費】SDGs推進奨励制度	2021年9月29日～2022年3月31日	15万円
教職課程で学修する学生の意識変容に関する研究 －評価の分析を通して－	国際観光学科共同研究費	2021年4月～2023年3月	9万円
個別最適な学びを創り出すための若年層教員「鑑識眼」育成研修プログラムの開発	令和3(2021)年度研究活動スタート支援	2021年4月～2023年3月	
留学生による地域の国際化教育の質向上と日本語教育の充実化	令和３年度 学長裁量経費	2021年4月～2022年3月	

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員会	委員	学生の適正な実習につながるように，事前指導・訪問指導等に努めた。
国際観光学科初年次教育委員会	委員	学科内の初年次教育が円滑に進むように、委員長指示に沿って準備等に努めた。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員	4回のオープンキャンパスが円滑に進むように教室の準備や参加者数調査などに努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
15	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
児童が わかる楽しさ できる喜び を味わう算数科の授業づくりの実際	５月１７日	佐賀県白石町立有明南小学校	白石町立有明南小学校
算数の授業づくりとその実際	７月１４日	佐賀県武雄市立西川登小学校	武雄市立西川登小学校
児童が わかる楽しさ できる喜び を味わう算数科の授業づくり	８月８日	佐賀県白石町立有明南小学校	白石町立有明南小学校
小中連携教育の展望	１０月１日	佐賀県嬉野市立吉田小学校	嬉野市立吉田小中学校
ESDを踏まえた総合的な学習の時間の展開	１０月１３日	佐賀県神埼市立西郷小学校	神埼市立西郷小学校
算数授業づくりの実際	１０月２９日	佐賀県武雄市立西川登小学校	武雄市立西川登小学校
算数の授業で大切にしたいこと	１１月５日	佐賀県伊万里市立伊万里小学校	伊万里市立伊万里小学校
タブレット端末活用に係る研修会 「なぜ？」「どうやって？」	１２月８日	佐賀県白石町立北明小学校	白石町教育研究会

国語授業を通してみる小中連携教育	１１月１０日	佐賀県嬉野市立吉田小学校	嬉野市立吉田小中学校
「単位量あたりの大きさ」における算数授業展開の実際	１１月１５日	佐賀県白石町立有明南小学校	白石町立有明南小学校
低学年における算数の授業づくり	１１月１９日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	鹿島市立明倫小学校
持続可能な総合的な学習の時間の展開	１１月２６日	佐賀県神埼市立西郷小学校	神埼市立西郷小学校
自分の考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成	１２月１４日	佐賀県武雄市立西川登小学校	武雄市立西川登小学校
生活科・総合的な学習の時間の単元、授業づくり	１月２０日	佐賀県伊万里市立山代東小学校	伊万里市・有田町教育研究会 生活・総合的な学習の時間部会
ICTを活用した算数の授業づくり	２月９日	佐賀県神埼市立仁比山小学校	神埼市立仁比山小学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①８月２１日佐賀県個を生かし集団を育てる研究会　夏の会・技術サポート（ボランティア）
②２月５日佐賀県個を生かし集団を育てる研究会　冬の会・技術サポート（ボランティア）
③２月１２日佐賀県生活科総合的な学習の時間研究会・指導者研修会技術サポート（ボランティア）
④新興出版社啓林館から、生活科教科書に関する業務委嘱を受ける。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育については、アクティブラーニングを意識した授業を展開したことで、学生の満足度も高かった。次年度は、学生自身が学びをメタ認知できるような指導方法の工夫を行っていきたい。

業務については、入職１年目ということでわからない点も多々あったが、周りの先生方のサポートを得ながら努めることができた。次年度も学科内業務、教職課程委員会の業務について、貢献できるように努

めたい。

研究については、学会発表、論文投稿等はできたが、科研費が不採択ということもあったので、自身の研究をより焦点化していきたい。

社会貢献については、小学校の校内研究支援に数多くいくことができ、大学での研究を還元する機会を得た。次年度もさらに還元できるように努めていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 江島　弘晃

1．教育理念

大学機関を通して、高度な学術的および専門的内容を主体とした知識を獲得する学生の育成教育を信条とする。具体的には、学生には、高い専門性と幅広い見識を獲得できるように、自身の講義、実習や専門演習を通して課題認識・課題解決を図る能力を育成する。講義に関しては、運動生理学を軸に授業内容の理解度を高めるために実例を多用したスライドを用いる工夫を行っている。専門演習に関しては学生の卒業論文を学術誌に掲載させることを目標にすることで学生の専門性向上を高めることを心掛けている。
大学教員として学生とともに探求心を育み、研究の醍醐味を理解させ教育することを大学教員としての理念として掲げている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	4	⑥⑫
武道	15/15(後期)	1	9	④⑪
発育発達論	15/15(前期)	2	96	①②⑨⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	4	⑤⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	4	⑤⑪⑫
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	7	②③⑤⑧
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	7	②③⑤⑧
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	24	④⑤⑪
運動生理学B	15/15(後期)	2	61	②⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	4	②⑤⑥
陸上競技	8/15(後期)	1	38	④⑦⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	3	②⑤⑥
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	21	④⑤⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

着任初年度ということもあり、授業で使用するスライドや資料作成に注視した。その点もあり、授業アンケートなどでは概ね学生から理解しやすい、説明が丁寧などの好評を得ることが出来た。実習形式の授

業では安全面また感染症対策の徹底など、通常の授業と注意点が異なったため、今後も感染症の対策など考慮すべき改善が求められる。しかし、健康観察の提出確認や授業前の県外外出の確認などを行ったため引き続きこれらの授業展開を行っていく。教育効果としては、質問の発言を学生に指名する、授業毎のレポートの提出を徹底することで学生主体となって考えるという教育効果を行い、次年度も展開していく予定である。アンケートの評価は次年度と今年度の比較を行うことで授業改善の詳細な内容を図っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脂質が骨格筋の形態・機能に与える影響
健康増進を打ち出す運動の新規メカニズムの解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	2	3	3	562万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Influence of Obesity and Type 2 Diabetes on Calcium Handling by Skeletal Muscle: Spotlight on the Sarcoplasmic Reticulum and Mitochondria／2021年11月／Frontiers in Physiology／758316.／単著／総説

Low lysophosphatidylcholine induces skeletal muscle myopathy that is aggravated by high-fat diet feeding／2021年10月／The FASEB Journal／e21867／共著／論文

Metformin and leucine increase satellite cells and collagen remodeling during disuse and recovery in aged muscle／2021年9月／The FASEB Journal／e21862／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

体力・健康科学における骨格筋ミトコンドリアの意義を再考する／2021年9月／第76回 日本体力医学会大会

筋ミトコンドリア生合成を担う脂質の多様性とその応用／2021年9月／第76回 日本体力医学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
新規細胞死機構に着目した運動がサルコペニアを防止する分子機序の解明	公益財団法人 中冨健康科学振興財団	2022年4月～2023年3月	150万円
サルコペニアを防止する新規ペプチドの作用 機序解明 と運動との相乗効果の検討	公益財団法人 ロッテ財団	2022年4月～2023年3月	100万円
新規細胞死機構に着目した画期的サルコペニア治療法の開発	研究活動スタート支援・科学研究費	2021年8月～2023年3月	312万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢 第22巻の発行のため論文原稿の査読の取りまとめを担当した。また本学の第22回学術研究報告会の司会を担当する予定である。
スポーツサポートセンター	委員	委員として競技力向上支援部門および地域スポーツ振興・事業開拓部門を担当した。
国際観光学科会議運営	学科事務局員	学科会議の事前打ち合わせの日程調整などを担当した。その他、学科内業務を実施した。
国際観光学科スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの運営、イベントの企画などを担当した。また、コース内の履修モデル作成を中心となって担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

陸上競技部　顧問
剣道サークル　監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第76回日本体力医学会のシンポジウムで大学の研究の広報活動を実施した。
出張講義を2回実施した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席

2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

フィールドになし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

まず、教育活動は初年度で卒業研究の指導を4名担当したが、各自納得のいく論文を執筆させ、プレゼンテーションも十分な満足のいく内容であった。次年度も継続して講義、実習を通して学生が満足のいく教育活動を実施していく。

研究活動は、2件の学内研究費および3件の外部資金を獲得した成果を挙げた。次年度からの本格的な研究の実施が見込まれ、卒業研究を軸に国際誌による外部好評を通した研究を展開する予定である。

職務に関しては学科事務局員として会議の運営および委員会活動も問題なく実施することが出来た。引き続き職務を遂行していく。

社会活動は感染症の影響もあり目立った活動を実施することは出来なかったが、昨今の情勢を考慮した研究活動を実施することで社会活動に繋げる活動を予定する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 川上　直彦

1．教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力（①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニュケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力）を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業（世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A & B）および専門演習IA-IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組ませることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力につて、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業（英語演習IA-IIB）においては、③と⑤を重視している。③コミュニュケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニュケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常の生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【R2後期～】	15/15(前期)	4	3	⑥⑫
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	4	⑥⑫
世界史	15/15(前期)	2	83	①④⑥⑨⑩
HistoryB	15/15(後期)	2	2	①⑤⑥⑨⑩
英語演習ⅠA【薬】	15/15(前期)	1	24	①②
英語演習ⅡA【薬】	15/15(後期)	1	20	①②
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥
HistoryA	15/15(前期)	2	4	①⑤⑥⑨⑩
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥

英語演習ⅡB【福】	15/15(後期)	1	21	①②
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	3	①⑤⑥
美術と観光	15/15(前期)	2	21	①⑨
世界文化遺産論	15/15(後期)	2	70	①③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2	2
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（芸術文化資源）	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

History A（前期）：理解度4.3/5.0、満足度5.0/5.0

すべてが英語での授業となる。本科目を受講できる英語力を持つ学生は限られているため、受講した学生は４人と少人数であった。授業内容の理解度については、5の評価が1名、4の評価が3名とそれなりに高い評価を得た。授業の満足度については、全員から最高得点の5の評価を得ることができた。受講学生が非常に少ないことから、非常にきめ細かい授業を行えた。学生の英語力に差があるため、英語力の低い学生には、適宜日本語でこまめにフォローしたのが良かったと考える。また、英語力の高い香港からの学生2名に対しては、常に問いを投げかけ考えさせる授業にしたことにより、4名の学生すべてから最高点の5評価を得ることができたと考える。次年度も同様にがんばりたい。

教養セミナーA（前期）：満足度4.7/5.0
教養セミナーB（後期）：満足度5.0/5.0

教養セミナーAの満足度は4.7、教養セミナーBに関しては、満足度は5.０の満点とどちらとも非常に良い評価だった。教養セミナーに関しては、学生との信頼関係を構築することができれば、学生の満足度アップにつながると感じている。この点を意識してがんばったことが今回の高評価につながったと考える。また、教養セミナーは非常にジェネラルな学習内容になっているので、学生に興味を持たせるのは難しいと感じている。そのため、繰り返しになるが、学生との信頼構築が満足度に直結すると考えているので、その点を重視して、来年度の教養セミナーにつなげていきたい。

専門演習IB（後期）：理解度4.8/5.0、満足度4.8/5.0

理解度と満足度については、平均4.8と非常に良い評価を得ることができた。考古学の楽しさという点に重点をおき、ゼミの授業を展開させたことが、高評価につながったと考える。日本人学生3人については、全員が5.0の評価であった。中国からの留学生一人が唯一4.0の評価であった。専門性が非常に高い内容であるため、専門用語の日本語がいまいちわからなかった点が、唯一の4.0の評価になってしまったのではないかと推測する。留学生に関しては、今後、エクストラでのフォローをするように努めていこうと考えている。

大学院芸術文化資源（前期）：満足度3.67/4.0
大学院事例研究（芸術文化資源）（後期）：満足度4.0/4.0

前期は、履修した学生は3人で、後期が2名のみであった。前期と後期共に、満足度は高かった。人数が少ないため、幅広く、そしてきめ細かく授業を展開し、理解を促すことにつとめたことが、高評価につながったと考える。来年度についても良い評価を取得できるようがんばりたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、「楔形文字史料とGIS（＝Geographical Information System ＝地理情報（処理）システム））を活用した南メソポタミアにおける考古・歴史地理学研究」である。人類史上最古の帝国と定義可能な社会体制は、西アジアの地、メソポタミア（現在のイラク）に今から約 4300年前に出現した。この帝国の創始者であるアッカド王朝のサルゴン王の歴史的偉業に焦点を当て、研究を行ってきた。楔形文字史料の情報を基に、このサルゴン王が築き上げたアッカド帝国の北西領域以外の地理的な領土範囲を確立することができる。しかし、このサルゴン王のアッカド帝国がメソポタミア中心地からどこまで、その領域をメソポタミアの北西方面（シリア、トルコ方面）に拡大したのかは現在も議論の的となっている。この問題を定義するため、アッカド帝国創始者であるサルゴン王の政治的主権の最大及び最小 北西領域を確立するための指標となりうる諸都市の所在地推定を古代文献史料と考古資料両方の情報を基に行ってきた。その中でも特に重要なアッカド帝国の中心都市であるアガデ市、すなわち人類最古の首都と定義づけ可能な古代都市の所在地についても未だ明らかになっていないことが判っている。

これまで、歴史地理学研究の手法により得られるアガデ市の所在地域を描写している文献史料及び考古資料のデータを基に研究作業を進めた結果、アガデ市の所在地推定に当たり、ティグリス川の古代の流路の位置推定が重要であることが明らかとなった。そのため本年度も前年度同様に、その研究作業をGISおよびGIS上において、3Dで地形図を描写することが可能なDEM（＝Digital Elevation Model＝数値標高モデル）を活用し、ティグリス側の古代流路の推定を試み、その流路位置を指標としてアガデ市の所在地推定を行っていくこととしたい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Reconstructing the Ancient Course of the Tigris in the Northern and Central Parts of Sumer in the Ur III Period Using a GIS Analysis／2022年2月／MESOPOTAMIA: Rivista di Archeologia, Epigrafia e Storia Orientale Antica, vol. 56／71頁～90頁／単著／論文

GIS and Historical Geographical Analyses of the Reconstructed Ancient Course of the Tigris in the Northern Part of Southern Mesopotamia／2022年3月／AL-RĀFIDĀN: Journal of Western Asiatic Studies, vol. 43／13頁～38頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ウル第3王朝時代のシュメール北中部地域におけるティグリス川古代流路の復元：GIS分析による一考察／2021年10月31日／日本オリエント学会第63回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会（学科、大学院、全学）	委員長（学科）、委員（大学院、全学）	①学科の研究倫理委員会委員長として、教員が行う研究13件、学科生の卒業研究36件の計49件の研究倫理審査を行った。 ②大学院の研究倫理委員として、大学院生が行う研究13件（再審査含む）の研究倫理審査を行った。
グローバルツーリズムコース委員会	委員（学科）	前期・後期の国際観光学科所属の全学生対象の英語試験（CASECテスト）の運営・管理業務全般、高校生暗唱コンテストの運営業務全般、派遣交換留学選抜試験を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度教員免許更新講習「古代オリエント世界の考古学・歴史と博物館」	2021年6月26日	長崎国際大学（オンデマンド）	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

一般財団法人日本国際協力システムの要請により、下記の日本国政府国際協力案件においてアドバイザーを務めた。
①イラク「国立スレイマニア博物館展示機材整備計画」
②ベトナム「国立歴史博物館文化遺産保全機材整備計画」
③パプアニューギニア「パプアニューギニア国立美術博物館視聴覚機材整備計画」
④ペルー「アルトゥーロ・ヒメネス・ボルハ」プルチュコサイト博物館文化財研究・教育機材整備計画」
⑤ザンビア「リビングストン博物館展示企画機材整備計画」
⑥アルバニア「国立歴史博物館機材整備計画」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7．受賞等

なし。

8．活動全般についての自己点検・評価

【教育】2年生の「専門演習IAとIB」において、今年度から新たに、レポート執筆方法の指導に時間をかけ、能力向上につながるための授業を行うことができた。「世界文化遺産論」の講義内容について、新たにユネスコの世界文化遺産に登録された情報をアップデートし、最新の情報を提供することができた。日本人教員としては初めて、4年ゼミ生1名の英語の卒業論文を指導し、無事に完成・提出まで導くことができた。大学院生4名の副指導と2名の論文試問会の副査も務めた。

【研究】イタリアと日本の国際学術誌に英語論文を投稿し、2本共に査読審査で採択された。それぞれ2022年2月と3月に掲載が確定している。また現在、ベルギーの国際学術誌に3本目となる英語論文を投稿し、現在査読審査中である。最後に日本の学会において口頭発表を1本行った。

【大学運営】学科グロバールツーリズム委員として、CASEC英語テストと高校生暗唱コンテストの運営業務、派遣交換留学選抜試験に携わった。学科研究倫理委員会委員長、全学・大学院研究倫理委員として、合計62本に渡る研究倫理審査を厳正に実施した。更には、「観光学論集」の編集作業の中心的な役割も担い、大学院生の研究意欲向上にも大きく寄与することができた。

【特記事項】今年度までに、自身の専門科目の講義内容をかなりのレベルまで充実させることができた。今後は、教科書となるような本を執筆し、学生の学びに裨益できるよう頑張りたい。大学院修士課程においては、英語での修士論文を執筆できる学生を今後数年以内に頑張って輩出したいと考えている。研究に関しては、イタリアと日本の2つの古代オリエント研究の国際学術誌の査読審査において英語論文が採択され、今年度中の掲載が確定している。そのため、国際学術誌への論文掲載という目標をようやく達成することができた。論文として採択されるまで、それぞれの論考共に、2～3度、他の学術雑誌に「論文」として投稿したが、「研究ノート」に格下げされて採択されるか、または、「掲載不可」と審査された経緯がある。しかし、あきらめることなく、努力し続け、それぞれの論考内容を改善し、頑張ってきた甲斐があった。またこれらの成果は、平成29年度長崎国際大学学長裁量経費に採択され、研究費の拡充があったこと、そして文献史料入手のためイギリスとドイツへの計3回の研究出張ができたことにも起因している。チャンスを提供してくれた長崎国際大学に感謝申し上げたい。最後に、コロナ感染症の状況が今後改善されなければ、学生の留学派遣が中止となってしまう現状にある。その場合には、可能な限り学生のフォローアップに尽力していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 大渡　ドーガン

1．教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標においているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気を心がけています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語演習ⅠA【薬】	15/15(前期)	1	35	①②
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	14	②③④
英語演習ⅠA【薬】	15/15(前期)	1	40	①②
Japanese Culture B	15/15(後期)	2	8	②⑤⑥⑨
Practical English ⅠA	30/30(前期)	2	19	②③④
English Reading Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	30	①④⑤⑪
Practial English ⅡB	30/30(後期)	2	14	①②③④⑤
Practical English ⅠB	30/30(前期)	2	17	①②③④⑤
Japanese Culture A	15/15(前期)	2	7	②⑤⑥⑨
英語演習ⅡB【観】	15/15(後期)	1	25	①②
英語演習ⅡB【観】	15/15(後期)	1	28	①②

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

春学期、「Reading Skills III」と「Practical English IA」の授業で、授業アンケートを実施しました。この2つのクラスは、いずれもグローバル・ツーリズムの授業です。「Reading Skills III」の授業では、学生満足度は4.6点でした。「Practical English IA」の満足度も同じでした。どちらの授業も、学生の満足度は高かったと思います。学生の意見を参考に、授業中の教材を充実させることで、満足度を向上させることができると思います。

秋学期に「Practical English IIA」クラスと「英語演習IIB」クラスに対して、授業アンケートを実施しました。「Practical English IIA」は、グローバル・ツーリズムの授業です。「Practical English IIA」の授業では、満足度は4.8点でした。生徒の満足度は非常に高かったと思います。生徒の感想から、授業中のアクティビティーの説明をもっと充実させることが、授業の改善につながると思います。「英語演習IIB」の授業では、満足度は3.8点であった。今後、この点数を上げていきたいと思います。資料や説明をもっとわかりやすくすることが、授業の改善点だと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	English C	15/15(前期)	1	35
佐賀大学	Intercultural Communication IV	15/15(後期)	1	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、教育学、カリキュラムデザイン、言語学、異文化コミュニケーションです。特に、カリキュラム計画、バイリンガリズム、多読、留学、コンピュータ支援学習について研究しています。さらに、私は英語学習者に関する民族誌的研究に興味を持っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	13	15	1	1	286万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology／2022-03／長崎国際大学論叢／59～73／単著／論文

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2022-01／2021 ICLE SIG Conference Proceedings／9~16／共著／論文

Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology／2021-03／長崎国際大学論叢／1~16／共著／論文

Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan／2020-03／長崎国際大学論叢／1~8／共著／論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum／2019-03／長崎国際大学論叢／31~44／共著／論文

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands／2019-03／長崎国際大学論叢／1~10／共著／論文

Preparing Students for IELTS with Weekly Video Journals／2018-08／2017 KoTESOL Conference Proceedings／60~72／単著／論文

Review of xreading／2017-11／Extensive Reading in Japan／23~28／共著／論文

Improving the Global Tourism Course Curriculum with Regard to Study Abroad Preparation: Initial Observations on One Student's Experience at a Dutch University／2017-03／長崎国際大学論叢／127~132／共著／論文

An Exploration of Creative Sentence Writing as a Means for EFL Vocabulary Acquisition／2017-03／長崎国際大学論叢／97~104／共著／論文

Methodological Changes to an Active Learning Tourism Video Project／2017-03／長崎国際大学論叢／91~96／共著／論文

The Benefits and Challenges of Using Google Forms with Extensive Reading／2017-03／2016 PanSIG Conference Proceedings／100~119／共著／論文

Active Learning Tourism Video Project／2016-03／長崎国際大学論叢／1~12／共著／論文

Supporting Active Learning with Moodle／2015-03／長崎国際大学論叢／13~22／共著／論文

Building a Sustainable Curriculum／2015-03／2014 PanSIG Conference Proceedings／98~112／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Three semesters of on-demand courses／2022-02／2022 MoodleMoot Japan

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2021-07／第1回 ICLE SIG Conference

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021-11／47th Annual JALT Conference

Lessons Learned in a Pandemic／2021-08／2021 Moodle Users Association

Developing a Multilingual On-demand Curriculum for English Communication Classes／2021-02／2021 MoodleMoot Japan

Implementing a Mobile App for University Classes／2020-11／46th Annual JALT Conference

Moodle Strategies for On-Demand Lessons／2020-09／2020 MoodleWeek Japan

Making a MOOC／2020-02／2020 MoodleMoot Japan

Preparing Students for Study Abroad with Video Journals／2020-02／第16回 CamTESOL

Making a MOOC - What We've Learned So Far／2019-11／45th Annual JALT Conference

The Power of Bibliobattles in the ER Classroom／2019-05／2019 PanSIG Conference

Utilizing the Moodle Database Activity for Student-Centered Learning／2019-02／2019 MoodleMoot Japan

Using Bibliobattles to Engage Students with Extensive Reading／2018-12／8th IRCTEL 2018

Focusing on Effort - Plenary Speech／2018-12／8th IRCTEL 2018

Training EFL teachers to use ER for the first time／2018-11／44th Annual JALT Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
Online Hospitality English Training MOOC	日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2018年6月～2022年3月	286万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学　広報委員会	委員	大学ホームページのトピックスを作成する
国際観光学科　広報委員会	委員	学科ページのトピックを準備する。学科SNSのアカウント管理
人間社会学部　会議資料作成委員会	委員	人間社会学部教授会資料の作成

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

クラブやサークルの担当ではありません。グローバルツーリズムコースの学生のために、イベントや活動の企画を手伝いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

大学ホームページにグローバルツーリズムコースに関する記事を3本執筆。
オープンキャンパスで使用するグローバルツーリズムの資料作成
留学生向け大学案内を更新。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Building International Community	2021年9月	武雄市　白岩体育館	ICE-T
Maintaining Long-term International Exchange	2021年6月	オンライン	たけおワールドフレンズ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
JALT（全国語学教育学会）異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月~現在	国内委員会
第1回 異文化間コミュニケーション支部 学会	技術責任者	2021年7月	国際会議（オンライン）
Takeo World Friends	委員	2009年4月~現在	国際交流団体

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

6月13日　Takeo World Friends オンライン祝賀会 ボランティア
9月11日　ICE-T 国際料理イベント　ボランティア
11月28日 ICE-T スポーツエベント　ボランティア

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

アメリカ留学を企画する。
アメリカでの短期留学を企画する

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年も一生懸命に働き、一年の目標を達成できたと思います。COVID-19の大流行にもかかわらず、学生たちに良いサポートを提供することができました。英語が得意になり、留学の準備もできるようになりました。また、多くのクラスでカリキュラムを改善することができました。 授業アンケートから得た情報をもとに、より学生のニーズに合った授業を行うことができました。

また、多くの研究することができました。科研費研究プロジェクトを終了させました。科研費研究プロジェクトは、NIUの英語の授業を改善するのに役立った。さらに、学生のための教育アプリを作成する研究プロジェクトに参加しました。今年、2つの論文を書きました。また、今年は国際会議で4つのプレゼンテーションを行いました。

2022年初頭には、学生の留学準備を支援するために使用しました。海外の大学と留学について連絡を取り合いました。留学に関する重要な情報を学生に提供した。留学申請の手伝いをした。また、アメリカへの短期留学の企画を始めた。

今後は、もっと時間をかけて研究していきたいと思っています。個人的な研究に力を入れ、個人的な研究テーマについてもっと発表したいです。また、より多くの国際的な組織と関わっていきたいです。さらに、もっと時間を見つけて地域活動に参加したいです。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 神野　周太郎

1．教育理念

現在、スポーツの日（旧体育の日）や日本スポーツ協会（旧日本体育協会）といったように、「体育」は「スポーツ」に代替され始めています。それは、スポーツが文化として日本に根付き始めている証拠である。しかし、懸念されるのは体育＝スポーツという認識の広まりだ。スポーツは体育と代替可能なものではなく、体育という事実を構成する一要因である。体育は、教科名に留まらない人間の身体（運動・活動）と教育に関するものであり、よって私は「体育、スポーツとは何か」という問いを前提に、それら概念を明確に区別させ、現代における両者の重要性を学生に伝えたい。

その理由は、第一に保健体育教員の存在意義が、単にスポーツの専門家、部活動の顧問、生活指導をすることではなく、子どもの成長の一端を担う教育者であるということを認識させるためである。第二に、将来学生が地域のスポーツ振興に関わる際、「スポーツがもつ価値」を個々の経験のみでとらえるのではなく、「人間にとって」、「地域にとって」という広い視野で考えられるようにさせるためである。今日スポーツの場は、人々が関わる公共空間（スポーツの公共性）として重要な意義を持つことから、その視点は重要と考える。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【R2後期～】	15/15(前期)	4	1	⑥⑫
水泳	15/15(通年)	1	23	⑫
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	9	⑥⑫
教育実習A	40/60(通年)	4	13	④
教育実習B	40/40(通年)	2	2	④
事前・事後指導	8/8(通年)	1	15	④⑦
保健体育科教育法Ⅱ	6/15(前期)	2	13	⑨⑩
スポーツ運動学	15/15(後期)	2	15	⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	11	⑤⑥⑦
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	9	⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	9	⑤⑥⑦
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	25	④⑤⑪
教職実践演習（中・高）	4/15(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	6	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	13/15(後期)	2	12	⑨⑩
学校保健学	6/15(前期)	2	10	②⑤
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	11	⑤⑥⑦
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
陸上競技	8/15(後期)	1	38	④⑦⑪⑫

スポーツ原理	15/15(前期)	2	68	②
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	⑤⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑦
保健体育科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	7	⑨⑩
ｼﾞｮｷﾞﾝｸﾞ・ｳｫｰｷﾝｸﾞ	8/15(前期)	1	34	⑩⑪
スポーツ指導論	4/15(後期)	2	27	②⑤⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

良い点は、私が用意した教材や議論のネタに学生が関心を向けてくれているということが挙げられる。彼らの生活世界と学問によってみえてくる広がりある世界の橋渡しができていると捉えられる。つまり、彼らの興味関心を私自身がおおよそ的を得て想定できているということである。
改善点は、授業スライドのさらなるシンプル化、授業内で用いる論理の明晰化、である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
星槎大学	スポーツ原理	15/15(通年)	2	40
星槎大学	スポーツ哲学	15/15(通年)	2	40
九州看護福祉大学	体育原理	15/15(前期)	2	2

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・体育思想を(再)形成する試み
・身体活動がもたらす「際に立つ経験」
・プラグマティズムの”理解”から”体現”へ
・身体運動の内実を豊かに記述する方法
・体育授業における”導入”の原理と概念
・教員養成課程所属学生の成長叙述
・パース思想から考える体育哲学の射程
・体育概念を明晰にするプラグマティズム
・体育の授業で起きていること【経験】
・競技スポーツ大衆化の理由を哲学する
・クライミング研究の地平【叙説】
・「良い体育授業」論議の哲学的基礎付け
・都市・建築・スポーツ【哲学･思想】
・保健体育科模擬授業の意義と限界

・体育スポーツ哲学で我々が語りえるもの

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	0	0	3	3	73万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

月刊誌「体育科教育」2021年6月号　担当テーマ：水泳授業の望ましい「導入」とは？／単著／2021／大修館書店／28頁～31頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観育成事業	長崎国際大学　学長裁量経費　SDGs推進奨励制度	2021年9月～2022年3月	15万円
フィットネス・ポートフォリオの構築（1年目）	長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 学科共同研究制度	2021年4月～2022年3月	30万円
野外実習への参加が学生の「社会人基礎力」に及ぼす影響について（2年目）	長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 学科共同研究制度	2021年4月～2022年3月	28万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	・フレッシュマンセミナーマネジメント ・学園祭マネジメント ・卒業アルバム編集 ・留学生向け奨学金面談 ・クリーンキャンパス運動マネジメント
教職課程委員会	委員	教育実習校訪問 事前事後指導
スポーツサポートセンター	委員	運動部活動（サッカー、バドミントン）顧問
【学科内】オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパス学科プログラム統括
【学科内】学事委員会	委員	春秋オリエンテーション運営統括

【学科内】スポーツツーリズムコース委員会	委員	スポーツリーダー輩出に向けた労働時間外での指導（運動の模擬指導、資格取得のための時間外学習指導など）
【学科内】スポーツ指導者養成委員会	委員	授業時間外課題の設定による学修習慣定着の試み
【学科内】観光学論集編集委員会	委員	編集作業の合理化を図るためにmanabaを用いた編集作業方法を確立

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

バドミントン部　顧問
サッカー部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

出張講義：大学で「スポーツ」を学ぶ！ ／講師／進路情報研究センター ライセンスアカデミー（福岡支社）／福岡県立直方高等学校 2021年7月20日

出張講義：体育学・スポーツ科学系のキャリアガイダンス ／講師／進路情報研究センター ライセンスアカデミー（福岡支社）／長崎総合科学大学附属高等学校 2021年11月16日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	任意
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

〇2021年度(令和3年)【学長裁量経費】SDGs推進奨励制度
・申請団体名教職課程委員会・国際観光学科グループ
（田中誠・乙須翼・宮良俊行・神野周太郎・浦郷淳）
・持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観育成事業
・採択額　￥150，000－
・採択日　2021（令和3）年9月29日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動、学内用務は十分にしていると自負する。リズムを再構築して、いち早く自身の研究者としてのアイデンティティである研究活動を再開することを目指す。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 高橋　憲司

1．教育理念

学生の大学生活全般において、私が教育理念に掲げている「挨拶」「時間厳守」「整理整頓」の三項目を学生に徹底することで、規律の順守とともに、私のコミュニケーション力を発揮し、意思疎通が円滑になるように学内の雰囲気を活性化させる。

教科教育においては、スポーツ実技や演習の授業等で、各々の専門知識・技能の定着はもちろんのこと、基本となるコミュニケーション能力向上のため、クラスメートとのワークを通じて和やかな雰囲気の中、学生の相互理解が深まるように授業を展開する。その中で、相手を尊重し、相手の立場に立って何らかの貢献ができる力を育成する。

講義科目においては、プレゼンテーションソフトとリモートコントロールシステムを使用し、学生側に位置して学生とコミュニケーションを取りながら進める双方向性の高い授業を展開するとともに、スマートフォンやタブレット端末を活用したアクティブラーニングも取り入れ、主体的な学びの環境を提供する。

学生への研究指導（卒業論文指導）については、各種資格試験への対策が十分にできるように、2年次後期より研究に関する素地を教育し、3年次から本格的な指導を展開、4年次には各資格試験対策の勉強時間や実習の時間を確保した上で、受験日に応じて柔軟に対応する。

学生の課外活動については、国際大会での指導経験を踏まえ、強化指定部を中心にスポーツ現場で必要とされる高度な指導法や戦略・戦術の考え方、競技レベルの維持に重要な日常生活の過ごし方等、現場で求められる知識・実践能力に関するコーチングを行う。また、必要に応じて学生選手の心理面（スポーツメンタルトレーニングを含む）および身体面のコンディショニングに関するコンサルティングを行う。特に、ソフトテニスは私の専門競技のため、学生の活動目標に応じた貢献をする。

地域活動では、地域住民を対象とした大学公開講座等にて、健康体力の維持・向上の啓蒙実践活動や、これまでの研究成果や最新の知見を提供できるように活動する。また、小・中・高校の部活動縮小化の受け皿となるべく、大学が児童・生徒およびその保護者の競技力向上やレクリエーションとしてスポーツ指導が受けられる体制を構築し、その活動により、本学への進学に繋がるように展開したい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
水泳	10/15(通年)	1	23	②③④⑤⑦⑩
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	16	①④⑥⑩⑫
バイオメカニクス	15/15(前期)	2	38	①②④⑨⑩
ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ	11/15(後期)	1	35	①②④⑩⑪⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	8	①②⑨⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	7	①②④⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	16	①②④⑥⑩⑫
ﾚｼﾞｽﾀﾝｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	9/15(前期)	2	31	①②⑦⑩
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	8	①④⑥⑦⑨⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑩⑪⑫

専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	①④⑦⑩⑫
エアロビクス	10/15(前期)	1	18	①②④⑦⑩⑫
測定評価	15/15(後期)	2	43	①②④
スポーツ医学	5/15(前期)	2	41	②④⑩
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	16	①④⑥⑩⑫
ﾚｼﾞｽﾀﾝｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	9/15(前期)	2	28	①②⑦⑩
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	14	①②④⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	①②④⑪⑫
球技C	13/15(後期)	1	29	①②⑩⑪
ｼﾞｮｷﾞﾝｸﾞ・ｳｫｰｷﾝｸﾞ	14/15(前期)	1	34	②③⑦⑩⑫
スポーツ指導論	10/15(後期)	2	27	①②⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

●対面での授業にて、コロナ禍が収束した状況も想定して今後の授業展開方法を考え、学生にとってエキサイティングな学びになるように工夫したい。
●遠隔にて授業を実施する場合は、遠隔授業ツールの把握と役立つ機器を購入して、学生の興味関心を惹き、対面で実施するような臨場感が得られる授業となるように工夫を凝らしたい。
●実習授業を通じて、今年度の展開のように学生の運動量を確保した上で、健康への意識、安心安全、運動に親しむ習慣、活動の楽しさを伝えたいと考えている。今年度の評価は概ね良かったが、さらに学生に満足してもらえるように、種々の取り組みを展開していきたい。
●各授業とも、競技スポーツにおいて競技規則を遵守するように、授業規則を予め提示し、学生に遵守するように伝えた。数人の学生が規則に従わない場面もあるが、その場合は厳しく指摘し、態度を改めるように対応した。特に運動部の一部の学生においては、所属する部活での規則や競技規則を遵守するのに対して、授業規則を守らないことがあるため、授業自体を軽視している傾向がみられる。この点は、各部活動の先生とも連携して対応していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
卒業論文作成通い合宿（前期）　対象学年3、4年生	15	29	2021年7月22～24日
卒業論文作成通い合宿（後期）　対象学年3，4年生	10	29	2021年10月31日、11月1日、11月3日
健康運動実践指導者　試験対策　（補習）	14	7	2021年10/11、10/25、11/8、11/22、12/6、12/11、12/20
前期　早朝勉強ゼミ	20	5	2021年 4/12～7/27の毎週月曜日と火曜日5回のゼミ

後期　早朝勉強ゼミ	18	7	2021年 9月27日～12月21日の毎週月曜日と火曜日4回のゼミ

３．研究活動

(1) 研究テーマ

●ソフトテニスの技術評価に関する研究
●ソフトテニスボールの変形に関する研究
●スポーツ組織のガバナンス整備に関する研究
●日本スポーツ仲裁機構の仲裁制度を活用するための各競技団体の規則整備に関する研究
●包帯法習熟に関する研究
●浮指が重心動揺に及ぼす影響（テーピングにより疑似的に浮指を作り出した状態が重心に及ぼす影響）
●中学校運動部活動地域移行化に伴う大学の果たすべき役割に関する研究
●スポーツメンタルトレーニングの実践報告

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	2	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ソフトテニスの定説を覆す コーディネーショントレーニング ～手打ちを極める～【DVD2枚組】
https://www.japanlaim.co.jp/fs/jplm/gr2437/gd8957／単著／2021年4月3日／ジャパンライム／132分

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Effects of Lower Limbs Exercise with Light and Heavy Loads on the Center of Gravity Sway.
http://www.sciepub.com/AJSSM/abstract/13565／2021年7月15日／American Journal of Sports Science and Medicine, 2021, Vol. 9, No. 1,／8-12／共著／原著論文

Differences between Tempos of Step Error and Postural Sway in the Stipulated Tempo Step Test for Children and Their Relationships.
https://www.sciedupress.com/journal/index.php/wje/article/view/21268/13129／2021年12月6日／World Journal of Education Vol. 11, No. 6; 2021／31-39／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

JSAA-AP-2019-008～011事案の終了決定における選手の権利に関する考察／2021年11月20日／日本ソフトテニス研究会第4回大会（オンライン開催）

大学ソフトテニスチームにおけるコーチング実践事例：部則改訂に伴う選手・指導者の取り組み過程をてがかりに／2021年4月20日／日本ソフトテニス研究会第4回大会（オンライン開催）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	瓊浦高等学校、白石高等学校の出張講座として、スポーツに関わる各職業と進学先の説明とスポーツの視点から長崎国際大学を紹介した。 有田工業高等学校から本学に進学しソフトテニス部に所属を希望する学生を勧誘し、入学させることができた。
スポーツサポートセンター	委員	学生アスリートの学業サポート案、大学スポーツ協会のコンテンツ利用等の企画を提出した。
国際観光学科 スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの委員として、全般的なコース運営に関わった。
国際観光学科　キャリア委員会	委員	短期インターンシップ担当者として、主にスポーツ分野のインターン先を担当した。今年度は「いむらスポーツ」さんに2名のが研修を行った。 新たに、スポーツ関係2社のインターン先を確保した。
国際観光学科　学事委員会（保護者懇談会・卒業式 担当）	委員	●保護者懇談会の日程調整・担当教員の調整を学生課と連携して行った。 ●学科卒業式の事前準備・式進行の準備を担当した。
学生生活相談室	相談員	後期に相談員として配置されていたが、相談は1件もなかった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

●強化指定部：男女ソフトテニス部 顧問

〇第22回全九州学生ソフトテニス秋季リーグ戦大会　男子3部5位，女子2部3位

〇主に技術指導・フィットネスレベル向上に取り組んだ。

〇大学スポーツ協会の提供するONETAP SUPORTSを活用して感染症要望対策のシステムを構築した。

〇部内でのコロナウィルス感染者は0であり、感染症予防活動を徹底した。

〇学生の最も重要な大会であるインカレが例年8月上旬に開催されており、今年も同様の日程での予定であったため、この期間は本学も含め、多くの大学が試験期間に該当するため、開催時期の変更を要望した。　⇒ コロナの影響もあり、開催時期が8月上旬から9月上旬に変更となった。　⇒ コロナの影響により9月での大会開催は中止となった。

〇二年連続で学生の最も重要な大会であるインカレがコロナの影響により中止になってことに対して、延期や代替大会の対応を行うように関係連盟に要望を出した。⇒ 連盟からは対応が得られなかった。

〇男女ソフトテニス部の部則整備に取り組んだ。

〇チームが目標とする九州大会での優勝は、達成できなかった。

●2021年9月2日　大学ゴルフ授業研究会主催　「長崎・つくもGちゃれ」　世話人＆コーディネーター

●2022年3月9日　大学ゴルフ授業研究会主催　「ハウステンボスGちゃれ（第123回Gちゃれ）」　世話人＆コーディネーター

※Gちゃれ：大学生のゴルフ場デビュープログラム

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

●白石高等学校、瓊浦高等学校へ、出張講座担当講師として、スポーツの視点から長崎国際大学を紹介した。
●佐賀県のSAGAスポーツピラミッド(SSP)構想の、ソフトテニス競技において、対象選手・指導者に対して、長崎国際大学の国際観光学科とソフトテニス部をアピールした。
●SNSを通じて、長崎国際大学のソフトテニス部において、競技成績に応じた特待制度があることを宣伝した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
ソフトテニスキャンプ2022inルネサンス棚倉	2月5日、6日 ※綿密に企画・計画を行っていたがコロナウィルスのまん延により中止	ルネサンス棚倉（福島県・棚倉町）	ソフトテニスキャンプ実行委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大学ゴルフ授業研究会　研究論文誌編集員会	編集委員長	2017年10月～現在（2022年3月）に至る	一般社団法人　大学ゴルフ授業研究会
日本運動・スポーツ科学学会理事会	理事（総務委員会・将来構想委員会）	2019年4月～現在（2022年3月）に至る	一般社団法人　日本運動・スポーツ科学学会
佐賀県ソフトテニス連盟2023（2024）年佐賀国民スポーツ大会選手育成事業	講師（トレーナーアドバイザー）	2019年4月～現在（2022年3月）に至る	佐賀県ソフトテニス連盟

佐世保市し尿収集運搬に係る検討委員会	委員	2021年6月1日～現在（2022年3月）　任期2021年6月1日～2024年5月31日	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 九州文化学園高等学校ソフトテニス部へのトレーニング・技術指導　　2021年10月13日　　長崎国際大学テニスコート

② 長崎純心高等学校ソフトテニスへのトレーニング・技術指導　　2022年3月31日　長崎国際大学テニスコート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度も昨年度に続き、COVID-19の影響のため、実習系の開講科目は中止となり、ゼミ活動も制限の多い中での教育活動となり、現場での実践的な教育内容を伝える活動が展開できなかった。教養セミナーにて担当した2名学生については、前期中の授業の多くが遠隔となり、学生生活がイメージしたものと違い、心理的に滅入ってしまい、結果退学を選択することになった。この点については大変残念なことであり、何らかの予防策であったり、対応ができたらと考えていたが、１教員として限界があり、無力感を持った事案であった。組織としての方策を検討する必要があると感じた。

前期においては、授業アンケート結果からある程度十分な結果が得られたと感じている。また、学生からの指摘に対しても、真摯に捉え、反省点を明確にして対応策を考え対応していきたい。今年度は、遠隔授業ツールの操作法・活用法に慣れたため、教育方法の幅を広げて学生に適切な教育サービスを提供できたと感じている。２～４年生ゼミの担当学生においては、全体として0.29のGPAの向上がみられ、ある程度学生の成績向上に貢献できたと感じている。

後期では、実技授業を対面で実施することができ、学生の特徴や雰囲気、集団となった場合のモチベーションを感じることができ、学生の雰囲気に合わせて指導態度を変遷させることができ、学生の興味関心を惹きながら、授業を展開することができた。講義科目は相変わらず遠隔授業であったが、実技授業を履修している学生も履修しているため、学生の特徴をある程度把握できていたので、前期よりも、授業を展開しやすかった。受講側の顔や特徴が見えない中での授業は、教員にとって、不安や違和感を持ちながらの進行となってしまう。

課外活動においても、COVID-19により活動も制限され、十分な指導効果を発揮できなかったと感じてい

る。ソフトテニスの人脈を活用して学生募集を計画していたが、計画したよりも十分な活動ができていないが、3名の学生を勧誘することができた。来年度は5名の学生を勧誘することを目標としたい。学生募集においては、ソフトテニス部の練習会、今年度計画してコロナのために中止となった学内セレクションを実施して、選手の選抜および大学のアピールしたい。

学外活動として、ゼミ生を対象に「Gちゃれ：ゴルフ場デビューイベント」を計画し、天候・COVID-19の影響により日程を延期となったが2回のイベントを実施することができた。スポーツ実習・ゼミでは学内にあるゴルフレンジを使用して、ゴルフ授業を展開した。来年度も、年二回以上を目標に「Gちゃれ」を実施したい。

昨年度から引き続き、2024年佐賀国民スポーツ大会ソフトテニス競技佐賀県チームの強化アドバイザー（トレーナー）として関わり、本年度は8日間指導を行った。一方で、長崎県のソフトテニス連盟から指導の要望があったが、学外の研修により日程調整が難しく、対応ができなかった。来年度も佐賀県とともに、長崎県のソフトテニスの発展にも貢献したい。

専門種目とするソフトテニスにおいては、2021年の4月７日にジャパンライム社よりDVDを2枚組で発売した（定価13200円）。

研究分野では、海外雑誌に第1著者として原著論文1編、第3著者として原著論文1編の掲載となった。海外雑誌への原著論文が掲載されたことで、今年度の研究業績は十分であったと認識している。現在、ソフトテニス関する研究成果が3項目あるため、それぞれの結果を論文にまとめて、来年度に投稿を予定している。

今年度は、2名のベテランの先生が退職される関係で、様々な業務の引継ぎや対応を行い、さらに委員会活動が増え、業務も多くなった。その中でもやりがいを感じ、業務に集中して取り組めたと実感している。また、教育第一に活動してきたため、あまり研究への時間が確保出来なかったが、昨年度から準備していた投稿論文が採択され研究時間が少ないながらも成果をだすことができた。現在も複数の共同研究者とも連携し、論文を執筆できるデータを取得中である、来年度以降も、第一著者としての論文を年最低一編のペースで受理されるように活動したい。

今年度、日本ソフトテニス連盟の運営および日本学生ソフトテニス運営に関する件で様々な問題が生じた。この問題について、学生もふくめた対象選手は納得できないことであったが、指摘したくても選手として不利になる恐れがあるため、私が代弁者となって、指摘を行い、日本ソフトテニス連盟から対象となる選手およびステークホルダーに具体的な説明がなされることになった。ソフトテニス界は、ガバナンス整備が不十分であるため、今後、このような問題が発生すると予測されるため、専門家・代弁者・先駆者として、正常なガバナンス運営となるように貢献したい。

来年度は、COVID-19の状況も鑑みながら、本学の教職員と積極的にコミュニケーションをはかり、意思疎通を円滑にし、学科教員の先生と密接に連携し、学科内業務に取り組むとともに、職員の方とも連携し、学生や大学関係者に、より良い教育サービス、サポートを充実できるようにしたい。来年度こそは学外実習（マリン、キャンプ、スノースポーツ実習）を実施したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 陳　慶光

１．教育理念

海外旅行の大衆化、情報技術の進展により国境を越えた人々や文化の交流が盛んになっている。このようなグローバル社会に生きている学生たちにとって、大学生活は様々な出会いの機会に溢れている。しかし、異なる価値観や文化が出会うとき、学生たちはどのように交流の機会を最大限に生かせるのだろうか。

今までの学習と教育経験をふり返り、観光教育について改めて考えさせられた。今時の大学生は異文化交流の機会をごく簡単に手に入れるが、それをうまく生かせなければ宝の持ち腐れとなってしまう。学生のあらゆる機会を最大限に生かすにはどうしたらよいでしょうか。その答えの鍵を私の調査フィールド、東北で目にした。東北には食、雪、伝統、工芸品などの「宝物」（観光資源）がたくさんある。しかし、その宝物の持ち主（地元の人々）はそれに気付いていない、もしくは気付いていても、それを誇ることを良しとしない。異文化交流のチャンスをもっと生かしたい。宝物を大事にしたい。そのような学生を増やすため、「宝物」に気づく仕組み作りが大切だと思う。それゆえ、国際観光学科の授業を通して知識やスキルを習得させるほか、私が今までの仕事と研究で得た経験やネットワークを活用して、学生たちにグローバル社会における色々な可能性に気づかせる仕組みを強化していきたい。

総じて、グローバル社会で活躍できるプロデューサー的人材の養成を目的として、創造性やインサイト、リーダーシップに不可欠な教養や知識、国際的視野等に基づくカリキュラムを展開したいと考えている。地域と人々の多様性を理解する事で地域の魅力を引き出し、ひいては国際交流や観光による地域活性化に結実させる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究【R2後期～】	15/15(前期)	4	4	⑥
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	8	⑥
観光学概論	15/15(前期)	2	200	②⑦
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	8	②⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	6	②⑥
観光倫理	15/15(前期)	2	264	①③
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	⑥
Japanese Economy	15/15(後期)	2	21	⑤⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	11	②⑥
スポーツツーリズム	15/15(後期)	2	103	②⑦
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	11	②⑥
地域の理解と連携	15/15(後期)	2	202	②④⑥

Tourism Marketing	15/15(前期)	2	15	⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2021年度にアンケートを実施した授業に対する検討は以下の通り：

【観光学概論】
アンケート回答率は41.6%にとどまったが、全ての質問に対する評価は全体の平均並み、または平均以上だった。メリハリのある授業（遠隔授業を30分の3セットに分けること）と動画の活用にたくさん肯定のコメントをいただき、国際観光学科の初年次必修科目として良いバランスがとれたと思う。

【観光倫理】
アンケート回答率は41.5%にとどまったが、全ての質問に対する評価は全体の平均並み、または平均以上だった。メリハリのある授業（遠隔授業を30分の3セットに分けること）と動画の活用にたくさん肯定のコメントをいただき、国際観光学科の初年次必修科目として良いバランスがとれたと思う。

【スポーツツーリズム】
遠隔授業で高評価を受けたスポーツツーリズムは対面になって満足度が落ちた。「授業の内容的に対面じゃなく、遠隔でもできたと思う」とのコメントから伺えるように、大人数の講義型科目は遠隔授業との相性がいい点もあると思うが、対面授業ならではの授業構成と方法を考案したい。また、去年は遠隔授業のなか、アンケート回答率は34.9%にとどまったが、今年の回答率は88.1%だったことで、サンプリングバイアスの可能性もあると感じた。

【Tourism Marketing】
担当初年度に満足度（4.3）の評価をいただいた。前回の復習、グループディスカッションとプレゼンテーション、講義の三つのセットによる授業構成と関連動画の活用で興味を喚起する授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思います。ほとんどの履修者はGTコース所属の3年生である。英語力と学習意欲の高い学生が多い印象を受けた。ただ、アンケートで取った学生の反応は思ったより良くはなかったため、来年度には早めにフィードバックをもらい、よりきめ細かい指導を行いたい。

【Japanese Economy】
満足度（4.3）、授業内容（4.3）、方法（4.5）の評価をいただいたが、理解度（3.8）は低めであった。去年度との大きな変化は：(a) 履修者が3年生から２年生に、(b) 授業方式が遠隔から対面になったこと。対面で学生の反応が見える一方、時間が限られたため丁寧に説明できなかった部分もあった。全体の教材の量を減らすことを検討したい。さらに学生の予習を促すため、重要単語の事前提示など、引き続き改善を図りたいと考えている。

【教養セミナーA、B】
コロナ禍が続く中で大学生活をスタートした一年生と真摯に向き合うことができたと思う。去年と違って、対面授業の比率がかなり増えていたので、遠隔とは異なるクラス運営のスキルが必要だと思っています。全体としては「一年生だから、もっと面倒を見る」と「大学生だから、自分で責任を取るべき」のバランスを取りながら進めて行きたい。

【専門演習ＩB】

コロナ禍の中で当初予定した地域活動とボランティア活動は思うほどできなかった中、学生が小規模マラソン大会を自ら作る・走ることで、スポーツツーリズムによる地域活性化効果を体感するProject Based Learning（問題解決型学習）に取り組んでいたが、どのくらい学生に任せるか、どのくらい教員がアイデアを出してあげるか、その辺のバランスを調整していきたい。

【専門演習ⅡB】
3年生ゼミはGTコース2名と留学生4名の構成で、全員目標をもってゼミ活動と卒論に取り組んでいた。学生の努力がゼミ内容の充実と学生のいい評価につながったと実感した。

【専門演習ⅢB】
こちらは就任初年度から担当してきたゼミで、メンバーは3年次編入の留学生と退職の先生から引き継いだ日本人学生で構成される11人である。日本語能力や学習意欲が不足している学生もいる中で、ほとんどの学生が無事卒業・就職できている。その中で、コロナ禍で日本での就職をあきらめた留学生と、単位足らずに卒業延期が決定した学生へのサポートが足りなかったことも痛感していたが、学生一人一人の状況と個性に合わせて指導できたと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
短期インターンシップの事前、事後研修	2	2	2021年6月30日など計3回

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『スポーツツーリズムによる地域活性化』
スポーツツーリズムは場所に魅力的なイメージを与え、観光客や企業、住民を惹き付ける素材として地域に恩恵をもたらす可能性に満ちている。インバウント誘致や地域活性化イベントとして特色のあるスポーツイベントを研究対象に、主催者と各ステークホルダー、参加者などのアクターの視点から、各アクターの相互作用によって作り出される価値と、その価値共創メカニズムを解明することを目的にしている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『スポーツ文化論』担当：第１３章　スポーツツーリズム／共著・編著／2022年3月／出版社みらい／180頁～193頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Runners' Experiences in Online Marathons: A Content Analysis of Online Comments to the 2021 Kyoto Marathon／2021年8月20日／16th Asian Association for Sport Management Conference

Exploring the Role of Online Community in Virtual Sport Tourism: LINE App Usage by Taiwanese Runners in the 2020 London Marathon／2021年7月4日／観光学術学会第10回全国大会

Leveraging Virtual Tours amid COVID-19: A Case of Cycling Tourism in Japan／2021年7月2日／SIBR 2021 Osaka Conference on Interdisciplinary Business and Economics Research

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	委員会の業務に協力的に対応していた。
学生生活サポート室	室員	サポート室の業務に協力的に対応していた。
国際観光学科キャリア委員会	委員	委員会の業務に協力的に対応していた。
国際観光学会観光学論集編集委員会	委員	委員会の業務に協力的に対応していた。
観光研究所運営委員会	委員	委員会の業務に協力的に対応していた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

（１）陸上競技部副顧問として大会参加の引率を行った。
（２）女子ソフトボール同好会のクラウドファンディングに協力した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

（１）ゼミ活動を大学ホームページへの掲載：https://www1.niu.ac.jp/topics/course/2021/4353.html
（２）オープンキャンパス：ゼミ生を巻き込んでプログラムを実施した。
（３）出張講義：佐賀県白石高校（オンライン）。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Marathon as a sport tourism event	2021年8月3日	和歌山大学、オンライン	和歌山大学観光学部 永井隼人 准教授

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学生と地域の接点を増やすゼミ活動に取り組んでいた。ゼミでは、「スポーツツーリズムによる地域活性化」をテーマに、マラソン大会でのフィールドワークを通じて地域活性化効果を調査することを目的に活動しています。コロナ禍でリアルな大会の調査に行けない中、学生が小規模マラソン大会を自ら作る・走ることで、スポーツツーリズムによる地域活性化効果を体感するProject Based Learning（問題解決型学習）に取り組んでいた。その一環として、学生らが波佐見町と川棚町・大崎半島で小規模のマラソン大会を開催した。これらの活動を通じて、学生にSDGsの目標３，１１，１４，１５，１７について考えるきっかけを作ればと思う。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

【教育】

担当科目：観光学概論、スポーツツーリズム、観光倫理（オムニバス、2021年度から担当）、Tourism Marketing（2021年度から担当）、Tourism Geography（2021年度は履修者なし）、Japanese Economy、地域の理解と連携（オムニバス）、教養セミナー、専門演習。今年度から新しく担当している二つの科目を含め、自分の専門分野を活かして授業を行った。観光マネジメントコース科目において、理論と事例の結合、関連動画で興味を喚起する授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思う。グローバルツーリズムコース科目において、聴く、読む、書く、話す、4つのスキルを向上させる授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思う。ゼミ指導学生の状況：1年生9名、2年生11名、3年生8名、4年生13名。学生一人一人の状況と個性に合わせて指導できたと思う。日本語能力や学習意欲が不足している学生もいる中で、ほとんどの4年生が無事卒業・就職できている。その中で、コロナ禍で日本での就職をあきらめた留学生と、単位足らずに卒業延期が決定した学生へのサポートが足りなかったことも痛感していたが、学生一人一人の状況と個性に合わせて指導できたと思う。

【研究】

コロナ禍がもたらした社会変化に合わせて、オンラインマラソンをはじめとするバーチャルツーリズムの研究を開拓している。実績：書籍（編著の中の１章）、学会発表3回。今年度学会で発表した研究の論文執筆に着手し、研究成果を出せるように努めたいと思う。さらに、地域活動と連携した研究を進めたい。

【大学運営】

年間の業務サイクルの中でペースをつかむことができたと思う。今後も先生方に助言をいただきながら、積極的に委員会の仕事に携わっていきたい。

【地域活動】

去年から学科の先生たちと取り組んでいた西海市雪浦地区の地域活動はコロナウィルス感染拡大の影響で今年は実施できなかった。今年度は主に、コロナ禍でも立ち止まらないゼミ活動（スポーツ・ツーリズムによる地域活性化）の進め方（マラソン大会における学生運営イベントとオンライン参加）を確立することに取り組んでいた。その一環として、学生らが川棚町・大崎半島で小規模のマラソン大会を開催した。企画・運営班の学生がエイドステーションやコース安全確認を担当し、その学生らのサポートのもと、ランナー班の学生4人が頑張って初のハーフマラソンを完走した。その後、大崎海水浴場シーテラス代表と川棚町陸上競技協会の方々と、マラソンによる地域活性化の可能性について意見交換を行った。今回、ランナーはスマホアプリを利用することで、川棚で走ると同時に富士山マラソンのオンラインバージョンも走ることができた。今後は、コロナ禍で盛んに開催されるようになった「オンラインマラソン」の発展・将来性についても考察していきたい。これらの活動を通じて、地域が抱えている課題の解決に少しでも貢献できたと思う。今後は地域貢献活動に学生も巻き込みながら、学生たちの可能性を引き出す取り組みを構築していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 中島　金太郎

1．教育理念

私の教育理念は、理論と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

私の担当する博物館学芸員課程は、国家資格である「学芸員」資格取得のための専門的な過程である。学芸員は博物館に関する専門家であり、博物館・美術館はもちろん動物園や水族館に勤務する際にも必須の資格である。資格の取得が就職に結びつく課程であることから、全国的に見ても学芸員を退職した者が自身の経験を基に博物館学を講じている傾向が強い。博物館の実務家教員は、豊富な経験を基にした実務論を教授できる一方で、理論教育が不十分であることが多々指摘されている。博物館学芸員課程は、実務に耐えられる学芸員を養成することが求められる傾向にあるが、裏付けとなる理論を知らずして円滑な実務は不可能であり、理論と実践力の両輪が学芸員養成には必須であると私は考えている。

例えば「展示」は、モノを並べるだけであれば誰でもできるが、各資料の性格や年代、地域性を把握し、他の資料との組み合わせや地域との関連性を考えたうえで展示を行うことで、資料だけでなくその背景までも理解できる展示を作ることができる。また博物館で資料を扱ううえで「保存」が大きな要素となるが、資料を形成する素材の特性を把握し、食害する虫や適切な温湿度の知識を得ることで、より適切な管理・運用が可能となるのである。

このような博物館学の理論を理解し、取り扱い方法などの実践的技術を習得することが、実務に耐えられる学芸員の養成に繋がるのである。一方、実践力については博物館の現場で日々研鑽することで身につくことが期待できるが、理論については自ら学習しない限り大学卒業後に涵養することが難しいことから、私の授業では十分な理論を学習できるような授業構成を意識している。

私の担当する学芸員関連の授業は、講義形式の「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」と実習形式の「博物館実習ABC」がある。これらの科目に加え、講義科目「文化財保護論」「民俗学」、「地域連携活動ⅠA・B」教養セミナーおよび専門演習を講じている。

講義科目ではパワーポイント（PPT）を使用し、私がこれまで実地調査した事例と写真を多用しながら、各講義テーマの理論を理解できるよう心掛けている。遠隔授業時は、Zoomを使用してリアルタイム講義を行い、授業後に映像をYouTubeで公開する形を採っている。学生からの意見では、一回あたりの学習内容が多いとの指摘があるものの、90分という限られた時間内で理論を教授するためには、内容を多く盛り込まざるを得ない。また、ディスカッションなどによる課題解決は殆ど行わず、講義形式の授業にポートフォリオを組み合わせた授業を行っている。ややもすれば一方向的な授業になりかねないが、少しでも多くの事例と知識を学生たちに享受してほしいとの考えから当該形態を採用している。

逆に実習科目では、10名程度の少人数クラスで密度の濃い双方向的な授業を意図している。特に「博物館実習B」では、実際の博物館で勤務する「博物館実習C」の受講に向けて、学芸員として必要な資料の取り扱い方法を指導しているが、資料を取り扱う上で事故があってはならないので、学生の進捗状況をつぶさに確認しながら授業を行っている。当該授業でも、各資料の取扱いに先立って、資料に関する知識や取り扱いの理念等を講義したうえで実習させ、知識と技術の両者を取得できるよう心掛けている。

上記に加え、学生たちには長崎や九州だけといった狭い視野ではなく、日本全国的あるいは世界を視野に入れた博物館活動ができる人材となってほしいと考えている。このため、学生たちには馴染みがない可能性があるものの、日本の各地の事例や中国・韓国の事例等も授業内で積極的に使用している。豊富な事例を基に知識を享受することで学生自身の視野を広げ、広く興味を持ってもらい、活躍の幅を広げることも、私が学生に望むことである。

以上、理論と実践力を兼ね備えた人材育成、および視野の広い人材の育成が、私の基本的な教育理念である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	15	①②⑥⑦
博物館実習C【R2後期～】	15/15(前期)	1	2	⑦⑪⑫
博物館実習A	30/30(通年)	1	43	①④⑥⑦⑪
卒業研究【観】	30/30(通年)	4	15	④⑪⑫
博物館実習C	30/30(通年)	1	42	④⑦⑪⑫
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	12	①②⑥⑪
博物館実習B	30/30(通年)	1	12	②⑦⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	15	④⑥⑪
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	15	④⑥⑪
博物館実習B	30/30(通年)	1	14	②⑦⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	④⑤⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	④⑤⑥⑦
博物館経営論	15/15(後期)	2	92	①②⑨
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	④⑤
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	8	④⑤
博物館展示論	15/15(前期)	2	59	①②⑨⑩
博物館情報・ﾒﾃﾞｨｱ論	15/15(後期)	2	74	①②⑤⑥⑨⑩
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑦
専門演習ＩB	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦
文化財保護論	15/15(前期)	2	107	①②⑨⑩
民俗学	15/15(後期)	2	104	①②⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目は、半期分の内容をまとめた配布資料集を作成・配布した。また、学生の予習・復習頻度の向上を目指して、各回の予習・復習内容をより丁寧に提示することに努めた。さらに、今期からは対面授業を基本とし、未入国者のみ遠隔を行うハイブリッド授業をおこなっているため、両者に対応できるよう授業後の映像提供や課題提示について工夫することができた。

教養セミナー9名、専門演習Ｉ9名、専門演習Ⅱ12名、専門演習Ⅲ15名の対応は概ね問題無くできたと思われる。しかし、コロナ禍の影響を受けた休学・退学が数件あり、特に休学者は復学を目指して学生をケアしていくことが重要と考えられる。なお4年生は、15名全員が卒業論文を提出したものの、2名が単位不足で卒業延期となっている。休学中の過年度生も併せ、十分な指導を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
博物館実習B（火曜4限）	4	5	2021年11月～12月
博物館実習B（水曜1限）	4	5	2021年11月～12月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

2021年度は、主に博物館学と考古学、地域連携に関する研究を行った。

①博物館学

元々の研究テーマであった「地域博物館の発達史」の延長として、地域に根差した機関である寺院に設置されている博物館「仏閣博物館」に関する研究を継続実施した。

また、本年度も新型コロナウィルス感染症の影響が強かったことから、遠隔授業に対応した博物館実習の方策についての研究を新たに開始した。

②考古学

昨年度より、西海市西海町横瀬郷での発掘調査を継続実施している。

③地域連携

佐世保市教育委員会、波佐見町教育委員会と共同研究を実践している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	2	1	1	4	4	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『医歯薬系博物館事典』／共著・編著／令和3年5月25日／雄山閣／325頁

『東南アジアにおける博物館の人材育成（仮）』／共著・編著／令和4年3月予定／雄山閣／未定

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「中近世の横瀬浦に関する一考察」／令和4年3月／『観光学論集』第17号／pp. 11-22／単著／論文

「新刊紹介『医歯薬系博物館事典』」／令和3年7月31日／全日本博物館学会「学会ニュース」No. 137／pp. 14-15／単著／書籍紹介

「地方自治体と連携した地域文化資源周知のための取り組み」／令和4年3月／『全博協研究紀要』第24号／未定／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

中近世の横瀬浦に関する一考察／令和3年10月2日／長崎国際大学国際観光学会 第17回研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和3年度国際観光学科共同研究費「長崎県北地域における文化遺産の確認と継承に関する研究」	長崎国際大学国際観光学科	令和3年4月1日～3月31日	30万円
令和3年度国際観光学科共同研究費「日本遺産「三川内焼」の魅力発信と広報手段開発に関する研究」	長崎国際大学国際観光学科	令和3年4月1日～3月31日	30万円
令和3年度学長裁量経費「遠隔授業及び対外授業に対応した博物館実習教材開発に関する研究 」	長崎国際大学	令和3年7月1日～3月31日	30万円
令和３年度佐世保市の地域文化資源の保存と活用に関する業務	佐世保市	令和4年2月～3月	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	新型コロナウィルス感染症の影響により、現地での災害支援活動無し。
学科共同研究費予算委員会（学科）	委員	学科共同研究費の予算編成、執行確認、会議資料及び議事録作成等、委員会の事業に主体的に取り組んだ。
博物館学芸員課程委員会（学科）	委員	博物館学芸員課程の円滑な運営のため、委員会活動を主体的に実施した。
オープンキャンパス委員会（学科）	委員	オープンキャンパスの実施に際して活動を実施した。
大学院専攻会議	オブザーバー	大学院観光学専攻会議の運営担当として、資料作成、議事録作成等を担当した。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	事務業務全般、学会運営業務等を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

同好会「地域文化研究会」顧問

同会の顧問として、西海市西海町横瀬郷の発掘調査の指導等を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

博物館学芸員養成課程のリーフレットを作成し、入学説明会、オープンキャンパス等々で活用した。また、2020年度から継続的に連携している佐世保市教育委員会文化財課と共同で、宮地区コミュニティセンターにおける企画展示を年2回開催した。さらに、大学ホームページのトピックスとして、①宮地区コミュニティセンターの開所式、②『医師薬学系博物館事典』の刊行、③島瀬美術センターでのワークショップ、④Made in SASEBO フォトコンテストの実施報告、⑤国際観光学会研究発表会の実施報告の5件を申請、アップロードした。③のワークショップについては、TVさせぼで実施状況が放映された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
地域文化の保全と博物館・考古学を知ろう	2021年12月14日	長崎県立長崎明誠高等学校	長崎県立長崎明誠高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
全国大学博物館学講座協議会	会計監査役員	2020年5月～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会
全国大学博物館学講座協議会西日本部会役員会	委員	2018年4月～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会西日本部会
波佐見町歴史文化交流館（仮称）建設検討委員会	アドバイザー	2018年4月～2021年7月	波佐見町教育委員会
佐世保市立図書館協議会	委員	2021年10月～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①長崎県立長崎明誠高等学校において、2021年12月14日に出前講座を行った。

②長崎県教育委員会文化財担当と連携し、西海市での発掘調査を実施（令和3年7月～）。

③佐世保市教育委員会文化財課と、市内コミュニティセンターの展示作業等に関する連携を計画・実施。

④令和3年9月より、人間社会学部研究棟1階において「SDGs推進企画展示 長崎県北の海浜の多様性」を開催し、学生に対するSDGｓの啓発活動を実施した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2021年3月末、8月18日、12月8日の3回、長崎短期大学1階の展示ケースを使用して企画展示を実施した。

７．受賞等

なし。

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は、講義、地域との連携活動、研究活動などの面で力を発揮することができた。

講義の面では、「実践・成果」で示した通り、昨年度を踏まえて多くの面で改善ができたと思われる。また、本年度は対面授業と遠隔授業が交互に発生する変則的な日程だったものの、概ね問題無く講ずることができたと考える。本年度を踏まえ、よりわかりやすく的確な講義実践を模索したいと考えている。

地域との連携は、これまでの波佐見町および佐世保市教育委員会との連携を継続し、西海市西海町横瀬郷での発掘調査も実施することができ、地域と協働した調査・研究活動を実施している。今後も様々な地域と連携した活動を実践していきたい。

研究活動では、助成金の獲得、論文執筆など、概ね充実した研究成果を収めることができた。一昨年度仏閣博物館に関する研究をスタートしたものの、新型コロナウィルス感染症の影響により本年度も研究が停滞した。一方で、上記の地域に根差した研究活動を広く実践することができ、総合的に見て良好な研究成果を出すことができたと思われる。次年度は、新型コロナウィルス感染症の影響が低下することを考慮しつつ、仏閣博物館の研究も含めて研究分野にも力を入れたいと考えている。

また、本年度は、休学中の1名を除く15名が卒業研究を提出することができた。また、現3年生も12名在籍しているので、早い段階から卒業研究の執筆を進め、適切に提出・卒業できるよう指導していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 東出　朋

１．教育理念

・批判的に物事を観察し、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢を持つ人を育てる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習（R2後期～）	30/30(前期)	2	1	⑫
日本語教育実習	30/30(通年)	2	6	⑫
卒業研究【観】	15/15(通年)	4	12	⑫
教養セミナーA【観】	15/15(後期)	1	4	④
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	④
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	④
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	④
アカデミックジャパニーズⅡA	30/30(前期)	2	13	⑨
ｱｶﾃﾞﾐｯｸｼﾞｬﾊﾟﾆｰｽﾞⅡB	30/30(後期)	2	22	⑨
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	④
日本語の研究A	15/15(前期)	2	31	⑨
日本語の研究B	15/15(後期)	2	31	⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	6	④
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	6	④
日本語教授法A	15/15(前期)	2	15	⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生による授業アンケートは、概ね高評価であった。
新しいICT活動を取り入れた。
また、活動を行う前の説明を、言語的/視覚的に分かりやすくするよう心掛けた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

対称人称詞による呼びかけ語の語用論的機能

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	1	1	1	1	273万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ロシア語話者に教える　日本語教師読本37／共著・編著／2022年1月／webjapanese／107

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大学生の初対面会話における呼びかけ表現とその言語行動に関する日韓対照研究／2022年2月／地球社会統合科学研究28(2)／16-23／共著／研究ノート

呼びかけと項の独立―落語に見られる対称人称詞から考える―／2022年3月／長崎国際大学論叢22／31-45／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

発話末に位置する対称人称詞の分析―九州方言を例に―／2022年1月29日／言語学フェス2022

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日露（イン）ポライトネスを切り口とした異文化理解教育のための教材および指導法開発	日本学術振興会	2020年4月～2023年3月	273万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	受験生・入学生の獲得のため、学外に向けて観光学科の活動や授業についてトピックを掲載し広報活動に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（学生による授業アンケート部門）受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】授業形態に応じて学生自身が取り組む活動を多く取り入れること、学生の理解を細かく確認することに努めた。また、幾つかの授業では、QLEARNを利用して学生の日々の学修活動を視覚化し、常時フィードバックを与え、意欲向上を促した。さらに、今年度から日本語教育の新カリキュラムが始動した。レベルに応じて適切なクラスを受講することで、学修が着実に積み上がりレベルアップにつながるよう、日本語教員で協力して運営した。

【研究】論文（共著）が２本採択・掲載された。書籍（共著）を執筆し、出版された。また、科研（若手）にも申請した。

【大学運営】学科事務局として補佐に努めた。時間に余裕を持って先に尋ねたり自分から動いたりするように心がけた。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 講師　　氏名 ブレンダン　ヴァン

1．教育理念

私の教育理念は、アクティブラーニングの原則に基づいています。特に外国語としての英語では、生徒が実際にコミュニケーションに必要な課題をこなし、フィードバックに基づいて改善していくことが必要です。このため、教師である私にはいくつかの責任が課せられています。まず、私が必要なだけ話すのではなく、できるだけ生徒が成長するための課題に取り組めるような授業設計をする必要があります。第二に、私は学生に対してタイムリーかつ有益なフィードバックを提供しなければなりません。つまり、授業の前後に、生徒が成長するために必要なサポートを一生懸命に行う必要があるのです。学期始めに英語が得意かどうかは重要ではありません。一番大切なのは、生徒が成長し続けることです。

My educational philosophy is based on the principle of active learning. Especially for English as a foreign language, students need to do real communicative tasks, and improve based on feedback. As a teacher, this places several responsibilities on me. First, I need to design my classes in a way that I am not talking only as much as necessary, and for as much as possible, students are working on tasks to help them grow. Second, I must provide feedback to students in a timely and helpful manner. This means that before and after class, I need to work very hard to provide the support necessary to help students grow. Whether or not students are good at English at the beginning of the semester is not important. The most important is that they continue to grow.

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	14	③④⑧
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	16	⑤⑥
Practical English ⅠA	30/30(前期)	2	19	④⑧
English Writing SkillsⅡ	30/30(後期)	2	14	③⑤⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	4	⑦⑪⑫
英語演習ⅡA【観】	15/15(後期)	1	25	①②
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	5	④⑤⑦
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	4	④⑤⑦
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	4	④⑤⑦⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	6	②④⑤
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	7	②④⑤
Practical English ⅢB	15/15(前期)	1	30	⑤⑧

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

毎期、学生からの授業評価で、高い評価を得ている。オンライン授業を行ったら、更に高くなりました。2021年ベスト・ティーチャー賞の受賞をしました。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	英語A	16/16(前期)	1	2
佐賀大学	英語B	16/16(後期)	1	2
佐賀大学	英語C	16/16(前期)	1	17
佐賀大学	英語D	16/16(後期)	1	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
GTコースIELTS検定ライティング指導	10	5	2022年1~3月
GTコースIELTS検定スピーキング指導	10	2	2022年1~3月
事務職員への英語研修SD	12	9	2022年2~3月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

外国語としての英語教育

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology　MOOCカリキュラムの方法論を用いたオンデマンドカリキュラムの観察／2022年3月／長崎国際大学論叢／59頁～73頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Competencies and Learning Plans in Moodle／2022年3月／2022 Moodle Moot Japan

An update on Learning Analytics for Moodle／2022年3月／2022 Moodle Moot Japan

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021年11月／第４７回全国語学教育学会国際大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	派遣留学の選抜
GTコース委員会	委員	GTコースの運営、CASECテストの実施、Global Leadership Forumの開催
オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパスの計画、実施、と改善
人間社会学部学部事務局	委員	学部教授会の打ち合わせと資料準備、送別式

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

国際交流・留学支援センターの前川さんの移動から、英語圏交換留学生の受け入れ、派遣交換留学生のために大量の業務をしています。
教務課への支援として、英語演習の非常勤講師に関するサポートをしています。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎国際大学英語版情報発信SNSとブログの維持をしています。
2022年3月長崎新聞NR
8年連続夢ナビライブ
大学HPのトピックスの記載（GTコース）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席

2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
5 Steps to becoming a global person	2021年12月	口加高校	口加高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

授業の中、SDGsのテーマを取り上げています。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
川棚中学校オンラインイングリッシュキャンプ	留学生と中学生の交流会	2021年11月	担当

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
2022 Moodle Moot Japan	実行委員	2022年2月	長崎国際大学・オンライン	日本ムードル協会

(3) その他特記すべき活動

QLearnシステムのサポートをしています。

７．受賞等

長崎国際大学ベスト・ティーチャー賞

８．活動全般についての自己点検・評価

本学で勤務するにあたり教育、研究、業務、社会貢献が重要だと考えている。今年度は指示を待って行動

するのではなく、主体的に大学の運営に尽力をしました。特に、学長裁量経費および学科共同研究費を通じて、Qlearnモバイルアプリの開発とワークショップの開催で様々な先生方に遠隔授業の支援ができて嬉しく思います。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 助教　　氏名 相羽　枝莉子

1．教育理念

主体的に学び，考え，行動できる人材の育成を教育の柱として，教員自らが学生と共になってホスピタリティの伸長を目指す．また，学生が高い専門性と幅広い見識を獲得できるよう，体系的に整理された知識・技能を伝えるとともに，アクティブラーニングを積極的に取り入れ，多様な視点で専門領域あるいは地域社会における課題の発見・解決力を育成する．

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
水泳	15/15(通年)	1	23	⑫
保健体育科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	13	⑨⑩
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	23	④⑤⑪
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	25	④⑤⑪
スポーツ心理学	15/15(後期)	2	69	⑤⑥⑩⑫
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
エアロビクス	5/15(前期)	1	18	②④⑩⑪
スポーツ医学	1/15(前期)	2	41	②⑩⑪⑫
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	6	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	12	⑨⑩
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	20	④⑤⑪
球技C	14/15(後期)	1	29	②⑤⑦⑪
スポーツ指導論	3/15(後期)	2	27	②⑤⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期・後期を通じた授業アンケート及びそのフィードバックによって，より良い授業を目指すことができた．2021年度の授業評価の数値目標として，「教養セミナーAの満足度4.0」，「教養セミナーBの満足度4.0」，「スポーツ心理学の理解度4.0」としていた．結果として，それぞれ順に，4.8，4.9，4.5であり，いずれの項目も目標の数値を上回る結果となった．

中でも，専門とする「スポーツ心理学」では，心理学の理論を扱うことが多いため，単なる「知識の定

着」にならないよう，スポーツの現場とのリンクを意識して授業を展開することができた．その他授業全体を振り返ると，改善点として，学生の受講態度に対する注意・指導，予習の確認，説明の工夫等の点が挙げられ，2022年度以降の授業で改善に努める．

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

スポーツ競技者が試合場面で使用する感情調節方略とパフォーマンスの関連

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	2	2	55万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

スポーツの試合場面における感情調節方略：再評価・表出抑制と心理的競技能力の関連の検討／2022年3月／スポーツ心理学研究第49巻／29頁～43頁／共著／論文

試合場面における感情調節方略：再評価・表出抑制と心理的競技能力の関連の検討／2021年6月／体育学研究第66巻／561頁～572頁／共著／論文

音楽がウォーキングにもたらす影響に関する研究／2022年／地域創生学研究／印刷中／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

競技者が試合中に使用する感情調節方略－個人・団体種目の差異および実力発揮との関係から－／2022年3月／九州スポーツ心理学会第35回大会

スポーツ場面におけるCOVID-19を巡るストレス体験に対する意味づけと心理的成長の関係／2022年3月／九州スポーツ心理学会第35回大会

音楽がウォーキングにもたらす影響の心理学的分析／2021年8月／九州体育・スポーツ学会第70回記念大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
感情調節方略が運動パフォーマンスに及ぼす影響	九州体育・スポーツ学会研究助成	2020年8月～2022年8月	15万円

プレッシャー下での感情調節方略がパフォーマンスに及ぼす影響ーバスケットボールのフリースローをパフォーマンス課題としてー	日本私立学校振興・共済事業団体若手・助成研究者奨励金	2022年4月～2023年3月	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター	委員	会議に参加し，構成委員との情報共有に努めた。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	書記，編集委員会の業務補佐等を担当した。
長崎国際大学国際観光学会評議委員	幹事	書記として会議の運営に参画した。
学科会議運営委員会（学科）	委員	書記として学科会議の運営に参画した。
国際観光学科スポーツツーリズムコース委員会	委員	書記としてコース会議の運営に参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

アーチェリー部　部長
部活動所属学生への心理的サポート活動

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

瓊浦高等学校への出張講義，2021.12.14

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
川喜田二郎生誕100年を記念し，KJ法を再考する―KJ法の正しい使い方とは―	2021年8月28日	オンライン	九州体育・スポーツ学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

博士（心理学）の学位を取得，九州大学大学院人間環境学府 甲第442号

【学会活動】

・座長：一般研究発表．第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，2022.3.3.

・相羽枝莉子，杉山佳生：研究推進委員企画セッション「感情調節方略が運動パフォーマンスに及ぼす影響」，九州体育・スポーツ学会第70回記念大会，2021.8.29.

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】

前期・後期ともに，コロナ禍で授業形態を工夫しながらの展開であったが，他教員・職員の方々によるサポート，受講生のご協力のおかげで，円滑に授業を進めることができた．2022年度は今年度に比べて見通

しを立てやすいと見込んでいるため，より一層，授業の質の向上に注力していきたい．
学生指導の面では，特に教養セミナーで担当した学生に対して，複数回の面談を行う等して，充実した学生生活を送れるよう支援することができた．また，運動部に所属する学生の心理面のサポートに携わることができた．

【社会活動】
佐世保市内のスポーツチームと協働，佐世保のスポーツの普及や競技力向上を目的として，心理サポートに従事する予定であり，先方とミーティングを重ねてきた．2023年5月頃から始動予定．

【研究活動】
筆頭著者として，国内のジャーナルに査読付き原著論文が2編掲載された． 科研費は基盤研究Cで申請し「不採択」であった．今年度で博士号を取得したため，次回は「若手研究」での採択を目指したい．

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 国際観光　　職名 助教　　氏名 幸山　智子

1．教育理念

私の教育理念は、①物事を主体的に考えて行動する力、②自分とは異なる人や文化（多／他なるもの）を理解・受容する力を持った人材を育成することである。

英米文学・文化研究を専門とする教員として、とりわけ全学共通科目である英語演習においては、語源や表現の由来についての説明を含めることによって「ことばの背景にある歴史や文化」を感じてもらえるよう努めている。そうすることによって、英語を母語とする人々の考え方や価値観といったものへの理解を深めることができるだけでなく、自分自身が生まれ育ってきた環境について客観的に考えてみることができる。いわゆる「クリティカル・シンキング」の基礎ともなるだろう。

また、授業においては、なるべく受講生同士で話し合う機会（ペアワークやグループワーク等）を設け、課題の設定や解決に主体的に取り組ませることにしている。このような授業形式は、考えを自分のことばで効果的に発信する練習、あるいは自分とは異なる考えを大らかに受け入れて新たなアイデアのもととする練習となる。情報を自ら調べる習慣も身についてくる。

言語学習とは、母語の外への旅であり、その過程では（複数のレベルでの）対話が生じる。そこから培われる力は、他者への理解を基本とする「ホスピタリティ」を育む上でも重要であろうし、学生たちの卒業後の活躍を支えてゆくものだと信じている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語演習ⅡA【栄】	15/15(後期)	1	31	①②
英語演習ⅠA【観】	15/15(前期)	1	32	①②
英語演習ⅡA【観】	15/15(後期)	1	23	①②
英語演習ⅠA【観】	15/15(前期)	1	34	①②
英語文学	15/15(後期)	2	11	①③⑤⑥⑨⑩
English Reading SkillsⅡ	30/30(後期)	2	14	①④⑪
教養セミナーA【観】	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【観】	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
English Reading SkillsⅠ	30/30(前期)	2	14	①④⑪
英語演習ⅡB【栄】	15/15(後期)	1	31	①②
英語演習ⅠB【観】	15/15(前期)	1	25	①②
英語演習ⅠB【観】	15/15(前期)	1	23	①②
英語演習ⅠB【薬】	15/15(前期)	1	35	①②
英語演習ⅡB【薬】	15/15(後期)	1	25	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当し、アンケートを実施したほぼすべての科目で4点台後半の満足度を得ることができた。とくに今年度から担当することになった「英語文学」においては、専門分野の知識を活かし、読解・解釈を通して多様性理解力を培う意義を伝えることができたと感じている。一方、英語演習の一部科目では高い満足度を得ることができなかった。他の英語教員との協力のもと、オンデマンド型のカリキュラムを作成したが、英語が苦手な学生（パソコン操作が苦手な学生）への対応としては十分ではなかったことがうかがえる。次年度は対面で授業が実施される予定であるため、より細やかなサポートをし、一人でも多くの学生に英語を学ぶ楽しさを感じてもらえるよう努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州工業大学	英語Ⅷ	15/15(前期)	1	5
九州工業大学	英語Ⅸ	15/15(前期)	1	3

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

Tennessee Williamsをはじめとしたアメリカ演劇（「文学における『触覚』」をキーワードに）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／59頁～73頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021年11月／JALT International Conference 2021

Developing a Multi-Lingual On-demand Curriculum for English Communication Classes／2022年2月／Moodle Moot Japan 2021

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	国際観光学科のピアサポート担当教員として、CHサポートセンターの業務に取り組んだ。
安全衛生委員会	委員	委員として業務に取り組み、国際観光学科の「勤務表」「休暇欠勤届」の管理等を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	国際観光学科の入学前教育担当者として、課題内容の作成や提出確認等に携わった。
学科事務局（国際観光学科）	書記	学科会議の議事録を作成した。その他、学科運営に関わる業務に取り組んだ。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	幹事として、会議資料の作成や編集作業を行った。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	GTコースの運営に関わる業務に取り組んだ。（試験監督、議事録作成、奨学金申請手続き等）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席

2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・コロナ禍で効果の高い授業を行うため、他の英語教員と協力し、オンデマンド型のカリキュラムを作成した。おおむね良好な評価を得たが、英語やパソコン操作を苦手とする学生へのサポートが足りていなかったことがうかがえる。次年度以降はこの問題点を解決するため、対面でのフォロー体制の充実や細や

かな説明を心がけたい。また、「英語文学」以外の科目においても専門性を活かし、語学学習を通して視野を広げるような教育を行いたい。
・委員会活動においては、主導する立場にはなかったものの、事務局員や幹事等も含め全体の活動や運営を支える業務を多数行った。その中で、学科内だけでなく他学科の教員や職員と協力することができ、大学についての理解も深まった。帰属意識を高めることもできた。着任3年目に入る次年度は、これまでの経験を活かしてアイデアを提示するなど、より主体的に関わっていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 木村　勝彦

1．教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマニズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざま知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマニズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理学的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道徳教育論」においては、教員を目指す学生たちに道徳教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。また隔年で実施している「人権と平和」においては、具体的な人権課題に関する啓発と教育の重要性を教授すると同時に、原子爆弾被災県である長崎県に立地する大学で学ぶ者として平和探究の精神をもって教育活動に従事することの重要性を自覚させることを目指している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
教育実習A	2/60(通年)	4	13	④
教育実習B	2/40(通年)	2	2	④
事前・事後指導	3/8(通年)	1	15	④⑦
道徳教育論	15/15(後期)	2	28	⑤⑥⑩
観光倫理	8/15(前期)	2	264	①③
人権と平和	15/15(後期)	2	7	⑥⑩
ホスピタリティ概論	1/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習（中・高）	2/15(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
宗教学	15/15(前期)	2	198	①③
倫理学	15/15(後期)	2	172	①③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理特講	15/15(前期)	2	1
観光倫理特講	15/15(前期)	2	4
事例研究（観光倫理）	15/15(後期)	2	1
特別研究【2年生　半期（～秋）】	15/15(通年)	8	1
特別研究【2年生　通年】	30/30(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本項目においては単独で担当した科目についてのみ自己点検・評価を行う。

前期に担当した科目は全学共通科目の「宗教学」と国際観光学科専門科目の「観光倫理」であり、いずれも受講生が多数であるため録画した授業動画を視聴させるオンデマンド方式で実施した。「宗教学」の理解度に関する平均評価値は4.3、授業満足度に関する平均評価値は4.5であり、1の準備学習に関する項目が3.8であったのを除けば、他のいずれの項目も4.4以上であった。例年並みの評価であったと考えているが、さらに向上させるべく改善向上が必要であると認識しているが、特に準備学習に対する取組をどのように行うべきかが課題である。また授業アンケートの回収率が52.6%にとどまったことは、遠隔授業による影響を考慮しても低いと言わざるを得ないが、どのようにすれば向上するのか苦慮しているところでもある。

「観光倫理」に関しては今年度より初めて陳慶光講師に7回を担当してもらい、小職が8回を担当するというかたちで実施した。副学長としての職務軽減と後任への引継ぎを考慮しての措置であったが、陳講師も小職も同じような評価を得ており、良好な結果が得られたものと考えている。小職の担当分における理解度の平均評価値は4.4、満足度は4.5で、1の準備学習に関する評価項目が3.7であったのを除けば、他のいずれの項目も4.3以上で、例年並みの評価を得たものの向上も見られなかった。授業アンケートの回収率（60.4%）や準備学習に関する問題点は「宗教学」と同様である。

後期に単独で担当したのは教職課程の「道徳教育研究」「人権と平和」及び全学共通科目の「倫理学」であったが、隔年開講で少人数の「人権と平和」については授業アンケートを実施しなかった。「道徳教育研究」においては授業の理解度に関する平均評価値が4.8、満足度に関する平均評価値が4.6で、準備授業に関する評価が4.1であった以外は他のすべての評価項目において4.4以上であった。例年並みではあるが、満足度が4.6というのはやや低い数値に留まっており、対面式を基本としながらも5回を急きょオンデマンドやズームのオンライン授業にせざるを得なかったことが影響していると思われる。授業アンケートの回収率は病欠の学生を除き92.9%で、問題なかった。

「倫理学」に関しては全15回をオンデマンド方式で実施し、授業の理解度に関する平均評価値は4.3、満足度に関する平均評価値は4.4であった。例年並みではあるが、小職の他の授業科目と比較しても低い数値に留まっていることは反省すべき点である。準備授業に関する評価項目1が3.6であったのを除けば、他のすべての項目において4.2以上を示しているが、これもやや低めに推移しており、授業の魅力向上をどのように図っていくか検討を重ねていきたい。また授業アンケートの回収率が37.4%と極めて低い数値に留まったことは大きな反省点であるが、これについては先述のように対応に苦慮するところである。

大学院については前期に「観光倫理特講」と修士論文指導の「特別研究」、後期に「事例研究（観光倫理）」と「特別研究」を実施した。「事例研究」の授業アンケートの結果が低く出ているのはまことに遺憾であるが、大学院レベルの授業とそれに対応する学生の能力・研究態度の懸隔について再考を促される結果ではあった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

- 観光倫理の研究
- 宗教ツーリズムの研究
- ダークツーリズムの研究
- 宗教現象についての哲学的考察
- 道徳教育の哲学的基礎付けに関する研究
- 長崎を中心とするキリシタン氏とキリスト教聖地の研究
- 鎮信流茶道の成立とその思想的背景に関する研究
- 高等教育の内部質保証と認証評価基準に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

にもかかわらず、の徳育／2021年12月／徳育第9号／1頁／単著／総説

道徳的人格形成と教育−カントとヤスパースの場合Ⅰ−／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／1頁～10頁／単著／原著論文

道徳的人格形成と教育−カントとヤスパースの場合Ⅱ−／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／11頁～20頁／単著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	大学としての内部質保証の改善向上に資するための自己点検・評価に関する審議検討において、委員長である学長の職務を補佐した。
全学共通教育委員会	委員長	全学共通科目の編成と実施に関する審議検討を統括し、本学における全学共通教育の方向性を定めた。
教員資格審査委員会	副委員長	教員の採用・昇格及び授業担当に関する資格審査において、委員長である学長の職務を補佐した。
IRセンター	センター長	IRを活用した調査及びデータの収集と分析に関する審議検討を統括し、内部質保証の機能性を高めるための方策を提案した。
教職課程委員会	委員長	教職課程の編成及び教育内容に関する審議検討を統括し、教育職員免許状取得を希望する学生の育成を図った。
危機管理委員会	副委員長	危機管理に関する諸々の懸案事項に関する審議検討において、委員長である学長の職務を補佐した。
教育基盤センター運営委員会	教育基盤センター長、委員長	「学習支援」「初年次・共通教育」「教職等支援」「評価IR・研修」の4部門から成る教育基盤センターの審議検討を統括し、さまざまなレベルにおける学生の学修支援を実施した。
人事委員会	委員長	各学部・学科における教員人事の懸案事項に関する審議検討を統括し、学長に対して人事の方向性に提言を行った。
輸出管理委員会	委員長	特定の指定国・指定地域への知的財産の流出がないかをチェックすると共に、関連する懸案事項に関する審議検討を行った。
産学連携・研究支援センター	委員長	産学連携を進め、それに関わる研究を支援するため、諸々の懸案事項について検討した。
情報セキュリティ委員会	委員長	長崎国際大学情報セキュリティポリシーを制定し、その着実な実施のための関連事項を審議検討した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
小学校教員養成課程設置に関する検討会	ワーキング・グループ長	人間社会学部の国際観光学科を人間社会学科に再編したうえで小学校教員養成課程を設置することについて、田中教務委員長、乙須教職課程副委員長、橋本特任教授、教務課長、教務課員らと共に検討を行った。結果として、学科再編及び小学校教員養成課程の設置はペンディングとすることとなった。

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部　顧問・部長

アーチェリー部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保徳育推進会議が主催する「徳育推進フォーラム」が昨年度に引き続き、テレビ放映とそれを録画したDVDの配布というかたちで実施されることに伴い、会長としての挨拶及び一徳運動実践に関するコメントがテレビ佐世保によって収録されることとなった。会長挨拶は2021年9月27日に市役所において、朝長則男佐世保市長の祝辞と共に収録された。また「地域・学校・職場・家庭」における一徳運動に関する回長コメントは2021年10月18日に本学副学長室において収録された。

これらは1時間の特別番組に編集され、10月から11月にかけて佐世保テレビで放映されたほか、それを録画したDVDが関連する機関・学校等に配布された。こうしたテレビ収録・放映は佐世保徳育推進会議の活動の一環としてなされたものではあるが、長崎国際大学副学長として出演しており、大学の広報にも貢献したものと考えている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	対象外
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	11

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
にもかかわらず、の徳育	2021/9/27	佐世保市役所（動画撮影）	佐世保徳育推進会議・佐世保市
徳育をささえる心のきずな	2021/11/11	ワシントンホテル	佐世保教誨師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第一部会哲学委員会	連携会員	2020年10月～現在	日本学術会議
評価システム改善検討委員会	委員	2016年4月～現在	公益財団法人 日本高等教育評価機構
評価部会	評価員（評価団長）	2006年4月～現在	公益財団法人 日本高等教育評価機構

佐世保徳育推進会議	会長	2010年4月～現在	佐世保徳育推進会議・佐世保市
佐世保市市民栄誉賞審査会	委員長	2021年7月・8月	佐世保市
佐世保市スポーツ協会評議員会	評議員	2020年5月～現在	佐世保市スポーツ協会
日本宗教学会理事会	理事	2013年4月～現在	日本宗教学会
西人宗教学会運営委員会	運営委員	2010年4月～現在	西日本宗教学会
西日本宗教研究編集委員会	編集委員	2020年4月～現在	西日本宗教学会
長崎県日中親善協会佐世保支部	理事	2018年4月～現在	長崎県日中親善協会・佐世保市
長崎国際大学同窓会「悠和会」	理事	2010年4月～現在	長崎国際大学同窓会「悠和会」

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本学術会議連携会員としての活動がSDGsに関する取り組みとなっている。

・　日本学術会議哲学委員会「哲学・倫理・宗教教育部会」が「目標4.質の高い教育をみんなに」に関連して「道徳教育において「考え、議論する」教育を推進するために」プロジェクト実施中

・　日本学術会議九州・沖縄地区学術講演会「持続可能な地域の強靭な将来空間像～防災・減災対策の次なるステージを目指して」（2021年11月1日　オンライン）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovation)～一人ひとりが主役の研究開発が未来を拓く」	連携会員として参加	2021年8月18日	オンライン	日本学術会議
持続可能社会のための科学と技術に関する国際会議2021	連携会員として参加	2022年1月31日・2月1日	オンライン	日本学術会議

(3) その他特記すべき活動

・　中国福建省の福建師範技術学院との学術・研究交流に関する協議（オンライン 2021年12月20日）

・　佐世保市・中国瀋陽市10周年記念式典において挨拶（オンライン 2021年12月1日、佐世保市長・佐世保市議会議長・小職の3名が市を代表して挨拶）

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、教育・研究及び学外の委員活動等においても大きな制約を受け続けた1年間であった。そうした制約下での活動であるため、全体としては低調であったことは否めないが、それなりの成果を挙げることができたのではないかと自己評価している。

教育の面では、小職が担当する科目は教職課程の2つの科目を除けばすべて遠隔授業のかたちで実施することを余儀なくされ、授業内容や授業方法の見直しをせざるを得なかった。アフターコロナのことを考慮するとき、そうした見直しは十分に意義のあるものではあったにせよ、大講義室で多数の学生に対して講義を行うことによる喜びと緊張感を感じられないのは物足りないことであったのは間違いない。また授業アンケートの評価については例年並みの数値を得られたにせよ、実情を反映しているのかどうかを検証することが重要であると思われる。教職課程科目についてはそれなりに対面授業を実施して手応えもあったが、感染拡大への対応として急きょ遠隔授業への切り替えを余儀なくされるケースもあり、かえって学生たちを戸惑わせる面もあったのではないかと危惧している。大学院についても個別の論文指導に大きな制約を受け、十分に緻密な指導をすることができなかったと反省している。

研究の面では、小職の年来の研究テーマである宗教ツーリズムや観光倫理に関する実地調査等がまったく実施できなかったため、文献による理論的な研究にとどまったのは遺憾である。ただし、そうした事例研究から離れて、久しぶりに哲学及び道徳教育に関する基礎的研究にいそしんだ結果、「道徳的人格形成と教育」という相当の分量の論文を執筆し、『長崎国際大学論叢第22号』に原著論文として掲載されることになったのは大きな成果であると考えている。また日本学術会議連携会員として哲学委員会に所属し、「古典精神と未来社会分科会」「哲学・倫理・宗教教育分科会」に所属しているが、定期的に開催されるオンラインでの会議に出席することによって、研究上の大きな刺激を受けている。また日本宗教学会理事として年間3度の理事会に出席して学会の運営方針に関する審議に関わっているほか、西日本宗教学会では運営委員及び学会誌編集委員として活動を継続している。

学内では副学長職のほか、数多くの委員会の委員長・センター長や副委員長を兼任し、大学運営の諸局面に関わった。コロナ禍における学生生活の維持という喫緊の課題に対応することに追われ、新たな大学改革の方策検討にまでは十分に手が回らなかったことは遺憾であり、来年度以降の課題であると認識している。そうしたなかで後期には人間社会学部国際観光学科を人間社会学科に再編し、小学校教員養成課程を設置することを検討したが、文部科学省による中途審査の結果を踏まえ、現状では本学にそれを設置することは不可能であるとの結論に達した。ただし、小学校教員養成課程の設置は本学理事長の年来の宿願であるため、今後どのようなかたちで進めることが妥当かについての検討は継続することとなった。

学外の諸活動では日本高等教育評価機構評価員として、近畿地方の或る大学の認証評価を担当する評価チームの団長として認証評価の業務に従事した。昨年度に引き続き、評価員セミナー・評価員会議・実地長のすべてがオンラインによる実施となったため、移動・宿泊等の負担はなかったものの、評価員同士の親睦・交流・情報交換や実地調査による知見の獲得という面では非常に物足りないものになった。また同じく日本高等教育評価機構の委嘱を受け、評価システム改善検討員会の委員を務めたが、これもすべてオンラインによる会議となったため、議論の深化という点では隔靴掻痒の感を否めないものであった。なおこの評価システム改善検討委員会に関しては、2022年4月以降も継続するよう依頼があり受諾した。

国際交流の面では、昨年度に引き続きまったく海外渡航ができなかっただけではなく、来日・来校のゲストを海外大学から迎えることもかなわず、まったく低調なものであったが、これは致し方のない事態であると言わざるを得ない。そうしたなかで中国福建省の福建師範技術学院から本学との学術・研究における交流の申し出があったため、オンラインによって協議を行い、交流協定書を締結することで合意した。なおその際に、小職を先方の日本語教育センター特別顧問として招聘したいとの申し出があり、これについても受諾した。また佐世保市と中国瀋陽市の友好交流都市10周年記念式典がオンラインで実施され、佐世保市の委嘱を受けて佐世保市長・佐世保市議会議長に続いて挨拶する栄誉に浴した。

以上のように新型コロナウイルス感染症の蔓延という事態により、非常に大きな制約を受けた中ではあったものの、その枠内で可能な活動を意欲的に実施してきたものと評価している。来年度はパンデミックが収束して通常の形態での活動が再開できるよう切に祈っているところである。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 脇野　幸太郎

1．教育理念

・学生が自ら学び、考え、解決し、理解する。これらのことを通じて、「学ぶことの意義と楽しさ」を体感してもらえるような教育を行うこと。
・社会人として、「切り替え」のできる力（やるときはやる、楽しむときは楽しむ）を身につけてもらうこと。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
福祉科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	1	①②⑦⑪
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	4	①②⑥⑪
社会保障論A	15/15(後期)	2	72	①②③⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	36	⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	33	⑫
公的扶助論	15/15(前期)	2	39	①②③⑧⑨
行政法	15/15(前期)	2	18	①②③⑧⑨
福祉科教育法Ⅱ	15/15(後期)	2	0	①②⑦⑪
社会保障論B	15/15(前期)	2	44	①②③⑧⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	5	②⑤⑥⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	5	②⑤⑥⑫
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
社会保障特講	15/15(前期)	2	1
社会保障特講	15/15(前期)	2	2
事例研究（社会保障）	15/15(後期)	2	1
地域福祉政策特別演習	7/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケート実施科目（社会保障論A・B）の評価（満足度・理解度）は、ほぼ例年通りの結果であった。学生の授業に対する熱意は年々高まっているので、それに対応できる、そのうえで真に「理解」できる授業づくりを今後も行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
山口県立大学	社会保障特論	15/15(夏期集中)	2	5
長崎県立大学	保健医療福祉行政論	8/8(後期)	1	2
佐世保市医師会看護専門学校	社会保障	15/15(後期)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	10	35	４月～１月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ドイツ公的扶助制度史、地域と社会保障に関する研究、居住福祉の権利論

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	4	1	0	0	2	2	932万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

トピック社会保障法　第15版／共著・編著／2021年4月／不磨書房／共著230～260頁

変わる福祉社会の論点　第3版／共著・編著／2021年9月／信山社／共著29～35，167～172，229～236頁

福祉と介護の動向2021-2022／共著・編著／2021年9月／厚生労働統計協会／共著193-219頁

新・はじめての社会保障論　第3版／共著・編著／2021年10月／法律文化社／共著171～188頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

低所得者に対する居住支援 ―「地域共生社会」の理念と居住支援の関係性―／2022年3月／長崎国際大学論叢22号／113頁～123頁／単著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域で連携して取り組む居住支援プログラムの実践的開発と検証	厚生労働省	2020年4月～2023年3月	442万円
Webを活用したソーシャルワーク実習プログラム・実習教材の開発・運用・評価	厚生労働省	2021年4月～2024年3月	490万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項に係る事項について審議し、教育、学科運営に貢献した。
自己点検・評価委員会	委員	大学の自己点検・評価に係る事項について審議し、大学運営に貢献した。
発明等審査委員会	委員	発明等係る事項について審査・審議し、大学運営に貢献した。
産学連携・研究支援センター	委員	産学連携に係る事項について審議し、大学運営に貢献した。
全学教育会議	構成員	学内運営、学科運営に関する外部評価員からの提言・質問に対応し、大学・学科運営に後見した。
スポーツサポートセンター	委員	スポーツに携わる学生に係る事項について審議し、大学運営に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科運営委員会	委員長	社会福祉学科運営係る事項について審議し、円滑な学科運営に貢献した。
ケアワークコース運営委員会	委員	学科内ケアワークコース運営に係る事項について審議し、立ち上がったばかりの学科内コース制およびケアワークコースの運営に貢献した。
卒業生等連携委員会	委員	社会福祉学科卒業生との連携に係る事項について、委員長を補佐して委員会運営に貢献した。
日本社会福祉学会九州地域部会第63回研究大会運営員	委員長	7月に本学科主催で開催される同研究大会について、必要な準備作業を行った。

(3) 課外活動の指導等

吹奏楽部顧問を担務し、コロナ渦での活動について学生の相談等に対応した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①大村城南高校出前授業　2021年10月25日
②龍谷高校進学ガイダンス参加　2022年2月21日
③オープンキャンパス全4回

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	13

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
成年後見制度について	3月4日	オンライン	平戸市民生委員児童委員協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎保護司選考会	委員	2012年4月～現在に至る	法務大臣
長崎県介護保険審査会	委員	2014年4月～現在に至る	長崎県知事
佐世保市保健福祉審議会	委員長	2015年4月～現在に至る	佐世保市長
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	2015年4月～現在に至る	東彼杵町長
佐世保市総合計画審議会	委員	2021年4月～現在に至る	佐世保市長
佐世保市成年後見利用促進協議会	委員	2021年4月～現在に至る	佐世保市長
平戸市成年後見利用促進協議会	委員	2021年6月～現在に至る	平戸市長
させぼ成年後見センター運営委員会	委員長	2015年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会会長
社会福祉法人清風園苦情解決第三者委員会	委員	2015年4月～現在に至る	清風園理事長
社会福祉法人一粒の麦の会苦情解決第三者委員会	委員	2018年4月～現在に至る	一粒麦の会理事長
社会福祉法人宮共生会	評議員	2019年4月～現在に至る	宮共生会理事長
社会福祉法人友愛会	評議員	2018年4月～現在に至る	友愛会理事長
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会	理事	2015年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①大村市選挙管理委員会「票育」活動　2016年度より学生ボランティア指導として参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・講座の講師やボランティア活動は、コロナ渦の影響もあり、機会が減少している。
・公共団体の委員等は一定数を受任し、地域貢献を果たしている。本来業務に支障がないように遂行していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 大町　いづみ

１．教育理念

きめ細やかな指導により、理解度に応じた学習支援を実施。
学生の学習意欲の向上を第一に自ら学び、自律して考え、行動、実践できる人を育てる。
楽しい大学生活を送る。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅱ	30/30(後期)	2	16	①⑫
介護実習Ⅲ	60/60(前期)	4	4	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習（介）	15/15(通年)	1	3	①④⑪
介護実習Ⅰ	60/60(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護概論ⅢB	5/15(後期)	2	3	④⑤⑦
在宅医療概論	1/15(前期)	2	249	①②⑤⑩⑪
介護における医療的ケアⅡ	15/15(後期)	2	14	②③⑦⑧
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	18	②⑦
発達と老化の理解Ⅱ	10/15(後期)	2	22	①②③⑩
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	43	⑪
教養セミナーA【福】	5/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
認知症の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	36	①⑨⑩
介護概論ⅢA	15/15(前期)	2	4	①④⑤⑥⑪
生活支援技術ⅡB	15/15(後期)	1	1	①②③⑦
認知症の理解Ⅱ	15/15(後期)	2	30	①⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

赴任初年度であったため、本学学生の理解度や授業システム等の理解に努めた。
次年度は、積極的にアクティブラーニングを取り入れ、学生の意欲向上と理解度の向上に努めていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学	薬物治療実践学	1/15(前期)	2	60
ナイスキャンパス長崎	介護支援専門員の役割	1/15(後期)	2	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
介護総合演習Ⅰ（介）	1	11	2021年6月21日
介護過程ⅡB	3	16	2021年10月22日,29日,11月5日
共通福祉演習	2	63	2021年11月8日,15日
介護福祉士国家試験集中セミナー	3	3	2021年8月30日,9月2日,3日
介護福祉士国家試験イブニングセミナー	4	3	2022年1月24日,25日,26日,27日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

多職種連携,エンドオブライフケア,地域看護学

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

地域在住高齢者の希望する最期の場所に影響する要因／2022年2月25日／長崎国際大学学術機関リポジトリ研究報告／888／単著／研究報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

地域在住高齢者の希望する最期の場所に影響する要因／2022年2月25日／第22回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費	長崎国際大学学長	2021年6月～2022年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	委員	今年度は地域連携センターとしての活動はなし
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットホーム	委員	女性活躍、リカレント教育、復職支援に向けた、看護職、介護職、保育職の連携教育システムの開発に向け検討を重ねている。
新型コロナワクチン職域接種に向けた取り組み	委員	職域ワクチン接種実施に向け、3回のワクチン実施に携わった（看護班のまとめ）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国試対策委員会	介護福祉士	３福祉士和国家試験ワーキング委員として、国試対策に積極的に取り組み、100％の合格を確保、維持できた。
福祉学科３コース共通実習要綱作成ワーキンググループ	委員	福祉学科の実習教育の質の向上に向け、福祉学科３コース共通実習要綱作成に取り組み、初稿を作成することができた。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

島原商業高校に出前講座に出向し、大学入試の広報、介護福祉士養成の広報を行った。
オープンキャンパス内容の企画運営に携わった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
性教育セミナー講師	2022年2月19日	オンライン	長崎県里親育成センター
長崎県訪問看護師養成講習会講師	2021年10月10日,12月5日	ながさき看護センター	長崎県看護協会研修センター
訪問看護入門研修会	2021年7月31日	オンライン	長崎県訪問看護サポートセンター
実習指導者講習会（特定分野）	2021年9月30日,10月1日、2日	オンライン	長崎県看護キャリア支援センター
E-FIELDながさき	2022年2月6日	オンライン	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻地域医療学分野教授永田康浩

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第36回母乳保育学会学術集会実行員会	委員	2022年1月～現在	長崎大学　森内浩幸
長崎県看護協会理事会	助産師職能理事	2020年6月～現在	長崎県看護協会長　西村伊知恵
長崎県看護協会助産師職能委員会	委員長	2020年6月～現在	長崎県看護協会長　西村伊知恵
長崎県妊産婦等相談支援ネットワーク推進協議会	委員	2021年9月～2023年9月	長崎県子ども家庭課長
佐世保市小値賀町介護認定審査会	委員	2021年4月～2023年3月	佐世保市長　朝永則男
日本看護協会	代議員	2021年4月～現在	長崎県看護協会　西岡裕子
長崎県保健医療対策協議会「小児・周産期・産科医療確保対策協議会	委員	2021年4月～2024年3月	長崎県保健医療対策協議会長　森崎正幸
長崎県看護キャリア支援センター事業等検討会	委員	2020年4月～2022年3月	長崎県医療人材対策室長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

認知症ケアオレンジメイトとして、養成講習会を開催し、認知用サポーター１８名を養成した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

学内教職員、学生を対象として、長崎大学病院感染制御教育センターセンター長・教授泉川公一先生、同センター看護師長寺坂陽子先生を招聘し、「感染拡大防止に向けた基礎知識を身につけよう！コロナ禍で知っておきたいゾーニングとは」と題し、研修会、グループワークを企画運営、実施した。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍の中、できることを積極的に、責任をもって実施していけたことは評価できることである。しかし、研究活動において、時間的配分ができず、論文執筆途中のものや研究費獲得のための計画書等が、途中で提出までに至らなかった。次年度は、研究活動に必ず取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 齊藤　晋治

1．教育理念

大学教育は人間の人格的発達における重要な時期である。一般的な知識を身に付けた上で専門領域の学びを深め，一方で自分自身の発見を行いつつ，個々のアイデンティティの形成を図ることが重要であると考えている。そのため，在学中に学生がどのように変化し，結果として何を獲得したのかという点に着目しながら，専門職養成にいて，理論と実践を融合させるための教育に力を注ぎたいと考えている。特に自分の考えを自身の言葉で語ることができるようになるためにアクティブラーニングを取り入れつつ，常に志向を止めず想像力を働かせるような教育実践を目標とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	9	⑪⑫
精神保健福祉援助演習（専門）A	15/15(前期)	1	10	①④
精神保健福祉援助演習（基礎）	15/15(前期)	1	9	①④
共通福祉演習	15/15(後期)	1	60	①④
精保相談援助の基盤（専門）	15/15(前期)	2	12	①
精保の理論と相談援助の展開ⅡA	15/15(前期)	2	10	①②⑪
精神保健福祉援助演習（専門）B	15/15(後期)	1	9	①④
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	10	①⑪
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	9	①⑪
精保の理論と相談援助の展開ⅡB	15/15(後期)	2	10	①②⑪
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	15/15(前期)	2	37	①②
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	15/15(後期)	2	39	①②
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	8	①
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	8	①
障害者福祉	15/15(前期)	2	114	①②
精保の理論と相談援助の展開ⅠB	15/15(後期)	2	7	①②
精保の理論と相談援助の展開ⅠA	15/15(前期)	2	9	①②
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5/15(後期)	1	6	①④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
精神保健特講	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

できるだけ専門用語を日常生活の中にあるたとえ話をしていった。
一方で授業内の日頃感じていることを話しているが，そのことが授業の妨げになっているとコメントをもらっているため，そのバランスは難しいところであると感じた。
授業の構成，進み具合など，状況に合わせて変化させたが，その分学生にとってはどこをやっているのかが分かりにくいものになったのかもしれない。授業開始時にその日の概要を説明し，授業を進めることがっ必要であると感じた。
シラバスとの整合性についてはもう少し改善が必要となる。毎回授業開始時に今日の授業内容の概要を示すことでしっラバストの整合性を明確にしていきたい

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本福祉大学	相談援助演習Ⅱ	10/10(集中)	2	18

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
精神保健福祉勉強会	32	32	2021年10月20日～12月26日
精神保健福祉援助実習　学内実習	60	60	2021年9月6日～9月22日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

精神保健福祉士の資質向上を促進するキャリアラダー開発
精神保健福祉士生涯研修
Webを活用したソーシャルワーク実習プログラム・実習教材の開発・運用・評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

「新たな社会福祉養成カリキュラムにおける教員研修のあり方に関する調査研究事業」実施報告書／共著・編著／2021年3月31日／日本ソーシャルワーク教育学校連盟／P104 ～P108

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館委員として図書館会議への出席 学科図書予算からの選書

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
メンタルヘルスコース会議	コース長	学科内のメンタルヘルスコース会議の運営
国家試験支援委員会	ワーキング	学生の国家試験受験の支援を検討する委員会に参加
教養セミナー部会	委員	教養セミナーの適切な運営が行えるように，毎月手入れ会議が開催され，出席する
県内三大学協議会	委員	長崎県内の社会福祉課程をもつ大学との協議会。県内の統一した実習評価表の作成等を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

3月18日　佐世保商業高等学校　進路ガイダンス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護職員初任者研修	12月14日　21日	長崎県立佐世保東翔高等学校	長崎県立佐世保東翔高等学校長
2021年度実習演習担当教員講習会	8月19日	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
長崎県精神保健福祉士実習指導者講習会	2月19日	オンライン	長崎県三大学連携事業

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第24回精神保健福祉士国家試験委員会	委員	5月～12月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター理事長
平戸市障がい者計画及び障害福祉計画策定委員会	委員	令和3年11月～令和4年6月	平戸市長
平戸市障害者自立支援協議会	委員	令和3年7月～令和5年6月	平戸市長
佐世保市保健福祉審議会	委員	令和3年6月～令和4年4月	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度を振り返り，就任1年目ということで，大学，学科運営についてどのようにコミットメントできるかを考えながら経過した1年であった。
教育については，1つ1つの授業が円滑に行えるように，滞りなく準備を進めることができた。特に新しく受け持つこととなった授業に関しては準備を丁寧に行うこととしたが，学生の反応を見ながら，その都度対応を変えていった。また，国家試験を受験する学生への支援等も行うことができ，合格に通投げることができた。来年度は新カリキュラムの授業が増えていくため，それらの科目に対してもしっかりと対応をしていくとともに，内容を精査し授業準備を進めていきたいと考えている。
一方，研究に関する成果はほぼなかった。これは結果としても明らかである。科学研究の分担研究者として，継続的な研究を行っているが，途中段階で報告できる状況までもっていくことができていない。これは来年度に向けた課題である。
対外的な活動に関しては，これまでと同様に行ってきた。ただ，対外的な活動に関しては徐々にコーディネートする立場に変わってきていることを実感する1年であった。来年度の活動に向け，全体像を整理しながら，立場，役割を認識して活動していきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 坂本　雅俊

１．教育理念

本学の教育理念を実現するために全力でパフォーマンスを尽くす。
本学の矜持を体得した社会福祉人材を世界に送りだし、真の地域貢献の目的を達成する。
社会福祉学専攻において、社会福祉学の高度・先端研究者を育成する。
ボランティア活動や審議会活動等に取り組み、社会貢献する。
学生主体の授業や課外活動を通して、学生の人格的発達に寄与する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	15/60(前期)	4	5	⑦⑫
生きがい情報士実習	15/15(後期)	1	1	⑦⑪
健康・生きがいづくり総論	8/8(前期)	1	15	①②⑨
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論	15/15(後期)	2	154	②⑦⑩
相談援助の基盤と専門職B	4/15(後期)	2	12	①⑥⑨
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	8	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職（社会）	4/15(後期)	2	60	①⑥⑨
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	36	②⑤⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	33	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	7	②④⑥⑦
ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習	1/15(後期)	1	5	①⑤⑥⑩
保健医療サービス論	15/15(前期)	2	66	①②⑥⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	7	②④⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
高齢者福祉特講	15/15(前期)	2	2
介護福祉特講	4/15(前期)	2	3
事例研究（高齢者福祉）	15/15(後期)	2	2
特別研究【2年生　通年】	30/30(通年)	8	1
地域福祉政策特別演習	15/15(前期)	2	1

特別研究指導Ⅲ（半期～秋）	15/15(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは、相談援助実習　及び　生きがい情報士実習　の2科目を実施した。設問Ⅰは4.5、4.8、設問Ⅱは4.55.0、設問Ⅲは4.8、5.0、設問Ⅳは、4.8,5.0である。授業改善の方策として、実習先での諸活動など、学生にとって負荷が通常の授業よりもかかることを想定している。そのための配慮として、学生の意欲を維持するための「観察と声掛け、そして見守り」を心掛けたい。　教員も共に学生の実習に寄り添っていると学生が感じる授業としていくことで、実習を離脱することを防ぎつつ、効果的な学びの場を創り出していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

専門

高齢者支援学、ソーシャルワーク研究、福祉学習支援学、

研究領域

看護福祉、福祉教育、福祉h学修支援学

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

離島・へき地における終末期ケアの現状と多職種連携／2021年5月15日／厚生の指標　Vol.68No.5／28頁-34頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	全学における研究倫理研修、及び、全学生が研究倫理を学べるように授業シラバスへの記載を依頼し実施できた。
全学教育会議	構成員	外部委員からの提言を受け止め、社会福祉学専攻長の立場から、教育・研究力の向上に努め、学位授与、就職支援において成果を得た。、

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科ソーシャルワークコース委員	委員長	新年度から始まる社会福祉士養成カリキュラム改定、及び、それに伴う3コース制の施行について、準備を整える成果を得た。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日本福祉学習支援学会　第22回大会	9/4	本学　オンライン	大会長として開催した

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県国土利用審議会委員	委員	令和2年度～3年度	長崎県知事
佐世保市国民健康保険運営協議会	委員	令和2年度～３年度	佐世保市市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

ICTを用いた授業で、特に全学共通科目ボランティア論の授業では、学生に十分なボランティア実習が、例年と比較して体験する機会が少なかったことが心残りである。しかし、そんななかでも、外部機関において、本学等のＰＣＲ検査を活用して、10月ころからボランティアを受け入れてくださるところもあり、そうした地域福祉の機関に対して感謝を申し上げたい。

ボランティア論智衆性や2百数十名にとって、学生としての教養の幅を広げる方法の基礎を学ぶ機会を少しでも地域福祉社会で得られたことは、活動全般のなかでも、学生と共に力を入れて取り組んだものと振り返ることがでる。　また、学科の国家試験対策、コロナ禍において特別編成で行った臨知実習、学

生の貧困や学習支援など、山積して波のようにおそってくる課題に丁寧に教員の協力体制のシナジーをもって乗り越えることができ、学科からの離学生をほとんどだすことなく教育活動が展開できた。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 中村　龍文

1．教育理念

すべては基本から → 基本の徹底的な習熟を目指した教育

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
医学概論	15/15(後期)	2	26	①②③⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	7	④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	2	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	11	③⑤⑨⑩
発達と老化の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	25	①②③⑩
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	36	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	33	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
福祉と緩和ケア	3/15(前期)	1.5	18	②⑦
発達と老化の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	22	①②③⑩
障害の理解Ⅰ	10/15(前期)	2	35	③⑤⑨⑩
認知症の理解Ⅰ	10/15(前期)	2	36	①⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
地域医療･保健特講	15/15(前期)	2	1
地域医療･保健特講	15/15(前期)	2	3
特別研究指導Ⅲ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の授業アンケートは、前期・発達と老化の理解1、後期・医学概論でその評価を受けた。今年度は、そのほとんどを対面授業で講義を行った。すべてでいい評価がされた結果ではなかったが、理解度・満足度は昨年と同様に、比較的高い得点をえることができた。学生にとって難解とされる医学関係の講義であり、一度聞くだけでは中々理解できないことがあると思われるので、視覚からと聴覚からの双方からの情報を活用し、繰り返しその講義を聴いて、予習・復習が容易に出来る環境を整備した。今後は、この経験を生かして、講義の改善に努めて行きたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験合格支援講座1)	1	24	2021/10/26
国家試験合格支援講座2)	1	22	2021/11/30
国家試験合格支援夏季集中講座	1	20	2021/9/15

３．研究活動

(1) 研究テーマ

HTLV-1関連脊髄症の病態解明と治療法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	0	1	1	30万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Tocilizumab has no direct effect on the cell lines infected with human T-cell leukemia virus type 1.／2021/03／J Int Med Res／49(3): 1-10／共著／原著

Inhibitory effect of HTLV-1 infection on the production of B-cell activating factors in established follicular dendritic cell-like cells.／2021/05／Immun Inflamm Dis／9: 777-791／共著／原著

Intravesical injection of onabotulinumtoxinA in neurogenic overactive bladder patients with human T-cell leukemia virus type 1-associated myelopathy: A single-institution case series.／2021/05／IJU Case Reports／4: 251-254／共著／原著

Antitumor effects of chloroquine/hydroxychloroquine mediated by inhibition of the NF-κB signaling pathway through abrogation of autophagic p47 degradation in adult T-cell leukemia/lymphoma cells.／2021/08／PLoS One／16:e0256320／共著／原著

Human prion disease／2021/12／Clin Exp Neuroimmunol／1-10／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
厚生労働科学研究費補助金	厚生労働省	2021/4/1 - 2022/3/31	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	なし
人間社会学部社会福祉学科倫理委員会	委員長	なし
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員長	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県指定難病審査会	委員	2019/1/1～現在	長崎県知事
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2015/6/1～現在	公立学校共済組合長崎支部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

PubMed掲載の国際誌からの査読依頼が26編あり、すべてに対応した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度もコロナ禍の状況において、多方面で種々の制約を受けた。ただ、教育活動の中心である講義においては、以外にも例年よりは、学生から評価を受けることができた。今後は、今年度の講義のやり方を参考にして、更に改善していきたい。しかし、研究活動については、国際誌からの一定の査読依頼件数はあるものの、論文数・外部資金獲得件の低さを考えると、来年度は多いに努力を要すると思われる。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 教授　　氏名 柳　智盛

1．教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学（臨床心理・障がい児者心理、教育心理）の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	60/60(前期)	4	3	⑦⑫
教育実習A	60/60(通年)	4	13	④
教育実習B	40/40(通年)	2	2	④
事前・事後指導	2/8(通年)	1	15	④⑦
教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ含む）	15/15(前期)	2	17	③⑤⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	4	⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	4	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	4	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	11	③⑤⑨⑩
障害の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	48	③⑤⑨⑩
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	4	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	36	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	33	⑧⑨
教職実践演習（栄養）	1/15(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習（中・高）	3/15(後期)	2	19	⑤⑦⑩⑪
教育心理学	15/15(前期)	2	30	③⑤⑩
心理学【福】	15/15(前期)	2	64	③⑤⑦⑩
障害の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	35	③⑤⑨⑩

教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
障がい者心理特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（障がい者心理）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、「心理学」「教育相談」「教養セミナー」「専門演習B」「相談援助実習指導ⅡB」の授業科目についてアンケートを実施した。満足度の平均が3.9～4.7の結果であった。全学共通科目でありながら社会福祉士国家試験の指定科目の「心理学」とセミナー科目である「教養セミナーソー」は、大学の導入期でもあり、大学での学修と大学生活に慣れていくことも意識して指導を行った。また、シャルワークに関するより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士といて専門職を目指す学生に必要とする支援の基本的な技法についても自ら気づき自己覚知ができるようなワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学園	心理学	15/15(後期)	2	29
九州文化学園調理師専門学校	高齢者心理	3/3(後期)	2	11

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

２．発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的変化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

３．高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ピア・サポートマニュアルブック（Ver.2）－対面授業編－／共著・編著／2022年3月／学校法人九州文化学園長崎国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター／2～46

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NIUピア・サポート活動によるSDGsの実現－目標４・10の実現のため－	令和3年度長崎国際大学学長裁量経費	2021.5～2022.3	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
CHサポートセンター運営委員会	CHサポートセンター副センター長、委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
教育基盤センター運営委員会	委員	本学の教育の質の向上に向けて検討・改善を図った。
学科運営委員会（社会福祉学科）	副学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討のための準備に携わった。
教育内容向上委員会（社会福祉学科）	委員長	社会福祉学科内の各学年部会及び実習部会に関する事項の総括を行った。

社会福祉学科学生支援委員会（社会福祉学科）	委員長	社会福祉学科内のSA運営、特別奨学金制度利用学生への支援などに関する事項の総括を行った。
ソーシャルワークコース運営委員会（社会福祉学科）	委員	ソーシャルワークコースの運営や主に障害福祉分野の実習に関する検討・改善を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学のピア・サポート執行部（NPS執行部）の運営やピア・サポーター学生の研修などを行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

「夢ナビライブ2021福岡」のウェブ開催にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	欠席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	欠席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習会	2021年8月24日	長崎国際大学	長崎国際大学
長崎県障害児（者）地域療育支援事業	2021年度（4回）	佐世保特別支援学校	保市子ども育成課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市いじめ防止対策推進委員会	委員長	2020年7月17日～2022年7月16日	佐世保市教育委員会教育長
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2021年4月～2022年3月	九州大学附属総合臨床心理センター長
共同生活支援事業所「佐世保中央運営推進会義」	委員	2021年4月～2022年3月	社会福祉法人南高愛隣会理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2015年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会
②2015年4月～現在に至る／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員
③2015年4月～現在に至る／自閉症児の余暇活動／活動企画者及び相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部
④2021年4月～2022年3月／Reaching out to People（難病患者の会）／委員／佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2019実行委員会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

７．受賞等

なし。

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年4名、3年4名の指導を行った。卒業論文では、各学生の興味がある専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。その内1名は、配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に3名が社会福祉士国家試験に挑戦し、2名が合格した。その内1名は精神保健福祉士とダブル合格した。
全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かせて、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。
社会活動としては、昨年度の引き続き「佐世保市いじめ防止対策推進委員会」の委員長として、佐世保市立の小中学校で起きる様々な事案について委員会内での検討を行った。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上の向けたＦＤ・ＳＤを企画実施し、障がい学生支援として取り組んでいる活動を通して、NIUピア・サポートによるSDGsの目標4【教育】と目標10【不平等】を実現に向けて取り組んだ。さらに、「ピア・サポートマニュアルブック（Ver.2）-対面授業編-」を発行することができた。
社会福祉学科においては、副学科長として学科長を支えることがきたことは、貴重な経験となったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 准教授　　氏名 梅野　潤子

１．教育理念

授業や研究指導等の知的活動を通して、社会福祉専門職として必要とされる能力を学生が自律的に開発することができるように促し、その環境を整えることを教育理念としている。より具体的には、以下の点を重視して教育に取り組んでいる。

・社会福祉専門職として必要とされる能力を、学生自身が身に付けるプロセスを重視する。
・一つひとつの学修の意味を学生自身が理解し、実践できるようにする。
・具体的な学修活動を通して、価値・知識・技術を体得する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	60/60(前期)	4	4	④⑦⑧⑩⑪⑫
ｽｸｰﾙｿｼｬﾙﾜｰｸ実習	40/40(前期)	2	7	④⑦⑧⑩⑪⑫
共通福祉演習	3/15(後期)	1	60	②④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習の理解	15/15(前期)	1	50	②④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	11	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	7	⑤⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	36	①⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	33	①⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	14	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習	15/15(後期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	13	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	6	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	4	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ｽｸｰﾙ（学校）ｿｼｬﾙﾜｰｸ論	15/15(前期)	2	28	②④⑨
ｽｸｰﾙ（学校）ｿｼｬﾙﾜｰｸ実習指導	15/15(前期)	1	7	②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
児童福祉論	15/15(前期)	2	12	②④⑨
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	②④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業評価については、アンケート対象となった科目において9割～8割程度の受講生が「満足」と回答しており、概ね高い満足度を得た。受講生に取り組み課題や授業で取り上げてほしいものを聴いた上で授業計画をその都度改善していることが満足度につながっていると思われる。

また、授業間での連動した学習内容や、実習生から後輩へのアドバイスなど、カリキュラムの連続性を意識した授業展開が高評価につながったのではないかと考えている。今後も、受講生の声を聴きながら授業改善に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士合格支援プログラム　追加学修時間	3	34	2021年6月17日、11月9日、11月22日
社会福祉士合格支援プログラム　夏季集中講座	2	34	2021年9月14日
社会福祉士合格支援プログラム　個別面談	5	34	2021年6月1日、6月3日、6月8日、11月30日、12月7日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ソーシャルワーク・プロセスにおける子どもの参加推進に関する研究、ソーシャルワークにおける情報通信技術（ICT）活用にに関する研究、児童福祉実践に関する現場との協働研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	429万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

社会福祉士養成におけるICT活用教育に対する一考察／2022年3月／日本情報経営学会誌／1－8頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

児童相談におけるICT活用の現状と課題：児童相談所及び市町職員に対するフォーカスグループインタビュー／2021年12月5日／日本子ども虐待防止学会第27回学術集会かながわ大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
子どもの参加を促進する「子ども主体アセスメントシステム」構築に向けた実証的研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2020年4月～2023年3月	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	毎回の入試業務及びオープンキャンパスの準備・運営業務に加え、入試問題（国語）の作問を担当した。
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP) こども育成専門委員会	委員	子どものLifeに関する共同研究最終年度において、報告書の一部執筆を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学子ども食堂運営委員会　委員長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

子どもの権利やコロナ禍での過ごし方などについて、テレビ佐世保より取材を受け、30分番組として放映された（取材日2021年8月2日、放送2021年9月）。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
子どもの学びを支える―スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働―	2021年8月24日	長崎国際大学（オンライン）	長崎大学
すべての子どもが自分の人生を歩むために地域の大人にできること～ヤングケアラーの育ちを考える～	2021年11月10日	大島文化ホール	西海市・西海市要保護児童対策地域協議会
子どもの育ちのニーズを満たすアセスメント	2021年11月19日	県北振興局天満庁舎	長崎県こども家庭課
子どもの育ちのニーズを満たすソーシャルワーク～アセスメントから支援計画へ～	2021年12月10日	県北振興局天満庁舎	長崎県こども家庭課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市子ども・子育て会議	委員	2020年度～現在に至る	佐世保市
佐世保市社会福祉協議会 ふくし教育推進委員会	委員長	2020年度～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム（QSP） こども育成専門委員会	委員	2020年度～現在に至る	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム（QSP）
長崎県こども家庭課 児童相談体制強化のためのスーパーバイザー	スーパーバイザー	2021年度～現在に至る	長崎県
日本社会福祉学会九州地域部会第63回研究大会実行委員会	実行委員	2021年度～現在に至る	日本社会福祉学会九州地域部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

佐世保市教育委員会メンタルフレンド事業について、社会福祉学科内でのボランティア募集及び登録活動への補助を行い、登録ボランティアをコーディネートした。

長崎児童相談所一時保護所での学生アルバイトをコーディネートし、1名が子どもの支援活動に携わった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎県児童相談体制強化のためのスーパーバイザーに就任し、2021年11月に西海市でヤングケアラーに関する講演会を行った。この講演会に参加していた長崎県社会福祉士会研修担当者より後日連絡があり、2022年度に同会での研修講師を依頼されている。

研究・研修の実施においては、QSP加盟機関である活水女子大学、長崎県、佐世保市等と協働している。

教育に関しては、「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」の担当教員講習会に参加し、全日程を修了し専門科目群担当教員資格を得た（2021年10月30日～11月2日の4日間、主催：日本ソーシャルワーク教育学校連盟）。

7．受賞等

令和3年度　長崎国際大学学長特別表彰（研究種目：基盤C）

8．活動全般についての自己点検・評価

2021年度においては、社会福祉士・スクールソーシャルワーク実習や現場研修等の機会を通じて、長崎県内の児童福祉専門職と知り合う機会が増え、調査研究への協力や学生アルバイト・ボランティアの受け入れ等につなげることができた。実践現場と協働した研究を進める上で貴重な人間関係を構築することにつながったため、今後もその関係性を大切にして教育研究に努めていきたい。

研究面では、今年度は主に調査の実施（インタビュー及びタイムスタディ）に時間を費やしたため、研究及び学会発表は1回ずつとなったが、この調査結果の分析を進め、次年度は研究成果の公表をより活発におこなっていく予定である。

教育面では、上述の通り現場と協力しながら学生の育成に努めた。社会福祉士やスクールソーシャルワーカー養成を中心に、実践力を高める指導に努めるとともに、国家試験合格支援プログラムやゼミを通して、コロナ禍での学生への個別指導や支援にも力を入れた。

大学運営面では、入試・募集委員としてオープンキャンパスや入試業務への積極的な協力、入試作問の責任者等を務め、高校での出前講義も担当した。また、学科内でも社会福祉士・スクールソーシャルワーカー実習の担当者として責任を果たすとともに、3福祉士の模擬試験実施責任者として役割を全うした。

地域貢献においては、前述の通り現場の研修会や審議会等において、児童福祉の立場から情報提供を行ったり、実践者同士をつなぎ実践の質を向上させるための取り組みにおいて役割を果たすことができた。

次年度も、今年度の各方面での成果を踏まえつつ、よりよい活動に向けて取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 准教授　　氏名 大畠　啓

1．教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境（経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体）から捉える視点を獲得することである。

複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	90/60(前期)	4	6	⑦⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	8	⑥
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	7	⑥
社会の理解	15/15(後期)	2	14	②
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①④⑥
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	12	①⑤⑥
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	36	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	33	⑧⑨
社会福祉原論B	15/15(前期)	2	74	②
社会福祉原論A	15/15(後期)	2	62	②
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	43	⑪
社会学概論	15/15(前期)	2	157	②⑤
専門演習A	15/15(前期)	1	7	⑥
社会学	15/15(後期)	2	147	②

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
まちづくりマネジメント特講	7/15(前期)	2	2
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2	5

人権思想・社会福祉史特講	15/15(前期)	2	2
人権思想・社会福祉史特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（人権思想・社会福祉史）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度学部・大学院では、昨年度とほぼ同様の授業を担当した。今年度もコロナ禍対応のため、座学の授業では対面と遠隔授業のハイブリッド形式を取った。遠隔授業においては、教科書をまとめたプリントの説明をパワーポイントで録画して、youtubeで配信するという方法を取った。基本的な内容を録画内容で伝え、それの理解を助けるためにイラストや図、データ等を載せた印刷資料も配布した。授業の冒頭に前回の授業内容を振り返る小テストの解説を毎回行い、宿題の小テストをマナバに提出させることで出席を確認した。配信の時間を50分程度に制限して集中力の減退を防ぎ、配信と印刷資料を組み合わせて理解を助けた。「社会学（福祉）」は今年度唯一の授業アンケート対象科目であったが、例年大人数の授業であり、遠隔授業の形式に適していた。「社会学概論」は観光学科の教職科目であるが、この授業も比較的自由な内容のため、遠隔授業に適していた。「障がい者スポーツ（オムニバス）」は、今年度も取りまとめを担当し、コロナ禍のなか外部講師の日程調整を適切に行った。「社会福祉原論AB」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施した。「社会の理解」は対面形式の授業が好評であった。「卒業研究」と「専門演習AB」では、できるかぎり意見交換の時間を取り、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう務めた。大学院の科目は遠隔授業においても院生に資料作成を義務づけ、その資料をもとに丁寧に指導することを心掛けた。今年度は主指導の形で担当する院生はいなかったが、地域マネジメントの副指導院生で量的調査を行う予定の院生が1名いたため、調査のスキルと知識を伝達するのに多くの時間とエネルギーを費やした。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・フランクフルト学派の社会理論研究
・介護職の社会的承認に関する研究
・医療/福祉の現場における多職種連携の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

山田陽子著『働く人のための感情資本論－パワハラ・メンタルヘルス・ライフハックの社会学』／2022年3月31日／西日本社会学会年報／113頁～114頁／単著／書評

アクセル・ホネット著『社会主義の理念－現代化の試み』／2022年2月19日／図書新聞／3頁／単著／書評

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	社会福祉学科の学生募集のために、オープンキャンパスの催事を企画し、学科の定員充足に貢献した
広報委員会	副委員長	社会福祉学科の学生募集のために、広報催事を企画し、学科の定員充足に貢献した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席

2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
平戸市社会福祉協議会　役職員研修会	10月22日	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	平成29年年度～現在に至る	佐世保市
佐世保市地域福祉計画推進委員	委員	令和2年度～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

勤務8年目。昨年と同様、コロナ禍に対応する遠隔授業の準備に多くのエネルギーと時間を費やした。また来年度以降も、学科のコース制開始や社会福祉士のカリキュラム改正を受けて、授業準備に多くの時間を取られることが予想される。昨年来の経験を活かして、授業の準備作業や運営をスムーズに行いたい。コロナ禍のもと、スケジュール管理に苦慮してきた「障がい者スポーツ」であるが、今年度は教務課の協力を得て問題なく運営することができた。あとコロナ禍の影響で、OCの進行の仕組みが午前プログラムを中心に大きく変わり、その対応に試行錯誤を重ねたが、何とか無事終えることができた。研究面では関西社会学会の学会誌に論文を投稿した。その他に週間書評誌の『図書新聞』に、専門書籍の書評掲載が決まったことは感慨深い。また本年度は、新しくできる「コミュニティーコース」の運営委員長を担務した。現在はコース開設の準備を手探りで進めている。PRポイントとしては、学科のトピックスニュースの掲載本数が25本を超えたことを挙げたい。掲載本数を以前に比べて大幅に増やすことができた。広報委員として学科教員の協力に感謝したい。本年度は学科教員の入れ替わりも少なく、一体感を持って学科運営がなされた印象がある。来年度はこの連帯感を梃子に、学科として攻勢をかける年としたい。コロナ禍のもと厳しい学科運営が続くが、来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標（定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など）の達成を目指したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和３(2021)年度

学科 社会福祉　　職名 准教授　　氏名 韓　榮芝

１．教育理念

教育の理念は、以下のような３点を主にとしている。

・学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。

・コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。

・学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	1/60(前期)	4	5	⑦⑫
地域福祉論A	1/15(前期)	2	60	①②③⑧⑨⑩
地域福祉論B	1/15(後期)	2	53	①②③⑧⑨⑩
専門演習A	1/15(前期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習B	1/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究【福】	1/30(通年)	4	8	⑧⑨⑩⑫
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1/15(後期)	2	59	①②③⑧⑨⑩
相談援助実習指導ⅡA	1/15(前期)	1	5	①④⑧
相談援助実習指導Ⅰ	1/15(後期)	1	7	①⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	1/15(後期)	1	5	①④⑧
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/2(前期)	1	36	①④⑤⑧⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/5(後期)	1	33	①④⑤⑧⑫
教養セミナーA【福】	1/15(前期)	1	7	①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	1/15(後期)	1	7	①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
中国語ⅠA	1/15(前期)	1	19	①②③⑧⑨⑩
中国語ⅠB	1/15(後期)	1	11	①③⑦⑧⑨⑩
中国語ⅠA	1/15(前期)	1	29	①②③⑧⑨⑩
中国語ⅠB	1/15(後期)	1	23	①③⑦⑧⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	1/15(前期)	2	3
事例研究(地域福祉計画)	1/15(後期)	2	4
特別研究【2年生　通年】	1/30(通年)	8	0

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業満足度（地域福祉論A3.8、中国語1A4.3と中国語1B4.0、地域福祉と包括的支援体制13.7）から1年生の地域福祉と包括的支援体制1は新カリで国家試験(SW/PSW)受験資格を取るため のでなく、卒業必修科目としている。受講生に理論的知識を得るのみ ならず現場での理論を実践に結ぶつけるようなことも取り入れている 。そのため、VDVによる動画やゲストスピーカーの授業を受けたり、 授業毎に次の授業内容を受講生に知らせレジュメに図やグラフなどを 取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポートを課したり、授業後で振り返りも行った。アンケート評価を受けて、授業担当者として、まず学生らが自ら学修意欲を高めていくため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫していかなければならない。また、学生の学修意欲(興味)を喚起させていくために、学生が何かを求め、困りごととは何かを対話通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。さらに、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように講義を進めていくことが大事だと感じる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学　佐世保校	中国語1Aヒヤリングと作文	2/15(前期)	2	2クラス計 32名

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
保育士講座	1	8	2021年6月15日
社会福祉士　試験合格対策講座（韓ゼミのみ）	12	6	月1回土曜午後
日本語能力試験対策講座　前期	4	10	隔週木6限

３．研究活動

(1) 研究テーマ

学長裁量経費①：卒業生ネットワーク強化による地域の福祉人材確保
学長裁量経費②：三川内焼を対象とするユニバーサルー・ツーリズムの可能性の調査（3年目）
継続研究：「高齢者の持続可能な在宅生活を維持するための包括的支援体制づくりに関する研究」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査」 ―バリアフリー及びユニバーサル・デザインに関する―／2022年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要／11頁～21頁／共著／論文

多言語ニーズとその対応の改善について ～三川内焼地区のバリアフリー化の可能性の調査を通して～／2022年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要／22頁～32頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	留学生の生活指導や相談、アルバイトの斡旋など、海外の大学との交流、紹介などを行なった。
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメント対策委員会の内容の周知や相談員として学生たちの相談などを行なうことになる。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学社会福祉学会委員会	委員	学会の総会、研究発表会などの企画、運営、通訳、広報、プログラム作成、司会などの担当 研究紀要の編集、ニュースレターの編集作成など
社会福祉学会九州地域部会実行委員会	委員・会計担当	大会の運営、企画の参加、チラシー作成、会計の担当など

(3) 課外活動の指導等

書道サークルの顧問など

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

海外の提携大学との連絡調整、留学生の大学院入学の紹介、入学前の指導などを行なったこと。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	後日出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	後日出席

2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	後日出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県日中親善協議会	審査員	毎年2月に長崎県が開催される中国語コンクールに審査員として参加する	長崎県　県知事
佐世保市都市政策協議会	副会長	年に数回佐世保市都市政策に関わる諸事項に関する審議会に出席・審議を行う	佐世保市長
西海市社会福祉協議会	評議員	年に数回西海市社協が開催する会に出席し議案や報告会に参加	西海市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・早岐警察署との連携による留学生の日常生活支援活動
・早岐警察官との連携における地域高齢者の交通事故に関する研究活動
・佐世保市社会福祉協議会地域講演会参加の募集や学生らを引率するなど
・地域の高校生や地域住民にオンラインで中国語基礎講座の開催。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
長崎国際大学社会福祉学会第17回研究発表会	上海大学の講師をお招きし、シンポジウムに参加、先方の大学院生らも数名参加	2021年6月26日	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

（教育）ゼミ生（1–4年21名、内留学生3名）の他未入国留学生を含め卒業研究論文の指導、授業の出欠確認及びオンライン授業の対応などきめ細やかな対応を行い、必要に応じて個別面談や指導に努めたこと。授業（大学院含）は前期10と後期12コマの他、実習巡回指導、ゼミでの国試勉強会の実施等を行なった。海外留学生の学部や大学院への進学を増やすために務めた。課外教育として、日本語講座（1コマ）を開催し留学生の語学力向上に努めた。（研究）学長裁量経費を活用し、その研究調査結果を報告書の発刊や学内学会紀要に投稿した。全学ではハラスメント委員や国際交流委員会の委員に務め、学内学会委員として、学会研究発表会の企画、司会、通訳などを取り組んでおり、研究紀要やニュースレターの編集を担当。（社会貢献）早岐警察署の警察との連携、西海市社会福祉協議会の審議員とし、佐世保市都市計画審議会副会長に努め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトなどに参加。長崎県中国語コンクールの審査員とし、高校生や地域住民にオンラインで中国語講座の開催。（大学運営）全学国際交流委員として、上海大学との共同研究・海外短期研修の企画案や運営などに努める。学科委員会では、実習委員会、学生支援委員会、学内学会、ボランティアセンター、教養セミナー委員として努め、書道サークルの顧問や、ゼミ生らを引率し伝統のある佐世保独楽展の参加や連携を図った。今年は、コロナ鍋の影響で、海外との研究活動や地域貢献活動に積極的に取り組むことができなくて遺憾に感じた。これからは色々と工夫して図りたいと考え、また、学生らの授業の対する満足度を高めるように研究と教育を両立させていくことに努めたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 浦　秀美

1．教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観（介護観）を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸にしつつも最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅱ	30/30(後期)	2	16	①⑫
介護実習Ⅲ	60/60(前期)	4	4	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習（介）	3/15(通年)	1	3	①④⑪
生活支援技術ⅡA	15/15(前期)	1	6	②⑨⑪
介護実習Ⅰ	60/60(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護概論ⅠB（2020以前入学生）	1/15(後期)	2	0	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅢA	15/15(前期)	1	11	②⑤⑦⑨⑩⑪
生活支援技術ⅣB	15/15(後期)	1	9	①④⑧
介護過程ⅡA	15/15(前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑨
共通福祉演習	4/15(後期)	1	60	①②⑤⑥⑩
介護総合演習Ⅱ	15/15(後期)	1	16	①④⑤
生活支援技術ⅢB	15/15(後期)	1	9	②⑤⑦⑨⑩⑪
介護過程Ⅰ	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑨
介護概論ⅠA	15/15(後期)	2	61	④⑤⑨⑩
介護概論ⅠA	7/15(前期)	2	3	④⑤⑨⑩
介護概論ⅠB（2021入学生）	8/15(後期)	2	11	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅣA	15/15(前期)	1	10	①④⑧⑨
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	7	①④⑤⑥
専門演習B	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥

介護福祉論	15/15(前期)	2	10	②⑤⑦⑨⑩
介護援助技術	15/15(前期)	1	9	②⑥⑦⑩
介護総合演習Ⅰ	15/30(通年)	2	9	⑤⑥⑦⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

介護過程ⅡA

利用者からの情報収集、職員からの情報収集、収集事項の整理、整理したことの文言化という、複雑でかつ現場で求められている技術を展開する科目である。そのため、演習については、これまでの授業形態を大幅に見直し、より実践力を高めるための授業展開に変更した。演習シートも実際の現場で使用されているものを活用し、シート作成における留意点なども解説を加えながら展開した。

その結果、評価全般において、かなり低い評価を受けてしまったことは反省すべきことであると考えており、さらなる教材研究をしていかねばならないと反省しているところである。

これまで他の科目においてもこのような低値の評価は受けたことがなく、自分自身も戸惑いを隠せないでいる。グループディスカッションの時間も確保しており、ディスカッションの様子も良好であった。授業時最後のまとめでもポイントをパワーポイントを活用して押さえていたため、一定の評価だろうと考えていた。

考えられることとすれば、機材の不具合が多少あったことが筆頭に挙げられる。対応として、後日、紙媒体での資料配布やmanabaでの資料配信などを追加で行ったことが受講学生のモチベーションを下げてしまったかもしれない。

授業そのものの工夫と見直し、さらに機材の動作確認等を確実に行いながら、次年度、本科目を担当することができるのであれば、このような低値の評価とならないように一からやり直しを行っていきたいと考えている。

尚、留学生からの評価は良かった。ただし、留学生は一名のため、教員への気遣いや、特定されない形式とされつつも特定される状況であるから本音の部分はこの結果からは読み取ることはできないものとして認識している。

生活支援技術ⅣA

本科目は演習科目で、限られた状況の中で実践も取り入れながら展開ができた科目であった。演習科目であるため、知識だけでなく技術の習得も視野に入れ行った。また、利用者のプライバシーや羞恥心・自尊心にも配慮する項目であったため、それらについても授業の中で常に伝えていたことにより、利用者の尊厳の保持を意識した実践についても学び取ってくれていたと考えている。

改善要望もなかったが、次年度に向け一点、工夫の必要がある。それは、学生の準備学修である。オンライン授業も実施したため、解説動画を配信した。視聴回数を確認すると受講学生数よりも多い回数の視聴があったため、学生各自である程度の復習はできていたものと考える。ただ、評価平均値は低かったため、復習に限らず、いかにして予習にも取り組んだうえで授業に臨むようになるのかを検討していきたいと考えている。

本科目は介護技術の習得という意味合いもあることから、介護実習にも連動が必要な科目である。実習の事前準備に本演習が関連していることを今まで以上に受講学生に伝え、予習や復習が重要であることを認識づけていきたいと考えている。

介護福祉論

自由記述にわかりやすい講義だったというコメントをもらえたことはよかった。また、授業の際、適宜分かりづらさの有無について確認を行なったが、その時点でもわかりやすいというコメントが多かったた

め、授業内容が伝わったと評価している。
質問への回答もその都度行なっていたが、しづらさがあったことは否めない。
次年度はおそらく対面でのリアルタイム講義が展開されるため、今回回答された評価、授業時に回答されたコメントを参考に受講学生にとってわかりやすく、興味が持てる科目にしていきたいと考えている。

教養セミナーA
本セミナーは概ね良好な結果となった。
学生と教員とのつながりを強く感じたクラスであったが、セミナー学生同士でもメッセージ等でやりとりを積極的に行なっていた。そのやりとりは互いの成長につながるやりとりに終始していたことも功を奏した。ビブリオバトル等は協力し合い、学生独自のミッションを設定するなどして、自発的に楽しみながら充実したセミナーであったようだ。
教員の学生へ対するフォローは当たり前のことであるが、学生が学生をフォローしたり、全体で取り組めるように巻き込み合う展開が印象的だった。
今後も共通シラバスを活用しつつ、目的意識の高い学生にはある程度専門的な話も関わりの中で提供し、これから目標設定する学生にも向き合いながら関わっていきたいと考えている。

生活支援技術ⅣB
まず反省すべき点は、アンケート回収率の低さである。
日程の案内、提出期限（時間まで）の連絡もmanabaやオンデマンド授業の動画内での案内を十分に行っていたと思っていたが、受講学生にとっては十分ではなかったのかもしれない。また、アンケート回答締め切り日と科目最終の課題提出期限日が近く、課題提出のための取り組みを優先したのかもしれない。
本演習は接触を伴う演習が含まれる科目であり、今年度も前年度同様に授業展開の工夫が必要な科目であった。授業展開そのものに不安や不満を訴える学生は少なかったように考えている。
次年度は対面での授業で展開されることが予測されるが、接触については配慮・考慮が必要になってくることも予測されるため、授業研究をこれまで以上に行った上で展開し、授業アンケートも実施しながら、授業展開のあり方について検証をしていきたいと考えている。

生活支援技術ⅢB
本演習は科目履修学生数は11名だが、休学の学生や欠席回数の多い学生がおり、正味9名の受講学生と行ったものだった。学生の出席率も比較的良く、少人数特有の結束が生まれている科目でもあった。
演習内容や展開もある程度パターン化していたため、準備も迅速に取り組めていた。接触の制限がある中での取り組みが余儀なくされた科目の一つであるが、学生のモチベーションを継続させるように、その都度授業で実施したいことを確認しながら行った。
学生は接触のある演習に制限がありつつも知識獲得に貪欲に取り組んでいた。また、本演習は後期科目のため、次の学年での学修の取り組み、向き合い方についても多くの時間は設けられなかったが受講学生全員で意見交換ができたことはよかった。学生間の関係性が良好だったこともあり、事例等の課題に真摯に向き合い取り組んでいた。
予習・復習についての働きかけが不足気味であったこと、復習をしている認識が受講学生にあまりなかったことは反省点である。働きかけ方を工夫していきたいと考えている。

介護過程Ⅰ
本演習の授業アンケートは2019年度に実施していた。19年度と比較しても、今年度は良好な評価を得ることができた。
シラバスに提示している授業内容について、授業の進捗状況と共にこまめに学生へ伝えることを重視しながら展開した。
また、新型コロナウイルス感染症の感染予防に最大限の配慮を行いながら、グループワークも展開させた。ワークに取り組ませる際も、できる限り学生の主体性を尊重し、学生間で意見を交わし合わせる機会を意図的に多く設けた。
ワークに慣れてくることで、自身の発言内容が相手に伝わっているかの確認や、相手の発言への質疑な

どができるようになった学生も多く、役割分担も教員が介在しない中で行えるようになっていた。
介護福祉士国家試験の出題科目であることから、含むべき教育内容を網羅しながら、国家試験の出題傾向等の情報も伝えつつ、事例を検討させ、検討事項をまとめ、発表させ、意見交換をさせるという方法が学生にとっては有用性を感じたのであろうと考えている。
現時点で受講学生の殆どは福祉現場での就職を視野に入れて様々なことに取り組んでいる。また、自分自身にどのような力をつけていたほうがいいのかということも真摯に考え受講していた。受講時間前後にも学生と教員でコミュニケーションを図る時間が自然発生的に設けられていたことから、教員も学生の学修ニーズをつかみやすかった。また、どんなことでも教員に質問してみよう、確認してみようと思わせるような関係性を構築できたことも、本演習の高評価につながったものと考えている。
反省点としては、今回初めてweb回答にて実施したが、回答率の低さを挙げる。年明けにアンケート実施を計画し、遠隔授業になったため、manabaやメッセージ等で回答への協力を要請したが、十分に伝わっていなかったり、回答期間までに提出ができていなかったようだ。アナウンス方法について今後も検討していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専修学校	食介護論	1/15(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護
介護福祉
介護福祉教育
介護福祉士養成教育
福祉分野における現場実習と教育
福祉分野における人材養成（育成）
認知症ケアモデル
介護人材育成
介護福祉士に対するオンライン研修システム
介護実習における実習施設と養成校との連携

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	1	1	40万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

精神保健福祉士国家試験模擬問題集＜専門科目＞2022／共著・編著／2021年7月25日／中央法規出版株式会社／18

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎県地域医療介護総合確保基金補助金（介護福祉士養成施設入学者確保支援事業）	長崎県	2021年7月31日～2022年3月31日	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	・長崎国際大学論叢査読者の選出 ・学術研究報告会の報告者及び座長の選出 ・学術研究報告会の運営
社会福祉学科運営委員会	委員	・学科会議に関する事項（資料確認、審議事項・報告事項の精査、審議・報告事項に係る教員への連絡調整） ・社会福祉学科教員から提出されたシラバスのチェック
介護福祉クラス委員会（ケアワークコース運営委員会）	コース長、教務に関する主任者	・介護福祉クラス運営に関する事項：①介護福祉クラス辞退学生に係る業務（状況把握、確認、面談、委員会での協議資料作成等）、②介護実習に係る業務（実習受入内諾文書を基にした配属先の編成、受入不可に伴う実習先の再開拓、再編成、実習担当教員との情報共有、委員会資料の作成、協議）③長崎県介護福祉士養成施設等人材確保事業に係る業務（計画書の作成、計画に基づいた動画作成、委託業者との連絡調整をはじめとした連携、委員会での報告）④介護福祉士養成施設協会、及び介護福祉士大学連絡協議会に係る業務（アンケートへの回答、メール配信内容の委員会構成員との共有）⑤定例学科会議・臨時学科会議への審議・報告事項の上程
国家試験合格支援委員会（介護福祉士部会）	委員	・委員会への参画 ・模擬試験に係る業務（教室確保依頼、受験料払込業務等の手続き全般）
教養セミナー部会	部会員	・部会への参画 ・部会による検討事項についての発議 ・次年度専門基礎演習クラス配属検討 ・次年度1年生オリエンテーションスケジュール、内容検討、精査

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①外部での会議や検討会、セミナー、講習会、非常勤等で随時広報活動を行った。

・介護人材確保事業（長崎県）会議時
・介護福祉士養成施設入学者確保支援事業（長崎県）
・介護実習新規開拓訪問時
・介護実習巡回時
・介護実習指導者講習会時
・介護人材確保事業時
・非常勤講師時
・高大連携事業時
・出張講義時　　等々

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
11	9

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県庁リクルートガイダンス	2021年5月12日（水）	オンライン	長崎県
キャリア教育セミナー事業	2021年7月7日（水）	長崎県立西彼農業高等学校	長崎県立西彼農業高等学校

令和3年度介護福祉士実習指導者講習会	2021年10月2日（土）、10月3日（日）	オンライン	公益社団法人日本介護福祉士会、一般社団法人長崎県介護福祉士会
令和3年度出張虐待防止セミナー	2021年10月19日（火）	オンライン（佐々町社会福祉協議会）	長崎県社会福祉協議会
令和3年度介護人材育成・確保対策地域連絡協議会　長崎国際大学広報催事コラボ事業	2021年11月10日（水）	オンライン（長崎国際大学）	長崎県介護福祉士会
令和3年度出張虐待防止セミナー	2021年12月6日（月）	佐世保祐生園	長崎県社会福祉協議会
令和3年度虐待防止講座	2021年12月9日（木）	社会福祉法人民生会ほがらか会館	社会福祉法人民生会
令和3年度やまずみ荘介護福祉士国家試験受験対策	2021年12月9日（木）	特別養護老人ホームやまずみ荘	特別養護老人ホームやまずみ荘
令和3年度出張虐待防止セミナー	2021年12月15日（水）	オンライン（社会福祉法人啓生会）	長崎県社会福祉協議会
令和3年度虐待防止講座	2022年1月21日（金）	社会福祉法人長崎慈光園	社会福祉法人長崎慈光園
令和3年度出張虐待防止セミナー	2022年1月26日（水）	オンライン（新上五島市社会福祉協議会）	長崎県社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本介護福祉学会	評議員	2019年9月～2022年総会開催まで	日本介護福祉学会
令和3年度介護現場における多様な働き方導入推進事業実施業務委託に係る落札者決定基準	学識経験者	2021年4月1日～2022年3月31日	長崎県
令和3年度高齢者虐待防止ネットワーク委員会	委員	2021年4月1日～2022年3月31日	佐世保市
佐世保県北県域介護人材育成確保対策地域連絡協議会	委員	2021年4月1日～2022年3月31日	長崎県
社会福祉法人　サンホーム江上入所検討委員会	第三者委員	2021年4月1日～2022年3月31日	社会福祉法人江寿会（サンホーム江上）
社会福祉法人　あい里理事会	理事	2021年4月1日～2022年3月31日	社会福祉法人あい里
長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ作成推進会議	委員	2021年4月1日～2022年3月31日	長崎県
日本介護福祉学会	理事	2021年9月～2023年総会開催まで	日本介護福祉学会
令和4年度高齢者権利擁護推進員養成研修運営作業部会	委員	2021年3月29日～	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2021年度（令和3年）学長裁量経費SDGs推進奨励制度に申請し、「オンライン介護福祉人材育成inASEAN」として定期的なミーティング開催を行い、活動を進めた。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度も四つの軸を設定し、前年度よりも少しでも向上するための行動変容を視野に入れた取り組みを意識した。反省も含めた評価として、以下のことを述べていく。

教育面：①対面及び遠隔授業の授業満足度を向上させる。②コース制導入に伴う介護福祉士養成課程カリキュラムの進捗の随時把握と学生の負担感軽減に向けた再編成を模索することを目標に掲げ取り組んだ。
①については、介護過程ⅡAの評価が著しく低下してしまったことが反省点である。新たな試みを実践した結果であるため、検証し、次年度は改善できるよう授業研究を継続させたい。他の科目については、概ね平均値を上回る結果を得ることができた。学生の学修ニーズを把握した上での授業展開や関わりをこれまで以上に重視して取り組んでいきたいと考える。②専任教員同士の連携を図ることに努め検討が継続できたものと考えている。
研究面：①20年度学科共同研究の成果を執筆し教育基盤センター紀要へ投稿する。②21年度学科共同研究の成果執筆にむけての基礎研究を行う。③社会課題解決ITツール研究開発事業に係る基礎研究を行う。④中央法規出版株式会社から依頼される精神保健福祉士模擬問題を作成することを目標に掲げ取り組んだ。
①教育基盤センター紀要への投稿には至らなかったため、研究の成果を発表もしくは投稿を視野に入れて取り組むことを継続させていきたいと考えている。②現在も継続して文献収集等を実践しているところであるため、発表・もしくは投稿を目指していきたいと考えている。③定期的な開発業者とのミーティングを実施し、ソフト開発に向けての検討、プロット版へのアドバイス等を継続している。福祉業界と異なる業態の人々との意見交換やプロジェクトは自身にとって大変な学びと刺激となった。先方の求めがある限りプロジェクトメンバーとして注力していきたいと考えている。④執筆依頼があった時点で取り組んでいきたい。
社会貢献面：①学会や長崎県、佐世保市等の委員、②高齢者施設・障がい者事業所の理事や第三者委員、③県立高校や専門学校の非常勤講師・講習会講師、④社会課題解決ITツール研究開発事業に係るアドバイザー等の活動を全うすることを目標に掲げ取り組んだ。
①②④について、任命を受けた業務を滞りなく全うできた。③については、新型コロナウイルス感染症による蔓延防止措置期間に非常勤講師日程が組まれていたため、再調整も図ったが担うことができなかった業務もあった。加え、日本介護福祉学会の理事も担うこととなり学会構成員と連携を図り取り組んでいる。また、長崎県社会福祉協議会より依頼を受けた虐待防止研修会、社協の研修会から派生した事業所単独での研修会の開催依頼を引き受け、数多く取り組めた。
大学運営面：①ケアワークコース長、②介護福祉士養成課程の教務主任、③学科運営委員、④研究センター委員、⑤保育士講座委員長として、関係各所と連携を図りながら任務を全うすることを目標に掲げ取り組んだ。
①定期的な委員会開催、議題整理と運営について、学科長にもアドバイスいただきながら実施できた。次年度からは長を退くことになり、申し送りをしているところである。今後はケアワークコース運営が円滑に進むような努力を自身で取り組んでいきたいと考えている。②学科長や教務課と連携を図りながら課題

解決を図ることができた。様々な学生の要望、規程との兼ね合い、他の資格取得との関連などを学ぶ機会も得た。俯瞰で物事をみるということに留意し、学生のためのアイデアを提案することもできたと考えている。③構成員として議題整理に尽力した。③委員として学内論叢の査読者選考や学術研究報告会に係る業務を全うできた。次年度も委員を継続することから、今年度以上に取り組みを充実化させていきたいと考えている。④昨年度受講者からのオンデマンドでの繰り返し学修希望を受け、次年度受験に向けた講座開催に向け取り組んでいる。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 ｳﾞｨﾗｰｸﾞ ｳﾞｨｸﾄﾙ

１．教育理念

文化や性の多様性の尊重を含めて、グローバル時代において有資格の対人援助人材に求められる専門的な力量を身につけるために、個別にあるいは他者と共に主体的に取り組む機会を提供する教育に従事する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	90/90(前期)	4	3	①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅠA	15/15(前期)	2	53	①④⑤⑦⑨⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	3	①④⑤⑥⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑥⑩⑪⑫
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	4	①④⑤⑥⑩⑪⑫
社会福祉調査論	8/15(前期)	2	62	①④⑤⑥⑦⑨
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	4	①④⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	⑥⑦⑩⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	5/15(前期)	1	36	①④⑧⑨⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	5/15(後期)	1	33	①④⑧⑨⑪⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	7	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	②④⑩
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩
相談援助の理論と方法ⅡA	15/15(前期)	2	54	①④⑥⑨
相談援助の理論と方法ⅡB	15/15(後期)	2	26	①④⑤⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
障がい者福祉特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（障がい者福祉）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年より高い授業評価を受け、さらなる改善等に向けた取り組みはこのままの方向性で続けていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援	30	34	5/13、6/4・8・11、7/9・29、8/8・15・17、10/21、11/2・11・16・25・30、12/9・21・27・28、1/4・14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 多様性に配慮したソーシャルワーク
② 国際社会福祉

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	4	2	10	5	10	9	296万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解／単著／2021年4月／中央法規出版／全217頁

国際ソーシャルワークを知る：世界で活躍するための理論と実践／共著・編著／2022年3月／中央法規出版／未定

知症とともに生きる人々のための政策課題／共著・編著／2022年3月／日本ヘルスケアテクノ株式会社／未定

Remaking Social Work for the New Global Era／共著・編著／2022年3月／Springer／未定

新　MINERVA社会福祉士養成テキストブック　第6巻　ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ／共著・編著／2022年3月／ミネルヴァ書房／未定

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

多様性に対応できる能力を促すソーシャルワーク教育：専門的な諸基準と演習教育を中心に／2021年4月／ソーシャルワーク研究、第47巻第1号／25-36／単著／特集論文

子ども家庭支援コミュニティの形成と維持に関する研究／2021年7月／日本社会事業大学／全21頁／共著／報告書

ソーシャルワーク教育及び実践において人権へのコミットメントを再確認するために／2021年7月／ソーシャルワーク研究、第47巻第2号／86-92／単著／洋書紹介

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）ポリシーペーパー：ソーシャルワークと国際連合（国連）の持続可能な開発目標（SDGs）／2021年8月／日本ソーシャルワーカー協会／全6項／共著／翻訳

国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）・国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）ソーシャルワーク教育・養成のためのグローバル・スタンダード／2021年9月／日本ソーシャルワーク教育学校連盟・日本ソーシャルワーカー連盟／全19項／共著／翻訳

国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）・国際社会福祉協議会（ICSW）・国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ／2021年9月／日本ソーシャルワーク教育学校連盟・日本ソーシャルワーカー連盟／全3項／共著／翻訳

Globalization and the Future of Social Work Practice and Education／2021年10月／国際ソーシャルワーク学校連盟／全20頁／共著／報告書

九州西部地域の子ども・子育て支援ニーズ：子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に／2022年3月／長崎国際大学論叢、第22号／103-111／共著／論文

評価IR・研修部門からの現状報告：大学における学びの現状／2022年3月／長崎国際大学基盤センター紀要、第5号／98-107／共著／論文

九州西部地域の子ども・子育て支援団体の活動状況と子ども・子育ってニーズとの関連性：子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に／2022年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要、第15号／未定／共著／論文

多様な文化的背景をもつ地域住民（外国人等）に対する総合的な支援をコーディネートする多文化ソーシャルワークに関する調査研究／2022年3月／日本ソーシャルワーカー連盟／未定／共著／報告書

「子どものlife」にかかわる調査研究／2022年3月／九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム／未定／共著／報告書

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Globalization and Social Work Education in International Comparison／2021年4月／2021年ソーシャルワーク教育・社会開発国際会議

Globalization and Social Work: Curriculum Development for Global Social Work／2021年4月／2021年ソーシャルワーク教育・社会開発国際会議

グローバル化とソーシャルワーク教育に関する国際研究：国内外の動向／2021年6月／日本社会福祉教育学会第17回研究大会

九州西部地域の子ども・子育て支援ニーズと子ども支援団体の活動状況：子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に／2021年6月／日本社会福祉学会九州地域部会第62回研究大会

Life Needs of Children in Local Communities in Western Kyushu／2021年11月／第26回アジア太平洋ソーシャルワーク合同地域会議

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
International Study on the Development of Indigenous Social Work Models（代表継続）	日本学術振興会	2019-22年度	180万円
多文化共生ケアシステムにおけるグローカル・ソーシャルワークの理論的・実証的研究（分担継続）	日本学術振興会	2019-21年度	30万円
グローカル・ソーシャルワークによる多文化地域共生社会の構築（分担申請）	日本学術振興会	2022-24年度	
多様な文化的背景をもつ地域住民（外国人等）に対する総合的な支援をコーディネートする多文化ソーシャルワークに関する調査研究（企画委員）	社会福祉振興・試験センター	2021年度	0万円
ソーシャルワーク人材確保と新たな社会福祉士・精神保健福祉士養成に関する地域別意見交換会（代表申請）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	2021年度	4万円
「子どものlife」にかかわる調査研究（分担継続）	文部科学省	2018-21年度	0万円

卒業生ネットワーク強化による地域の福祉人材確保 崎国際大学学長裁量経費（代表申請）	長崎国際大学	2021年度	65万円
長崎県・佐世保市：IRに関する「人材育成」の連携について（分担申請）	長崎国際大学	2021年度	0万円
オンラインツアー等を利用した国際福祉教育の可能性に関する実践的研究（分担申請）	長崎国際大学	2021年度	0万円
研究開発タイプ産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出：認知症対策としての研究開発状況に関する調査（研究協力継続）	国立研究開発法人日本医療開発機構	2017-26年度	17万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学：ボランティアセンター運営委員会	委員	なし
全学：IRセンター	委員	なし
全学：教育基盤センター運営委員会	委員	なし
学科：卒業生等連携委員会	委員長	学長裁量経費事業として実習指導者講習会等の開催
学科：専門基礎演習部会	部会長	2年次生主任
学科：専門演習部会	部会員	なし
学科：卒業研究部会	部会員	なし
学科：ソーシャルワークコース運営委員会	委員	相談援助演習ⅡABの統括、新カリキュラム用の実習要綱・実習計画書・実習評価表等の作成、新カリキュラム説明会の実施
学科：コミュニティコース運営委員会	委員	なし
学科：国家試験合格支援委員会	委員	社会福祉士部会において合計169コマの総合演習・追加学修・集中講座の統括
学科：QSP担当委員会	委員	なし
学科：長崎県社会福祉士・精神保健福祉士連絡協議会担当委員会	委員	幹事校の社会福祉士担当として教育体制支援の外部助成事業の代表申請及び実施
学科：日本ソーシャルワーク教育学校担当委員会	委員	県代表校の社会福祉士担当として九州ブロック研究大会において基調報告
福祉作文コンクール担当委員会	委員	感染拡大防止のため中止
海外ソーシャルワーク研修担当委員会	委員長	感染拡大防止のため中止

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
全学：私立大学等改革総合支援事業対応策検討ワーキンググループ	メンバー	タイプ３において子ども育成専門委員会の副担当

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第1回オープンキャンパス学科紹介／7月20日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	11

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
ソーシャルワーク人材確保と新たな社会福祉士・精神保健福祉士養成に関する地域別意見交換会	12月4日	長崎国際大学	長崎県社会福祉士・精神保健福祉士養成校連絡会
新カリキュラムに向けた長崎国際大学と県内三大学共通の取り組みの経緯	2月18日	長崎純心大学（オンライン）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ソーシャルワーカー連盟国際委員会	委員	2015年6月～現在	委員長
国際ソーシャルワーク研究会	役員	2017年3月～現在	会長
アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）理事会	理事	2017年9月～2021年11月	選挙当選
日本ソーシャルワーカー協会国際委員会	委員	2018年8月～現在	会長
日本社会福祉教育学会査読委員会	委員	2018年11月～現在	会長
相川書房「ソーシャルワーク研究」編集委員会	協力員	2019年4月～2022年1月	委員長
日本社会福祉学会国際学術交流促進委員会	委員	2020年4月～現在	委員長
日本ソーシャルワーク学会理事会（国際委員会・研究推進第２委員会）	理事（委員）	2020年7月～現在	総会
日本ソーシャルワーク教育学校連盟	長崎県代表	2021年4月～現在	九州ブロック運営委員長
日本ソーシャルワーカー協会理事会	理事	2021年5月～現在	総会
日本ソーシャルワーク教育学校連盟・日本ソーシャルワーカー連盟「ソーシャルワーク教育・養成のためのグローバル・スタンダード」定訳策定共同ワーキンググループ	メンバー	2021年5月～2021年9月	WG長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
グローバル・アジェンダ枠組みが示す方向性：日本の移民・難民支援を一例に考える	年次大会分科会報告者	5月29日	オンライン	日本ソーシャルワーカー協会
ソーシャルワーク教育の新しいグローバル・スタンダードの可能性について検討する	年次大会シンポジウム企画者・コーディネーター	7月17日	オンライン	日本ソーシャルワーク学会
第6回アジア未来会議プレカンファレンス	分科会座長	8月26日	台湾（オンライン）	渥美国際交流財団

留学生と国際比較研究のためのワークショップ	秋季大会分科会共同企画者・グループモデレーター	9月12日	東北福祉大学（オンライン）	日本社会福祉学会
Student Experiences in Social Work Education and Field Training during the COVID-19 Pandemic	アジア太平洋ソーシャルワーク合同地域会議学生ワークショップ企画者・コーディネーター	11月12日	オーストラリア（オンライン）	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）
危機の時代におけるソーシャルワーク教育：グローカルな視点から	年次大会特別企画モデレーター	11月27日	オンライン	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
福祉と多文化共生：介護・福祉現場の多文化共生って何だろう？	セミナー講師	12月12日	出島メッセ	国際協力機構
国際的な舞台におけるソーシャルアクション：ソーシャルワーカーによる国連アドボカシーとSDGs	国際研究セミ企画者・コーディネーター	1月22日	オンライン	日本ソーシャルワーク学会
Examining the Updated Global Standards for Social Work Education and TrainingGlobal Standards for Social Work Education and Training	合同地域ワークショップ共同企画者・コーディネーター	2月19日	オンライン	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）
アジア諸国のソーシャルワーク：パンデミックを経験して	ワークショップ共同企画者・司会・グループファシリテータ	2月23日	オンライン	国際ソーシャルワーク研究会
多文化ソーシャルワークシンポジウム：統合的な支援のコーディネーション	世界ソーシャルワークデー記念企画共同企画者	3月13日	オンライン	日本ソーシャルワーカー連盟

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

長崎国際大学学長特別表彰

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動、研究活動、大学運営活動、社会活動、国際交流とも最大限の努力をし、上記の通り、本年度も数多くの実績を広範囲にわたって積むことができた。

その中で、特に力を入れ、評価できるのは、国家試験合格支援における取り組み、単著及び外書を含む複数の共著、新カリキュラム実習の発足に向けた諸活動、あらゆるシンポジウム等の数多くの隔週国際企画などである。

一方、コロナ禍の影響により、国内外留学等、課外及び広報活動、ボランティアなどは例年より少なく、今後の社会情勢に応じて増やしていく。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 野田　健

1．教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さをを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に応えていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	60/60(前期)	4	5	⑦⑫
就労支援サービス論	8/8(前期)	1	42	①⑥⑨⑩⑫
相談援助の基盤と専門職B	11/15(後期)	2	12	①⑥⑨
共通福祉演習	3/15(後期)	1	60	②⑤⑥⑧⑩
卒業研究【福】	30/30(通年)	4	10	⑥⑦⑫
福祉経営論	15/15(前期)	2	56	②⑫
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職（共通）	15/15(前期)	2	65	①⑥⑨
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職（社会）	15/15(後期)	2	60	①⑥⑨
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/15(前期)	1	36	⑧⑨⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	15/15(後期)	1	33	⑧⑨⑫
福祉の哲学・倫理	15/15(後期)	2	31	①②⑤
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	17	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	15	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩⑪

相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
相談援助の基盤と専門職A	15/15(前期)	2	20	①⑥⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	8	⑥⑦⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	8	⑥⑫
学際連携研究	2/15(前期)	2	214	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉政策経営特講	15/15(前期)	2	2
介護福祉特講	11/15(前期)	2	3
事例研究（福祉政策経営）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生アンケートによる授業評価は、5点満点中、前期「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）」は概ね4.5点、「相談援助演習ⅡB」は概ね4.7点、後期「ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）」は概ね〇点、「福祉の哲学・倫理」は概ね〇点であった。結果、一定の評価はできると判断する。
また、今年度も昨年度同様新型コロナの影響による遠隔授業導入があったが、昨年度の経験を活かし、ある程度滞りなく授業の準備・実施が行えた。ついては、最低限のハイブリッド授業実施のスキルは身に付いたと判断する。
今後は、より1科目ごとの授業内容の質向上、ハイブリッド授業のスキル向上に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学修時間、国試付添等）	34	34	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①介護福祉士の専門職性の検証
②社会福祉士養成における実習指導のあり方に関する研究
③ボランティア体験による学生の成長に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	学生生活を守るために、委員会通常業務（会議運営等）を行ったほか、学祭や卒業アルバムに関する活動に尽力し、大学運営に貢献した。
スポーツサポートセンター	委員	主に強化指定部の競技力向上、地域スポーツ振興、スポーツ系学生支援を図るため、安全・安心部門の担当として、会議等に参加した。
学科運営委員会（学科内）	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まって議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
ソーシャルワークコース委員会（学科内）	委員	相談援助実習の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。また、新型コロナの影響により相談援助実習が中止になるリスク対策として、学内実習の整備を実施した。
国家試験合格支援委員会（学科内）	委員長	学生が国家試験に合格するために、委員会メンバーと様々な取り組みを立案・実施し、学生の国家試験合格率向上に努めた。
ボランティア研究センター（学科内）	委員長	地域から届くボランティア要請や研修案内を学生に伝達する他、学生の活動のサポートを行い、地域貢献を図った。

日本社会福祉学会九州地域部会・第63回研究大会運営委員会	委員	2022年7月に実施予定の日本社会福祉学会九州地域部会・第63回研究大会を開催するため、その準備を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部、副部長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラムの模擬授業を担当（2021年7月25日）
②第2・3回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラムのサポートの実施（2021年8月8・22日）
③福祉施設の求人掲載依頼に対応し、研究棟・manabaにて学生への情報提供を実施（通年）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（ベストプラクティス部門）（2021年6月30日）

８．活動全般についての自己点検・評価

活動全般を4つの項目に分けて自己評価すると、下記のとおりになる。なお、評価はS～D評価の5段階で表すことにする。

（教育）A評価　前期の2科目の授業評価は概ね4.5点のため、一定の評価ができる。
（研究）D評価　論文執筆のための調査・分析までにとどまった。
（社会貢献）B評価　今年度は昨年度同様に、外部とのつながりがなく、社会貢献活動は行なわなかったが、現在、社会福祉学科九州地域部会第63回研究大会の準備をしている。この活動を適切に実施していくことが大事である。
（大学運営）A評価　行事・委員会等はほぼすべて参加した他、従来の業務ではないものにも尽力する等、適切に業務を行った。しかし、以下に述べるとおり、国家試験合格支援委員の活動は反省が残る。
（国家試験）B評価　委員立案のプログラムの下、しっかりと活動が行えており、十分に評価できる。ただ一方で、4年前の大改正後、あまり変化がなく、学科内にも緊張感がなくマンネリ化してきており、全体の士気も下がっている。その状況を回避できなかった点が国家試験合格支援委員長として反省すべきで点である。

この5年間、大学教員として努めてきた。結果、「教育」は一定の評価ができるものの向上心が薄れつつあり、また「研究」は業績を積み上げ切れていない（科研0件）。理由は、「学科内業務に追われる」という言い訳からであるが、それにかこつけて、私の心の中に「学科内の士気・プロ意識が低い」「業務バランスがおかしい」といった醜い感情が芽生え、それによって生まれる「人のせいにする」心の弱さを改善できなかったことが一番の反省点である。また、一度ハラスメントに関する注意を受けたことから、問題が見えても、自分が第三者的な立場であれば関与せず「妥協してしまう」心の弱さを持ったことも反省点として挙げられる。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 久田　貴幸

1．教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることにも力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅱ	30/30(後期)	2	16	①⑫
介護実習Ⅲ	60/60(前期)	4	4	④⑤⑦⑪⑫
介護実習Ⅰ	60/60(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	323	①②⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑦
卒業研究【福】	15/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護過程ⅢA	15/15(前期)	1	4	①④⑤⑥⑪
介護概論ⅠA	8/15(後期)	2	61	④⑤⑨⑩
介護概論ⅠA	15/15(前期)	2	3	④⑤⑨⑩
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	18	②⑦
介護概論ⅠB（2021入学生）	8/15(後期)	2	11	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅣA	4/15(前期)	1	10	①④⑧⑨
介護概論ⅡA	15/15(前期)	2	11	④⑤⑦
障がい者スポーツ	4/15(後期)	2	43	⑪
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
介護過程ⅢB	15/15(前期)	1	4	④⑤⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑦
介護過程ⅡB	15/15(後期)	1	16	④⑤⑦
生活支援技術ⅠA	15/15(前期)	1	3	④⑤⑥
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術	15/15(前期)	1	11	④⑤⑦

地域の理解と連携	3/15(後期)	2	202	②④⑥
介護総合演習Ⅲ	15/15(前期)	1	4	④⑥⑩⑫
介護概論ⅡB	15/15(後期)	2	9	④⑤⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業は、対面とオンラインのハイブリッドで実施された。特に大きな混乱もなく実施することができた。
実施した授業に関して、学生からは一定の満足と評価を得たと考える。今後も学生の利益になる授業を展開するため邁進したいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	隣接医学	3/3(前期)	2	36

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

○介護福祉士養成における介護実習の教育的課題に関する
○介護現場におけるスーパービジョンに関する研究
○介護現場における教育プログラムの開発に関する研究
○福祉人材のメンタルヘルスに関する研究
○外国人介護労働者の現状と課題

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	240万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学術アドバイザリー契約	株式会社ディーエスブランド	2021.5.1～2022.4.30（1年毎の契約更新）	240万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	ボランティアセンター副センター長、副委員長	ボランティア活動については、新型コロナ感染症の状況を鑑み活動できなかったが、不定期で行われる会議において委員長の補佐を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	教養セミナーワーキンググループの構成員として、社会福祉学科の教養セミナーの取りまとめを行った。 初年次教育担当として、入学前教育に関する活動を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

駅伝部の顧問として、学生の引率等を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①長崎県介護福祉士養成施設入学者確保支援事業

以下の活動を長崎県より補助金を得て実施した

・介護福祉士養成施設　出張説明会

12月9日（木）　　長崎女子商業高校

・介護人材確保のための動画を作成した

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護職員中堅職員研修会	2021.9.28	ZOOM	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会（1日目）	2021.10.2	ZOOM	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会（２日目）	2021.11.13	ZOOM	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会（３日目）	2021.11.14	ZOOM	長崎県介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉協議会	委員	2019年度～（現在に至る）	佐世保市長
佐世保市地域包括支援センター運営会等議会	委員	2019年度～（現在に至る）	佐世保市長
佐世保市生活支援体制整備事業業務受託事業者の審査等に係る委員会	委員	2020年度～（現在に至る）	佐世保市長
特別養護老人ホームサンホーム江上　入所判定委員会外部委員	外部委員	2019年度～（現在に至る）	特別養護老人ホームサンホーム江上　施設長
長崎県介護事業所認証評価制度検討委員会	副委員長	2022年度～（現在に至る）	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、新型コロナ感染症による影響を受けながらも、できる範囲で新たな取り組みを行った。十分な成果をあげられなかった活動に関しては、来年度の課題として取り組んでいきたいと考える。

①教育活動

介護福祉士養成教育において、質の高い実践者を養成する目的で医療専門職をゲストスピーカーとして招へいしたり、自身の授業においても、福祉実践に必要な他領域の知識について教育する機会を設けた。学生からの声として、これまでの介護実践に対するイメージが良い方向で変化したとの反応を得ている。今後も新たな取り組みを行いたい。

②研究活動

今年度中の論文執筆には至らなかったものの、介護実践を行う介護福祉士・看護師・社会福祉士・介護支援専門員・理学療法士等に、今後の介護実践の質を高めるために必要な要因を探る目的でインタビュー調査を実施した。それを踏まえて、今後の教育及び社会活動に取り入れたいと考えている。

③社会活動

今年度も、介護福祉士会との連携のもと、様々な研修会で講師を務めた。また、来年度に向けて、地域の福祉施設に向けた教育活動に関する情報収集も行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 裵　孝承

1．教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力（連携）できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。この理念を実現するために、①多様性を知る＆理解すること、②お互いが分かり合うこと（コミュニケーション力を高める）、③社会現状（課題など）を、的確に分析し、社会福祉を探求すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	60/60(前期)	4	5	⑦⑫
共通福祉演習	3/15(後期)	1	60	①②⑤⑥⑩
高齢者福祉論	15/15(後期)	2	10	①②④⑤⑨
相談援助実習の理解	15/15(前期)	1	50	①②④⑥⑦⑩
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	11	③⑤⑨⑩
社会福祉調査論	8/15(前期)	2	62	①④⑤⑥⑦⑨
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑤
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	36	⑧
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	33	⑧
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	⑤⑥
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	7	②③④⑤⑫
相談援助演習Ⅰ	4/15(後期)	1	13	⑤⑦
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

おおむね、学生さんは授業に満足している。ただ、予習を促す授業の構成が必要である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学習時間）	15	34	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・介護支援専門員に対するサポートに関する研究
・（QSP子ども育成）に関する子ども・子育てニーズに関する研究
・実習指導者の実習指導を通した自己成長に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	5	5	305万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ケアマネジメント辞典／共著・編著／2021年11月／中央法規／368-369

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

介護老人福祉施設における医療的ケアを実施する介護職の現状と課題／2021／長崎国際大学論叢／111-119／共著／原著論文

九州西部地域の子ども・子育て支援団体の活動状況と子ども・子育ってニーズとの関連性 -子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に-／2022／長崎国際大学論叢／未定／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Life Needs of Children in Local Communities in Western Kyushu／2021年11月／26th Asia-Pacific Regional Social Work Conference

九州西部地域の子ども・子育て支援ニーズと子ども支援団体の活動状況 ―　子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に　―／2021年6月／第63回日本社会福祉学会九州地域ブロック研究大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究	日本学術振興会科学研究費補助金	2018-2021	130万円
ライフイベントからの研究復帰支援	長崎国際大学	2021	10万円
QSP子ども育成研究会	QSPこども育成	2021	50万円

卒業生ネットワーク強化による地域の福祉人材確保	長崎国際大学	2021	65万円
長崎県・佐世保市：IRに関する「人材育成」の連携について	長崎国際大学	2021	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職委員として、合同就職説明会、就職ガイダンスを企画し、学生の就職に貢献した。
安全衛生委員会	委員	学内の安全衛生のために、会議に出席し、必要な情報などを学科に説明した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP子ども育成研究会	共同研究員	QSPの実績のために、論文を2本投稿した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市人権施策審議員会	委員	2020年~現在	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

学長特別賞

８．活動全般についての自己点検・評価

本学の人材育成の方針である「面倒見のいい大学」を意識しながら、学生対応についてはどの業務より重要視しています。そのため、3年ゼミ希望者も多く、指導の結果が学生に認められたと考えております。また、国試対策支援にも積極的に協力し、学科プログラム以外にも自発的に学生の多様な面でを支援しています。また、若手研究者として研究の成果も計画通りに出しています。個人研究のみならず、学校のQSP「子ども育成」専門委員会やIR研究会の共同研究者として活躍し、その成果を出し、最終的には、原著論文として掲載予定にしております。ただ、個人の科研の進行がコロナの影響もあり、遅れていることは反省点であります。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 星野　秀治

1．教育理念

分野の先端の議論を学生に教授し、また、ゼミにおいて良質の本をもとにディスカッションすることで、卒業後も、自律的に学び続けることのできる能力を身につけることを目指す。また、国家試験の問題等も取り上げることで、専門職として最低限必要な体系的な知識を身につけることも目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
精神保健福祉援助実習B	25/75(通年)	5	9	⑫
更生保護論	8/8(前期)	1	40	①②④⑤⑨
法学	15/15(後期)	2	147	①②③④⑨⑩
精神保健福祉制度論A	15/15(前期)	2	21	①②④⑤⑨⑩
精神保健福祉制度論B	15/15(後期)	2	23	①②④⑤⑨⑩
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	36	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	33	⑧⑨
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	5/15(前期)	1	10	④⑤⑥⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	5/15(後期)	1	9	⑫
社会福祉総合演習（精神）	5/15(前期)	1	10	①⑦
社会福祉法制論	15/15(後期)	2	30	①②③⑨⑩
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5/15(後期)	1	6	①⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「社会福祉法制」の授業評価がよくなかった。教室を出入りする学生たちへの指導を十分にし、また、教育内容についても改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「社会変化と国民年金保険料の免除等の課題」「社会的孤立解決のDX」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	457万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域若者サポートステーションの利用者における他の支援機関の利用に関する研究	日本人間性心理学会 浅海記念研究助成（個人）	2020年4月から	28万円
障害者の自立生活を可能にする主体形成とライフヒストリーとの関連性に関する研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)共同	2021年8月～	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会（全学）	委員	タバコポイ捨て禁止運動や奨学金の認定など。
国家試験委員会（社会福祉学科）	委員	精神保健福祉士の受験指導や、社会福祉士の科目対策。
倫理委員会（社会福祉学科）	委員	審査を行った。

学部教授会運営（人間社会学部）	委員	1月2月3月の学部教授会の準備をした。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

各種オープンキャンパス等に参加した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特定非営利活動法人JACFA	理事	2015.04～	JACFA
児童相談体制強化	のスーパーバイザー・アドバイザー	2021年9月～	長崎県こども家庭課
佐世保市社会福祉協議会支援調整会議	委員	2020.06～	佐世保市社会福祉協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

RISTEXの2021年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（SOLVE for SDGs）に、七丈直弘・檜山敦・加藤孝弘らと、「社会的孤立解決のDX：ニューノーマルな就労エコシステムの創出」を提案し、二次選考（面接）まで進んだ。最終選考には残らなかったが、後日、内閣府の聞き取りを受け、研究グループとして、政権のすすめる「デジタル田園都市国家構想」に協力をしていくこととなった。
これらの一環として、社会的孤立者やその予備群の方々、ひきこもりがちな方々を仮想空間であるメタバースで支援するNLB（No one Left Behind）メタバースプロジェクトの第一回ワークショップを、2022年2月1日（火）14:00-15:30に開催した。
具体的には、役員を務めるNPOで受託している福岡市のひきこもり支援事業の居場所である「よかよかルーム」を物理的な拠点に、遠隔での参加者が仮想空間（Second Life）で交流をはかれるようにZOOMでサポートしていくという方法をとった。冒頭では、『セカンドライフの歩き方』（2007）等の著書があるデジタルハリウッド大学大学院の三淵啓自教授に、Second Lifeの基本的な使い方等について、レクチャーを受け、その後、仮想空間内での交流、相談室の利用等を試みた。
多少のトラブルはあったものの、ひきこもり支援事業や若者サポートステーションの当事者や相談員、福岡労働局等の行政関係者ら15名が参加して無事終了し、アンケートへの回答や感想をいただいた。メタバースを用いた若年無業者の社会的孤立の解決の試みは、世界的にも新しいものであり、今後、継続・拡大しながら推進していく計画である。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

学科研究費を頂き、フィリピンとZOOMで結んでの国際交流を企画し、先方と2回打ち合わせをしたが、コロナの影響で実施できなかった。

７．受賞等

2021年9月SDGｓ賞（学長裁量経費「SDGｓ推進奨励制度」）　長崎国際大学

８．活動全般についての自己点検・評価

RISTEXの2021年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（SOLVE for SDGs）は、最終選考には残らなかったものの、後日、内閣府の聞き取りを受け、政権のすすめる「デジタル田園都市国家構想」の一翼を担うこととなった（福岡県として試験的予算が4月からつけられ、半年後に本格稼働の予定である）。また、まだ製本されていませんが『新たな時代の社会保障法』という本に「社会変化と国民年金保険料の免除等の課題」を入稿しました。体調の回復期と言うことで、様々なご配慮を頂き、ありがたくおもっております。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 講師　　氏名 丸山　貴志

１．教育理念

本学の理念でもあるホスピタリティの探求・実現は社会福祉の人材育成において重要な内容である。
この教育理念のもと、ソーシャルワーカーには欠かせない多職種連携を積極的に進め、その中心的な立場でリーダーシップが取れ、そのうえで協調性があり協働できる人材育成を行う。
またいかなることにも積極的に自ら学び、解決策を導き出す力を身につけることができる人材の育成に取り組んでいきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	9	⑫
精神保健福祉援助演習（基礎）	8/15(前期)	1	9	①④⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	7	④⑤⑥⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑪⑫
精保相談援助の基盤（専門）	7/15(前期)	2	12	①②④⑤⑥⑨⑩
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	36	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	33	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	④⑤⑥⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑪⑫
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	14	⑤⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	10	④⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	9	⑫
精神保健福祉論	15/15(前期)	2	18	②④⑥
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	43	⑪
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅠB	15/15(後期)	2	50	①④⑩
権利擁護と成年後見論	15/15(後期)	2	63	①④⑤⑥
社会福祉総合演習（精神）	7/15(前期)	1	10	①⑥
精神医学B	15/15(後期)	2	25	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5/15(後期)	1	6	①⑥⑦
精神医学A	15/15(前期)	2	23	①④⑤⑥⑨

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの多くは肯定的な評価を得られたのだが、数名否定的な内容のものもあり、来年度に向けてとても参考になった。今年度アンケート実施した科目は国家試験の科目であり、半期で教科書すべてを終わらせないといけないため、しゃべっているだけ、読んでいるだけ、という印象を与えてしまったのだと反省している。また担当科目によっては、これまで学生があまりなじみのない少々複雑な内容も多く、わかりにくい、難しい内容だと感じさせてしまったのだと思われる。しかしほとんどの科目は、福祉の専門職として学んでいくうえでとても重要な科目であるため、今後は実践に近い内容の事例などを提示し、イメージしやすい授業内容を目指し、学生が興味を持って授業に参加してくれるように進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
精神保健福祉士国家試験対策追加学修	6	9	2021年10月15日、2021年10月22日、2021年11月19日
社会福祉士国家試験対策追加学修	4	36	2021年7月20日、2021年10月28日、2021年12月7日、2022年1月17日
学内実習に伴う学内講師担当	3	3	2021年9月8日、2021年9月15日、2021年9月17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・チーム医療の中のソーシャルワーカーの役割
・認知症医療連携について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	3	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

認知症医療と介護連携のための縦断型連携パスの有用性の検証／2017/09／DementiaJapan31／380-388／共著／論文

既存の精神科病院をつなぐ地域ネットワーク,熊本方式の現状と課題（特集 精神科病床における認知症治療：入院期間短縮を目指して）／2012/05／老年精神医学雑誌 23／568-571／共著／総説

複合慢性疾患連携パスの開発を目指した熊本県荒尾市における医療介護連携の促進／2021/01／日本認知症ケア学会誌／ 688-694／共著／研究ノート

在宅生活を続けるための認知症医療連携と生活環境がもたらす影響～熊本県認知症疾患医療センターの取り組みから～／2016/01／熊本学園大学大学院／2-41／単著／修士論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

悪質商法の被害に遭った経験のある認知症 患者について／2013/09／第3回認知症予防学会学術集会

熊本大学医学部附属病院精神科リエゾンチームの活動について／2018/11／第31回総合病院精神医学会総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	複数ある企画、課題などについて積極的に参加し、円滑な運用に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
実習要綱作成ワーキンググループ	委員	来年度よりカリキュラムが変更される社会福祉士、精神保健福祉士の実習について実習要綱の作成に取り組んだ。主に精神保健福祉士の実習要綱の改編、作成に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	－	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
精神保健福祉士実習指導者講習会	2022/2/19	オンライン（zoom）	長崎県精神保健福祉士協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域自立支援協議会	委員	2020年度～現在	佐世保市障がい福祉課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育について

精神保健福祉士の国家試験対策については、昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響で実習時期がずれ込んだり、学内実習になったりした。そのため、学修が遅れてしまった状況であった。しかし昨年度の合格率低下の反省から追加学修時間の方針を編成しなおしたことで、全体的に理解度も上がってことは実感した。実際に合格率が上がる結果につながった。担当ゼミについては、1年生は学生生活に不慣れな学生が多いため、メールや電話で頻繁に連絡を取り、学生の不安解消や意欲向上につながった。2年3年ゼミ生については、ゼミの内容を極力わかりやすく、また積極性を引き出すような内容にするよう心掛け、教育効果が現れたと感じている。また各担当授業は、昨年ほとんどが遠隔授業であったため、対面授業のための授業内容を再編し授業内の小テストや課題に工夫するなどして学力向上につなぐことができた。

研究について

以前所属していた職場での研究が論文化されており今後学会発表もされる予定であるが昨年度同様コロナウイルス感染症の影響で学会等の中止も多く、自らの論文発表には至らなかった。来年度は積極的に研究活動に取り組み、数多くの発表につなげていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 助教　　氏名 中村　尚生

１．教育理念

高等教育における教育理念および目標、ならびにそれらを達成するための方法論について述べる。

第一に、大学生が修学生活において自主性や創造性を涵養できるような教育実践をおこないたいと考える。特に、私の専門である障がい児・者の心の有り様や、その奥深さについて履修生や指導学生に教授したいと考える。それにあたっては、旧来の受動型の授業ではなく、アクティブラーニングによる教育形態を積極的に実践する。そのなかで、教員としてさまざまな問題提起をおこない、履修生などには主体的・能動的に学びの場に参加することを奨励したい。

次は、大学生の立場に立った教育を心掛けることである。具体的には、きめ細やかにコミュニケーションを図り、修学意欲を高めたいと考える。大学という高等教育機関における目標の最たるものが、学生の知的好奇心を刺激し、引き出すことであると考える。そのために、学生たちが“知的好奇心を持って学問を楽しく修める”きっかけを与えることは、大学教員の大きな役目だと認識している。また、よりよい修学環境を保障するために、障がい学生への合理的配慮を怠らぬように留意する。

次は、多様な価値観に開かれた人材育成をおこうことである。それにあたっては、障がいの有無や、国籍、世代の違いによらない多様な交流の中で、多様な価値観に触れ、既存の価値体系を再構築する機会を提供できるように、教員としても障がいに対する理解啓発を積極的におこなうことや、留学生との国際交流、世代の異なる地域の人々との交流を学生たちに奨励したい。

ここからは、教員として大学生をどのように支援するか、について述べる。

まず何より、学生の心に寄り添った支援を心掛けたいと考える。具体的には、臨床心理学を専門とする教員として、専門性を活かした知識、技法を用いながら、心理的な危機状態にある学生や障がいを有する学生に対して支援をきめ細やかにおこなっていきたいと考える。さらには、共生社会の実現やそれに伴う法整備が加速度的に推進される社会的状況と照らし合わせ、これまでの臨床実践の経験を活かし、合理的配慮の提供に伴う関係調整やコーディネートとしての機能を果たしたい。また、セーフティーネットとしての居場所作り活動を実践し、心理的な危機を抱える学生のゲートキーパーとしての役割を果たしたいと考える。さらには、ネットワークや相談資源を活用し、教員間で日頃より情報交換をおこなったり、キャンパスライフヘルスサポートセンターなどの技術職員との多職種連携を図ったり、緊密な連携や協力体制を構築し、より効果的な支援を提供できるように尽力したい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	60/60(前期)	4	3	①⑤⑦⑪⑫
心理学【観】	15/15(後期)	2	193	①②⑤⑦⑨⑩
児童心理学	15/15(後期)	2	31	①②⑤⑦⑨⑩⑪
特別支援教育	8/8(後期)	1	25	①②⑤⑦⑨⑩⑪
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	3	①⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	10	①⑥⑩⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	①⑥⑩⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	0/15(前期)	1	36	なし

社会福祉総合演習（福祉専門）	0/15(後期)	1	33	なし
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	5	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	5	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	①⑩
教職実践演習（中・高）	15/15(後期)	2	19	①⑥⑦⑩
臨床心理学	15/15(前期)	2	92	①②⑥⑦⑨⑩
臨床心理学	15/15(後期)	2	25	①②⑤⑥⑦⑨⑩
キャリア開発Ⅰ	5/15(後期)	2	232	①②⑥⑦⑩
障がい者スポーツ	2/15(後期)	2	43	①⑥⑨⑩
教養セミナーA【福】	15/15(前期)	1	8	①②④⑤⑥⑩⑪
教養セミナーB【福】	15/15(後期)	1	7	①②④⑤⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度のアンケート結果と比較し、履修生の満足度と理解度は概ね一致する結果が得られた。受講生の日常生活の経験と関連させながら、授業を展開したことで興味関心を高められたことや、履修生が学修到達度をその都度確認できるように小テストを複数回実施したことなどが本結果に肯定的に作用したと考えられる。一方で、履修生の準備学修の時間があまり確保できていなかった点がすべての担当した授業に共通していた。これに鑑みると、履修生が予習・復習の意義を感じられるような授業設計をおこなうべきだと考える。例えば、反転学習を取り入れ、授業課題が次回の授業内容と明確な連続性をもつように工夫したり、復習の必然性を高めるために随時試験を授業内で複数回実施したりすることが挙げられるだろう。また、社会福祉学との関連性を踏まえた臨床心理学の知識や技術を、授業内容に積極的に取り入れることで、学修意欲や知的好奇心を高め、授業外学修を積極的に推奨していくことも重要だと考えられる。また、特定の科目において、準備学修をおこなったものと、そうでないものが二極化していた。つまり、準備学修の意義を見出すことができていない受講生に対するフォローが必要だと考えられる。具体的には、準備学修の必要性を個別に丁寧に説明することや、授業課題について不明な点を解消し、学修意欲を引き出すことなどが挙げられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験受験予定者を対象とした教育面談（前期）	4	38	2021年5月28日、6月1日、8日
国家試験受験予定者を対象とした教育面談（後期）	4	23	2021年11月30日、12月2日、7日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

今年度は、自閉スペクトラム症のこだわり行動に対する支援方法の検討をおこなった。これまで自閉スペクトラム症の中核症状である社会性やコミュニケーションの障がいと比較すると、こだわり行動に対する研究は不十分であった。こだわり行動は、反復的・常同的な行動様式から興味関心の限局化といった広範囲にわたる概念であり、行動上の分類基準が画一的に定まっていないことが研究が進まない一因と考えられた。また、臨床実践の経験を踏まえると、自閉スペクトラム症児・者のこだわり行動は、観察上、同一行動のようにみえても、その背景にある目的や意図は個々人によって異なっている可能性が想定される。つまり、こだわり行動の支援方法を検討するにあたっては行動上の分類よりも、その背景にある目的や機能を考慮することが重要だと考えられる。また、こだわり行動の目的や機能については自閉スペクトラム症の発達特性や、生活環境などの個人的な要因に影響を受けると考えられるため、事例研究などの方法によってボトムアップ的に支援方法に関する知見を蓄積し、こだわり行動の機能と、それに応じた対応方法について系統的に整理することが必要だと考えられる。

そこで今年度は、自閉スペクトラム症のある不登校男児とのプレイセラピーの過程について事例研究をおこなった。その結果、自閉スペクトラム症児が対人交流に強い不安感をもつ場合、こだわりの対象を関係の接点として活用することが有効だと考えられた。また、自閉スペクトラム症児がこだわりの対象に没頭せずにすむような、遊びの文脈を創出することで対人交流の経験が蓄積され、対人コミュニケーション行動の発達にもつながるとわかった。

また、こだわり行動の機能の視点から先行研究を概観し、文献検討をおこなった。その結果、こだわり行動には、①発達過程における心理的機能、②不安に対する対処努力としての機能、③自己充足的機能があるとわかった。また、こだわり行動に対する支援方法について先行研究となる事例研究を中心に整理した結果、①行動論的アプローチ、②こだわりの支援的活用に大別された。さらに、こだわり行動の減弱に向け、自閉スペクトラム症児・者の全般的な発達支援が臨床的に有効な場合もあることがわかった。しかし、こだわり行動の機能と支援方法の選択には事例研究ごとに差異があり、自閉スペクトラム症児・者の認知水準や発達特性に加え、こだわり行動が生起する場面や文脈を踏まえた、より詳細な検討が必要だと考えられた。今後も自閉スペクトラム症のこだわり行動の機能に関する全体像や、機能に応じたこだわりの活用のあり方を具体的に検討してゆく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	1	0	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ピア・サポートマニュアルブック（Ver.1）―対面授業編―／共著・編著／2022年3月4日／長崎国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター／共著：6頁～64頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

自閉スペクトラム症のある不登校男児との人形を介したプレイセラピー／2021年8月31日／心理臨床学研究第39巻3号／200頁～210頁／共著／研究論文

機能的観点からみた自閉スペクトラム症のこだわり行動の支援に関する研究動向／2022年3月31日／長崎国際大学教育基盤センター紀要第5巻／29頁～35頁／単著／総説論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎国際大学学長裁量経費「NIUピア・サポート活動によるSDGsの実現目標4・10の実現のため」（分担）	長崎国際大学	2021年6月30日～2022年3月4日	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	キャンパスライフ・ヘルスセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら合理的配慮を申請する学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特に対面授業及び遠隔授業が併用される状況下において、ピア・サポートのシステムが円滑に運用できるよう尽力し、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこなった。
教育基盤センター運営委員会	委員	人間社会学部における学修支援部門の担当者を務め、所属学科の学修支援に関する現状と課題について整理し、新たな取り組みを提案した。
国家試験合格支援委員会	委員	国家試験受験予定者に対し、個別面談を複数回実施した。そのなかで、効果的な学修に必要な情報や知識を提供したり、学修に伴う困り感や不安感の解決・解消を手助けしたりすることができた。また、面談結果に基づいて現状の国家試験に関連する授業・支援のあり方について、効果を検証し、必要に応じて改善策を講じた。
ボランティア研究センター	委員	福祉学科における当センターの位置づけや、運用方法を明確にし、新型感染症収束後の活動の基盤を整えた。
学生支援委員会	委員	修学上の懸念のある学生について、適切に情報を共有しながら、支援方法について個別に検討した。その結果支援を要する学生の離学や怠学に貢献できたと考えられる。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
オープンキャンパスワーキング・グループ	委員	2021年第1回オープンキャンパスに向け、社会福祉学科の特色および魅力をアピールするためのプログラムを企画・立案し、当日の運営までをおこなった。参加者アンケートでは、満足度4.9（5段階評価）の回答結果が得られた。

(3) 課外活動の指導等

特記事項なし。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

開国祭にて所属学科のブース（来て見て知って、社会福祉学科）を出展し、学科の活動や特色、魅力などを幅広い人たちや、地域に発信する機会を作り、広報活動へ貢献した。／2021年10月30日／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
知能検査結果の見方・活かし方（保護者編）	2021年7月2日	佐世保市しみん活動交流プラザ	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン
子どもの行動の理解とかかわり方	2021年10月29日	佐世保市しみん活動交流プラザ	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン
知能検査結果の見方・活かし方（支援者編）	2021年12月18日	佐世保市まちなかコミュニティセンター	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン
動作法における見立ての考え方	2021年3月5日	オンライン研修（開催拠点：長崎国際大学）	長崎心理リハビリテイション研究会
こころとからだのリラクセーション講座	2021年3月25日	佐世保市まちなかコミュニティセンター	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
子ども家庭支援のためのソーシャルワーク（題名）	研修講師	2021年11月19日	長崎県福祉保健部こども家庭課
子ども家庭支援のためのケースマネジメントの基本（題名）	研修講師	2021年12月10日	長崎県福祉保健部こども家庭課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2021年6月18日、7月16日、10月15日「自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン」アドバイザーとして定期的に参加、主催：自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン

2021年10月30日、11月20日、12月25日「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加、主催：長崎県立佐世保特別支援学校

2021年9月26日、10月31日、11月28日、12月26日、3月27日「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加、主催：佐賀県有田市

2021年10月～2022年3月（月1回程度）「九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター」研究員として、相談員の臨床指導、主催：九州大学大学院人間環境学府

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

「NICEキャンパス長崎」における児童心理学の授業科目を担当した。

７．受賞等

特記事項なし。

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、十分な教材研究をおこなった上で履修生からのフィードバックをもとに授業内容及び方法の改善を図ることができた。その結果、2021年度の授業アンケートでは、4.5～5.0の満足度を回答結果として得ることができた。また、担当学生とは継続的な面談を実施し、対面授業および遠隔授業が併用される状況下において、離学・怠学を予防できたと考えられる。

研究活動においては、2022年度科学研究費助成事業（基盤研究C）への応募及び査読制度のある学術雑誌に1報以上の学術論文を投稿することができた。また、査読制度のある学術雑誌に2報の学術論文が採択され、来年度は学位審査に臨みたい。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら合理的配慮を申請する学生や、身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特に対面授業及び遠隔授業が併用される状況下において、ピア・サポートのシステムが円滑に運用できるよう尽力し、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこなえたと考える。

社会貢献活動においては、佐世保市自閉症児の子育て親育ちの会（にじいろサロン）の活動に専門家として定期的に参加し（月1回）、発達障がいなどをもつ子どもの保護者に助言をおこなった。また、保護者だけではなく、発達障がい児の教育や支援に携わる教員や支援者に対しても研修会を計3回実施し、障がいの正しい知識や対応に関する理解・啓発の促進に貢献できたと考える。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 助教　　氏名 向　晃佑

１．教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な学びを支え、現実的な課題解決ができるよう支援することです。
大学では、各分野に特化した知識や技術など専門性だけでなく、物事を多角的に捉えていく視野の広さや、今まで学んだ知識を組み合わせて物事を考える思考力、自らの考えを言語化し他者に伝える表現力などを身につけた人材を育成することが求められていると考えています。そして、学生がこのような視野の広さや思考力、表現力を身につけるためには、学生自身が主体的に大学の学習に臨むことが必要不可欠であり、学生が主体的に学ぶきっかけや環境を提供することは大学教員の役割の１つであると考えます。そのため、学生が身近に感じるテーマや話題を積極的に取り入れたり、学生からのフィードバックを積極的に取り上げたりすることで、学生の知的好奇心を引き出し、主体的な学びのきっかけとなるような講義を展開します。
また、心理学を学ぶことは、一般教養として人のこころの仕組みや働きなどについての知識を身につけるだけでなく、ストレスマネジメント教育としての役割も含んでいると考えています。私はこれまで精神科クリニックや発達相談機関のカウンセラーとして様々な悩みや障害を抱える方やその家族のカウンセリングを担当してきました。また、障害学生支援コーディネーターとして、学生の修学上の合理的配慮にかかるコーディネートや相談対応業務、保護者や教職員の学生対応に関する相談・調整業務を行ってきました。これらの実践経験に基づいて、大学生が抱えることの多い悩みやストレスを題材として取り上げ、グループワークやディスカッションなど体験的な学びの時間を設けることで、学生が大学生活を送る上で、現実的な課題解決ができるよう支援したいと考えています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
心理学【栄】	15/15(後期)	2	10	②⑤⑦

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する理解度や満足度、授業の内容や方法については概ね高い評価を得ることができた。次年度以降も工夫を重ね、今回の結果と同程度かそれ以上の評価が得られるよう取り組みたい。また、受講態度に関する項目に関しては他の項目と比して、低い評価となっていたため、今後の課題としたい。
今年度は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、グループワークやペアワークなど受講生同士の相互コミュニケーションが求められるアクティブラーニングを取り入れることができなかった。そのため、ポートフォリオ（manaba）を活用し、学生同士の意見交換ができる場を設けた。その結果、受講生全員の意見を短時間で共有することができるなどポートフォリオを活用するメリットを見出すことができた。しかし、相互交流を促すことは十分にできなかったため、次年度以降は学生同士の相互交流を促すようなア

クティブラーニングとポートフォリオを並行して取り入れ、両者のメリットを活かした授業展開としていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・イップスを訴える大学生アスリートに対する心理的援助に関する研究
・大学における要支援学生の早期発見・早期介入プログラムに関する研究
・障害学生支援の体制整備に関する研究
・アスリート学生の心理支援に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

送球イップスを訴える大学生に対する臨床動作法の適用／2021年6月／心理臨床学研究　39巻2号／130-142／共著／研究論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	社会福祉学科教員および学生相談担当の専任カウンセラーとして参加し、学生支援・学生相談活動について協議した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	対象外
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	対象外
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	後日出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	後日出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	後日出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
校内研修：発達検査に基づく事例検討	2022年1月7日	九州文化学園小中学校	九州文化学園小中学校校長

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院附属総合臨床心理センター	センター研究員	2019年4月～現在に至る	j九州大学大学院附属総合臨床心理センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、年度途中9月の着任であったが、キャンパスライフヘルスサポートセンターの教職員や非常勤カウンセラーと積極的に連携・協働を図ることで大きな混乱なく、専任カウンセラーとしての役割を果たすことができた。しかし、UPI（心の健康調査）の結果に基づく要フォロー学生のケアが不十分であり、潜在的に相談ニーズを有する学生を支援することができなかったと考えられるため、次年度の課題としたい。

また、担当講義において心理学と学生生活との結びつきに焦点を当てたことで、大学生活の不適応の予防と支援を行うことができたと考えられる。しかし、感染拡大防止の観点から体験的学習として、グループワーク等を十分に活用することができなかったことが課題として残った。一方で、体験的学習の代替手段として、ポートフォリオ（manaba）を活用した授業展開を行い、一定の教育効果を得ることができた。次年度は、グループワーク等の体験的学習とポートフォリオを併用し、両者のメリットを活かした授業展開を心掛けたい。

研究に関しては、これまで行ってきた研究を査読付論文としてまとめることができ、年度内に博士（心理学）の学位を得ることができた。しかし、学生相談に関する研究については、日頃の相談業務に時間を要し、十分に取り組むことができなかった。次年度は、学生相談に焦点を当てた研究活動を推し進め、研究費の獲得を目指した科研の申請や論文執筆を行いたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 社会福祉　　職名 助手　　氏名 金子　麻美

1．教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために、自分自身の理解と相手の価値をソーシャルワークの価値観として理解できるような支援を行いたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

該当なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
相談援助実習指導ⅡA（補助）	1	42	2021年4月11日
相談援助実習指導ⅡA（補助）	1	42	2021年6月15日
相談援助実習指導ⅡA（補助）	1	42	2021年7月27日
相談援助実習指導Ⅰ（面談）	1	42	2021年10月5日
相談援助実習指導Ⅰ（面談）	1	42	2021年10月12日
実習報告会（社福）	2	42	2021年12月4日
実習報告会（精神）	1	9	2021年12月4日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

障がい者福祉・地域福祉・バリアフリー・SSW等

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学科運営委員会（学科）	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、議事録管理、連絡調整等
ソーシャルワークコース運営委員会	委員	会議の事前準備及び運営。 社会福祉士実習の実習先に関する連絡調整及び書類作成、集計。 各実習関係学内イベントの調整、準備、運営。 PCR検査及び各種検査対応。
ケアワークコース運営委員会	委員	会議の事前準備及び運営。 介護福祉士実習の実習先に関する連絡調整及び書類作成、集計。 実習関係学内イベントの調整、準備、運営。 PCR検査及び各種検査対応。
メンタルヘルスコース運営委員会	委員	会議の事前準備及び運営。 精神保健福祉士士実習の実習先に関する連絡調整及び書類作成、集計。 実習関係学内イベントの調整、準備、運営。 PCR検査及び各種検査対応。

国家試験合格支援委員会（学科）	委員	国家試験に取り組む4年生に向けた模擬試験の実施及び夏季講習の資料準備及び運営。書籍や物品購入他、学生相談対応。 問題の印刷業務及び感染対策準備。
学内学会委員会（学科）	委員	学内学会でのニュースレターのデータアップや紀要の発送。 総会及び研究会の実行委員として資料準備及び運営。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

該当なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

該当なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	後日出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	2022年2月～2024年9月	佐世保市学校教育部学校教育課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

該当なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

該当なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2021年度は新型コロナウイルスの影響で、通常業務以外にもPCR検査や学内実習など様々な対応が多く求められる年であった。また、学科も新カリキュラムが始まり、新旧にわたる科目が複雑化に対する理解が求められるようになった。中でも各資格実習のとりまとめをすべて助手研究室で行う運びとなり、実習時間が増加する中ですべて実習関連事務業務が3倍に増えることとなった。失念やミスを防ぐことができるような体制を作っていきたいと考えている。
来年度はすべての業務がスムーズに取り組んでいけるよう流れを見直し、今後ルーティン化させるべくマニュアルを作成していきたい。
2022年度はコース制が本格的に始動する年であり、教員１人ひとりが同じ理解で足並みを揃えて取り組んでいけるようコミュニケーションをとって、よい相互作用を生み出していくことを目標にしたい。
また、実習先や地域との連携も強化すべく、自身の役割を立場をしっかりと理解して業務を遂行していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 野村　秀一

1．教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材（管理栄養士）の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	71	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	76	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）	1/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）	1/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	1/15(通年)	1	1	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
食品衛生学【A】	15/15(後期)	2	32	①⑩
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
栄養と薬	4/15(後期)	2	64	①②③
微生物学【A】	15/15(前期)	2	28	①⑩
微生物学実習【B】	15/15(後期)	1	28	①⑩
健康栄養入門	2/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
食品衛生学実習【A】	15/15(前期)	1	34	①⑩
食品衛生学【B】	15/15(後期)	2	32	①⑩
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
微生物学【B】	15/15(前期)	2	33	①⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
食品衛生学実習【B】	15/15(前期)	1	37	①⑩
微生物学実習【A】	15/15(後期)	1	33	①⑩
総合演習Ⅱ【木5】	1/15(後期)	1	1	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食品衛生学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートを行った食品衛生学では、全体的評価は4.4であった。概ねそれなりの評価であった。科目の内容が生物や化学の基礎学力と、専門科目の食品学、調理学、生化学などの知識も必要とする内容であるので、受講する学生のレベルによる評価の相違がみられたが、管理栄養士として実務内容を基にした事例を提示し、その内容を理解する為に必要な内容を中心に講義ｈしたことは、学生の食品衛生学の理解二つながったものと考えている。今後とも、担当教科が実学であることを念頭にして講義の組み立てを行っていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品衛生学	15/15(前期)	2	24
長崎短期大学	食品衛生学実習	15/15(後期)	1	24
佐世保市医師会看護専門学校	関係法規	7/7(後期)	1	13
聖マリア学院大学	感染と生体防御Ⅰ	6/8(前期)	1	102
聖マリア学院大学	感染と生体防御Ⅱ	6/8(後期)	1	102

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生鮮食品の食品衛生学的研究
食品及びヒト由来の薬剤耐性菌の研究
食品成分の抗菌作用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習における学生の気分プロフィールの変化／2021年10月22日／第63回日本生活学会学術総会

大量調理時に使用する衛生手袋装着後の手指の細菌汚染状況／2021年11月20日／第16回日本給食経営管理学会学術総会

管理栄養士臨地実習前後のインタビュー調査による学生の感情および自己評価／2022年2月16日／第20回長崎県栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
教員資格審査委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
防火・防災委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
安全衛生委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
危機管理委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
輸出管理委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献した。
グローバル推進協議会	委員	委員基あの円滑な審議等に貢献した。
全学教育会議	構成員	健康管理学部並びに健康管理学研究科の教育状況等の委員基アデノ報告説明を行い、現状での問題点、課題の抽出をして頂くために貢献した。
情報セキュリティ委員会	委員	委員会の円滑な審議等に貢献ｈした。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

エイサーサークルの顧問として、コロナ禍での学生の生活や活動についての指導を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

今年度は、コロナ禍で十分な活動が行えなかった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

今年度は、特に活動等はできなかった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍での活動を模索したが、できなかった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 熊井　まどか

1．教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。

・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。

・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。

・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。

・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
解剖生理学Ⅰ【B】	13/15(前期)	2	29	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②⑪⑫
管理栄養士演習(後期)	1/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
解剖生理学実習【A】	30/30(前期)	1	34	①⑩⑪
解剖生理学実習【B】	30/30(前期)	1	38	①⑩⑪
解剖生理学Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	27	①②⑨
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
解剖生理学Ⅰ【A】	13/15(前期)	2	25	①②⑨
解剖生理学Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	25	①②⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ【木5】	1/15(後期)	1	1	①②③⑧⑨
栄養生理学実習【A】	14/30(後期)	1	27	①⑩⑪
栄養生理学実習【B】	14/30(後期)	1	45	①⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15/15(前期)	2	1

代謝栄養学特論	15/15(後期)	2	1
特別研究【2年生　通年】	30/30(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

〔前期〕

解剖生理学実習の評価において、Aクラスでは受講態度平均3.8、授業内容平均4.6、授業方法平均4.7、授業の理解度4.4、授業の満足度4.6、Bクラスでは受講態度平均3.8、授業内容平均4.7、授業方法平均4.8、授業の理解度4.4、授業の満足度4.6であった。

〔後期〕

解剖生理学Ⅱの評価において、Aクラスでは受講態度平均3.8、授業内容平均4.5、授業方法平均4.8、授業の理解度4.3、授業の満足度4.7、Bクラスでは受講態度平均4.2、授業内容平均4.9、授業方法平均4.9、授業の理解度4.6、授業の満足度4.8であった。

・授業改善と教育効果

解剖生理学実習では、肉眼解剖の実習において動物体を解剖するため、その意義や倫理については「実験動物取扱講習」に加え、実習内でも説明しているが、精神的にダメージを受ける学生がおり、難しさを感じる。組織学実習は、前年度導入していただいた顕微鏡用モニターにより、顕微鏡像を学生と共に確認できるようになったため、理解しやすくなったと考えられる。また、動物解剖のアレルギーを持つ学生に対しては、動画を視聴できるシステムができたことにより、実習が進めやすくなった。

解剖生理学Ⅱは、感染対策による制限はあったものの、今年度は対面式で学生の反応を見ながら授業を進めることができた。授業動画の配信については、復習を行う一部の学生からの評価が高いため、今後も継続していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	20
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・妊娠期の栄養が胎児・子に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

妊娠期のカルシウム制限が血清中性脂肪及び母乳の脂肪酸組成に及ぼす影響／2021年3月／長崎短期大学研究紀要　第33巻／89～94頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響～肝臓及び骨格筋phospho-Akt　(Thr308, Ser473)タンパク質発現／2021年10月／第68回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
胎児期栄養環境エピゲノム変化による生活習慣病発症機序と予防の形態・テロメア解析	科学研究費助成事業　基盤研究（C）研究分担	2019年～2021年	

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項の審議等
自己点検・評価委員会	委員	大学評価に関わる事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
発明等審査委員会	委員	発明届等の審議等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関わる事項の審議等
産学連携・研究支援センター	委員	産学連携・研究支援に関わる事項の審議等
全学教育会議	構成員	大学・大学院の教育活動の総合的実施に関わる事項の審議等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
聞いてみよう！体験してみよう!! 「理系女子の世界」「うがい薬でビタミンCの量を調べてみよう！」	2021年12月12日	九州文化学園小・中学校	国立研究開発法人科学技術振興機構採択事業

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
（NPO）日本栄養改善学会	評議員	2020年11月～2022年10月	（NPO）日本栄養改善学会
（NPO）日本栄養改善学会九州・沖縄支部	幹事	2019年8月～2023年7月	（NPO）日本栄養改善学会九州・沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面において、今年度は前年度より規制が緩和され、学生の反応を見ながら対面式で授業を進めることができた。遠隔授業の利点を活かし、対面式の授業と併用して授業動画の配信を行う方法は、学生からの評価が高く、復習の促進につながると考えられるため、今後も継続していきたい。また、4年生の国家試験対策では、試験前の2か月間が全て遠隔授業となったため、自主学習を苦手とする学生には厳しい状況であった思われるが、例年通りの合格率を維持することができ安堵した。

研究面では、十分な活動を行うことができなかったが、以前の修論研究に対して追加実験を行い、紀要への投稿を指導することができた。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 岡本　美紀

1．教育理念

人々の健康の維持・増進のための取り組みを食からアプローチし保健・医療・福祉などの場で尊厳と責任を持って科学的根拠に基づいた高度な技術をもって「栄養の指導」を実践できる、社会に貢献する人材の育成を目指すものとする。そのような人材となるために、人間や食などについて基本的な知識を身につけた上で、居住地域の居住形態やその環境、ひいては生態系について、広い視野をもって対応できる知識及び技能を伝えていくことで、専門力と課題解決力を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/30(通年)	1	76	②⑪
公衆栄養学Ⅰ【B】	15/15(前期)	2	33	①②④⑨⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
公衆栄養学Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	30	①②③④⑨⑩
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①⑧⑨
調理学実習Ⅲ【A】	30/30(後期)	1	32	①③⑩
公衆栄養学実習【A】	30/30(前期)	1	36	②③④⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学実習【B】	30/30(前期)	1	34	②③④⑥⑩⑪⑫
調理学実習Ⅲ【B】	30/30(後期)	1	38	①③⑩
健康栄養入門	5/15(前期)	2	57	②③⑧⑪
栄養情報処理	15/15(後期)	2	68	②③④⑥⑧⑨⑪
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	④⑩⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①⑧⑨
公衆栄養学Ⅰ【A】	15/15(前期)	2	33	①②④⑨⑪
公衆栄養学Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	38	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
公衆栄養学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の公衆栄養学実習は、今までの同科目の中でも良い評価であった。実習では新型コロナウイルス感

染症の感染予防のため対面授業と遠隔授業を組み合わせた方法をとり、対象者として、調査員としての体験実習及びその結果を分析して課題を抽出していくようにしていた。この調査の結果はすぐに結果として使えるものではなく、データとして入力できるように処理をする必要があった。このとき、PC処理の方法が分からずに何をすればよいかが分からないことを、それを「無駄な時間」と感じてアンケートにその旨を書いた学生がいたが、多くの学生は対象者の状況を把握するために食事についての知識を持つことの意義を感じ取っていた。

後期の公衆栄養学Ⅱでも今までの同科目のアンケート結果の中でもとても良い評価を得た。授業の方法については良い評価であったが、事前学習や学生自身の取組が評価が低く、自分で公衆栄養学の予習復習ができにくいと言うことが分かる。そのため、ほぼ毎回manabaにて小テストを行い、毎回その答え合わせをしてみせることによって、学生が自分の理解度を把握できたのがよかったと思われた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 食意識・食行動が及ぼす影響について
2. 集団の健康・栄養状況に関する研究
3. 集団の嗜好等の特性に関する研究
4. 地域産物を用いた新規活用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠　第4巻 栄養管理の基本　栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解／共著・編著／2021年3月／医歯薬出版株式会社／122-129

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

就学前教育・保育施設の自園調理給食が食育へもたらす影響／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／125-135／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

女子大学生の1食における咀嚼状況と体格の関連／令和3年10月／第68回日本栄養改善学会学術総会

大学生の調理担当の有無と環境問題への意識・行動との関連／令和3年10月／第68回日本栄養改善学会学術総会

保育所における食育活動の現状と課題　ー「食と健康」をねらいとした食育活動に向けてー／令和4年2月／令和3年度 第3回栄養学術研修会・第20回長崎栄養改善学会

長崎県健康・栄養調査および特定市町でのBDHQ実施による健康施策の推進への有用性／令和4年3月／令和3 年度 第15回 健康栄養研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	学的な観点から、研究費の不正使用防止のための活動（具体的な研究費不正防止の計画策定・実施、不正発生要因に対する改善策策定・実施、適正なチェック体制の構築やルールの統一提言、本学の取り組みの浸透を図るための方策の推進、公的研究費に関する内部監査計画の策定と実施）を行う。
CHサポートセンター運営委員会	委員	「保健室」・「学生相談室」・「学生生活サポート室」の３つの相談窓口で、学生の「からだ・こころの健康、修学・大学生活など」のサポート業務を行うためのセンター運営の基本方針やセンターにかかる企画立案や実施、規程規則、他の期間にかかる相互協力等の審議を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康管理学部健康栄養学科　教務委員会	委員	学科での授業や教務に関する学科運営について取組を行う。特に栄養士申請および管理栄養士国家試験受験に関する手続きを担当した。
健康管理学部健康栄養学科　学生委員会	委員長	学科での学生の活動に関する取組を行う

(3) 課外活動の指導等

時間割とは関係なく健康栄養学科4年生の国家試験対策授業を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

8月のオープンキャンパスにて学科紹介を担当して、本学部本学科の学びについての説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	後日出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
教育研修評価委員会	委員	令和3年2月～令和4年2月	長崎県福祉保健部　国保・健康増進課
佐世保市食育推進会議	アドバイザー	令和3年7月～令和3年8月	長崎県佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和3年9月～長崎県「令和3年度長崎県健康・栄養調査集計・解析」委託業務
令和3年12月　聞いてみよう！体験してみよう！！「理系女子の世界」での実験体験2「うがい薬でビタミンCをの量を調べてみよう」の講師

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

5(3)の「令和3年長崎県健康・栄養調査集計・解析」では長崎県の実施する身体状況・食習慣調査の集計だけでなく、長崎県と協働で食事調査「BDHQ調査」を実施して長崎県民およびモデル市町の住民の健康・

栄養状況の把握を行っている。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防を行いながらも昨年よりも対面授業を行ったり体験型の実習を実施したりして、可能なことを絶えず考えて行動をしたと思っている。時には体調を崩したりしたが、実施可能なことを考え実践してきた。それにより、今年度の授業アンケート東の評価が高かったことから、多くの学生にも担当教科についての勉学をする意義や取組の必要性について伝えることができたと考える。

特に、長崎県から依頼をされた「令和3年度長崎県健康・栄養調査集計・解析」委託業務および共同実施した食事調査BDHQでは、調査対象者を考慮して調査用紙への回答時に迷わないように説明書を作成し、郵送で配布できるようにしたほか、回答率を上げるために大学に協力支援をしていただいたおかげで郵送法にしては少し高めの回答数を得ることができ、それらを分析し、長崎県および長崎県市町の健康・栄養に関する業務担当者と住民の健康度を上げるため取組をできるように現在しているところである。これにより、本学と地域との連携によって継続した健康施策の推進を図ることができるようになったと思われる。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 古賀　貴子

1．教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものである。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
調理学実習Ⅱ【A】	15/15(後期)	1	27	②⑩⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅱ【B】	15/15(後期)	1	28	②⑩⑪⑫
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
調理学	15/15(前期)	2	50	⑩⑪
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
調理科学【A】	15/15(前期)	2	36	⑩⑪
調理科学【B】	15/15(前期)	2	38	⑩⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅰ【B】	15/15(前期)	1	31	②⑩⑪
調理学実習Ⅰ【A】	15/15(前期)	1	29	②⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養科学特論	15/15(前期)	2	1
調理科学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

1年生前期の講義科目の満足度は4.6，実習科目の満足度は4.7および4.9，教養セミナーAの満足度は5.0，1年生後期の実習科目の満足度は5.0および5.0であった。また、2年生前期の講義科目の満足度は4.3および4.4であった。2年生前期の講義科目は1年生の講義科目で聞いている内容もあるとの思いから授業のスピードも速くなりがちであるが、この点に関し、アンケート自由記述に、1年生の頃の内容の復習にもなる授業でした。食品学と関連した内容が多く、どちらの科目の知識の習得も重要だと感じました、非常に興味深い内容で面白かったですというコメントがあった。その一方で、進むのが速いので少しゆっくり進めてほしいですというコメントもあったため、授業内容のスピードは学生に確認しながら、また早口にならないようにより配慮しながら授業をしたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策講座　前期	3	78	5/18，6/29，7/27
国家試験対策講座　後期	12	78	10/6，10/15，10/22，11/2，11/19，11/26，12/10，12/17，12/24，令和4年1/21，2/8，2/18

３．研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャ―に関する研究
食品の調理特性（調理科学的変化）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大量調理機器を用いた湿式加熱が野菜類の性状に与える影響／令和3年 3月／長崎国際大学論叢第21巻／129～138頁／共著／原著論文

幼児期の喫食率に関連する給食メニューの特徴について～1施設（子ども園）における事例～／令和3年6月／日本食生活学会誌第32巻第1号／37～47頁／共著／資料

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食の検討／令和3年6月／第10回 日本栄養改善学会東海支部会学術総会（誌上開催）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	特になし
IRセンター	副センター長	特になし
教育基盤センター運営委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター	IR・研修部門　部門長	IRコンソーシアムの在学生調査の結果を長崎国際大学教育基盤センター紀要に報告した。
教育基盤センター　初年次教育（教養セミナーA）	ワーキンググループメンバー	全学の教養セミナーAにおける教材作成・企画等を行った。
教育基盤センター　紀要編集委員会	紀要編集委員長	教育基盤センター紀要の発行に向けた業務を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保市幼児教育センター主催の離乳食講座と実習の内容（講師を務めた）、父親向け食育講座＆お父さんのための料理教室の内容（講師を務めた）が、佐世保市幼児教育センターのフェイスブックや佐世保市のホームページで紹介され、テレビ佐世保のスポットイン佐世保で放送された。また、長崎国際大学学長裁量経費に応募・採択され、それぞれ佐世保市保健福祉部健康づくり課の後援のもと、企画・実行した「地域介護者教室」はテレビ佐世保のスポットイン佐世保で放送された。その他、テレビ佐世保より取材依頼があった七草がゆについて（いわれや七草の栄養素など）の取材があり（12月25日）、告知としてダイジェスト版を１月４日（火）のスポットインサセボの中で放送、および１月７日（金）の「こどものミカタ」で放送された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
25	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	6/28	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	9/13	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	12/13	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	令和4年3/14	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	5/24	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	8/23	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	11/15	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和3年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話（離乳食について）	3/28	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター

令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	5/27	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	7/15	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	9/14	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	12/7	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	令和4年1/25	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：5～6か月、7～8カ月）	令和4年3/1	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	5/27	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	7/15	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	9/14	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	12/7	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	令和4年1/25	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度食育推進事業「離乳食講座と実習」（対象：9～11か月、12～18カ月）	令和4年3/1	長崎国際大学・佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度調理講習会「お父さんのための料理講習会」	10/17	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度「乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座」（離乳の望ましい支援のあり方と基本的事項について講演）	10/21	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度調理講習会「幼児向けの行事食」	令和4年2/16	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度調理講習会「幼児向けの行事食」	令和4年2/17	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和3年度「給食担当者研修会」（『「コロナ禍における食育」～いつの時代にも対応できる食育を～』講義Ⅰ）	11/6	長崎県総合福祉センター	一般社団法人長崎県保育協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議委員会	委員	平成25年11月～令和3年10月	佐世保市教育委員会
日本調理科学会九州支部役員	長崎県常任幹事	2018年7月～現在	日本調理科学会九州支部

日本調理科学会九州支部役員	会計	2020年4月～2022年3月	日本調理科学会九州支部
日本調理科学会九州支部役員	選挙管理委員会委員	2021年4月～2022年3月	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

佐世保市幼児教育センター主催の離乳食講座と実習の講師（年12回）、佐世保市子育て支援センター主催の離乳食講座の講師（年8回）、佐世保市幼児教育センターにおいて幼児向け行事食（令和4年2月予定）および父親向け食育講座＆お父さんのための料理教室（令和3年10月）を務め、参加者のアンケート結果から高い評価を得た。次年度もこれら事業に関する講師依頼がすでにあっている。また、佐世保市乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座の講師を務めた（令和3年10月）。長崎県保育協会より食育に関する講話の講師依頼があり務めた（令和3年11月）。諫早市保育会より食育部会の研修会の講師依頼があり務める予定である（令和4年6月）。長崎国際大学学長裁量経費に2件応募・採択され、それぞれ佐世保市保健福祉部健康づくり課、佐世保市幼児教育センターの後援のもと、企画・実行した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、学生による授業評価の結果から、学生の理解度と満足度は良好であったことがうかがえた。研究面においては、長崎国際大学論叢へ論文を投稿し、掲載実績があった。また採択された科研費について研究協力者として論文作成に協力し、投稿中であったものが掲載に至った。また、学会発表を1件行った（発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食の検討／令和3年6月／第10回 日本栄養改善学会東海支部会学術総会（誌上開催）（吉永奈津希，菊池亮子，野田智章，青木 芽，岸川真子，松永美咲，盛 野乃夢，古賀貴子））。社会貢献については、学外の委員を務め、また講演会や講習会の講師の依頼は、対面での実施に加えて、コロナ禍でZoomを使用したリアルタイムの遠隔での実施のものも含め年間合計25回以上行った。大学運営面においては、自己点検・評価委員会の委員、IRセンター委員会の副センター長として、教育基盤センターではIR・研修部門長、初年次教育（教養セミナーA)のワーキンググループのメンバーとして円滑に業務を行うようにつとめた。教育基盤センターの紀要委員長として紀要の発行に従事し、IR部門からの部門報告の執筆も行った。長崎国際大学学長裁量経費に2件応募・採択され、それぞれ佐世保市保健福祉部健康づくり課、佐世保市幼児教育センターの後援のもと、企画・実行した。当初の目標はほぼ達成されたと考えている。学外の講師依頼も令和4年度分についてすでにあっており、社会貢献の一つになると考えるため、参加者からの高い満足度が得られるように務める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 佐々木　裕

1．教育理念

学部教育では、担当する講義において最新の医学・医療情報を解説し学習させるだけではなく、疾病の発症や治療・予防に栄養学的因子がどのように関与しているかという基本メカニズムを理解させ、将来、チーム医療の一員として栄養指導はもとより、栄養学的な観点からの治療への新たな提言や助言を行える管理栄養士を育成する。
大学院教育では修士学生の研究を支援し、研究テーマの設定の仕方、データの収集法や解析法を教育し、得られた結果を学会発表や論文発表を通して広く情報を発信し、栄養学の進歩に貢献できるような修士学生を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
栄養学応用演習Ⅱ	15/15(後期)	1	33	①②③
臨床医学入門Ⅰ【A】	15/15(前期)	2	41	①②③
解剖生理学Ⅰ【B】	1/15(前期)	2	29	①
臨床医学入門Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	35	①②③
臨床医学入門Ⅰ【B】	15/15(前期)	2	36	①②③
臨床医学入門Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	37	①②③
栄養と薬	11/15(後期)	2	64	①②③
スポーツ医学	5/15(前期)	2	41	①②③
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①②③
解剖生理学Ⅱ【B】	0/15(後期)	2	27	なし
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	4	①②③
解剖生理学Ⅰ【A】	1/15(前期)	2	25	①
解剖生理学Ⅱ【A】	0/15(後期)	2	25	なし
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	①②

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
特別研究【2年生　通年】	8/8(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義資料や毎回の理解度チェック試験を通して、臨床医学全般の最新情報をわかりやすく紹介し、多くの栄養学科学生に将来、医療機関で管理栄養士として働くことに興味を持たせることができた。授業アンケートからも、講義内容、資料やスライドについての評価はおおむね良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国試対策　疾病の成り立ち	15	90	2021年10月7,14,21,28日、11月11,25日、12月7,16,23日、1月13,20,27日、2月3,10,17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞環境がもたらす代謝ﾘﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの解明に基づく肝発癌増殖進展の制御、
蛋白質機能からみた消化器疾患・肝疾患の病態解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	1	1	429万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Modifed albumin-bilirubin grade to predict eligibility for second line therapies at progression on sorafenib therapy in hepatocellular carcinoma patients／2021年6月／International Journal of Clinical Oncology／DOI 10.1007/s10147-020-01835-2／共著／論文

Clusterin and Related Scoring Index as Potential Early Predictors of Response to Sorafenib in Hepatocellular Carcinoma／2021年11月／Hepatology Communication／ DOI 10.1002/hep4.1872／共著／論文

多次化学療法を施行した原発性肝平滑筋肉腫の一例／2021年7月／日本肝臓学会　雑誌肝臓／62(9):538-547, 2021／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

大腸SSA/PのmicroRNA解析：病態解明と新規バイオマーカーへの応用を目指して／2021年11月4日／JDDW2021　第63回日本消化器病学会大会

ヒストン修飾酵素LSD2による肝脂質代謝制御と栄養環境応答性の発現変化－NAFLDの病態解明を目指して-／2021年11月5日／JDDW2021　第25回日本肝臓学会大会

肝細胞癌に対するソラフェニブの治療効果を早期に予測する血清バイオマーカーの解析／2021年11月4日／JDDW2021　第25回日本肝臓学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究C 課題番号21K07904	独立行政法人日本学術振興会	令和3年度～令和5年度	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢の編集に携わった。
CHサポートセンター運営委員会	CHサポートセンター長、委員	CHサポートセンター長として、合理的配慮が必要な学生にキメ細かな支援を行った。また学生相談室の運営にも積極的に関与した
安全衛生委員会	産業医	全職員の身体的、精神的な健康を管理し、必要に応じて個別面談を行った。さらに専門医療機関を紹介した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
産学連携医療ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ創出ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	課題評価委員	令和2年5月～令和4年3月	国立研究開発法人日本医療研究機構(AMED)
医薬品医療機器総合機構(PMDA)	専門委員	令和3年4月～令和6年3月	医薬品医療機器総合機構(PMDA)

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

兵庫医科大学特別招聘教授に就任し、文部科学省が主導する2021年度ダイバーシテイ研究環境実現イニシアテイブに参画し、女性医師の社会的地位向上を目指している。今年度は、中堅女性医師に教授や准教授の昇任条件をクリアさせるために、科研費申請や論文作成の支援を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育、研究面で一応の成果は得られていると考える。コロナ禍のために、公開講座等の広報活動が行えなかったが、Webなどを活用するべきであったと反省している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 教授　　氏名 水江　文香

1．教育理念

学生に教育を通じて、将来さまざまな困難、失敗などへの対応を自己で解決、対処できる能力を修得してほしいと考える。そこで授業では、現状を認識できる知識、これに「気づき」と「振り返り」を繰り返すことを重視し、学生が基礎学力、応用力の重要性を学びとり、そのために全講義へ出席することで学習し続ける習慣として「気づき」「振り返り」のできる授業方法を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	2/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	2/15(通年)	1	71	⑪⑫
給食経営管理論Ⅰ【A】	15/15(前期)	2	32	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	41	①③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ【A】	15/15(後期)	1	32	①③⑩
調理学実習Ⅲ【B】	15/15(後期)	1	38	①③⑩
給食経営管理論Ⅰ【B】	15/15(前期)	2	37	①③⑨⑩
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑩⑫
給食経営管理実習【A】	15/15(前期)	1	33	①②④⑥
給食経営管理実習【B】	15/15(前期)	1	33	①②④⑥
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ【木5】	1/15(後期)	1	1	①②③⑧⑨
給食経営管理論Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	29	①③⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食生活科学特論	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

〇授業アンケート：学力や読解力、国語力が低下していることをレポートや試験で実感している。例えば講義内で説明した内容の例を変えて出題したり、応用力問題や記述になると解答できなくなる、もしくは中途半端な解答になっている。特に専門用語の説明の出題では間違えて覚えたことを解答している。今年度もここ数年の特徴と同様、授業内容通りであれば解答（質問への回答）できるが、数値や表現、応用力を問う出題になると解答（質問への回答）できない学生の割合が多く、小テストも試験も授業内容改善だけで学生の理解度を深めることが難しい点は変わらない状況であった。

〇授業改善：現在、試験点数だけではなくその他の評価（ポイント）も含めた総合評価になっているが、これでは本来の理解度が確認できないと判断し、定期試験に占める割合を引き上げているが、あまりよい傾向は見受けられない。「質問」や「補足説明」についてポートフォリオに掲示する等で対応したが、閲覧していない学生もおり、第1回のオリエンテーションで周知させたい。また小テストや定期試験の平均点が低下していることから、理解できない学生への対応も含め、集中して興味深く聴講できるような授業にしていきたい。授業内容を他の科目と関連づけたものとし、配付資料等で達成度や評価の向上を図りたい。また、単に管理栄養士国家試験にポイントを置いた授業内容ではなく、卒業後にも十分な知識や技術の習得のレベルアップにつながる授業にしていきたい。対面とオンデマンドのメリットを取り入れながら授業を組み立てた事で、学生の復習の効果を向上させることも検討していきたい。。

〇教育効果は年度により差（個人･クラス間）があり、これまで改善してきた点も効果があまりみられないものも見受けられたが、今後も見直しを行い学生の理解度で効果があったものは継続し評価を向上させられるようにしたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）学内実習4年	25	1	2021年9月20日～24日
臨地実習Ⅱ【給食経営管理論）学内実習3年	25	29	2022年2月7日～11日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・各年代における食行動について
・給食経営管理業務における新調理システムの利用について（主に真空調理）
・胚芽精米の研究
・大量調理施設業務に必要な帳票類の検討及び様式について
・六次産業化における商品･メニュー開発について
・調理学実習における加工品の改良に関する研究
・地域食材を利用した商品開発、レシピ提供について
・食品ロス（大量調理）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	大学及び学科の教務事項の審議・決定他（学科専任教員担当科目のシラバス作成・成績処理・履修者名簿管理、試験監督案作成、再試実施計画、卒業・進級判定に伴う資料作成、原級留置学生・3年次編入学生指導等）。
研究倫理委員会	副委員長	学科審議内容の報告他。
教務委員会（学科）	委員長	学科内教務事項審議、連絡、諸資料の作成他。
倫理委員会（学科）	委員	申請された研究の審査他。
4年生演習係（学科）	係	試験問題作成･編集、履修者出席管理、成績処理等。
3年生編入係（学科）	係	試験問題編集等。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・夢ナビライブ　2021　Web Week　福岡会場：進学イベント　進路ガイダンス（栄養分野）（Zoom）
・令和3年度保護者懇談会　4年次生説明担当：本学（動画配信）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市学校給食検討委員会	委員	2021年度～	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・令和3年1月、長崎県精神医療センター給食業務委託の落札者決定基準への学識経験者に就任。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7．受賞等

なし。

8．活動全般についての自己点検・評価

〇教育活動においては学生支援･指導の時間が増え、特に後期は、「管理栄養士国家試験受験対策」の指導や担当教科等の活動に時間を費やしている。授業アンケート結果をもとに次年度に向けた講義資料の変更や演習内容の変更を進めてきた。また、全学教務委員会や学科係として教務全般のとりまとめ、履修、再試験調整などの活動等で、本来講義準備や研究に充てる時間を学科教務に費やさざるを得ない状況が続いている。ただ、余裕がない状態で様々な業務をしているが、少しずつ改善しいい教材が配布できるようになり、その結果、授業アンケートもよい評価を継続できるようになった。3年前からコロナの影響で学外での臨地実習ができなかった学生へ学内実習を実施することとなり、その指導（給食調理実習、講義、PC業務、栄養教育他）が加わり、定期試験と追・再試験の合間での実習で提出物のチェック（添削、コメント）、評価と多忙となる年度であった。

（２）研究活動は、卒業研究で近年商品・メニュー開発に携わる機会がふえ、卒業研究テーマとして学科内の複数の教員と学生で様々な活動を進めている。実習レシピを再考するための研究も進め、担当している実習の加工品として活用できるよう卒業研究での活動に加えている。現在、食品ロス（廃棄部分の活用）も視野に入れ学生と研究を進めている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 准教授　　氏名 林　俊介

1．教育理念

私の教育理念は、管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一歩を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来働くために求められる知識と技能を修得し、確実に国家試験合格を目指すという高い目的意識を高めることを期待している。よって、授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行く。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	10/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	5/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A)	5/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B)	5/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学)	5/15(通年)	1	1	⑪⑫
治療食実習【B】	15/15(前期)	1	33	①②③④⑧⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	31	②③⑩⑪
管理栄養士演習	3/30(前期)	2	57	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	10/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
在宅医療概論	1/15(前期)	2	249	①②⑤⑩⑪
治療食実習【A】	15/15(前期)	1	35	①②③④⑧⑩⑪
管理栄養士演習(後期)	2/15(後期)	2	21	①⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅲ【B】	15/15(前期)	2	37	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ【A】	15/15(前期)	2	37	②③⑩⑪
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	10/30(後期)	2	61	①⑧⑨
栄養教育論Ⅲ【A】	15/15(前期)	2	34	①②③④⑤⑦⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	45	②③⑩⑪
栄養教育論Ⅲ【B】	15/15(前期)	2	37	①②③④⑤⑦⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、対面授業での実施と合わせて、一部遠隔授業での対応となった。治療食実習では、感染予防のため、調理作業後の試食は行わず、持ち帰りをさせて試食とレポート作成に取り組ませた。昨年度の後期科目である臨床栄養管理学Ⅱでは、ベストティーチャー賞(講義型 50～99人の部)を受賞することができた。本年度の同科目の授業アンケートでも評価は、ほぼ変わらなかった。今回は、対面授業の形式に戻ったが、授業の満足度は維持されている。
昨年の遠隔授業で修得した授業手法を活用し、遠隔授業でも一方的な授業配信にならないようZoomの機能を最大限利用し学生の参加を促す工夫を行った。対面授業でも学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問と考察と短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品などの様々な製品を手に取らせ、実物を体感できるようにしている。
　履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。
本年度も、感染予防のため定期試験(筆記試験)を実施せず、課題による評価を行うことにした。そのため、課題レポートも例年のものよりも「調べ学修」に繋がるように、自身の出身地での疾病状況や生活習慣や食習慣を調べることが必要な内容を設定し、より学生の学修が深まり、興味関心が高まるようにした。授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋がったと考えている。
来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	1	24

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.　フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育と食事療養の実践に関する研究
2.　腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて
3.　血液透析患者の生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
4.　血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
5.　血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

フェニルケトン尿症患者(患児)・家族を栄養の力で支援する取組～栄養教育と食事療法の実践のためのレシピ集の作製～／令和3年2月12日／第20回 長崎栄養改善学会(オンライン開催)

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	副委員長	教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。
広報委員会	委員	大学公式ホームページのコンテンツ作成・教員情報の更新、公式サイト、Instagram、Facebookへのトピックス投稿、広報催事事業の実施、マスメディアの取材対応
私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	委員(高等教育の質向上専門委員会・教務系WG)	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、高等教育の質向上専門委員会及び教務系WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。 ・QSP参画校での教学(IR)に関する共同IRデータ収集と公開 ・情報教育科目(共通授業)の開発と導入 ・共同FD・SDの企画と実施 ・留学生支援事業　日本語学修支援システムの開発と導入 ・QSP人材バンクの構築と運用 ・高大接続事業　理系女子(リケジョ)育成プログラムの実施 ・委員会・WGの合同会議の開催 ・申請書類の作成

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎	運営委員	「在宅医療概論」の科目担当。※NICEキャンパス長崎の登録科目

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学コンソーシアム長崎	ワーキンググループ	NICEキャンパス長崎の活性化のために次年度新設される県内大学・短期大学での共同実施科目「長崎学Ⅰ・Ⅱ」の授業プログラム構築。

(3) 課外活動の指導等

令和２年度(2020)よりボランティアサークル「絆」の顧問を務めている。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

龍谷高等学校　進学ガイダンス　模擬授業／2月21日(月)／佐賀市

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
高齢者の栄養管理について	9月29日(火)	長崎県立口加高等学校	長崎県立口加高等学校福祉科

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会　研究教育協議会	副代表	令和2年4月～令和4年5月	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和3年度 長崎国際大学 学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」に「フェニルケトン尿症患者(患児)・家族を栄養の力で支援する取組」が採択され、食事療法のためのレシピ集製作に取り組んだ。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし。

７．受賞等

ベストティーチャー賞(講義型 50～99人の部)　「臨床栄養管理学Ⅱ」

８．活動全般についての自己点検・評価

[担当学生について]

本年度、教養セミナーは担当から外れ、新入生は担当していない。昨年度休学していた1年生の1名は、復学し本年度、他の先生の担当となったが、今年度末で退学となった。

2年生は、順調に学修を継続していたが、1名が後期に進路検討のため休学となった。4月以降休学延長となる予定である。もう1名も4月以降、進路検討のため休学となることになった。面談等を重ね本人の希望を確認し、サポートして行きたい。他のメンバーは2年次をこれまでのところ順調に学生生活を過ごせてきている。離学防止の取り組みは十分できていると考えている。

3年生は、4名のゼミ生を担当し、卒業研究の活動を行っている。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、学外での患者等と直接接するような調査活動等はできないため、学生と患者など対象者が非接触でできるような形での研究活動となっている。4年生の活動に合流する形で、フェニルケトン尿症のレシピ集製作に取り組んで、患者、家族を対象としたアンケート調査を実施した。

4年生6名は、フェニルケトン尿症と腎移植のテーマで卒業研究の活動に取り組んだ。困難な状況の中、卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表、論文提出する事が出来た。卒業試験には5名合格し、卒業する事が出来、国家試験を受験した。1名は単位未充足のため卒業延期となった。今後について話し合いを重ね、秋期卒業を目指すこととした。本年度の就職状況は、卒業までに5名とも内定を得て、それぞれ就職先が決定することができた。

[私立大学等改革総合支援事業　タイプ3]

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、高等教育の質向上専門委員会・教務系WGの事業推進の実務を担っている。本委員会・WGは、本学が責任校である。プラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の全14校の連絡調整の窓口となり、合同会議の実施や資料作成を行っている。タイプ5の応募案作成時から担当し6年目である。

本年度は、これまで取り組んできた留学生の日本語能力向上支援「日本語e支援」や大学間共同の情報

教育科目の導入、人材派遣事業(データベスの構築)などを進めた。その他に連携校との共同FD・SDを実施(オンライン形式)した。高大接続事業の一つとして理系女子(リケジョ)育成プログラムにも取り組んだ。大学の質保証の取組として、教学(IR)に関する連携校の情報収集を行い、情報公開を行った。様々な取組はQSP公式サイトでも情報発信を積極的に行った。

本年度も新型コロナウイルス感染症への対応のため、様々な事業計画の事業推進が困難な状況であったがQSPが始まって5年目となり様々な事業が進められた。かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

[教務委員会]

教務委員会の副委員長を務めている。教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。

[広報委員会]

広報委員会担当となって3年目である。総合改革支援事業で求められる情報公開に沿った形でのresearchmapの改定を行った。大学公式ホームページに掲載する「教員データベース」の更新を行った。広報催事は企画(科学教室、食物アレルギー講座等)を行ったが、新型コロナウイルス感染症のため実施困難と判断し、いずれも中止した。

大学公式ホームページへのトピックス及び学科のInstagram、Facebookへの記事掲載を積極的に行った。本年度、学科のSNSの運用の指針を策定し、教員が自由に投稿できるようにした。学科に関する投稿を16件、大学院に関する投稿を4件行った。Facebook 33件、Instagram 50件の投稿が行われた。学外に向けた情報発信が盛んに行われるように導いた。本年度のトピックス年間掲載目標(学部30本、大学院5本)をおおよそ達成する情報発信を行った。

新聞・テレビ等への露出件数(5件)およびニュースリリースの件数(3件)は、年間目標には届かなかったため、次年度の課題となる。情報発信の工夫をして、露出を増やしていきたい。

本年度の取組としては、卒業生と連携した広報活動の推進」が求められているため学部卒業生(繁昌茉耶さん)及び勤務先の協力を得て、コンテンツ作成を行った。
また、取組として3年次編入学に関する情報が学部のページに無かったためこれに関するコンテンツを作成して公開した。さらに各学年での学修のイメージが得やすいように時間割を掲載する形に改定した。
入試･募集委員会と連携した形での広報活動が求められているため、入試･募集委員とも協力した形での展開を行っていきたい。

[研究活動]

研究活動では、本年度は現在取り組んでいるフェニルケトン尿症についての内容で研究発表を長崎栄養改善学会にて行った。

これまで研究活動をさせて頂いていた北松中央病院での調査活動は感染予防のため見合わせている。活動再開は当面難しそうである。

学生と患者等調査対象者との直接の接触が難しい状況のため、できるだけ非接触の形での研究活動が行えるようなスタイルで取り組みを進めている。

腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。

現在は、フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動がメインの研究テーマとなっている。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生や一緒に研究活動を行っている助手の先生らの学びとなるものと考えている。

本年度は、特に、令和3年度 長崎国際大学 学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」に「フェニルケトン尿症患者(患児)・家族を栄養の力で支援する取組」が採択され、食事療法のためのレシピ集製作に取り組み、全国のご家族へ配布することができ、合わせてアンケート調査を実施することが出来た。本取組では、目標3[保健]、目標4[教育]の達成を目指している。これらのテーマで論文作成、学会発表へとつなげ、今後、研究の質を高めていきたい。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えら

れる。多くの卒業生が病院など臨床現場に就職し、様々な業務に従事している。
　今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 准教授　　氏名 松尾　嘉代子

1．教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。

人が「食べること」を楽むことは、QOLを高めるために重要なことです。

食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場面を想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	8/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	71	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	76	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）	15/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）	30/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	15/15(通年)	1	1	⑪⑫
栄養教育実習	10/20(通年)	1	3	⑦
事前・事後指導（栄養）	6/8(通年)	1	3	④⑦
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	36	①②③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅲ【B】	15/15(前期)	2	41	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	37	①②③⑨⑩
健康栄養入門	5/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫

教職実践演習（栄養）	5/15(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
応用栄養学Ⅰ【B】	15/15(前期)	2	35	①②③⑨⑩
応用栄養学実習【A】	15/15(後期)	1	34	①④⑥⑦⑩
応用栄養学Ⅰ【A】	15/15(前期)	2	32	①②③⑨⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
応用栄養学実習【B】	15/15(後期)	1	32	①④⑥⑦⑩
応用栄養学Ⅲ【A】	15/15(前期)	2	32	①②③⑨⑩
学校栄養教育論	9/15(後期)	2	5	①②③⑤⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの授業実施であったが、昨年度の経験を活かし、学生にとってオンラインでも学びやすい授業実施を心掛けた。また、対面でもオンラインでも授業中に質問等がしづらい学生もいるので、毎回、レスポンによる授業への考察と質問を受け付けることで、学生の授業に対する疑問等を解決できるよう配慮を行った。

その結果、前期、後期ともに授業評価は平均点を超える評価を得ることができた。

今後も、どのような形式の授業になっても、学生が興味を持って取り組めるような授業展開を意識し、管理栄養士として必要な知識や実践的能力を身につけることができるよう、日々、工夫していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究
食物アレルギー児の食支援に関する研究
スポーツ栄養に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

就学前教育・保育施設の自園調理給食が食育へもたらす影響／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／125～135頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習における学生の気分プロフィールの変化／令和３年10月／第63回日本食生活学会

保育所における食育活動の現状と課題～「食と健康」をねらいとした食育活動に向けて～／令和4年2月／第20回長崎栄養改善学会

管理栄養士臨地実習前後のインタビュー調査による学生の感情および自己評価／令和4年2月／第20回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員長	ハラスメント相談案件(2件)への対応や、「ハラスメント防止及び対応に関する規程」及び「ハラスメント防止ガイドライン」について、現状に即した内容となるよう改定を行った。 また、教職員のハラスメントに対する意識の普及啓発を目的としたFD/SDを実施し、ハラスメント防止対策を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程の在り方や教育実習の実習先の検討、学生の指導等について検討した。
教育基盤センター運営委員会	委員	教職課程の改善・充実、資格取得課程の改善・充実、教員等への就職支援プログラムの企画・運営を検討した。
臨地実習委員会（学部内）	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討。今年度はコロナ禍での実習対応調整についての検討も多くあった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 夢ナビライブ2021 Web in Summer「まなびステーション」/令和3年7月10日/WEB開催
② 学科広報催事（公開講座）実施／令和3年9月23日(木・祝)／場所：本学科調理実習室／「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」を開催計画／参加者：親子9組予定　／新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
③ 夢ナビライブ2021 Web in Autumn「まなびステーション」/令和3年10月2日/WEB開催
④沖縄県立西原高等学校進路ガイダンス／令和3年12月10日／WEB開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度教員免許状更新講習会「食と健康を考えるA」	5月22日	長崎国際大学（WEB開催）	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
令和3年度教員免許状更新講習会「食と健康を考えるB」	6月12日	長崎国際大学（WEB開催）	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
（公社）佐世保市学校給食会	評議員	2014年6月1日～現在に至る	（公社）佐世保市学校給食会長
佐世保市食育推進会議	会長	2019年7月1日～現在に至る	佐世保市長
大村市食育推進市民会議	委員	2019年7月1日～現在に至る	大村市長
健康ながさき21栄養・食生活部会	委員	2020年3月1日～現在に至る	長崎県福祉保健部国保・健康増進課長
けんこうシップさせぼ21推進会議	会長	2020年7月15日～現在に至る	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、当初から新型コロナウイルス感染症への対応で、異例の授業運営、研究活動、社会活動を強いられたが、その中で可能な限り工夫をして、教育の質を落とさない努力を行った。その結果、後期の授業アンケートでは例年と変わらず高評価を得ることができたことは、今後の教育活動に自信を得ることができた。

担当科目の臨地実習では、学外に学生を送り出すのが難しい状況であったが、実習施設との調整を充分に行い、全員ではなかったが多くの学生を学外の実習に送り出すことができたので、一定の教育効果を得ることはできたと考える。

【昨年度の記載内容】

また、社会活動も新たな委員会の会長就任や、外部からの講演依頼に４件対応できた。コロナ禍ではあったが、感染予防対策を徹底し社会活動を途絶えさせなかったことは、一定の評価ができる。しかし、学内で実施を予定していた広報活動は、参加者の募集まで終了していたが、調理実習を伴うものであったた

め、中止せざるを得なかった。次年度は、実施方法や参加人数を検討しながら、何とか開催できないか検討していきたい。

研究活動については、大学院生の指導を行いながら、論文投稿の準備を進めていたが、実際に投稿までは出来なかったため、来年度は論文投稿につなげるように進めていきたい。

次年度も、コロナ禍での研究、教育、広報活動が継続していくと予測されるが、工夫してできることが多くあることに気づくことができたので、今年度の教訓を活かしながら、よりよい教育・研究活動を推進できるように尽力していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 准教授　　氏名 山口　留美

1．教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。
臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけではなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に着けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A)	1/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B)	0/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学)	1/15(通年)	1	1	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
臨床栄養管理実習【A】	15/15(後期)	1	36	②③④⑥⑦
臨床栄養管理実習【B】	15/15(後期)	1	36	②③④⑥⑦
健康栄養入門	15/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床栄養管理学Ⅰ【A】	15/15(後期)	2	31	②③⑩
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	7	①②④⑥⑨⑩⑫
臨床栄養管理学Ⅰ【B】	15/15(後期)	2	35	②③⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑨
臨床栄養管理学Ⅳ【B】	15/15(前期)	2	36	②③⑤⑩
給食栄養管理実習【A】	15/15(後期)	1	35	④⑥⑦⑧⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅳ【A】	15/15(前期)	2	36	②③⑤⑩
給食栄養管理実習【B】	15/15(後期)	1	33	④⑥⑦⑧⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する評価は概ね良好であったが、学生の自己学習評価点数が低い傾向である。復習に関しては、授業の最初に前回の内容および学生からの質問を解説しているが、予習は学生の知識を深めるためにも大変重要な項目であるため、さらなる工夫が必要であると感じる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者における栄養管理に関する研究
妊娠糖尿病患者の食生活に関する研究
緩和ケアチームにおける管理栄養士の関りに関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント　第4版第2刷／共著・編著／2021年3月／医歯薬出版株式会社／405～418

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	安心・快適に学生生活が送れるよう様々な件について話し合い、またクリーンキャンパスなどにおいても積極的に活動を行った。
臨地実習委員会（学科）	委員	学外における実習が学生にとってより有意義になるよう指導・フォローを行った。また、コロナ禍で学外実習が行えなかった学生に対しては、同等の学びができるよう学内にて実習の立案および実施を行った。
倫理委員会（学科）	委員	健康管理学部における研究の倫理申請について検討を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
静脈経腸栄養管理栄養士認定授業	インストラクター	2013年10月より現在に至る	公益社団法人　日本栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

大学院の修士論文に取り組み、様々な先生方にご指導いただくことができたおかげで報告が終了し大変有意義な1年であった。
授業アンケートにおいては概ね良好な結果ではあったが、学生への修学意欲をもっと引き出す方法はなかったかと反省し、今後の課題とした。
　また、今年度も臨地実習Ⅳが学外で行えなかった学生に対し、実際の医療現場と同じような内容で学内実習を行うために、他の先生方とともにカンファレンス等を取り入れた内容で実施し充実したものであったと思われる。

今後も研究活動を行いながらも、より学生に寄り添った活動を行っていきたいと考える。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 小田　和人

1．教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	5/78(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	9/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	3/53(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	24	①②⑨
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	7	①②④⑥⑨⑩⑫
スポーツ栄養学実習	30/30(前期)	1	12	⑥⑩⑪
栄養学専門演習	10/156(後期)	2	61	①②③⑨⑩
実践栄養学実習	15/15(前期)	1	1	⑥⑩⑪
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	42	①②⑩
運動生理学	15/15(前期)	2	29	①②⑩
地域の理解と連携	6/15(後期)	2	202	②④⑥
学際連携研究	3/15(前期)	2	214	⑩
地域栄養論	15/15(後期)	2	9	②④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・前期　運動生理学
質問12：4.3、質問13：4.4と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。今年度からの開講科目であったことから、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・前期　スポーツ栄養学実習
学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進捗度を考慮し、授業の進行の調整を行った。また、グループ毎に作業することが多いため、グループによって理解に差が生じないよう、班構成にも考慮した。質問12：4.8、質問13：5.0と昨年度よりも全体的に評価が向上したと考えられる。今後、学生からの質問や意見に応える時間も増やしていきたい。

・後期　スポーツ栄養学（健康栄養学科）
質問12：4.6、質問13：4.7と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。今年度からの開講科目であったことから、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期　スポーツ栄養学（国際観光学科）
昨年度と大きく変わらない評価（質問12：4.5、質問13：4.7）であり、過半数が理解でき、満足できたという結果であった。談話している学生がいた場合は声をかけていたが、余計な話をしたりすることがないように注意していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	5
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	8
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習	30/30(集中)	1	2
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	29

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.　競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質、糖代謝、骨代謝マーカーとの関係
2.　学生アスリート寮における食環境整備

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	40万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Insulin resistance and the Adiponectin / Leptin Ratio as a surrogate measure of insulin resistance in Japanese collegiate baseball players／2021年12月／J Sports Med Phys Fitness 61(12)／1661-1667／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和3年度 学長裁量経費	長崎国際大学	2021年6月～2022年2月	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
ボランティアセンター運営委員会	委員	委員会への出席
安全衛生委員会	委員	共通教育・初年次教育・リメディアル教育・入学前教育の企画及び運営
教育基盤センター運営委員会	委員	委員会への出席
学生委員（学科）	委員	委員会への出席
倫理委員（学科）	委員	委員会への出席
国家試験対策委員（学科）	委員	栄養士実力認定試験の実施責任者および模擬試験の運営
入試募集委員（学科）	委員	オープンキャンパス学科責任者

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
4年演習担当	係	定期試験問題の編集および採点、結果表作成

卒業研究担当	係	説明会及び発表会の運営、希望調査の集計、論文集の作成
教育基盤センター委員会 ホスピタリティ概論ワーキンググループ	係	授業の運営、シラバスの修正、授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師の依頼を行っている。

(3) 課外活動の指導等

①長崎国際大学空手道部　男女空手道部顧問　およびコーチ（栄養部門）

②NIUスポーツ栄養サポートチーム：
本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本陸上競技部、駅伝部、空手道部、九州文化学園高校サッカー部、佐賀県空手道国体候補選手に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的にweb上に掲載。
②本学空手道部の活動記事を定期的にweb上およびインスタグラム、Facebookに掲載。
③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施（2022年度8名が入部予定）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
運動部に所属する高校生のための食事と栄養（高校生サッカー選手のためのスポーツ栄養学②試合時の食管理）	令和3年4月28日	南風崎MGレジデンス体育館	九州文化学園高校サッカー部

運動部に所属する高校生のための食事と栄養（高校生サッカー選手のためのスポーツ栄養学③水分補給）	令和3年5月11日	南風崎MGレジデンス体育館	九州文化学園高校サッカー部
運動部に所属する高校生のための食事と栄養（高校生サッカー選手のためのスポーツ栄養学④競技特性に応じた栄養補給）	令和3年6月2日	南風崎MGレジデンス体育館	九州文化学園高校サッカー部
運動部に所属する高校生のための食事と栄養（高校生サッカー選手のためのスポーツ栄養学⑤ウエイトコントロール）	令和3年6月16日	南風崎MGレジデンス体育館	九州文化学園高校サッカー部
運動部に所属する高校生のための食事と栄養（高校生サッカー選手のためのスポーツ栄養学⑥自己管理能力）	令和3年7月7日	南風崎MGレジデンス体育館	九州文化学園高校サッカー部

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県空手道連盟理事会	学連理事	2019年4月～現在に至る	長崎県空手道連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①令和3年4月～令和3年8月　南風崎MGレジデンス学生寮でのアスリート学生に向けた残食量減少に向けた食環境整備
②令和3年4月～令和3年8月　　九州文化学園サッカー部への栄養サポート
③令和4年1月6日　西陵高校「探求の活動」（特別授業）における「試合で長く体力を持続させる食事」に関するインタビュー

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎新聞ジュニア版メクル　インタビュー記事掲載「ここ一番の勝負めし」（掲載日：2022年1月22日）

７．受賞等

令和3年6月　長崎国際大学ベストティーチャー賞（ベストアウトリーチ部門）

８．活動全般についての自己点検・評価

前期授業の「スポーツ栄養学実習」では、グループによって進行状況が異なることもあることから、アクティブラーニングに沿った授業を展開するとともに配布資料の改善、グループ学修の時間の十分な確保を

行った。また、後期授業の「スポーツ栄養学」においても大半が満足していたが、より多くの学生に知識の修得とともに受講して良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。
卒業研究担当学生に対して、選手への具体的な栄養サポート方法等を指導し、地域での活動を通して知識や経験を増やすことが出来た。また、学生生活や学修状況を把握し、定期的に支援を行った。
教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営に携わった。またホスピタリティ概論ワーキンググループでは、授業の運営について協議し、シラバスの修正や授業担当者の選出等を行っており、今年度の反省を活かした運営に励みたい。
『スポーツ栄養学的サポート』『アスリート寮における食環境整備』をテーマに研究を行っており、今年度、国際雑誌に査読付研究論文1本掲載した。また、令和3年度学長裁量経費「地域学生アスリート寮における残食量減少に向けた食環境整備」においても目標を達成することが出来た。
社会貢献として競技選手（高校生）への講演を6件実施した。次年度以降も外部依頼があれば貢献していきたい。
NIUスポーツ栄養サポートチームとして本学クラブや高校ジュニア選手への栄養サポートを実施し、また男女空手道部顧問および栄養サポートコーチとして大会引率等を含め、選手の学生生活やコンディションのサポートを行い、高校生への募集活動も行った。全九州大会では男子団体組手で優勝、女子団体組手は第3位と好成績を収めたが、学業面との両立を図れるよう指導を続けていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 川内　美樹

1．教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、４年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。
私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、４年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、放課後には化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	3/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	3/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	6/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	3/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
生化学実習【B】	15/15(後期)	1	35	①⑪
管理栄養士演習(後期)	3/15(後期)	2	21	①⑪
生化学【A】	15/15(後期)	2	25	①③⑨
栄養代謝学【B】	15/15(前期)	2	33	①③⑨
基礎化学実習【A】	7/15(後期)	1	20	⑨⑪
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	3/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	27	①⑧⑨
生化学実習【A】	15/15(後期)	1	35	①⑪
栄養代謝学【A】	15/15(前期)	2	35	①③⑨
生化学【B】	15/15(後期)	2	26	①③⑨
基礎化学実習【B】	7/15(後期)	1	25	⑨⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

栄養代謝学／本科目はやはり授業だけでは理解することは難しく、復習をしていない学生が再試験や再履

修という結果になっている。そうならないようにこちらからも注意し勉強するように促してきた。しかし、予習プリントを配布して準備学習しやすいようにしていても、しないと答える学生がいること、さらに興味ないと答える学生も一定数いることから、全員満足させる授業は困難であると思う。もっと勉強の仕方などを具体的に伝えていくことで、これからの試験対策として勉強の意欲につながって欲しいと思う。
コロナなどで授業が遠隔になったりとまだ完全な形に戻っていないので、早く通常授業ができるようになればと願う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校　衛生看護専攻科	栄養学	8/8(前期)	1	40

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響
2. 酒粕を混合した飼料でのタマゴの栄養価食味健康機能性研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

2022年管理栄養士国家試験全国統一模擬試験「かんもし」第2回解答と解説／共著・編著／2021年09月／株式会社インターナショナル／共著：20ページ、26ページ

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	学科予算分の図書の選書の取りまとめ
ハラスメント対策委員会	委員	相談への対応
IRセンター	委員	卒業アンケートの学科意見のまとめ IRコンソーシアム学生アンケートの学科意見のまとめ
学科学生委員会	委員	学生指導など
国試対策委員会	副委員長	模擬試験と取りまとめ、国試対策の実施、朝テストの実施計画

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
入試問題作問	作問責任者（化学基礎・化学）　作問グループ（総合問題、生物基礎・化学基礎）	推薦入試2回分作問 一般学力入試3回分作問

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① オープンキャンパス（7月、8月、3月）への参加
② 高校ガイダンスへの参加（佐世保商業高校）/3月18日
③ 夢ナビ　栄養学ブースの担当/7月10日/　オンラインにて実施

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

酒粕を用いた実験研究を行っている。産業廃棄物である酒粕を人々の健康増進のため（肥満や糖尿病改善）に使えるようにすることを目標としている。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、昨年度とは異なり、前期は対面授業で実施することができたので、学生の顔を見ながら担当科目は全て滞りなく進めることができた。後期は、年明けからはオンライン対応になってしまい、最後のまとめが不十分な感じになってしまったのが残念だが、授業アンケートの結果もコメント欄は例年通り「わかりやすかった」という意見が多くよかったと思う。
研究面においては、目標としていた論文作成や学会発表を十分に行うことができなかった。来年度は早々に論文を提出できるように頑張りたいと思う。
また、委員会等の活動では図書館委員としては学科の選書を行ったり、ハラスメント対策委員でも相談に

対応するなど職務を全うすることができた。IRセンター委員会でも学科の意見をまとめたりと滞りなく行うことができた。
学科の国家試験対策委員のメンバーとして、模擬試験の実施から学生教員、保護者への結果のフィードバック、さらに朝テストの作成から実施までをメンバーと協力しながら行うことができた。
来年度はまだまだ日常に戻るのは難しいかとも思うが、与えられた任務に加えて学生へのサポート、さらには自分自身の研究面も充実させていきたいと考える。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 川野　香織

1．教育理念

私の教育理念は、対象者に寄り添った支援によって、よりよい食生活の実現に貢献できる管理栄養士の育成を行うことである。

私が担当している栄養教育論は、健康の維持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成や行動変容のために、いかに支援すべきかの学問である。それは、単に知識を伝えるだけでなく、行動科学や教育的な幅広い視点を踏まえ、一人ひとりに応じた栄養教育を行う必要がある。そして、その一歩は、対象者を理解し、尊重することから始まると考える。

よって、学生には、人々の価値観や社会的背景の特徴等の多様性の理解と尊重ができる豊かな人間性や広い視野、コミュニケーション能力を身につけてほしいと考えている。その点を踏まえながら、講義中心の授業では、実践の場をイメージできるよう、かつ、意欲喚起を図る手段を取り入れ、知識やスキルを伝え、実習では、グループ討議や発表等を通して、コミュニケーション力、協働・課題解決力を育成に努める。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	71	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	76	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）	15/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）	30/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	15/15(通年)	1	1	⑪⑫
栄養教育実習	10/20(通年)	1	3	⑦
事前・事後指導（栄養）	4/8(通年)	1	3	④⑦
栄養教育論実習Ⅰ【A】	15/15(前期)	1	33	①②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ【A】	15/15(後期)	1	35	①②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅰ【B】	1/15(前期)	1	33	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ【B】	1/15(後期)	1	37	②③④⑥⑪
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
栄養教育論Ⅱ【B】	15/15(前期)	2	35	①②③⑩
栄養教育論Ⅰ【B】	15/15(後期)	2	35	①②③⑩
栄養教育論Ⅱ【A】	15/15(前期)	2	32	①②③

健康栄養入門	3/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教職実践演習（栄養）	5/15(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	⑪⑫
栄養教育論Ⅰ【A】	15/15(後期)	2	31	①②③⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
学校栄養教育論	8/15(後期)	2	5	①②③⑤⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度も対面と遠隔の授業が混在するなど柔軟な対応が求められたが、昨年度の遠隔授業経験を十分に活かし、理解度・満足度において昨年度同様に全体平均以上の評価を得た。しかし、「授業の方法について」の項目の中には、昨年度より評価が低いものもみられたため、媒体の活用方法や学生の授業参加の促しなどについてより工夫し、学生が必要な知識を修得できるような授業展開に心がけたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究
災害時における食料備蓄に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

改訂マスター栄養教育論実習／共著・編著／2021年3月／(株)建帛社／57-65

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

就学前教育・保育施設の自園調理給食が食育へもたらす影響／2022年3月／長崎国際大学論叢22巻／125～135／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習における学生の気分プロフィールの変化／2021年11月／第63回 日本食生活学会

保育所における食育活動の現状と課題　－「食と健康」をねらいとした食育活動に向けて－／2022年2月／第20回 長崎栄養改善学会

管理栄養士臨地実習前後のインタビュー調査による学生の感情および自己評価／2022年2月／第20回 長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職に関する事項の協議および学科の就職ガイダンス等の計画実施を担当した。
地域連携センター	委員	地域連携に関する事項の協議を行った。
臨地実習委員会（学部内）	副委員長	臨地実習に関する事項の協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・夢ナビライブ2021 Web in Autumn参加／2022年10月2日／オンライン
・進学ガイダンス参加／2022年3月15日／場所：瓊浦高等学校（長崎県）
・学科広報催事（公開講座）実施／2022年9月23日(木・祝)／場所：本学科調理実習室／「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」を開催計画／参加者：親子9組予定／新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度「食育研修会」	2021年4月16日	長崎県総合福祉センター	長崎県保育協会
教員免許更新講習会「食を通して健康を考えるA」	2021年5月22日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
教員免許更新講習会「食を通して健康を考えるB」	2021年6月12日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育向上委員会	アドバイザー	2021年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・消費生活課
佐世保市食育推進会議	委員	2017年4月1日～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県食育向上委員会の大学生委員の活動サポート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年であったが、昨年度の経験を基に工夫を重ね、一定の諸活動が実施できたと考える。

教育活動では、栄養教育論において、前年度の反省を踏まえ、媒体や資料の作成に注力し、授業アンケートでは比較的高い評価を得た。また、プレゼンテーションスキルや臨地実習で求められる媒体作成のスキルは、栄養教育論実習によって身に着いたと学生からの評価を得た。さらに、臨地実習では、以前から不足と感じていた事後指導を実習の流れに組み込み、3年生に対して指導を行った。事後指導は実習先での学びの状況の把握と必要な指導をタイムリーに行うことができ、学生の深い学びにつながったと考える。研究活動では、大学論叢への論文掲載および学会発表を行うことができた。

次年度は、これらの教育・研究活動に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で十分に活動できなかった社会貢献活動においても方法を模索しながら取り組み、本学の一員としての諸活動に積極的に取り組みたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 髙江洲　有沙

1．教育理念

私の教育理念として、対象者の個性や特性を尊重した行動を実践し、主体的に考えて行動する力ならびに社会で柔軟に生きぬく力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を支援することである。相手を尊重し行動することは社会生活において人間関係をよりよくするための基本的なことで、そのうえに管理栄養士の専門的な知識と技能を生かして人々の健康の維持増進に貢献することができると考えている。

また、管理栄養士は様々な社会的背景を持った対象者の「食」に関わる職業であることを自覚し、「誰ひとり取り残さない世界」の実現に向けて、個々に寄り添った支援をしていくためには、基礎・基幹科目がどのように実践で生きるのか、各科目を関連付けて講義を進め、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を用い、専門力だけでなく、多様性理解力や課題解決力を育成したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	71	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	76	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）	15/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）	30/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	15/15(通年)	1	1	⑪⑫
栄養教育実習	20/20(通年)	1	3	⑦
事前・事後指導（栄養）	5/8(通年)	1	3	④⑦
栄養教育論実習Ⅰ【A】	15/15(前期)	1	33	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ【A】	15/15(後期)	1	35	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅰ【B】	15/15(前期)	1	33	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ【B】	15/15(後期)	1	37	②③④⑥⑪
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教職実践演習（栄養）	3/15(後期)	2	3	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫

国際栄養論	15/15(後期)	2	12	②③④⑤⑦⑩
食教育論	15/15(前期)	2	19	①②③⑤⑥
栄養学専門演習	3/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度に比べて、学生の授業態度や満足度や理解度に改善傾向が見られた。今年度はシラバスを見直してグループディスカッションの回数を増やして授業の進行順を変えたことや学校給食や海外での体験談も多く取り入れながら講義を行ったことが改善につながったのではないかと考えられる。特に海外での体験に興味を示す学生もいたことから、今後も取り入れていきたい。
しかし、配布資料等の授業で使用する教材と話し方については改善が必要であり、次年度は、分かりやすい資料作成を行い、学生の学習意欲につながるような授業展開ができるように工夫していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策	10	79	2021/10/8, 12, 26、11/2, 9、12/21、2022/1/21、2/1, 7

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・教育現場における食育に関する指導方法の研究
・教職課程（栄養教諭）における栄養専門科目についての研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習における学生の気分プロフィールの変化／2021年11月6日／第63回　日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	なし
男女共同参画推進委員会	委員	なし
臨地実習委員会（学科内）	委員	長崎県栄養士養成施設協議会の公衆栄養学臨地実習調整校として担当教員と連携しながら、各大学や施設との調整を行うことができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビライブ2021 Web in Autumn　まなびステーション「」/7月11日、10月2日/オンライン
②ライセンスアカデミー進路ガイダンス参加、沖縄県立南風原高校/11月11日/オンライン
③オープンキャンパス　卒業後の進路について（海外ボランティア）講話/8月8日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

着任2年目で、学生の主体性を意識した授業展開を行うことが少しづつできるようになったきたと感じている。実務家教員としての実体験を講義の中で伝えながら根拠のある説明をすることを心掛け、食教育論では、「食」を身近に感じて更に興味が持てるように、学生自身の学校給食や食体験を共有するグループワークなどを取り入れながら行った。また、国際栄養論では、海外での活動風景の動画や写真を使用し、授業の理解度を深めるように工夫した。次年度も学生の積極的な授業参加につながる講義をしていきたいと考えている。

大学運営活動においては、大学全体十分に把握することが出来なかったが、教職員の方々から助言をいた

だきながら広報活動等を進めることができたと考える。次年度は、社会活動にもつながるような活動を行いたいと考えている。
研究活動においては、研究テーマを計画通りに進むことはできなかったため、次年度は調査研究をすぐに取り組めるようにしっかりと準備をしている状況である。
今後は授業だけでなく学生サポートおよび研究面も充実させ、社会貢献と大学運営に積極的に取り組んでいきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 藤井　俊輔

１．教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持てば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ？」、「どのように？」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ？」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないよう、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか？」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②③⑧⑨
食品学Ⅰ【A】	15/15(前期)	2	25	①⑨
食品学Ⅱ【B】	15/15(後期)	2	27	①⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
食品学実習【B】	15/15(前期)	1	33	①⑩
管理栄養士演習(後期)	1/15(後期)	2	21	①②③⑧⑨

基礎化学実習【A】	8/15(後期)	1	20	⑨⑪
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑨⑩
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	25	①⑨⑩
食品学Ⅰ【B】	15/15(前期)	2	30	①⑩
食品学Ⅱ【A】	15/15(後期)	2	33	①⑩
食品学実習【A】	15/15(前期)	1	28	①⑪
基礎化学実習【B】	8/15(後期)	1	25	⑩⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食品機能科学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も授業形式が対面式とオンライン形式が不定期に入れ替わらざるを得ない状況での実施となったが、どのような形式であってもコロナ禍以前と変わらぬ授業評価、特に講義に対する高い満足度を得ることができた（概ね4.6ポイント以上）。コロナ禍を理由にはすでにできない状況にあるため、今後も、どちらの形式であっても問題なく講義を行うことができるよう努めたい。また、私が担当する講義は、事前学習を行う学生の比率が、全学平均よりも高い傾向がある。この点に関してはさらに伸びるよう、学生に自己学習の必要性と重要性を講義の中で話していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
唐津看護専門学校	栄養代謝学	30/30(前期)	2	35
長崎短期大学	食品学Ⅰ	30/30(前期)	2	23
長崎短期大学	食品学Ⅱ	30/30(後期)	2	22
長崎短期大学	食品学実習	45/45(後期)	1	26

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製と免疫化学的分析手法の開発

本研究では、生薬や食品に含まれる薬理作用または、三次機能が見いだされている天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製を実施し、作成したモノクローナル抗体を研究ツールとして、種々の免疫化学的分析手法の開発を行い、生薬の品質管理や標準化への応用、また、食品の安全性評価法へと応用している。

2.骨粗鬆症の予防に着目した機能性成分に関する研究

骨粗鬆症は骨の病的老化であり、骨形成と骨吸収を司る骨芽細胞と破骨細胞のアンバランスが生じた結果引き起こされる骨代謝疾患である。骨粗鬆症の予防には、ライフステージの初期段階から生涯をかけて取り組むことが重要である。本研究では、骨芽細胞の増殖、分化に影響をを与える食品成分の探索を実施し、その作用機序の解明を目的としている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	300万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Immunological separation of bioactive natural compounds from crude drug extract and its application for cell-based studies／2021年11月／Antibodies (Basel)／doi: 10.3390/antib10040048／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ホルモノネチンに対する特異的モノクローナル抗体の作製および間接競合ELISAへの応用／2022年3月／日本薬学会

抗ヘスペリジンモノクローナル抗体の作製及び間接競合ELISAの確立／2022年3月／日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
免疫化学的測定法を基盤とした生薬及び漢方製剤の品質評価法の開発及び標準化に関する研究	日本医療研究開発機構医薬品等規制調和・評価研究事業	2021年-2023年	300万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	委員として学科のオープンキャンパスの企画立案、取りまとめを行った。また、学内外の進路ガイダンスを3件担当し、募集活動に関して精力的に活動した。
CHサポートセンター運営委員会	委員	運営委員としての職務や、学生相談室の室員や、学科ピアサポーターの担当等を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

バレーサークルの顧問を務めた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

1)夢ナビライブ2021 講義ライブ/2021年7月10日/オンライン開催
2)夢ナビライブ2021 講義ライブ/2021年10月2、3日/オンライン開催
3)学外進路ガイダンス/2021年12月15日（創成館高校）
4)オープンキャンパス参加（主に企画立案、実施運営を担当）/全4回

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「スポットイン佐世保」出演	2021年2月3日	長崎国際大学	テレビ佐世保
「職場へGO!」出演	2021年3月16日	長崎国際大学	テレビ佐世保

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

1）論文査読3件（欧文誌）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、講義・実習の満足度は高い水準で今年度も維持することができたと自負している。次年度以降もこの水準の維持のみならず、講義内で学生のニーズをくみ取り、柔軟に対応することで、講義に対する満足度の向上を目指していきたい。

学内業務に関しては、コロナ禍においても比較的活発な募集活動に従事することができたと感じている。本学主催のガイダンスやオープンキャンパス以外にも、学外の進学インベントにおいて、模擬授業を行うことができたことは、本学の広報活動の一環としての役割も担えたのではないかと考えている。次年度も今年度以上に、活発な募集活動に参画していきたい。

研究に関しては、大型予算の研究プロジェクトに分担者として携われたことは、自身の成長にもつながる良い機会を得たと感じている。また、論文に関しては共著者として1報のみであり、十分な研究のアウトプット活動ができなかったことが反省点として挙げられる。次年度は、1報以上の筆頭著者論文を成果として挙げたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 宮原　恵子

1．教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格する学力、さらに社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

私が担当する講義は生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去、将来の生活に結び付けながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法ですすめます。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法ですすめます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	67	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	71	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	76	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）	1/15(通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）	1/30(通年)	2	2	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	1/15(通年)	1	1	⑪⑫
健康管理論【A】	15/15(前期)	2	38	①②④⑩
公衆衛生学Ⅰ【A】	15/15(後期)	2	22	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ【A】	15/15(前期)	2	38	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①②③⑧⑨
管理栄養士演習(後期)	1/15(後期)	2	21	①②③⑧⑨
公衆衛生学Ⅰ【B】	15/15(後期)	2	29	①②⑨
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
公衆衛生学Ⅱ【B】	15/15(前期)	2	35	①②⑨
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
健康科学実習【A】	15/15(後期)	1	36	①④⑥⑩
健康科学実習【B】	15/15(後期)	1	35	①④⑥⑩

栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
健康管理論【B】	15/15(前期)	2	34	①②④⑩
総合演習Ⅱ【木5】	1/15(後期)	1	1	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目では、授業方法に関する評価は向上した。これは授業方法の変更が要因と考えられる。しかし、授業の理解度や満足度はあまり変化しなかったため、引き続き、授業方法の検討が必要である。

実習科目では、ほとんどの項目において改善がみられた。実習内容や展開を検討した結果、受講学生の積極的な態度につながったことが要因と考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	健康と運動	15/15(集中)	1	12

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・食生活と環境問題に関する研究：今年度は環境問題への意識と食生活におけるプラスチック消費量の関連について調査を行った。

・大学生の健康管理に関する研究：今年度は本学部活生の身体組成の変化に対する栄養サポートについて調査を行った。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

女子学生の1食における咀嚼状況と体格の関連／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／137頁～143頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

女子大生の1食における咀嚼状況と体格の関連／2021年10月1日／第68回日本栄養改善学会学術総会

管理栄養士臨地実習における学生の気分プロフィールの変化／2021年11月6日／日本食生活学会第63回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	特になし
教育基盤センター運営委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①小禄高校2年生対象ガイダンス／12月1日／オンライン
②宜野湾高校1年生対象ガイダンス／12月8日／オンライン
③純心女子高校2年生対象ガイダンス／3月19日／純心女子高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

まず教育活動においては、授業方法の改善を行い、一部の科目では授業アンケートよりこれまでで最も高い評価を得ることができた。しかし、一部の科目に限定されるため、講義科目を中心に授業方法の工夫を検討する必要がある。

次に研究活動においては、学内論叢ではあるが1本掲載することができた。しかし、委託研究・外部資金等への応募は科研費のみで採用もされなかったため、科研費以外への応募も含め、積極的に取り組む必要がある。

そして、大学運営活動においては、入試募集委員としてガイダンス等に積極的に取り組んだ。しかし、

定員の充足は難しい状況であるため、引き続き、学科内の委員会も含め、検討を行う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 講師　　氏名 吉村　亮二

1．教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力（専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力）を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

（講義科目）

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

（実習・演習科目）

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から結果考察までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	⑧
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
基礎栄養学【B】	15/15(後期)	2	31	①⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	57	⑧
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	⑧
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	⑧
基礎栄養学実習【A】	15/15(前期)	1	36	①⑩⑪

教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎栄養学【A】	15/15(後期)	2	24	①⑨
卒業研究【栄】	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
生物有機化学	15/15(後期)	2	12	①②③⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
栄養生理学実習【A】	8/15(後期)	1	27	①⑩⑪
基礎栄養学実習【B】	15/15(前期)	1	35	①⑩⑪
栄養生理学実習【B】	8/15(後期)	1	45	①⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学演習【2年生　通年】	60/60(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

令和3年度前期授業評価は健康栄養学科専門科目である管理栄養士演習においてアンケートを実施した。不満を感じている学生はおらず、満足度は4.4であり、理解度も4.2であったため、受講生に適した授業を行えていると思われる。今後は、自由記述欄に板書等に対する要望が記載されていたため、その点を今後は改善し、よりよい講義に努めたい。

令和3年度後期授業評価は健康栄養学科専門科目である総合演習IIにおいてアンケートを実施した。不満を感じている学生はおらず、満足度は4.2であり、理解度も4.2であったため、受講生に適した授業を行えていると思われる。今後は、引き続き学生の理解度を確認しながら授業を進め、より理解しやすい講義に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	栄養学	15/15(前期)	2	28
佐世保市医師会看護専門学校 看護科	環境論	15/15(前期)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理作用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	2	2	884万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生理活性物質としてのロイシンに関する研究／令和3年10月24日／日本アミノ酸学会第15回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
サルコペニア原因候補のミトコンドリア機能異常と筋タンパク質同化抵抗性の因果関係	日本学術振興会	令和3年4月～5年3月	455万円
栄養環境がもたらすエピゲノム制御変化の解明に基づく肝発癌増殖進展の制御	日本学術振興会	令和3年4月～5年3月	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生委員会の委員として開国祭の実行委員長を勤め、また保護者会実施にも大きく貢献しました。
動物実験委員会	委員	委員として全学の動物実験の倫理審査等を行いました。
健康栄養学科国試対策委員会	委員	健康栄養学科国試対策委員会の委員として国家試験合格率100％を目標に講義スケジュール調整補助や朝テスト作成、採点に積極的に取り組みました。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

フットサルサークルの顧問として提出書類の確認を行いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

夢ナビまなびステーション参加／10月2日／オンライン

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会	委員	令和3年4月～令和5年3月	長崎県栄養士会佐世保支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

日本アミノ酸学会2021年度奨励賞

8．活動全般についての自己点検・評価

・教育

授業アンケートの満足度は、4.4と昨年に比べ少し向上しており、高い満足度を安定して得られるようになってきたと感じています。引き続き、授業改善に努め、継続的に高い満足度、理解度を得られる授業を行いたいと思います。

・研究

これまでに得られた研究結果を論文（2編）を国内学会誌へ投稿し、掲載可となりました。また、研究代表者、分担者として新規の科研費を獲得することができました。さらに、これまでの研究活動実績が認められ、日本アミノ酸学会から奨励賞を授与され、充実した一年にすることができたと感じています。来年度も新たに得られている研究結果を論文として発表したいと思います。

・大学運営

学生委員会の委員として開国祭の実行委員長を勤め、また保護者会実施にも大きく貢献しました。さらに、国試対策委員会の委員として国家試験合格率100％を目標に講義スケジュール調整補助や朝テスト作成、採点に積極的に取り組みました。他の全学委員会、学科内委員会の運営にも協力しました。引き続き、大学運営に積極的に取り組みたいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助教　　氏名 射場　仁美

1．教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	23	①②⑨
微生物学実習【B】	15/15(後期)	1	28	①⑩
食品衛生学実習【A】	15/15(前期)	1	34	①⑩
食品衛生学実習【B】	15/15(前期)	1	37	①⑩
微生物学実習【A】	15/15(後期)	1	33	①⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

栄養の生物学、食品衛生学実習、微生物学実習の担当と基礎栄養学実習、栄養生理学実習の実習補助を行った。今年度、初めて授業評価アンケートを行ったので、昨年度との比較はできないが、おおむね評価はよかった。自由記述欄にはレポートへのコメントや実験前のデモンストレーションがわかりやすいとの記述もあった。学生個人の理解度に差があるが、できるだけ丁寧にコメントや説明をしていきたい。特に、1年生は初めての実験実習で慣れていないので、実習中も積極的に声をかけ、サポートしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
佐世保市看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	73

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	8	68	12/2, 12/3, 12/6, 12/9, 12/13, 12/16, 12/20, 12/23

３．研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子T3SS1の遺伝子発現誘導条件の検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	442万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

もろみ酢の新規乳酸菌発酵飲料が示す風味の特徴とその摂取が肥満に及ぼす影響／2021年11月6日／日本食生活学会第63回大会（盛岡）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
若手研究（腸炎ビブリオの病原因子T3SS1の遺伝子発現誘導条件の検討）	科学研究費助成事業	令和３年度～令和５年度	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
臨地実習委員会	委員	臨地実習で学生が実習先へ提出する書類の作成等
国家試験対策委員会	委員	国家試験対策演習の時間割作成・調整

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスに参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①通年：長崎国際大学PCR検査センターにおいて、新型コロナ検査の検体採取業務
②6月24日、7月14日、3月4日：新型コロナワクチン職域接種の会場で誘導係

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では今年度初めて担当科目をもった。授業アンケートの評価はおおむねよかったので、来年度も同様に丁寧な指導を心掛け、学生の理解度が高まるよう取り組みたい。
研究面では、科研費（若手）に採択された。今年度は研究環境を整えることが中心であまり研究が進まなかったので、来年度は進められるよう計画的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助教　　氏名 菊地　優子

1．教育理念

探究心をもち、自ら学ぶことのできる学生を育成する。
私は生物や化学といった専門科目の土台となる科目を担当しているが、これらは高校までの学習状況が大きく反映され、スタート時から理解度の差が大きく、苦手意識をもっている学生が多い。1年次のこれらの科目を通して、不足する能力に対して避けることなく前向きに、積極的に学ぶことのできる学生を育成したい。そのためには、なぜ生物や化学の知識が必要なのかを説明し、管理栄養士の専門科目と結び付けた授業展開を行う。また、実習では一人ひとりの理解度や意欲を把握しながら学生と接するよう心がける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅱ【前期】	1/15(前期)	1	12	①③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	72	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	57	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	67	①③⑧⑨
管理栄養士演習(後期)	1/30(後期)	2	21	①⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	32	①②⑨
基礎化学実習【A】	15/15(後期)	1	20	①⑨⑩
教養セミナーB【栄】	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
栄養学応用演習Ⅰ	15/15(前期)	1	25	①②⑤⑥⑨
教養セミナーA【栄】	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
栄養英語	15/15(後期)	2	3	①⑥⑧
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	61	①⑧⑨
基礎化学実習【B】	15/15(後期)	1	25	①⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は初めての実施であたが、栄養の生物学、栄養学応用演習Ⅰともに満足度は4.4であった。声の大きさや文字の大きさについてのコメントが複数みられたため、教室のサイズに合わせてマイクの音量やスライド等を見直す必要があると感じた。後期科目の基礎化学実習は4.5、4.6と前年度に比べて改善したが、理解度についての項目が低いため、引き続き実習中の積極的な声掛けと個別対応を行う必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園　歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	―	27
九州文化学園　歯科衛生士学院	国家試験対策（生化学）	2/74(後期)	―	31

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策	5	78	10/11, 11/22, 1/7, 2/9, 2/15

３．研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員	なし

健康栄養学科　倫理委員会	委員	なし
健康栄養学科　国家試験対策委員会	委員	模擬試験担当

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 夢ナビライブ 2021 Web in Autumn まなびステーション／10月2日／Web開催
② 佐世保東翔高校校内ガイダンス／3月14日／佐世保東翔高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
聞いてみよう！体験してみよう！「理系女子の世界」	12月12日	九州文化学園小・中学校	長崎国際大学・佐賀大学・西九州大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は科目担当2年目となり、前年度の反省点を踏まえて授業を行うことができた。前期科目では初めての対面授業であった。学生の反応が見られるため、進めやすくはあったが、スライドの見やすさやマイクの音量など遠隔授業ではあまり意識していなかった課題が見つかった。対面授業では見直すことができないため、1回の授業で理解してもらえる媒体や授業にする必要があると感じた。後期の基礎化学実習では授業アンケートの満足度は改善することができ、授業の内容や進め方が確立できてきたため、今後はより精査していくとともに、その年の学生の理解度やクラスの雰囲気に合わせて柔軟に対応していきたい。

広報活動・社会活動においては、ガイダンスや学外での講座に参加することができたが、初めてのことも多く、不慣れ部分もあったため、今後も積極的に参加し、経験を積みたい。

研究面では新たなデータを得ることができず、学会発表ができていないので来年度実施できるよう努めたい。また、投稿準備中の論文を年度内に投稿できなかったため、こちらも合わせて次年度の課題としたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助教　　氏名 吉永　奈津希

1．教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等の支援を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
管理栄養士演習(後期)	2/30(後期)	2	21	なし
調理学実習Ⅲ【A】	15/15(後期)	1	32	①③⑩
調理学実習Ⅲ【B】	15/15(後期)	1	38	①③⑩
給食経営管理実習【A】	15/15(前期)	1	33	①②④⑥
給食経営管理実習【B】	15/15(前期)	1	33	①②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・給食経営管理実習（学内）

授業アンケートにおいて、授業に対する理解度の平均は4.3および4.8、満足度の平均は4.4および4.8であった。連絡が遅いといった意見があったため、次年度以降改善していく。

・調理学実習Ⅲ

授業アンケートにおける授業に対する理解度の平均は4.8および4.9、満足度の平均は両クラス4.9であった。レポート用紙については一部改善を行う。

今年度より科目担当となり、昨年度までの実習補助業務とは異なる点が多かった。特に提出物等の評価については、責任を持って評価したが、次年度以降返却レポートにもう少しコメントを入れる等、学生の理解度の向上につなげていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品の特性	14/14(前期)	2	14

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
2. 大量調理における各種浸漬液が食肉の軟化に及ぼす影響
3. 大量調理時に使用する手袋等の細菌汚染状況調査に基づく危害分析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

幼児期の喫食率に関連する給食メニューの特徴について～1施設（子ども園）における事例～／20210630／日本食生活学会誌　第32巻第1号／37頁～47頁／共著／資料

介護食における食べる機能の段階に応じたテクスチャーの検討／20220331／長崎国際大学論叢　第22巻／145頁～151頁／共著／研究ノート

手洗い方法の違いによる衛生手袋装着後の手袋内での細菌の消長／20220331／長崎国際大学論叢　第22巻／153頁～159頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

手洗い方法の違いによる衛生手袋装着後の手袋内での細菌の消長／2021年3月6日／第 8 回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会（オンライン開催）

発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食の検討／2021年6月6日／第10回 日本栄養改善学会東海支部会学術総会（誌上開催）

大量調理時に使用する衛生手袋装着後の手指の細菌汚染状況／2021年11月20日／第16回日本給食経営管理学会学術総会（オンライン開催）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科内）	委員	学科成績取りまとめ、議事録を担当した。
臨地実習委員会（学科内）	委員	事前指導、臨地実習Ⅰ・Ⅱに関する業務を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパス学科プログラム担当／8月8日、9月20日／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①12月4日「地域介護者教室」開催、主催：長崎国際大学（社会福祉学科、健康栄養学科）
②12月11日「幼児食講座」開催、主催：長崎国際大学健康管理学部
※①、②は令和3年度学長裁量経費の事業である。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、日々の業務に追われ、科目担当としての業務を十分にできたとはいえないが、学生に対する態度、発言、レポート評価等にこれまで以上に責任を感じた1年であった。次年度以降も担当するにあたり、日頃から関連する内容についての知識を得ることができるようこれまで以上に努力したい。
研究活動としては、これまでとは異なるテーマでの研究を始めた。結果について、学会発表することができたため、今後論文投稿に向け準備を進めている。しかし、一部結果をまとめきれていないため、次年度その内容について学会発表できるようにしたい。
社会活動としては、学長裁量経費の取組として、参加形式（対面・遠隔）を選択できる教室を2つ開催した。初めての取組であったが、参加者へのアンケートでは、講座の内容（大変よかった←4 3 2 1→よくなかった）について、地域介護者教室は平均3.75、幼児食教室では平均3.67の評価が得られた。今後も定期的に企画したいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助手　　氏名 芦塚　淳美

1．教育理念

学生との信頼関係を築き、過ごしやすく学びやすい環境づくりに努める。さらに、社会状況に合わせた対応ができるよう臨機応変に行動し、勉学面・精神面等、様々な面から学生に寄り添ったサポートを行う。
特に、次の2点を重視する。①自ら学生とコミュニケーションを図る　②学生を理解し、個を尊重する

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	1	2021年10月6日、2021年11月10日、2021年12月8日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 競技選手の身体組成および栄養素等摂取量と骨代謝の関係
2. 競技選手に対する栄養教育効果の検証について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	83万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域学生アスリート寮における残食量減少に向けた食環境整備	長崎国際大学	2021年5月～2022年3月	66万円
佐世保市食育講座への参加者アンケートに基づく講座の実施	長崎国際大学	2021年5月～2022年3月	17万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国家試験対策委員会（学科）	委員	学科で行っている4年生に対する国家試験対策（朝テストの準備・1限と5限の監督）を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパス/7月25日、8月8日、9月20日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①12月11日「幼児食講座」開催補助、主催：長崎国際大学健康管理学部

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本年度は3年目であり、1・2年目の反省を生かし率先して行動することが出来たが、業務の不備があり、業務内容の再確認や改善が必要だと感じた。さらに、実習補助を行う上で、実習が円滑に進む工夫や臨機応変に対応する力を身につけるべきだと感じた。学生からは、授業内容だけでなく、私生活の相談を受けることが増え、一人一人に合った対応を意識した。学生の変化に気づき、関わっていくことで学生の力になれるのではないかと感じた。

研究面ではテーマをスポーツ栄養とし、学生や高校生の身体計測や食事調査等を行った。（株）南風崎MGレジデンスにて献立表作成を行い、その際にスポーツ栄養に関する情報も掲載した。この取り組みを通して、対象者の意識改善やパフォーマンス向上のために少しでも力になれたのではないかと考える。

本年度、得た知識や技術を活用して、日々成長できるように努力したい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助手　　氏名 井上　朋奈

1．教育理念

学生が自ら楽しみながら学び、管理栄養士として必要な専門的知識・技能だけでなく、ホスピタリティ精神も身につける支援をする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	3	1	2021/10/6, 2021/11/10, 2021/12/8

3．研究活動

(1) 研究テーマ

①酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響

②酒粕の2型糖尿病モデルマウスに対する効果の検証

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパス開催補助/2021年7月25日・8月8日・9月20日・3月20日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席

2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では公衆栄養学実習・給食経営管理実習・生化学実習・臨床栄養学実習・給食栄養管理実習の実習補助を行った。実習中は学生と積極的に関わりを持ち、質問等に答え学生の理解が深まるように務めた。
1年生を対象とした化学リメディアルでは、個々の理解度に合わせた演習形式の指導を行い、少人数という利点を活かした教育を行った。
研究に関しては卒業研究の手伝いをさせて頂き、組織の染色など様々な研究を行った。論文等は多くは読むことが出来なかった為、これから研究したい事を考慮しながら論文を読む習慣を身につけていきたい。
また、大学院に進学する為、積極性と計画性を意識して研究活動に取り組み、学会発表等に臨みたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　職名 助手　氏名 嘉数　圭祐

1．教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	1	1	10/6～12/1

3．研究活動

(1) 研究テーマ

6週間の水泳によるクエン酸合成酵素活性増加とロイシン摂取が筋タンパク質合成シグナルへ及ぼす影響の検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/8月8日、9月20日、3月20日/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

実習の対応はできたが、準備に時間がかかり、他の業務にあてられる時間が少なかったため、来年度は機敏に準備をする。
研究活動では修士論文の実験がうまくいっていなかった部分もあるため、担当の先生にもっと相談して方向性を明確にしていく。
吉村先生に誘っていただいた学会の発表やポスターを見ることができたが、自分から進んで見に行った学会がなかったので、来年度は自分で探して参加する。
国家試験対策委員会は遠隔授業になったこともあり、関与することがあまりなかったが、来年度はこれ以上になると思うので、業務が遂行できるようにする。
後期に初めて学外の実習に助手として入ることになったが、あちらの先生方とうまく連携が取れて遂行することができた。これを学内でもできるようにする。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　職名 助手　氏名 川邊田　晃司

1．教育理念

食べ物と健康のプロフェッショナルである管理栄養士がエビデンスに基づく正しい情報を発信できる力を身につけてもらいたと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

大豆たんぱく質に関する機能性の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

β－コングリシニンの摂取が KK-Ay マウスの血糖値および血清・肝臓脂質濃度に及ぼす影響／2021.8／日本食品科学工学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について、これまでの経験を活かして、学生自身の学びが効率的に進めるように心掛けて取り組んだ。

１年生を対象にした化学リメディアルでは、それぞれの学生の理解度に合わせた教材を用いて、化学の理解度が高まるように努めた。

研究面では、継続して行なっている内容を論文投稿する予定である。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　職名 助手　氏名 古田　美咲

1．教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	3	1	2021年10月6日、11月10日、12月8日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

妊娠期のカルシウム制限が血清中性脂肪及び母乳の脂肪酸組成に及ぼす影響／2021年3月／長崎短期大学研究紀要第33号／89頁～94頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

妊娠期の鉄制限が脾臓鉄量及び母乳の脂肪酸組成に及ぼす影響／2021年3月6日／第8回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会（Web開催）

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響ー肝臓及び骨格筋phospho-Akt(Thr308,Ser473)タンパク質発現ー／2021年10月1日／第68回 日本栄養改善学会学術総会（誌上開催）

フェニルケトン尿症患者（患児）・家族を栄養の力で支援する取組～栄養教育と食事療法の実践のためのレシピ集の作製～／2022年2月12日／第20回長崎栄養改善学会（Web開催）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会（学科）	委員	フレッシュマンセミナー、保護者会の準備に貢献した。
臨地実習委員会（学科）	委員	臨地実習の準備に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

助手のためなし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/7月25日、8月8日、9月20日、3月20日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、解剖生理学実習、治療食実習、生化学実習、臨床栄養学実習の実習補助を行った。昨年度同様、遠隔授業の対応が必要であったが、問題なく円滑に進めることが出来た。また、後期には1年生の化学リメディアルを担当した。授業では苦手分野の克服を目指し、実際に化学の講義で使用されている資料に加え演習問題を用いて苦手分野を重点的に反復学習することで、十分な理解が出来ないまま講義が進むことがないよう工夫した。活発に質問してくれたため、理解度の把握がしやすく個人の理解度に応じた対応ができたのではないかと思う。次年度からも、できる限り学生間で理解力に差が生じないようサポートに努め、どんな状況でも臨機応変に対応できるようにしたい。

研究面では、「母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響ー肝臓及び骨格筋phospho-Akt(Thr308, ser473)タンパク質発現ー」について学会発表を行った。また、学術研究報告会では他学部の先生方から貴重なご意見をいただけたため、これからの研究に役立て、さらなる発展を目指したい。来年度も学会発表や論文投稿等で研究成果をアウトプットすることを目標とし、精進したいと思う。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助手　　氏名 山口　捺未

1．教育理念

学生と積極的にコミュニケーションをとり、学びやすい環境づくりに努め,専門的知識や課題解決能力を身に付けるサポートを行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手であるためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
リメディアル教育(化学)	3	1	2022年10月6日,2022年11月10日,2022年12月8日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

生鮮食品の衛生学的研究について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス開催補助/2021年7月25日・8月8日・9月20日・2022年3月20日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席

2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

実習がスムーズに行えるように、実習前後のまとめや、担当教員との情報共有をしっかり行う必要があると感じた。また、学生とコミュニケーションを積極的に行い、学びやすい環境づくりに努める。

【研究面】

研究内容の知識を十分に身に付け、積極的に研究を行い、論文作成や学会発表に臨みたい。

【その他】

オープンキャンパスや広報催事等に参加し、大学の良さを伝えていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 健康栄養　　職名 助手　　氏名 山下　千尋

1．教育理念

学生の学びのサポートだけでなく、学生からの相談に対して真摯に受け止め、より良い学生生活を送ってもらえるように、業務を行うことを理念としている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手であるため授業を行っておりません。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	3	1	2021年10月6日、11月10日、12月8日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

保育所・認定こども園等従事者の食物アレルギーに関する認知度調査
管理栄養士臨地実習における心理的な学生サポートの検討
長崎県健康・栄養調査および特定市町でのBDHQ実施による健康施策の推進への有用性

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習前後のインタビュー調査による学生の感情および自己評価／2022年2月12日／第20回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
臨地実習委員会	なし	臨地実習委員会の先生方と話し合いをしたうえで、事前準備や事後処理等を行い、より良い臨地実習のサポートに努めた。
国家試験対策委員会	なし	朝試験の実施を推進し、試験の準備や採点等を行い、学生の学びのサポートに努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

所属している部活動及びサークルはございません。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

PCR検査に協力を行っている
オープンキャンパス（2021/7/25、8/8、9/20、2022/3/20）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

大学PR文具の作成
SDGｓの「12．つくる責任　つかう責任」に貢献することができると考えられる。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

健康管理学部の助手としての仕事を学び、業務に努めた。
反省点として連絡ミスや共有不足など報告・連絡ができていないことがあったため、今後そのようなことが無いように努めていきたい。
来年度は今年度の記録を活用し、効率よく、確実に業務を行っていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 安東　由喜雄

1．教育理念

佐世保を愛し、compassion, そしてhospitalityを持つ学生を育てる。絶えず世界を意識し、佐世保から世界を目指し情報発信できるような人材を育成する。3S: speed, service, scienceを意識し、絶えずhospitality (service)の心を持ち、合理的・科学的見地からスピーディーに物事に対処できる人材を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究（5年）	1/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	1/30(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
臨床医学概論	2/15(前期)	1.5	98	②⑪
ホスピタリティ概論	1/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育効果の改善に努める

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
熊本大学	神経病学各論（11）	1/18(2月)	2.5	130

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

①アミロイドーシスの病態解析と治療
②健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療

アミロイドーシスは生体内に可用性のタンパク質がアミロイドと呼ばれる難溶性の塊となり臓器障害が起こる難病ですが様々な疾患があります。最も多いアミロイドーシスはアルツハイマー病ですが、この疾患はやがて世界で1億人以上が罹患すると考えられている、いわば21世紀の病気です。そのほか、栄養アセスメントタンパク質としても有用なトランスサイレチンと呼ばれるタンパク質はアミノ酸が変異すると、遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスと呼ばれる難病を引き起こします。トランスサイレチンの様々な変異型を持つ患者が九州各地に発見されています。一方、野生型のトランスサイレチンも高齢になると、心臓、肺、腱や靭帯にアミロイドを形成し、重篤な病態を引き起こす老人性アミロイドーシスも21世紀に克服しなければならない大きな疾患と考えられています。我々の教室では、1. 何故年齢と共にアミロイドが作られるようになるのか、2. 何故特定の臓器のみにアミロイドがたまるのか、3. アルツハイマー病やトランスサイレチンアミロイドーシスの治療にはどのような薬剤が有効化などを明らかにする、まさに21世紀の研究を展開しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	13	1	28	6	10	10	4796万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ATTRvアミロイドーシス家族性アミロイドポリニューロパチー／共著・編著／2021/12／ファイザー株式会社／51

メディカルクオール4月号／共著・編著／2021/04／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール5月号／共著・編著／2021/05／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール6月号／共著・編著／2021/06／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール7月号／共著・編著／2021/07／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール8月号／共著・編著／2021/08／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール9月号／共著・編著／2021/09／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール10月号／共著・編著／2021/10／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール11月号／共著・編著／2021/11／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール12月号／共著・編著／2021/12／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール1月号／共著・編著／2022/01／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール2月号／共著・編著／2022/02／メディカルクオール株式会社／70-71

メディカルクオール3月号／共著・編著／2022/03／メディカルクオール株式会社／70-71

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Glavonoid, a possible supplement for prevention of ATTR amyloidosis／2021/10/5／Heliyon／7(10):e08101／共著／1

Heterozygous cysteine-sparing NOTCH3 variant p.Val237Met in a Japanese patient with suspected cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy: A case report／2021/8/1／Intern Med／60(15):2479-2482／共著／1

Metformin attenuates vascular pathology by increasing expression of insulin-degrading enzyme in a mixed model of cerebral amyloid angiopathy and type 2 diabetes mellitus／2021/9/25／Neurosci Lett／762:136136／共著／1

Correction to: ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 2 of 2-Diagnostic criteria and appropriate utilization／2021/8/1／J Nucl Cardiol／28(4):1763-1767／共著／2

Deep venous thrombosis in patients with neurological diseases: A multicenter, prospective study／2021/9/1／J Clin Neurosci／91:214-218／共著／1

Correction to: ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging／2021/8/1／J Nucl Cardiol／28(4):1761-1762／共著／2

Binasal hemianopia caused by bilateral optic perineuritis due to sarcoidosis／2021/7/6／eNeurologicalSci／24:100354／共著／1

Addendum to ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging／2021/8/1／J Nucl Cardiol／28(4):1769-1774／共著／2

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 2 of 2-diagnostic criteria and appropriate utilization／2021/7/1／Circ Cardiovasc Imaging／14(7):e000030／共著／2

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging／2021/7/1／Circ Cardiovasc Imaging／;14(7):e000029／共著／2

Addendum to ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging／2021/6/25／J Card Fail／S1071-9164(21)00250-5／共著／2

Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review／2021/6/8／Ageing Res Rev／70:101388／共著／1

Expert consensus recommendations to improve diagnosis of ATTR amyloidosis with polyneuropathy／2021/6/1／J Neurol／268(6):2109-2122／共著／0

Design and rationale of the global phase 3 NEURO-TTRansform study of antisense oligonucleotide AKCEA-TTR-L(Rx) (ION-682884-CS3) in hereditary transthyretin-mediated amyloid polyneuropathy／2021/6/1／Neurol Ther／;10(1):375-389／共著／1

Very late onset neuromyelitis optica spectrum disorders／2021/8/1／Eur J Neurol／28(8):2574-2581／共著／2

Characteristics of patients with late- vs. early-onset Val30Met transthyretin amyloidosis from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS)／2021/12/1／Neurol Ther／10(2):753?766／共著／1

The prostate as a good candidate organ for proving amyloid deposition in non-endemic late onset hereditary transthyretin amyloidosis: Report of two cases／2021/5/15／J Neurol Sci／424:117418／共著／1

Anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis with aortic thrombus in normal aortic wall／2021/5/14／Rheumatology (Oxford)／60(5):e159-e161／共著／2

Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS)／2021/5/7／J Peripher Nerv Syst／26(2):160-166.／共著／1

Preceding direct oral anticoagulant administration reduces the severity of stroke in patients with atrial fibrillation - K-PLUS registry／2021/07/01／J Clin Neurosci／89:106-112／共著／1

Evaluation of the antiproliferative effects of the HASPIN inhibitor CHR-6494 in breast cancer cell lines／2021/4/14／PLoS One／16(4):e0249912／共著／1

Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy／2021/4/8／Int J Mol Sci／22(8):3869／共著／1

Carpal tunnel syndrome as an early red-flag sign of ATTRwt amyloidosis／2021/4/6／J Nucl Cardiol／doi: 10.1007/s12350-021-02584-z.／共著／1

Efficacy of salbutamol monotherapy in slow-channel congenital myasthenic syndrome caused by a novel mutation in CHRND／2021/4/1／Muscle Nerve／63(4):E30-E32／共著／2

ミトコンドリアtRNA修飾酵素NSUN3の全身および心臓における生理的意義の解明／2022/2/1／日本生理学雑誌／18-19／共著／2

アミロイドニューロパチーにおけるSUDOSCANを用いた発汗機能解析と臨床指標との関連／2021/9/1／臨床神経学／S252／共著／2

【自律神経と心血管系調節】アミロイドーシスの血圧調節障害と自律神経障害／2022/1/1／脳神経内科(2434-3285)96巻1号 Page73-79(2022.01)／73-79／共著／2

治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　アミロイドーシス／2021/6/1／日本医事新報／41-42／単著／1

新規アミロイド原因蛋白質EFEMP1の同定および本分子の疾患との関連／2021/4/1／臨床化学／124-129／共著／2

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Establishment of Kumamoto amyloidosis center in Japan.／2021年5月／International Amyloidosis Society Virtual Symposium

21世紀の疾患アミロイドーシスこれまでの歩みとこれから／2021年6月／第3回Pfizer webシンポジウム

ATTRの発見から治療に至る過程で今、何が問題になっているか／2021年6月／ Medical Advisory Board Meeting

ATTRv amyloidosisの臨床像について／2021年8月／Medical Advisory Board Meeting

見つかる疾患から見つけ、治療する疾患へ／2021年9月／遺伝性ATTRアミロイドーシスwebセミナーin九州

ATTRｖアミロイドーシスにおける診断と治療の変遷／2022年2月／Alnylam座談会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費（代表基盤B）	文部科学省	2019年4月～2022年3月	200万円
科研費（厚労アミロイドーシス研究班）	厚生労働省	2021年4月～2022年3月	20万円
受託事業（熊本大学共同研究）	熊本大学	2023年3月まで	1257万円
受託事業（PROTHENA研究委託）	PROTHENA	期間設定なし	105万円
助成金（杉村病院）アミロイドーシスに関する研究	杉村病院	期間設定なし	67万円
助成金（シノテスト）アミロイドーシスに関する研究	シノテスト	期間設定なし	81万円
助成金（カネカ）アミロイドーシスに関する研究	カネカ	期間設定なし	126万円
助成金（正晃）アミロイドーシスに関する研究	正晃	期間設定なし	45万円
助成金（Alnylam）アミロイドーシスに関する研究	Alnylam	期間設定なし	318万円
預り金（世界アミロイドーシス学会研究費）アミロイドーシスに関する研究	世界アミロイドーシス学会	期間設定なし	2577万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員長	運営統括
研究費不正使用防止委員会	委員長	運営統括
教員資格審査委員会	委員長	運営統括
防火・防災委員会	委員長	運営統括
危機管理委員会	委員長	運営統括

グローバル推進協議会	委員長	運営統括
全学教育会議	議長	運営統括
情報セキュリティ委員会	CISO	運営統括

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

無し

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

新聞各社掲載

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	任意
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	対象外
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
コロナ禍における逆転の発想	2022/3/27	ZOOM開催	長崎県看護協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2021年度長崎国際大学SDGs推進奨励制度

【内容】SDGsの達成に貢献し、地域社会における課題解決やSDGsの推進を目指す教育研究・活動を遂行または計画している教員・職員(個人)またはグループを表彰し、活動を支援します。

(1) ＳＤＧｓ大賞(配布予算額：20万円)

ＳＤＧｓ達成にあたり、他者のモデルとなる極めて優れた活動と認められるもの

(2) ＳＤＧｓ賞（配布予算額：15万円）

ＳＤＧｓ達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動と認められるもの

(3) ＥＳＤ賞（配布予算額：15万円）

ＳＤＧｓ達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動のうち、特に教育や人材育成の観点において極めて優れた活動と認められるもの

【開催日時】

申請期間：6/30（水）～7/31（土）

配布使用期間：3/4（金）までの活動

②SDGsゴール12：地域で考える「食・物」循環と支援プロジェクト

【内容】本プロジェクトは、フードロス・フードドライブ等の社会課題に対し、「食・物」の“もったいない”という精神、その社会課題に対する行政・団体の取り組み、さらに昨今のコロナ禍における支援という3つのテーマに対し、SDGs、特に「SDGSゴール12：持続可能な生産消費形態を確保する」の学びを深める。

学生に、レトルト食品、調味料、パスタ、お菓子、お米 、マスク 他を配布する

【開催日時】11/29（月）～12/3（金）

③学校法人九州文化学園SDGs推進記念イベント

【内容】セレモニー開催

【開催日時】3/17（木）

④卒業記念植樹

【内容】2年連続で卒業生から「アキニレ」の木を寄贈され、「卒業記念」、「SDGs推進」の目的で植樹を行った。

【開催日時】3/12（土）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
ISA　webinar	ATTRｖ guideline	2022/03/21	Zoom開催	ISA

(3) その他特記すべき活動

※2021年6月、7月、2022年2月と3回の職域接種の陣頭指揮を取り、延べ4000人の学生、職員、佐世保市民に対して、ワクチン接種の機会を提供した。
3回目の接種に関しては、全国の大学で最速の実施となった。

※2021年8月　利休庵診療所の院長として、昨年開設した診療所をキャンパス内の別の場所に新築移転し運用を開始した。これまでになかった待合室や身体障害者用トイレなども完備し、サービスを拡充。従来は学生や教職員の利用がほとんどだったが、近隣住民も受け入れる体制を整え、地域医療への貢献を目指している。

７．受賞等

学長特別表彰　　研究種目：基盤B　2021年4月1日

８．活動全般についての自己点検・評価

2年連続のコロナ禍の中での活動となり、困難な部分もあったが、学内での活動、地域貢献、国際貢献とある程度の成果を上げることができた。本年度は、これらの活動を更にヴァージョンアップし、それぞれの部門で更に具体的な成果を残していきたいと願っている。ＳＤＧｓに関してもレガシーとなるようなものを遺せるよう努力していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 藤田　英明

1．教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。
そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味が持てるような導入を工夫している。
国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①②
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①②
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	116	①②⑨
機能形態・生化学演習【A】	6/13(後期)	0.5	63	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習【B】	6/13(後期)	0.5	19	①②⑨⑪
専門基礎学習Ⅰ	10/10(通年)	0.5	93	②④⑦⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	7/7(後期)	0.5	97	②⑦
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②③⑩⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	101	①②⑦⑧⑩
基礎の数学【薬C】	15/15(前期)	2	24	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

機能形態学Ⅰ：概ね平均以上の評価であった。遠隔の場合、音声が不明瞭であるとの指摘が一部学生からあった。性能が良いマイクロフォンを購入して対応する。
基礎の数学：概ね平均以上の評価であった。遠隔の場合、音声が不明瞭だという指摘が一部学生からあったので、性能の良いマイクロフォンを購入する。
機能形態学実習：高い評価なので、現状維持をめ指す。遠隔の場合のレポート作成の指示を明確にした

い。
機能形態学・生化学演習：概ね評価が高かった。初年度なので推移を見守りたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ユビキチンリガーゼによる細胞膜タンパク質のリソソームへの選別輸送メカニズムの解明
② メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明
③ 抗HIV宿主因子の機能に関する細胞生物学的解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	1	1	416万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

MARCH8 Targets Cytoplasmic Lysine Residues of Various Viral Envelope Glycoproteins.／2022/2/23／Microbiol Spectr／doi: 10.1128/spectrum.00618-21／共著／論文

MARCH8: The tie that binds to viruses.／2021/5/16／FEBS J／doi: 10.1111/febs／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

膜結合型ユビキチンリガーゼRNF152によるチロシナーゼ分解の分子機構解明に関する研究／2021年10月／日本色素細胞学会大会

膜結合型ユビキチンリガーゼRNF152によるメラニン産生調節機構に関する研究／2021年11月／日本薬学会九州支部会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費基盤C	日本学術振興会	2021年4月～2023年3月	416万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	なし
教員資格審査委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員長	規程・提出書類様式の改訂を行なった。
防火・防災委員会	委員	なし
危機管理委員会	委員	なし
利益相反マネジメント委員会	委員長	規程・提出書類様式の改訂を行なった。
輸出管理委員会	副委員長	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	構成員	なし
情報セキュリティ委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスで研究室紹介を行なった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎南ＳＳＨ未来ﾃﾞｻﾞｲﾝｽｸｰﾙｵﾝﾗｲﾝ講師	2021年10月	長崎南高校	長崎南高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本色素細胞学会	理事	2019年～現在に至る	日本色素細胞学会
日本生物学オリンピック	運営委員	2019年～現在に至る	日本生物学オリンピック委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学部長として学部の運営に尽力した。3回のワクチン職域接種に学部として協力した。地域薬剤師向けの筋肉注射講習会やワクチン調整研修会を実施した。国家試験合格率は昨年度より下がったが、92名を卒業させることができた。入学者数の減少に歯止めが掛からなくなって来ているため、抜本的な対策を大学事務局に求めていく。
学力が低い学生向けの対策を強化していきたい。
大学院生に研究発表・論文作成を指導することで自身の研究成果を積み上げていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 椛島　力

1．教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

また、薬学は化学・物理・生物・医療と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切にし、学生の不安を少しでも軽減するためにも、積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし

総合演習Ⅱ	2/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	92	①⑨
臨床薬物代謝学(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	1	①⑧⑨
物理・生物薬剤学演習	8/15(前期)	1	88	①②④⑨
臨床薬物代謝学	15/15(後期)	1.5	109	①⑧⑨
生物物理化学	7/15(後期)	1.5	76	①④⑧⑩
薬剤学実習	7/7(後期)	1	106	④⑩⑪
基礎の数学【薬A】	15/15(前期)	2	65	②③⑨
薬剤学	15/15(後期)	1.5	90	②④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医薬品評価・管理学演習	3/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

7コマ以上担当した5科目の授業満足度は4.3～4.6、理解度は4.1～4.7であり、一定の評価を受けたと考える。次年度以降も、この値を維持・向上できるように努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB	1	109	2021年10月14日
総合演習Ⅱ	3	99	2021年10月14日～2022年1月13日
総合演習Ⅰ	9	103	2021年4月14日～2021年7月14日
CBT対策の薬剤学分野の補習	2	35	2021年12月13日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規機能性分子の開発
・エピゲノム解析に関する研究
・生体内分子の機能解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

A Facile Method for the Quantification of Urinary Uracil Concentration by a Uracil-Specific Fluorescence Derivatization Reaction／2021年5月18日／Chem. Pharm. Bull.／768-772／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ケトフ゜ロフェン含有ナノ粒子製剤の調製／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費　基盤研究C	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学部教授会で教務関係の報告や説明を行った。薬剤系の講義の取り纏めを行った。卒業研究に関する取り纏めを行った。
自己点検・評価委員会	委員	授業アンケートをもとにした個別面談を担当し、改善策等を提案した。
発明等審査委員会	委員	「長崎国際大学　特許維持判断基準」の作成において、意見・提案を行った。1件の案件について審査予定である。
全学教育会議	構成員	会議に提出する学部資料を作成した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	長崎大学および県内の薬剤師会関係者と実務実習や共用試験に関する情報交換を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにおいて保護者へ説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州山口支部	幹事	平成28年度～現在に至る	日本薬学会九州山口支部
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部
日本薬学会	代議員	2019年度～現在に至る	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

本学での職域接種において、ワクチン管理等の業務を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、担当科目の満足度がすべての科目で4以上であり、一定の評価を得られたと考える。授業アンケート等を参考に、授業内容などを検討し、満足度や理解度を向上できるように努める。
研究に関しては、新たに科研費が獲得できたが、発表論文が1報であり、論文数を増やしていきたい。
大学運営に関しては、学部長をはじめ教職員の協力もあり、学科長として最低限の仕事はできたと思う。
次年度は、さらに貢献できるように努める。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 市川　和洋

1．教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。
物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に着け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	①⑨
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑩
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①④⑥⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
物理学演習【C】(再履遠隔)	12/12(後期)	0.5	6	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	5	①④⑧⑩
物理学演習【C】	12/12(後期)	0.5	39	①④⑧⑩
基礎の物理学【薬C/他学科】	15/15(前期)	2	38	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	87	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	94	①④⑧⑩
生物物理化学	8/15(後期)	1.5	76	①④⑧⑩
薬品物理化学演習【A】	12/12(後期)	0.5	54	①⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	108	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本学部での高校時の物理未履修者割合は30%程度であり、初期の学習状況が大きく二分化されています。担当科目の授業アンケートの評価は入学時の物理成績とほぼ一致し、2年次の講義において、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。

薬剤師国家試験の要求水準を満たすために、講義水準や速度を著しく緩めることは困難ですから、専門科目に入る前の、入学時、初年度教育の改善を図ることが教育効果の向上に結び付きます。
4次カリキュラムで、1年次に「物理学演習」を新設し、物理化学の能力の底上げを見込んでいます。これら物理化学系科目の全体的な改善が、教育効果や学生の理解度向上に寄与すると考えています。

本年度は引き続きCOVID-19下、学生の理解度を確かめるための対応を実施するのは困難でしたアンケートや小テスト等を拡充し、理解度に合わせた講義を進めていきたいと考えています。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習I（前期）	2	104	4/27, 7/5
総合演習II	1	100	4/27

３．研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

（１）生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物（分子プローブ）の開発
（２）生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
（３）抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
（４）がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	2	2	2280万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Imaging analysis for multiple paramagnetic agents using OMRI and electrophoresis／2021年7月／Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition／20：172／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Development of dual channel array coil resonator for OMRI／2021.08／NMRSJ-SEST-ISMAR-APNMR 2021

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	日本学術振興会	2018-2021	520万円
科学研究費補助金　基盤研究(B)	日本学術振興会	2021-2023	1760万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員長	オープンキャンパス、入試
全学教育会議	構成員	各種議題検討
作問委員会	副委員長	入試作問の方針策定

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

特になし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

該当なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
国際共同研究加速基金による学術交流	科研費の補助を受け国内外の拠点大学と学術交流を行う	2018-2021	北海道大学、長崎国際大学、West Virginia University

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

該当なし

７．受賞等

該当なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、物理化学複数科目全体のコマ運用で理解度アップをはかりまし

た。主に担当する１、2年次の学生について、フォローアップに努めました

研究面では、論文掲載、外部資金取得は、ほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣に薬学部が新設され、受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実施が喫緊の課題です。COVID-19蔓延下、活動に制限はありましたが、入試・募集委員長として高校へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 大磯　茂

1．教育理念

私の教育理念は、医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成することです。
一般的な学修事項のみならず自らの実務経験に基づいた知識と技能を含む実践的能力をつけてもらうための授業を展開します。学生には自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
実務実習（病院・薬局）	0/548(通年)	20	94	なし
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑪
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	⑥⑩⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	4	⑥⑩⑪⑫
実務実習（病院）	0/274(通年)	10	4	なし
実務実習（薬局）	0/274(通年)	10	4	なし
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑪
医薬品情報論(再履遠隔)	9/15(後期)	1.5	4	①⑥⑧⑨
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	88	①②④
在宅医療概論	1/15(前期)	2	249	②⑪
物理・生物薬剤学演習	7/15(前期)	1	88	①②④⑨
生物薬剤	25/28(後期)	3	90	⑪
処方箋解析	18/28(後期)	3	90	⑪
総合実習	18/18(後期)	1	89	①⑪
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	18	②⑦
治験コーディネート論	5/15(前期)	1.5	19	①⑥⑨
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	33/33(前期)	2	91	①⑤⑥⑨⑪
医薬品情報論	9/15(後期)	1.5	101	①⑥⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	2/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は、前期はハイブリット形式、後期は対面形式の授業とほぼ正常化に近い状態で授業を行うことができた。例年と同様の内容で授業を行ったが、すべての授業を録画して自由に閲覧できるようにしたので復習もしやすかったと思う。今年度の医薬品安全性学および医薬品情報論の授業アンケートの満足度は前回よりも高いポイントを得た。授業形態が大きく異なるため、一概に比較できるものではないと思うが、履修者から寄せられた改善要望に対しては次年度において改善に努めたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。卒業研究の指導においても研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	15	2021年4月14日
総合演習Ⅰ	1	15	2021年6月2日
総合演習Ⅰ	1	15	2021年7月14日
総合演習ⅢA	1	109	2021年5月24日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発
がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究
脳由来神経栄養因子産生促進作用を有する抗うつ薬の探索研究
医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析
摂食調節ペプチドホルモンを介した肥満制御に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	6	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Upregulating effect of wheat on brain-derived neurotrophic factor in human lung adenocarcinoma A549 cells.／2021年6月／Journal of Oleo Science／ 867頁～874頁／共著／論文

Identification of traditional Japanese Kampo medicines and crude drugs that upregulate brain-derived neurotrophic factor in human peripheral cells.／2021年10月／Acta Neurobiologiae Experimentalis／393頁～404頁／共著／論文

Adverse events following COVID-19 vaccination in young Japanese people: A case-control study of the risk of systemic adverse events by a questionnaire survey.／2022年1月／Archives of Clinical and Biomedical Research／9頁～29頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ペルオキシダーゼ標識モノクローナル抗体を用いたELISA法によるレボフロキサシン濃度測定法の開発／2021年10月／第31回日本医療薬学会年会

医薬品副作用データベースJADERを利用したメトトレキサートの間質性肺疾患発現に影響する因子の解析／2021年10月／第31回日本医療薬学会年会

脳由来神経栄養因子産生促進を機序とする新規抗うつ物質の探索に向けたin vitro評価系の構築／2022年3月／長崎県薬剤師学術大会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンによるシスプラチン耐性ヒト咽頭がん細胞KCP-4のシスプラチン耐性減弱効果／2022年3月／日本薬学会第142年会

末梢組織由来細胞における赤アワのBDNF産生促進作用／2022年3月／日本薬学会第142年会

アルカリホスファターゼ標識抗ダビガトラン抗体を利用したドットブロット法によるダビガトラン濃度測定法の開発／2022年3月／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部共用試験OSCE実施委員会	委員長	OSCE統括
薬学部実務実習運営委員会	委員長	実務実習運営管理
薬学部教務委員会	委員	研究室配属など
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	在宅医療・福祉コンソーシアム長崎活動内容策定など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ（薬学部）	グループメンバー	教養セミナーBにおける薬局および病院の早期体験学習の統括　など
ワクチン職域接種ワーキンググループ	グループメンバー	コロナワクチンの職域接種に関連する業務内容の検討など

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス／2021年7月、8月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎在宅医療・福祉コンソーシアム	運営委員会委員	令和3年4月1日～令和4年3月31日	長崎在宅医療・福祉コンソーシアム
九州山口地区調整機構大学委員会	大学実務実習担当者	令和3年4月1日～令和4年3月31日	九州山口地区調整機構
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	令和3年4月1日～令和4年3月31日	長崎県薬剤師会
九州山口薬学会委員会	委員	令和3年4月1日～令和4年3月31日	九州山口薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により講義等の授業形態に影響があったものの、対面形式の割合が増えて。履修生も受講しやすい状態だったものと考えられる。授業内容は録画して自由閲覧できるようにしたが、今後もこの形式がしばらくは続くものと思われる。次年度も各種形式の授業形態に対応しつつ、受講生の理解度を向上させる授業実施に努めたい。研究活動はなかなか進めることが難しい状況があったが、3報の原著論文を出すことができた。今後も研究活動により力を入れ、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の4の委員会等および大学外の4つの委員会等で活動を行った。今年度も実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に深く関わった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けてしまったが、大きな問題等なく運営できた。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、大学運営等に貢献したい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 大庭　義史

1．教育理念

薬学における分析化学分野に関する専門的知識・技能の教授を教育・研究を通して行い、高い倫理観と豊かな人間性を有し、医療薬学分野で実践的に活躍できる薬剤師を育成することを目的とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
分析化学Ⅱ(再履遠隔)	13/15(前期)	1.5	1	①②③④
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
機器分析学(再履遠隔)	4/15(後期)	1.5	3	①②③④
分析化学Ⅰ(再履遠隔)	13/15(後期)	1.5	2	①②③④
分析化学演習	6/12(前期)	0.5	99	①②③④⑨
機器分析学	4/15(後期)	1.5	87	①②③④
構造解析学	5/15(前期)	1.5	106	①②③④⑨
日本薬局方概論	8/15(後期)	1.5	94	①②③④
分析化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	100	①②③④
総合基礎学習Ⅱ	8/15(通年)	0.5	104	①④⑥⑨⑪⑫
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	111	①②③④
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②③⑩⑪
分析化学・放射線化学実習	3/9(前期)	1	102	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「分析化学II」（2年前期必修）の満足度4.5は2019年度の4.3から0.2ポイント増であった。

「分析化学I」（1年後期必修）の満足度4.8は前年度4.5から0.3ポイント増であった。また、1～3を付けた回答者数が0であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
指定科目特別補習（分析化学I）	6	28	2021/10/13～12/15
総合演習I（過年度生）	3	15	2021/4/15～6/18

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ASAP-MSによる化粧品成分、医薬品の分析
② 重粒子線照射マウス脳及び腸管中のアミノ酸分析（放射線薬学研究室との共同研究）。
③ サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究（加藤祐子（訪問研究員）と共同研究）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	0	1	2	2	86万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

パートナー分析化学I（改訂第4版）／単著／2021/11/15／南江堂／151-165

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

重粒子線照射マウス脳及び腸管におけるアミノ酸関連物質のHPLC分析／2022/3/27／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」SDGs大賞	長崎国際大学	令和3年度	16万円
科学研究費補助金「サンゴアレルギー発症とサンゴ由来蛍光蛋白質の関係解明とアレルギー診断技術への展開」基盤研究（C）（一般）（研究分担者）	長崎国際大学	2020-2023年	70万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員長	令和2年度は2回開催
研究費不正使用防止委員会	委員	令和2年度は3回開催
薬学部教務委員会	副委員長	新入生の担任、5年次進級学生の研究室配属
図書選定委員会	委員	図書の選定
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の審査等
生涯教育・学習委員会	委員	第10回生涯教育セミナー開催に向けてのメール会議
共同機器管理委員会	委員	質量分析装置管理責任者

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
3年生学年主任	学年主任	3年生全体への各種案内、指導

(3) 課外活動の指導等

美術部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスへの参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
下村脩ジュニア科学賞審査委員	委員	平成24年～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市少年科学館運営委員会	委員長	令和元年～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市男女共同参画審議会	会長	令和元年～～現在に至る	佐世保市
日本分析化学会九州支部	常任幹事	2021年度	日本分析化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・SDGs　令和3年度　長崎国際大学　学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」SDGs大賞「海洋生物に悪影響を及ぼす紫外線吸収剤の簡易迅速分析法の開発」（大庭義史、中村沙織）

・新型コロナワクチン集団接種会場薬剤師業務

2021年　9/16，10/28　予診票の事前チェック（佐世保港国際ターミナルビル）

2021年　8/20，9/6，9/13，9/17，10/12，10/19，2022年2/7，3/14 薬液充填作業（レオプラザホテル佐世保）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

令和3年度　長崎国際大学　学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」SDGs大賞「海洋生物に悪影響を及ぼす紫外線吸収剤の簡易迅速分析法の開発」（大庭義史、中村沙織）

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面：授業アンケートの結果では理解度、満足度共に良好な結果が得られた。講義後の質問、コメントについては、マナバ、レスポン、メール等誠実に対応した。
対外模試等における担当領域の正答率については概ね全国平均以上であった。
研究面：書籍（教科書）1、学会発表1（令和3年度　長崎国際大学　学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」SDGs大賞。研究室所属学生の研究期間も制限されたこともあり、充分な研究はできていない。
その他：昨年度より男女共同参画委員会の委員長となったが、佐世保市男女共同参画審議会においても会長となった。また、佐世保市少年科学館関連では、従来の下村賞の審査に加え、運営委員会（委員長）にも継続し関わっている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 小川　由起子

1．教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療･創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。AI化が進む中、薬剤師として何ができるか、何を求められているかを瞬時に判断し、地域社会の中で求められる薬剤師になるための人材育成をする。

薬剤師国家試験に合格させるためには低学年の基礎科目の理解、それに紐づけられた専門科目を通じて薬剤師国家試験に対する意識づけが常に必要であると考える。そのため、低学年から薬剤師国家試験問題に触れることも重要であると考え、担当科目では小テストや課題で問題を解答させるようにしている。また、受動的な学習ではなく、能動的、自発的な学習ができるように指導を心がけている。5年生の配属学生には、勉強だけではなく研究の面白さを伝え、研究を通して薬をはじめとした医療を見る目を養わせるように指導している。

チーム医療の中で、薬剤師の立場として発言するためには化学に裏打ちされた知識が必要になってくるが、同時にコミュニケーション能力も不可欠である。傾聴、承認をし、自分の意見を簡潔に述べることができるような人材を育てていくように心がけている。

今般、社会の中で不安や悩みをもっている学生が多いので、それぞれにあった指導を心がけ、相談しやすい環境を整えるように心がける。学生生活6年の中で経験することは、社会に出てからも大きな影響力を与えるので、自己研鑽しながら社会に貢献できる人材育成に心がけていく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨⑪⑫
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	102	①⑨⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①⑨⑪⑫
病原微生物・ウイルス学(再履遠隔)	7/15(前期)	1.5	2	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	96	①⑨⑪⑫
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	99	①⑨⑪⑫
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨⑪⑫
微生物薬品学(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	1	②③⑨
薬物治療学Ⅲ	6/15(後期)	1.5	95	①②③⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	91	⑧⑨
微生物薬品学	15/15(後期)	1.5	105	②③⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑦⑩

微生物学・免疫学実習	6/9(前期)	1	108	①④⑤⑪
病原微生物・ウイルス学	7/15(前期)	1.5	94	①⑨⑩
公衆衛生学Ⅱ	4/15(後期)	2	94	①⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

① 授業改善

授業アンケートは概ね良好であった。授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ）国家試験が科目の垣根を越えての出題になったために、広い視野を持って問題が解けるように、関連科目についても講義内容に追加した。

ロ）コロナ渦で対面での双方向型授業が難しいので、「スグキク」やresponを取り入れての双方向授業をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。

ハ）講義後に課題を出し、自主学習することで記憶力の定着を試みた。

② 教育効果

年々新薬が増え、副作用の問題も大きいこと、さらに科目の垣根を越えて広い視野をもって患者への服薬指導ができるように、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。また、％っ州で実施した内容も国家試験に出題されていたために、実習内容の吟味は重要であると考える。今年度は昨年度に引き続き、コロナ渦で、どのように理解していただくか、理解を深めさせるかを考えるのに苦労したが、途中に試験を入れることで理解度を確認した。また、responを活用し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。ゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。昨年度まで使用していた「スグキク」の方が使い勝手はよく感じられる。また、視聴覚教材の活用やトピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。またその日の講義内容の課題をmanabaで出し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。さらに授業終了後、毎回独自でアンケートを取ることで学生の意見を吸い上げ改善を試みた。話す速度が速いとの指摘があったため、話す速度に注意し、かつプリント、プロジェクターを適宜使用することにより、単元ごとに重要ポイントを示した。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出し、単元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティ―アート専門学校	衛生管理	90/90(通年)	6	80
福岡ビューティ―アート専門学校	美容知識Ⅰ	60/60(通年)	4	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
6年生　総合演習ⅢB	1	109	9/27
5年生　総合演習Ⅱ	1	99	12/10
4年生　総合演習Ⅰ	6	103	4/12,5/6,5/14,6/3,9/30,11/6

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 日本冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
② 日本冬虫夏草の抗肥満作用
③ 日本冬虫夏草のメラニン生成抑制作用
④ ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン（SBL）の生理活性
⑤ 凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	6	3	3	328万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Antiproliferative and Antimicrobial Potentials of a Lectin from Aplysia kurodai (Sea Hare) Eggs／2021年7月／marine drugs／394-407／共著／論文

インスリン抵抗性糖尿病治療への新たなアプローチ／2021年7月／Bio Clinica／818-820／共著／論文

冬虫夏草によるインスrンレセプターの回復技術／2021年12月／Precision Medicine／1376-1378／共著／論文

病原性酵母Candida tropicalis細胞壁マンナンのマンノース残基に相当する2次元NMRマップにおけるH1-C1クロスピークの帰属／2022年3月／長崎国際大学論叢／187-191／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

β-トレフォイル型レクチンによる免疫制御機構の解明／2021年11月／第38回日本薬学会九州山口支部大会

新規有機蛍光色素のAIEE特性と構造的特徴の解析／2022年3月／日本薬学会第142年会

人工培養した国産冬虫夏草類のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性／2022年3月／日本薬学会第142年会

冬虫夏草二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響／2022年3月／日本薬学会第142年会

冬虫夏草の抗肥満作用／2022年3月／日本薬学会第142年会

新規有機蛍光色素のAIEE特性と構造的特徴の解析／2022年3月／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
継続・育成型 STEAMガールズ in SAGA・SASEBO	JST（分担）	2020年4月～2021年3月	300万円
させぼっ子科学マインド育成事業	長崎国際大学　学長裁量経費	2021年4月～2022年3月	8万円
学生に佐世保近郊薬局・病院への就職を促す実践活動	長崎国際大学　学長裁量経費（分担）	2021年4月～2022年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員長	たばこポイ捨て運動、クリーンキャンパス運動など大学の感染対策及び美化運動を企画、実践 開国祭の実施 全学学生委員会議長
防火・防災委員会	委員	防火・防災予防
危機管理委員会	委員	大学内危機管理に関する事項全般
薬学部　国家試験対策委員会	委員	5年生の実力試験問題編集、成績解析 国家試験への引率 5,6年生の国家試験対策 4年生へのCBT対策
薬学部　学生委員会	委員	入学時特待、薬学特待、荒川賞、奨励賞などの成績まとめ フレッシュマンセミナーの企画 学生相談

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス／7月31日／研究室紹介
オープンキャンパス／8月8日，9月20日，3月20日／保護者対応、学生進路相談
子ども科学教室実施／7月31日／場所　少年科学館
チャレンジ科学教室／11月13日／場所　少年科学館

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	公務出張
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
夏休み子ども科学教室	2021年7月31日	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
東洋医学体験ツアー	2021年9月23日	くすきの杜	JST
チャレンジ科学教室	2021年11月13日	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
ようこそサイエンスの世界へ～ウイルスを検出してみよう～	2021年11月25日	壱岐市立郷ノ浦通学校	JST
理系女子の世界	2021年12月12日	九州文化学園小・中学校	JST
地域の期待に応える実践活動	2021年11月21日	長崎国際大学	代表　倉岡卓也他

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
一般社団法人　日本女性科学者の会	理事	2016年5月～　現在	一般社団法人　日本女性科学者の会
一般社団法人　日本女性科学者の会	九州ブロック長	2016年5月～　現在	一般社団法人　日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 7月、3月　「職域接種」薬液調整、服薬指導
② 「NIU　疾患検査センター」PCR業務従事

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

① 学長特別表彰（研究科目　基盤研究C）

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、コロナ渦で対面とハイブリッド、zoomによるオンライン講義など状況に応じて、授業形態がかわり、その都度、どのようにしたらわかりやすく教え、理解を深めていただけるかを考えて、資料作りをしたところ、授業アンケートでも高評価を得ることができた。特にオムニバスの「公衆衛生学Ⅱ」では、カリキュラム上「微生物学」と並行しての授業となり、微生物学をまだよく理解していない中で「感染症」について教えなければいけないので、大変悩みながら実施したが、4.8の高評価を得ることができ、内容自体は満足のいく内容であったと考えられる。
研究面では、5年生の研究の中間まとめとして、3/26-28の「薬学会第142年会」に全員（3名）発表することを目標に研究を重ね、目標を達成できた。また、英語の抄読会も実施し、論文の書き方も指導することができ、一定の成果が出たものと考えられる。
社会貢献として、NIU疾患検査センターでのPCR業務や7,3月実施の職域接種業務に参加した。地域の方々への恩返しに少しでも貢献できたものと考えられる。
全学学生委員長として、コロナ渦でも縮小版でフレッシュマンセミナーや開国祭を実施し、学生が少しでも学生生活を満喫することができたものと考えられる。
1年間を通して、コロナとの戦いが多かったが、その中でできることを執行部と話し合い実施できたことは大変大きなものであったと考えられる。次年度も自分でできることを考えて大学と社会へ貢献をしていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 岸原　健二

1．教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。また、常に学ぶ姿勢を持続し、リサーチ・マインドをもつ薬剤師の育成にも尽力したい。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。また、持続可能な社会の実現にSDGsが国際社会共通の目標として国連のサミットで採択されている。この精神を理解し、どのように社会貢献ができるのかを考え、実践できる能力を兼ね備えた薬剤師の育成にも努めていきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬学英語	5/15(前期)	1	108	①⑩
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	91	⑧⑨
免疫学	15/15(後期)	1.5	90	⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②⑩
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	108	①④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【微生物・免疫学演習（4年生必修科目）】

・評価Q13(満足度:2019→2021)：4.4→4.4

・評価Q13(満足度:2019→2021)：4.3→4.2

2019年度は2クラスであったが、本年度は1クラス編成に変更された。担当した4回の授業の授業形態は、対面と遠隔のハイブリッド形式であった。Q12（理解度）の評価は、4.2（2019年度：4.3）であった。アンケート結果は概ね良好であったが、今後の改善点としては、学生が質問しやすい環境整備やmanabaの課題の解説書の配布を検討している。

【免疫学(2年生必須科目）】

・Q13（満足度：2011→2021年度)：3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8→4.1→4.5

・Q12（理解度：2011→2021年度）：3.4→3.4→3.9→3.6→4.0→4.1→4.0→3.7→3.8→3.9→4.2

Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度よりもかなり改善された。今年度は、コロナ禍の中、第1回から第12回が対面授業で行われ、最後の3回が遠隔授業で行われた。コンピュータのトラブルやオンラインでの配信の不調などがあり、全体的に評価が下がると危惧したが、とくに影響しなかったようだ。講義動画の配信が、学生の復習にも役立ったことで、評価されたのではないかと推察する。

課題の提出・成績が、定期試験の成績と結果とほぼ相関していることから、復習を促す対策が必要であることを改めて感じた。また、理解度が低い項目に関しては、講義資料以外に解説書を配布することなどを検討していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ(再)の補講	1	106	2021年7月15日
ホスピタリティ概論の第10回授業（大学図書館の理解）	1	458	2021年6月23日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

若年者と比較して高齢者より株化したB細胞ではストレス・炎症性シグナル因子が活性化に依存し抗原提示に重要なHLA-DR分子の発現が低下することを明らかとした。さらに、これらの細胞において細胞老化を規定することが知られているテロメラーゼ触媒サブユニット遺伝子発現はストレス性因子の活性化に依存して抑制されていることが明らかとなった。加齢に伴う免疫力の低下は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究
細胞分裂に伴って細胞老化（cellular senescence）表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化（replicative senescence）および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化（premature senescence）での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5’キャップ構造を認識して網羅的シークエンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。さらに、IPA（Ingenuity Pathway Analysis）シグナルネットワーク解析より抽出した老化関連候補因子について分裂老化に伴う遺伝子発現量および活性変化について解析を試みている。特に、重要な役割を担う可能性のあるキナーゼおよびシグナル因子（Akt、Jnk、p38、NF-kB、ERK1/2など）の機能変化と細胞老化との関わりについて検討を行っている。
③ポリフェノールによる制御性T細胞活性化を介した免疫増強効果に関する研究
CD4陽性およびCD25陽性のT細胞である制御性T細胞（Treg）は、過剰な免疫反応の抑制、免疫機能の恒常性維持、口腔内寛容に重要な役割を果たしている。本研究では、マクロファージ様細胞であるTHP-1細胞を用いて、食品成分によるTregの誘導効果を評価することを試みた。33種のポリフェノールのうち2種はともにTreg誘導に関わる内因性レチノイン酸関連遺伝子を活性化した。また、腸管リンパ球のTregによる抗慢性炎症活性を解析するために、2種のポリフェノールをBalb/cマウスへ経口投与したところ、マウス腸内でmIgA産生が増加したことから、これらはTregを誘導し、腸管における免疫増強効果に貢献している可能性が示唆された。本研究は現在投稿中である。（九州大学大学院農学研究院との共同研究）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
Age-related functional decline of human B cells／2021年11月20日／Cytotechnology／9／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	図書館長・委員長	新型コロナウイルス感染症への対応として、感染対策や開館の制限等などを行った。また、コロナ禍の中でオンラインで2回のビブリオバトル開催を学内で実施した。さらに、佐世保市立図書館との共催でさせぼ文化マンスにおいてオンラインでビブリオバトルを開催した。
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価報告書授業2020-2021年度の作成、編集にかかわった。授業アンケートやそれに基づく面談を実施し、教育研究の向上に努めた。
防火・防災委員会	委員	開国祭における防火訓練等に関して協議した。
危機管理委員会	委員	新型コロナウイルス感染症への対応等に関してかかわった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

とくになし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

夏休み薬学研究体験及び猶興館高等学校体験学習（高大連携事業）の講義・実習を担当し、広報活動に尽力した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

とくになし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

とくになし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、再履修者や成績下位の学生に対するサポートを強化する必要性を感じているので、追加の解説資料の配布や授業外での学習サポートの実施を計画している。
研究面では、学会・論文の発表をより積極的に行い、科研費等の獲得を目指していきたい。
図書館長・図書館委員会委員長として、図書館での企画や催しへの学生の参加を促す目的で、図書館と学生の係わりをより密接にしていきたいと考えており、それをサポートする役割を担うライブラリーサポーターを募集することを計画している。また、入試募集関連として、韓国からの留学生の獲得に力を入れていきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 隈　博幸

1．教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①④⑪
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	①②④⑤⑥⑪
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	5	①②④⑤⑥⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①
疾病学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	92	①②③
医療生命倫理	1/15(後期)	1.5	120	②⑩⑪
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	45	①③④⑤⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑦⑩
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	202	①

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

遠隔授業と対面授業・実習を組み合わせながら、うまく対応できたと思う。授業アンケートは4.5（疾病学Ⅰ）、4.5（臨床生理学演習）と、いずれも目標を達成した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	臨床検査法	15/15(前期)	2	24

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ（補習）	1	99	2021年11月19日
総合演習Ⅰ（補習）	2	14	2021年5月20日、6月24日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
②赤血球膜蛋白質バンド３の構造と機能相関の解明
③血液凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	2	2	529万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Reduced Activity of Protein S in Plasma: A Risk Factor for Venous Thromboembolism in the Japanese Population／2021年7月／Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis／10760296211033908／共著／論文

The role of epidermal growth factor-like domain-related abnormalities, protein S Tokushima, and anti-protein S autoantibodies in pregnancy loss／2021年11月／Journal of Reproductive Immunology／103476／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法の開発／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

血液凝固制御因子プロテインCの定量的総活性測定法の開発と欠乏症評価への提案／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

Lipidic Cubic Phase法を用いたヒト赤血球膜タンパク質Band3の立体構造解析／2022年3月28日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
磁気的ホモジニアスアッセイによる新規臨床検査システムの構築	日本学術振興会	2019年4月～2022年3月	429万円
術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析	株式会社シノテスト	2021年4月～2022年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	ボランティアセンター長、委員長	佐世保市社会福祉協議会会議への出席 ボランティアセンターとしての活動は、コロナ禍のため実施できなかった。
入試作問委員会	委員	入試作問・採点に関する諸活動
国試・CBT対策委員会（学部）	委員長	薬剤師国家試験対策、共用試験CBT対策

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

該当なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①新聞掲載 1件（長崎新聞：NIU疾患検査センター関係）
②オープンキャンパス参加（実習体験1回、参加3回）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	令和3年度～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会
科学研究費審査委員会	委員	令和3年度～現在に至る	日本学術振興会
創発的研究支援事業審査委員会	委員	令和3年度～現在に至る	JST科学技術振興機構

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

NIU疾患検査センター長：学内外の新型コロナウイルス感染検査
薬学研究センター血栓性素因研究部門　部門長：血液凝固検査

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

昨年度に引き続きコロナ禍での活動となったが、一部対面授業も開始され、教育面では十分な取り組みが

できたと考えている。また研究活動、委員会活動、国試対策、PCR検査を通じた社会貢献等、一定の成果を上げたものと思われる。来年度も引き続きこれらの活動に取り組み、より一層充実した成果を上げるよう努力したい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 黒川　健児

1．教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/23(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/23(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
生化学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	1	①②⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	108	①⑤⑩
細胞生物学	9/15(後期)	1.5	86	①②⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	102	②④⑨
機能形態・生化学演習【A】	3/12(後期)	0.5	63	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習【B】	3/12(後期)	0.5	19	①②⑨⑪
総合基礎学習Ⅱ	15/15(通年)	0.5	104	①④⑥⑨⑪⑫
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	90	①②⑨
生化学実習	4/10(後期)	1	99	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2年前期の生化学Ⅱ、2年後期の細胞生物学と授業アンケートにおける満足度はともに4.5となり、一定の評価が得られていると考えている。一方、合格できない学生が一定数いるので、その改善を図りたい。3年生総合基礎学習Ⅱでは、1次合格ラインを学力試験の正答率で5%上げると通知したところ、学生はそれに応えて期待以上の正答率向上をしめした。4年次におけるCBT、そして国家試験に向けての基礎力向上の一環として来年度も継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ（過年度生向け）	1	14	2021年6月17日
総合基礎学習Ⅱ＋（CAI補習）	15	111	2021年4月28日～2021年12月22日
1年生特別補習	2	15	2021年11月24日、2021年12月20日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）細菌感染症の予防と治療に関する研究
（２）細菌感染に対する生体防御機構に関する研究
（３）微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Heterogeneous IgE reactivities to Staphylococcus pseudintermedius strains in dogs with atopic dermatitis, and the identification of DM13-domain-containing protein as a bacterial IgE-reactive molecule.／2022年2月／ FEMS Microbiol Lett.／in press／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	入試･募集委員としての通常業務の他、薬学科オープンキャンパスプログラムの立案実施、薬学リーフレット作成等を進めた。特記事項としては新規に特別選抜　自己推薦Ⅰ期･Ⅱ期を設定し、年内入試の強化を目指した。また昨年に引き続き、学生の協力を得て本学薬学部を紹介するYouTube動画を作成し、高校生にメッセージを発信した。
研究センター委員会	委員長	研究センター委員会の所轄事項である長崎国際大学論叢の発行、学術研究報告会の実施を委員長として遂行した。
学生サポート室	室員	学生サポート室室員を前期に務めた。
薬学部･国家試験･CBT対策委員会	CBT部会長	CBT部会長として4年生総合演習Ⅰにおける単位認定試験や実力試験等の設定や成績の解析を行った。また外部講師講習会の立案や通知を行った。
薬学部･CAI運用･活用委員会	副委員長	薬学部におけるCAIシステムの運用と活用促進に貢献した。技術員を雇用･教育し、CAIシステム内の国試対策問題の充実、リメディアル教育用問題の充実に取り組んだ。
薬学部･研究等倫理委員会	委員	研究等倫理委員会が所轄する通常業務に1年を通じて従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①剣道サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部入試･募集委員長として年4回の薬学科オープンキャンパスの立案実施し、今年も薬学科リーフレットを作成した。昨年に引き続き、学生の協力を得て本学薬学部や新しい入試制度を紹介するYouTube動画を作成し、高校生にメッセージを発信した。福岡県の高校教員と交流し、進学情報を交換した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外

2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
文部科学省内審議会専門委員会	専門委員	令和2年度～令和3年度	文部科学省
日本学術振興会内委員会	専門委員	令和3年度～現在に至る	日本学術振興会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・リサイクル活動への参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部の運営に関する各種の提言を、学部長、入試・募集センター長、大学本部等の各部署に適宜行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も薬学部の入試･募集委員として、入試制度の改変を実施するとともに、オープンキャンパスプログラムの充実や薬学科リーフレットの作成と配布、YouTube動画のアップ等を通じて募集活動に注力･貢献した。高校での模擬試験における志望校調査では2年連続で志望者増となっているにも関わらず日本人学生の入学者増には必ずしもつながっていないことから、九州内私学薬学6校の中で選ばれる大学になるよう、大学当局との協議の上で抜本的な改革を進める必要がある。研究センター委員長としては、通常業務を大過なく行った。学部講義においては、生化学Ⅱや細胞生物学の授業アンケートでの満足度評価で自己最高点を得るなど一定の評価を得た。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 小林　秀光

1．教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期（低学年次）から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかり修得することは、「病原微生物・ウイルス学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における直接の出題数としては決して多くはないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といってもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス（特に、微生物学分野における最近の研究等）を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること（アクティブラーンイング）で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーンイングは、研究の最新トピックス等でなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目（学内実習を含む）では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験（随時、定期）を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。これにより、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/23(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①②
衛生化学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	1	①⑩
病原微生物・ウイルス学(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	2	①⑨⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	99	①④⑥⑨

卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
微生物学(再履遠隔)	15/15(後期)	2	1	①②
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	120	①②
衛生化学Ⅱ	8/15(前期)	1.5	101	①⑩
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	91	①④⑤⑩
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
微生物学	15/15(後期)	2	86	①②
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	108	①④⑤⑩
病原微生物・ウイルス学	8/15(前期)	1.5	94	①⑨⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
分子標的予防学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

良好（「微生物学」学生満足度：4.5、「教養セミナー」学生満足度：4.7）
詳細はアクションプランシート参照

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保医師会看護専門学校	微生物学	15/15(前期)	2	18
博多メディカル専門学校	生化学	15/15(前期)	2	50
博多メディカル専門学校	生化学演習（3年）	3/3(後期)	0.5	45

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①新興カンジダ症原因酵母の免疫化化学的性状に関する研究
②抗真菌剤の生化学系実験用試薬としての有効利用
③冬虫夏草類（キノコ）の人工培養に関する研究
④冬虫夏草類由来の生理活性物質に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Anomeric proton and carbon (H1-C1) NMR chemical shifts of antigenic mannans obtained from pathogenic yeast Candida tropicalis／2021年4月／Advances in Microbiology／11, 296-301／共著／論文

Assignment of H1-C1 cross peaks on the two-dimensional NMR map corresponding to mannose residues of pathogenic yeast Candida tropicalis cell wall mannan／2022年3月／長崎国際大学論叢／第22巻, 187-191／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

病原性酵母Candida norvegensis細胞壁マンナンの化学構造について／2022年3月26日／日本薬学会第143年会（名古屋）

人工培養した国産冬虫夏草類のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性／2022年3月27日／日本薬学会第143年会（名古屋）

冬虫夏草の抗肥満作用／2022年3月28日／日本薬学会第143年会（名古屋）

冬虫夏草二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響／2022年3月28日／日本薬学会第143年会（名古屋）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	入試において、主に面接を担当した。 出張講義（3月14日）をリモートで実施した。
産学連携・研究支援センター	委員	特になし
薬学部共通機器管理委員会	委員長	共焦点レーザー蛍光顕微鏡の外部資金による導入のために尽力した。
薬学部同窓会支援委員会	委員長	生涯教育セミナー及び同窓会薬学部門総会の（2月27日）のリモート開催を支援した。
薬学部教務委員会	委員	地域の期待に応える実践活動（11月）において、中心的な役割を果たした。

薬学部入試・募集委員会	委員	オープンキャンパス4回参加のうち、3回の学部保護者懇談会の司会を担当した。
1年生学年主任	責任者	･4月 オリエンテーションでの履修指導、遠隔授業に関するオリエンテーション、フレッシュマンセミナー、クリーンキャンパス実施日の設定 ･6月 新型コロナウイルスワクチン接種についての案内 ･7月 前期定期試験および個人面談についての案内 ･8月 夏休みCAI課題の案内 ･9月 成績不振者向けの特別補習（学部長提案による）の実施に向けての調整、特別補習対象者のmanabaコースの設置、特別補習の実施に向けての体制構築、特別補習オリエンテーション（対象者26名） ･11月 夏休みCAI課題未提出者への措置、特別補習の実施、薬学教育支援センターとの連携開始 ･11月　特別補習出席状況を鑑みての担任教員への依頼、特別補習対象者の変更（2名追加）、クリーンキャンパス実施日の設定 ･12月 冬休みCAI自習教材の案内、年末特別補習の実施（12/25） ･1月　大学パンフレットへの学生推薦（7名：入試募集委員会より依頼） ･2月 春休みCAI課題の案内
1～6年生担任	担任	1年生：4人 2年生：4人（韓国人留学生1人含む） 3年生：4人（留年生1人含む） 4年生：4人（韓国人留学生1人含む） 5年生：5人 6年生：5人

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①ビブリオバトル in 開国祭において、審査員を務めた。
②共用試験において、OSCE評価者を務めた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

3月14日、「薬系大学と薬剤師を知る」と題して、福岡市内の福岡大学附属若葉高校にて、私立薬学部の薬剤師養成プログラム及び薬剤師の職能について広報した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園高等学校理科啓蒙事業	12月4日	九州文化学園高等学校	学長裁量経費
地域の期待に応える実践活動	11月21日	本学	薬学部教務委員会
九州文化学園小学校キッザニア	1月13日	九州文化学園小学校	学長裁量経費
薬系大学と薬剤師を知る	3月14日	リモート講義（2コマ）	入試・募集委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
全国微生物学教科担当協議会	委員	平成18年～現在に至る	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①6月コロナワクチン第1回職域接種（ワクチン調製、投薬、服薬指導）
②2～3月コロナワクチン第2回職域接種（ワクチン調製、投薬、服薬指導）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

①強病原性カンジダ・オーリスの免疫化学的研究（Westchester Medical Center, New York Medical College, USA）
②カイコ冬虫夏草の生理活性に関する共同研究（峯樹木園：熊本）
③人工培養冬虫夏草の生理活性に関する共同研究（ヤハギバイオ研究所）

７．受賞等

①学長裁量経費：代表者「九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献」100,000円
②学長裁量経費：分担者「地域の期待に応える実践活動」200,000円

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】後期専門科目「微生物学（2年）」のフィードバックアンケートにおける学生満足度は4.5と良好であったので、今後もALを取り入れたバランスのよい授業を展開する努力を継続する。
【研究】自前（本学所属研究室発）の研究成果（コレスポンディングオーサー）で、原著1報（国際誌）に止まったが、本学論叢へ1報投稿することができた。次年度においては研究活動をさらに活発化させたい。
【社会貢献】学園内の初等・中等教育における「理科啓蒙」と「高大接続」を目的とする活動（R3年度：学長裁量経費）を実施したが、コロナ禍により中学校での活動が全くできず、高校と小学校での出前授業（講義・実習）に止まった。また、新型コロナワクチンの職域接種において、薬剤師として調製および服薬業務を担当した。
【大学運営】全学入試委員会及び産学連携センター委員としての活動を行った。
【学部運営】共通機器管理委員会委員長及び同窓会支援委員会委員長としての職務を全うした。その他、教務委員会（地域の期待に応える実践活動など）、１年生学年主任及び各学年の担任（学生数：26人）の職務を実行した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 佐々木　茂貴

１．教育理念

１．身近で、親しみやすい、街の中の科学者・化学者として、地域の健康と福祉に貢献する薬剤師を育成する。
１）科学的思考力を養うため、物事を分析的に解釈し、総合して理解する知識と能力を習得させる。
２）物質の変化を説明するために化学的な思考力を育成する。
３）話す相手に適切な態度と言葉で安心感を与えつつ科学・化学を伝える技術を習得させる。
４）医療従事者としての自覚と責任感を育成する。
２．病気の治療薬開発に向けた新進気鋭の気概をもつ研究者を育成する。
１）既存薬の記憶にとどまらず、その創成過程に関心をもつ気風を育てる。
２）確立した概念に満足せず、さらなる真理への探求心を奨励する。
３）治療現場の課題や疑問点を基礎科学にフィードバックする能力を育てる。
４）自発性・積極性を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	②⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	②⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	2	②⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	②⑨
構造解析学	2/15(前期)	1.5	106	②⑨
生物有機化学	2/15(後期)	2	82	②⑨
創薬化学	2/15(前期)	1.5	107	②⑨
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	②⑪
有機薬化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	83	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/1(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは７０％回収率で、授業内容に関する項目では平均4.4となっている。満足度も4.4だった

がｍ理解度は4.0だったので、次回はより理解を高められる工夫をする予定である。クラスの半分は遠隔での参加だったが、最初音声が入力されていなかった時間があり、最終的に講義時間が5分程度長めになったのは、反省点である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
久留米大学医学部	薬理学I　薬学研究と創薬：核酸医薬の研究と開発	15/1(後期)	2	60
九州大学大学院薬学研究院	大学院有機化学	15/2(前期)	2	18

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

今世紀初頭に非コードRNAが関与する新たな遺伝子発現制御機構が明らかになり、診断や創薬に大きなインパクトを与えている。などの疾患に関係する遺伝子には１塩基異常が最も多く含まれており、ゲノムDNAや長大なRNA中の１塩基をピンポイント的に正確に識別する手法の開発が望まれている。私は遺伝子発現機構を標的とする研究領域において極めてユニークなアプローチを提案し、「ゲノム標的化学」として展し、革新的な診断や治療法への発展可能性をもつ多数のユニークな機能性ゲノム標的分子を創成している。主に、(1) RNA配列および塩基選択的反応、(2) ３本鎖DNAコードの拡張, (3) ８位酸化グアノシン認識分子、(4)繰り返しＤＮＡ配列に自己集積する分子、という４つのテーマについて研究を行ってきた。2020年度は（３）以外のテーマについて研究を実施した。

(1)RNA配列および塩基選択的反応： DNA中のシトシン5位メチル化はエピゲノム制御機構として広範な研究が展開されている。近年は、これまで化学修飾がないと考えられいたmRNAにおいても塩基修飾による発現制御がエピゲノム制御として注目されている。そこで、標的RNAに機能性分子を転移させ選択的に化学修飾する手法を開発した。この方法では、標的RNAに相補的な人工核酸を用いて、標的位置のグアニン、アデニンおよびシトシンを配列および塩基特異的に化学修飾する技術を確立した。2020年度は、本RNA修飾技術を活用し、機能的RNA編集反応への展開を目的にmRNAの化学修飾と翻訳への影響について調査した。

(3) ８位酸化グアノシン認識分子：DNAは絶えず酸化やアルキル化などの反応に晒され損傷塩基を発生している。８-オキソグアノシン(8-oxo-dG)は代表的な酸化損傷塩基で強い変異原性を有する。従って8-oxo-dGの選択的で簡便な検出法の開発が望まれている。また、８-ニトログアノシン (8-nitro-dG)は活性酸素と活性窒素によって生じ、シグナル伝達の構成成分となり細胞のレドックス状態を反映するマーカーとなることが示唆されている。2020年度は、人工捕捉分子による8-nitroguanosine 3,5-cyclicphosphateの細胞内反応を検証し、学術論文に掲載された。

(4)繰り返しＤＮＡ配列に自己集積する分子：脆弱X症候群(FXS)に関連するFMR1遺伝子にはCGGリピート領域があり、このリピート数が55以下では正常であるのに対し、200以上では遺伝子が転写されず、発症する。近年、CGGリピート領域のシトシン５位メチル化の阻害が、FMR1遺伝子転写を活性化し、症状を軽減させることがわかり、新しい創薬戦略として注目されている。2020年度には、CGGリピート配列に自己集積する低分子が、細胞内で高リピートを含む疾患モデル細胞のFMR1遺伝子の転写を活性化させることを見出した。また共同研究によって、この低分子のエピジェネティクス機構に関連する酵素阻害作用について検討した。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	3	15	2	2	13541万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Simple and easy synthesis of gamma-amido-dNTPs in water and their polymerase reaction properties／2011年11月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／1061-1066／共著／論文

Design and synthesis of purine nucleoside analogues for the formation of stable anti-parallel-type triplex DNA with duplex DNA bearing the 5mCG base pair／2021年6月／RSC Advances／21390-21396／共著／論文

Development of MTH1-binding nucleotide analogs based on 7,8-dihalogenated 7-deaza-dG derivatives／2021年1月／International Journal of Molecular Sciences／13／単著／論文

Artificial Host Molecules to Covalently Capture 8-Nitro-cGMP in Neutral Aqueous Solutions and in Cells／2021年2月／Bioconjugate Chemistry／385-393／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

酸化損傷塩基の認識向上を目指したピリジン骨格を有する人工ヌクレオチドの開発／2021年3月29日／日本薬学会第141年会

官能基転移人工核酸によるmRNA部位特異的修飾と翻訳への効果の検討／2021年3月29日／日本薬学会第141年会

８－オキソグアノシンのDNA配列中位置検出を目指したデアザプリン人工ヌクレオチドの開発と評価／2021年3月29日／日本薬学会第141年会

三本鎖DNA形成領域拡張のための5mCG塩基対認識人工核酸の開発／2021年3月29日／日本薬学会第141年会

Development of aniline modified aminonebularine derivatives for the formation of anti-parallel type of triplex DNA／2021年5月31日／2021 CSPS/PSJ/CC-CRS Symposium

Development of aniline modified aminonebularine derivatives for the formation of anti-parallel type of triplex DNA／／2021年5月31日／2021 CSPS/PSJ/CC-CRS Symposium

Development of aniline modified aminonebularine derivatives for the formation of anti-parallel type of triplex DNA／2021年5月31日／2021 CSPS/PSJ/CC-CRS Symposium

核酸修復酵素活性阻害能を有する損傷核酸ヌクレオチド誘導体の開発／2021年6月22日／日本ケミカルバイオロジー学会　第15回年会

エピジェネティック制御に関与する5-メチルCG塩基対に対し三本鎖DNAを形成可能にする人工核酸の開発／2021年6月27日／日本核酸医薬学会第6回年会

核酸医薬の内部位置の 部位および塩基特異的なラジオアイソトープラベル化／2021年6月28日／日本核酸医薬学会第6回年会

8-オキソグアノシンの選択的認識を目指したピリミジン骨格を有する人工ヌクレオチドの開発／2021年7月3日／第５８回化学関連支部合同九州大会

官能基転移人工核酸によるmRNA部位特異的なラベル化法の確立と翻訳制御法への展開／2021年7月3日／第５８回化学関連支部合同九州大会

Development of aminopurine derivative for recognition 5-methyl CG base pair in anti-parallel triplex DNA／2021年8月5日／日本核酸化学会若手フォーラム

Development of aminonebularine derivatives for the recognition og duplex DNA including a 5-methyl CG base pair in an antiparallel triplex DNA／2021年10月4日／日本核酸化学会第5回年会

DNA配列中の8-oxo-dG認識特異性の向上を目指した7-deaza-Adapのトリリン酸体の開発／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(B)（一般）	日本学術振興会	2021-2024年(総額)	1716万円
特別推進研究	日本学術振興会	2019-2023（総額）	11825万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
グローバル推進協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
全学教育会議	構成員	委員会に出席し、議論に参加した。
情報セキュリティ委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
学務協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
運営会議	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
奨学金変換免除にかかる候補者選考委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
教員資格審査委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和3年度私立大学等改革総合支援事業 対策会議及びワーキンググループ	委員	活動内容のとりまとめに参加した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	後日出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席

2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	10

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Opening Remarks - The Pharmaceutical Society of Japan (PSJ)	2021年6月1日	オンライン	日本薬学会―カナダ薬学会
Bio-Functional Oligonucleotides Developed by the Genome-Targeting Chemistry	2021年9月30日	オンライン	ドイツ薬学会
生体の模倣から生体への挑戦 核酸の精密認識・反応性分子の創成	2021年11月10日	オンライン	日本核酸化学会
ウイルス性疾患と核酸医薬	2021年11月13日	オンライン	日本薬学会九州山口支部
薬学の学術研究と実務教育の持続的な発展のために	2021年2月5日	オンライン	九州山口薬学会
薬学の教育・研究の持続的な発展にむけて	2021年3月26日	オンライン	日本薬学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会	会頭	2021年3月26日－2023年3月25日	日本薬学会
学術著作権協会	理事	2021年4月1日－2023年３月31日	学術著作権協会
6年制薬学教育制度調査検討委員会	委員	2021年4月1日－2022年３月31日	日本私立薬科大学協会
薬学実務実習に関する連絡会議	委員	2021年4月1日－2022年３月31日	文部科学省高等教育局医学教育課
薬学教育協議会	委員	2021年4月1日－2022年３月31日	薬学教育協議会
薬学教育評価機構	委員	2021年4月1日－2022年３月31日	薬学教育評価機構
薬学系人材養成の在り方に関する検討会	委員	2021年4月1日－2022年6月30日	文部科学省高等教育局医学教育課
薬学研究奨励財団　運営助言委員会	委員	2021年7月1日－2022年３月31日	薬学研究奨励財団
薬剤師認定制度認証機構社員	特別会員	2021年4月1日－2022年３月31日	薬剤師認定制度認証機構

薬剤師生涯学習達成度確認試験運営協議会	委員	2021年4月1日－2022年３月31日	日本薬剤師研修センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
CSPS-PSJ Banff 2021 Conference	日本薬学会とカナダ薬学会の合同シンポジウム	2021 年6 月1日～4 日	オンライン	カナダ薬学会
AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS2021)	アジア地域に加えて、世界の著名な医薬化学者による研究発表会	2021 年11 月29日～12 月2 日	オンライン	日本薬学会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

学長特別表彰

８．活動全般についての自己点検・評価

１．教育活動については、講義、演習の一部を分担し、各種試験問題作成を行い、目的を概ね達成している。
２．研究活動については、英文論文の発表（4報）や学会発表（15報）を行った。様々な実験を行い、さらに共同研究を展開し、当初の予想どおりに実施できている。
３．大学運営活動には、全学委員会委員として活動に参加した。FS/SDへの参加は本年は低調だったが、目的を概ね達成している。
４．社会活動では、日本薬学会次期会頭候補会頭として、種々の活動を行い、また種々の委員会に参加して活動した。また、オンライン開催ではあったが日本ケミカルバイオロジー学会年会を主催した。このように、学会活動については、一般的程度を超える活動を行った。
５．コロナ感染拡大のため国際的な活動はリモート会議に限定されたが、薬学会の国際交流活動を通して、アジア諸国、アメリカ、カナダおよびドイツと交流した。
６．日本核酸化学学会から授与された池原賞記念講演や、。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 佐藤　博

1．教育理念

私の学問的バックグラウンドである環境科学では、「持続可能な」という言葉が一つのキーワードとなっている。これは社会のなかにおいて、色々な考えをもつ学生がそれぞれのもっている個性を大事にして地道に目標に向かっていくことに対して、真摯に継続して係っていくことが重要であると考えている。そこで、次の3つを教育理念として挙げる。

〇学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
〇個を認め、その主体性を育むことによって、ホスピリティを獲得する教育を行う。
〇心が豊かになる教育を目指して、国家試験に対して乗り越えられるように育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
地球環境と倫理	15/15(前期)	1.5	101	②⑩
地球環境論	15/15(後期)	2	192	②⑨⑩
公衆衛生	15/15(前期)	2	30	②⑨⑩
香粧品学（再）	12/15(後期)	1.5	3	②⑩
環境科学	15/15(前期)	1.5	111	②
総合基礎学習Ⅱ	1/15(通年)	0.5	104	①④⑥⑨⑪⑫
毒性学	6/15(後期)	1.5	106	②③
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	①②③⑩
衛生薬学実習	1/7(前期)	1	108	①②④⑤⑦⑪⑫
地域の理解と連携	15/15(後期)	2	202	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）
イ）出来るだけ、新聞記事を多用して講義をすると同時に、プリントのまとめを今後も活用していく。
ロ）まとめのプリントの配布回数を増やす。
ハ）授業前に時間的に余裕を持って教室に行き、学生との会話を心がける。
ニ）時間に余裕を持って講義をゆっくりと進行させる。また、話す速度にも気をつける。
高校での理解力が不十分と思われる学生については補習を行うなどした。教育効果についてはこれからだと思うが、学生がノートをしっかりとるなど授業への積極的な姿勢が見られた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析
２．光触媒を利用した脱臭・除菌に関する研究
３．微生物を利用した水の浄化に関する研究
４．ホタテ貝殻焼成粉末水溶液の抗ウイルス活性に関する研究
５．　空気清浄機能に関する研究
６．月桃水の抗ウイルス活性、月桃茶の嗅覚障害の回復に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	5	2	2	200万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ガスクロ自由自在GC,GC/MSの基礎と実用／共著・編著／令和3年11月15日／丸善出版株式会社／335

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

焼成ホタテ貝殻より得られる水酸化カルシウムのウイルス不活性化に関する評価／2021/11/13(土)（Web開催）／第38回日本薬学会九州山口支部大会　D1-5-20

焼成ホタテ貝殻より得られる水酸化カルシウムのウイルス不活性化に関する評価／2021/12/2(木)、3(金)（京都(ハイブリッド)）／2021年室内環境学会学術大会　pp.258-259

焼成ホタテ貝殻粉末水溶液の細菌・ウイルス抑制等に関する研究／2022/3/11(金)（Web開催）／第15回室内環境学会九州支部研究発表会　pp. 16-17

月桃エキスと焼成ホタテ貝殻粉末水溶液の細菌・ウイルス抑制等に関する研究／2022/2/25(金)／長崎国際大学第22回学術研究報告会

職業曝露の軽減における光触媒の有用性の検討／2022/3/6(日)　長崎ブリックホール（ハイブリッド）／第3回長崎県薬剤師学術大会　p. 30

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
ウイルス除去空気清浄機のウイルス除去性能・耐久性能評価	吸着技術工業株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日	100万円
ホタテ貝殻焼成粉末に関する研究	㈱クオリテ	令和2年8月1日～令和3年9月31日	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	センター長	全学地域連携センター会議開催（月1回）、全学教授会報告（月1回）
就職委員会（薬学部）	委員長	2022薬学部合同就職説明会開催（令和3年3月6日）のためのプロフィール集作成配布。5年生に対して就職ガイダンスを実施した（5月、12月、2月3回の計5回）。6年生に就職オリエンテーションを4月に実施した。
地域連携委員会	委員長	高大連携事業を実施した 第10回夏休み薬学研究体験 　実施日：令和3年8月10日(火)、11日(水) 参加者：高校生35　名（長崎県、佐賀県の高校16校） ・第14回　猶興館高等学校体験学習（高大連携事業） 　実施日：令和3年11月15日(月) 　参加者：猶興館高等学校2年生15名 ・第3回　長崎県立佐世保西高等学校　2年生理系課題研究 　実施日：令和3年11月18日(木) 　参加者：佐世保西高等学校2年生10名
安全管理委員会	毒物劇物担当	毒物、劇物、（ガスボンベ）、爆発物原料物の管理調査（年末実施）
図書選定委員会	選定委員	図書を選定した。
教務委員会	委員	教授会報告

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業対策会議WG	副委員長	タイプ２の2021年度状況把握と改善

(3) 課外活動の指導等

薬学野球サークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・第10回夏休み薬学研究体験
実施日：令和3年8月10日(火)、11日(水)
参加者：高校生35 名（長崎県、佐賀県の高校16 校）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
第14回 猶興館高等学校体験学習（高大連携事業）	令和3年11月15日(月)	長崎国際大学薬学部	猶興館高等学校校長
第3回 長崎県立佐世保西高等学校 2年生理系課題研究	第3回 長崎県立佐世保西高等学校 2年生理系課題研究	長崎国際大学薬学部	長崎県立佐世保西高等学校校長
テレビ佐世保　金曜日の放課後SDGsについて子ども向けに解説	8月6日(金)22：00～	長崎国際大学薬学部取材	テレビ佐世保
テレビ佐世保　金曜日の放課後におい（いい匂い、悪い臭い）についての解説	8月20日(金)22：00	長崎国際大学薬学部取材	テレビ佐世保

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県環境審議会委員	委員	令和2年11月1日～令和4年10月31日	長崎県知事

長崎県環境審議会環境基本計画策定部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境計画部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境監視部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
佐世保市上下水道事業経営検討委員会	副委員長	令和3年10月1日～令和5年9月30日	谷本薫治（佐世保市水道事業及び下水道事業管理者）
佐世保市環境政策審議会	副委員長	令和3年6月21日～令和5年6月20日	佐世保市長
佐世保市環境教育等推進協議会	副委員長	令和3年7月1日～令和5年6月30日	佐世保市長
佐世保市地球温暖化防止活動推進センター「させばエコステーション(仮称)」運営業務業者選定審議委員会	委員	令和4年3月1日～審査結果の報告が終了する日	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

九州文化学園高等学校　学校薬剤師として高校に出向いて管理を行っている。
室内環境学会九州支部長として、研究発表会等を開催している。
日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会委員長として、年5,6回の講演会、講習会（オンライン）を通して、社会に対して情報発信を行っている。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日中韓（CJK)分析化学シンポジウムを通して3国間の研究者の交流を深めることを事務局（長崎国際大学薬学部環境毒性学研究室）として推進している。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

室内環境学会と分析化学会GC研究懇談会の九州支部事務局として学会活動に力を入れている。学内では、12年目となる第12回薬学部合同就職説明会を実施する予定であったが、コロナ禍でかなわなかったのは残念である。参加予定であった120施設の施設プロフィール集をキャリアセンターと作成して５年生全員に配布できた。また、4年生を対象として、昨年に引き続き第8回地域の期待に応える実践活動を実施した。この活動により、学生が地域で働くことへの魅力を認識し、しいては地元への就職率の向上へ繋がると期待している。

現在、企業からの外部資金を運用して研究面を特に推進している。その成果として、これまで共同研究をしていたイナヅマ電気工事（長崎市）から光触媒空気清浄機が開発され、令和3年度長崎市製品・技術「優れモノ」に認証された。また、T.Mエンタープライズ（長崎市）と共同研究した、浴室やリビングのカビを抑制するバイオ製剤が、全国の郵便局（2万店舗）で取り扱われることになった。また、全国2千店舗あるウエルシア薬局で販売されることになった。

さらには、これまで行ってきた月桃に関する研究は、共同研究先のIBCコーポレーション（長崎市）とともに、100万円の調査費用が支給され調査を進めることができ、次の展開に繋がり期待がもてる。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 高井　伸彦

1．教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	3/15(前期)	1.5	102	③⑨
分析化学Ⅱ(再履遠隔)	3/15(前期)	1.5	1	②③⑨
総合演習Ⅰ	5/30(通年)	1	96	③⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	③⑨
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	①②③④⑤⑥⑧⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	3	①②③④⑤⑥⑧⑫
機器分析学(再履遠隔)	5/15(後期)	1.5	3	②③⑨
分析化学Ⅰ(再履遠隔)	3/15(後期)	1.5	2	②③⑨
分析化学演習	5/15(前期)	0.5	99	②③⑨
機器分析学	5/15(後期)	1.5	87	②③⑨
放射線医療学	15/15(前期)	1.5	101	②③⑥⑨⑩
日本薬局方概論	4/15(後期)	1.5	94	②③⑨
放射線化学	10/15(後期)	1.5	115	②③⑨
分析化学Ⅱ	3/15(前期)	1.5	100	②③⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	②④⑤⑥⑩
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	6	②④⑤⑥⑩
分析化学Ⅰ	3/15(後期)	1.5	111	②③⑨
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	102	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

留学生を含む112名の評価として、4.9の評価があり昨年度と同様に高い評価を得ている。また満足度については、全体の99.1%が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。

高井先生に代わって授業が面白くなった！なぜこんなことを学ぶのかを分かりやすく説明してくださって、授業に熱意が出た。との評価コメントがあり、暗記よりも理解を深める講義を実施している。
絶えず時事ニュースや学生が勘違いしている項目を見つけては、その正誤について理解できるように講義を心がけており、講義を受講することにより将来のCBT試験や国家試験問題も簡単に解けることの満足感を与えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
１年生特別補習　放射線化学	3	28	12/1, 12/13, 12/22
１年生特別補習　分析化学I	1	28	1/13

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析
粒子線治療による脳腫瘍治療の効果的利用を目的とし、脳のRBE（生物学的効果比）指標を早期に見いだすことのできる新たな物理的画像分析法（新規RBE指標）を創出する。それらの結果にもとづき、中枢組織障害ならびに脳機能（認知・記憶・注意力）障害を軽減するQOLの向上に向けた研究を実施し、重粒子線がん治療装置等共同利用研究課題として「重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析」が採択され実施している。これらの研究を発展させ、新規課題として本年度、基盤研究(C)「脳腫瘍の集学的治療時に生じる認知機能障害と脳内毛細血管密度の解析」の獲得に至る。
②　重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析
放射線照射後に生じる腸管障害と末梢性NMDA受容体の関連性を明らかにし、組織障害の早期診断技術および有効な放射線防護剤の開発を行う。これまでの研究成果から、グルタミン酸受容体阻害剤の１つであるＮＭＤＡ受容体阻害剤が、腸管障害を軽減することを明らかにしてきた。また脳局所照射実験では、記憶に重要な海馬の特定部位の毛細血管密度が早期から影響を受けることを明らかにしてきた。本研究計画を通して、数種類のグルタミン酸受容体阻害剤を用い、その防護効果をマウス腹部・頭部照射モデルを応用して解析を行っている。現在、科研費「重粒子線治療で問題となる腸管障害をNMDA受容体阻害剤により軽減する技術の開発」として採択され、3年目の研究計画を実施している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	0	1	2	2	516万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

アップデート薬学機器分析学「第6章　画像診断技術　6-3～5」／共著・編著／令和2年3月30日／廣川書店／293-306

パートナー分析化学II（改訂第４版）「第4章　臨床現場で用いる分析技術」／共著・編著／令和3年12月1日／南光堂／267～281

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

脳腫瘍の放射線治療に伴う副作用の機序の解析／令和3年2月25日／令和２年度第21回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費　基盤研究(C)	文科省	2021/4-2023/3	416万円
重粒子線がん治療装置（HIMAC）共同利用研究	国立研究開発法人-量子医科学研究所	2021/4-2023/3	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員長	文部科学省　私立大学等改革総合支援事業において、タイプ２：特色のある高度な研究の展開の獲得のため、大学HPの改革（教育研究活動の記録および英語表記）に貢献した
放射線障害予防委員会	委員	放射線の安全な利用を促進するため、R3年度のRI業務従事者のための教育訓練の講師を担った。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育基盤センター紀要の編集委員として、公平かつ適切な助言をおこなった。
薬学就職委員会副委員長	委員	「第8回地域の期待に応える実践活動」に広報委員をかねて参画し、地域への就職を促す活動を行なった。
CBT実施委員会	委員長	CBT実施委員長として、委員との情報を絶えず共有しながら、本学のPC環境に応じた対応を実施し、監督者および受験者への説明会や、テストランなどを全て、問題なく実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし（地域のサッカー協会にて、審判員およびコーチとして活動しているため、本学のクラブサークルを受け持つのが難しい）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園や佐世保西高校など地域連携となる企画案として、コロナやPCRを題材としたものを提案し、継続しメディアや報道機関から取材を受け広報に貢献

また本学におけるワクチンの職域接種を効果的にFBや大学HPを用いて、広報活動を行なった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
放射線影響懇話会	世話人（理事）	2017/4～	放射線影響懇話会
一般社団法人日本量子医科学会	評議員	2021/4～	一般社団法人日本量子医科学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県薬剤師会からの依頼を受け、佐世保市の新型コロナウィルスのワクチン接種業務を担当

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
第1回日本量子医科学会学術大会	評議員	11/10-11	東京	日本量子医科学会

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

新型コロナウィルスの対応のため、採択された共同研究をほとんど実施できず、研究が停滞してしまった。また広報催事として佐世保市およびハウステンボスの共催として、「めざせ水の薬学博士」を実施できなかった。新年度から科研費獲得を有意義になるように、研究を推し進めるとともに、地域における本学の役割を広報活動に結びつけて、入学定員確保に協力していきたいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 長岡　寛明

1．教育理念

私の教育の理念は，学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく，公衆衛生学・衛生化学，環境科学，毒性・代謝学，レギュラトリーサイエンス等の視点をもって考えることができる広い視野を持った良い医療人を育てるというものである．良い医療人とは，医学，薬学，社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し，更に，協調性に富み，幅広い視野と豊かな教養を持ち，高い人間性及び倫理観を持ち合わせ，自ら学び続けることができる人材であると考える．

本学の卒業生のほとんどは，病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し，一般社会に接した医療現場で働き，多忙な業務をこなすことになる．学生には，将来，疾病を見るだけでなく，疾病に罹っている患者本人及びその家族，患者が生活する地域，属する組織や社会に対し，目を向けて考えること，自ら行う医療行為について評価することができるようになること，加えて，疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている．

以上のことより，患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり，生涯にわたって，やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている．

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑫
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	7	④⑤⑪⑫
健康薬学	15/15(前期)	1.5	9	①⑨
公衆衛生学Ⅰ	15/15(前期)	2	99	①⑨
専門基礎学習Ⅰ	10/10(通年)	0.5	93	①
ホスピタリティ演習Ⅰ	7/7(後期)	0.5	97	②⑦
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②④⑦⑨
衛生薬学実習	15/18(前期)	1	108	①②④⑤⑦⑩⑫
公衆衛生学Ⅱ	11/15(後期)	2	94	①⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
医薬品評価・管理学演習	4/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケート：

授業アンケートは，おおむね良い結果であった．

授業方法の改善：

昨年度同様A4用紙両面に印刷し，ステープラで留め，2穴パンチ穴を空けたものを配布したところ，学生からは好評であった．

Zoomによる講義及びハイブリッド型授業を実施した．講義の映像はYouTubeで配信しており，学生からは好評であった．

教育効果：

manabaを用いて，小テストを実施し，学生の理解を深めることに努めた．特に今年度は穴埋め式の問題を出題することにより，成績の向上がみられた．

manabaにおいて，質問やコメントを求めたところ，多くの質問やコメントが寄せられ，これらに対しては真摯に回答した．

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門脱稿	公衆衛生学	15/15(前期集中)	2	79
佐世保市医師会看護専門学校	公衆衛生学	15/15(後期集中)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB	1	109	10/4
総合演習Ⅰ	1	106	5/31
総合演習Ⅰ	1	106	7/5

３．研究活動

(1) 研究テーマ

医薬品医療機器の承認審査に関する研究．
カテキン類の高速液体クロマトグラフィー・蛍光検出を用いた微量測定法の開発．
茶抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究．
食品中の腐敗アミンの分布及び挙動に関する研究．
大村湾の海洋調査に関する研究．
環境汚染物質の分析及びそれらの生体への影響評価に関する研究．
COVID-19に関する疫学研究．

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

佐世保市大気中のエンドトキシン及びβ-1,3グルカンの濃度の季節変動と気象の関係／2021年10月9日／日本薬学会関西支部会

京都市と佐世保市におけるPM10中の生物学的成分と化学成分の関連性／2021年10月9日／日本薬学会関西支部会

佐世保市大気中の硫酸イオン及びカルシウムイオンの濃度と火山活動及び黄砂飛散の関連性／2021年10月9日／日本薬学会関西支部会

佐世保市大気中のPM2.5による炎症性サイトカインIL-33の発現／2021年10月9日／日本薬学会関西支部会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館の運営及び図書館の充実に関する業務を行った.
薬学共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った.
薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として，1回の卒後教育セミナーの開催を予定（2月27日）である．その他に同委員会の運営に関する業務を行った.
薬学部教務委員会	委員	薬学部教務委員会委員として，教養セミナーにおける長崎県環境保健研究センターの見学を計画したが，COVID-19の影響で実現しなかったが，その代わりに長崎県環境保健研究センターの協力のもと，学生にDVDを見せ，長崎県環境保健研究センターの見学に代わるものを実施した.

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部自己点検・評価書作成委員会	委員	薬学部自己点検・評価書作成委員会委員として，自己点検評価書の作成に携わった.
薬学部改善計画策定委員会	委員	薬学部改善計画策定委員会委員として，薬学部改善計画に関する業務を行った.

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

令和3年7月オープンキャンパス参加
令和3年8月オープンキャンパス参加
令和4年2月第10回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー　開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	7

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ながさきまなびネット	講師	平成17年2月～ 現在に至る	長崎県教育庁生涯学習課
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門員	平成18年5月～ 現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	平成18年10月～現在に至る	佐世保市
日本食品化学学会	評議員	平成23年1月～ 現在に至る	日本食品化学学会
長崎県薬剤師会　生涯学習委員会	委員	令和元年7月～ 現在に至る	長崎県薬剤師会
佐世保市立看護専門学校運営委員会	委員	令和2年10月～ 現在に至る	佐世保市
佐世保市開発審査会	委員	令和3年4月～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

小学生の登校時の交通安全指導等を行った.

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は，講義，実習及び演習の準備等で瞬く間にすぎてしまった1年であった．このため，活動全般では，他の教職員の方々の理解と協力を得て，果たすことができたと考えている．

教育活動においては，自分なりに精一杯努めたつもりではあるが，まだまだ反省し，改善すべき点があると考えている．

研究活動においては、今年度は論文0報，学会発表4回であった．来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい．

委員会活動においては図書館委員として，図書館の蔵書の充実に寄与した．また，薬学部生涯教育委員会委員長をとして，委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた．来年度も講演会を開催し，本学が知の拠点となる一助としたいと考えている．

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 西奥　剛

1．教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。 本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。 それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪
薬理学Ⅰ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	5	①②③
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）（再履遠隔）	15/15(後期)	1.5	3	①②③
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）	15/15(後期)	1.5	76	①②③
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
薬理学実習	8/8(後期)	1	105	①②③④⑥⑩⑪
薬理学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	85	①②③

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱともに概ね高評価であった。アンケートの記載に関して、１や２を付けている学生に

対してなぜそのような評価なのか記載するための欄を作成していただきたい。コメントが無記入であると改善が困難である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	治療論	15/15(後期)	2	74

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	109	5月
総合演習Ⅱ	1	99	12月
総合演習Ⅰ（前期）	2	103	6月
総合演習Ⅰ（後期）	1	103	11月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

関節リウマチの薬物治療において、生物学的製剤による分子標的治療の導入は、疾患活動性と関節破壊の制御を可能とし、関節リウマチ治療に新展開をもたらした。しかし、生物学的製剤は、優れた有効性の反面、安全性や投与経路の問題、また高額な治療費のためすべての患者において夢の薬というわけではない。関節リウマチの新規病態分子機構を明らかにし、生物学的製剤と同等の有効性を示す経口投与可能な新規低分子抗リウマチ薬の開発を目指し研究を行いる。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける社会性活動の低下／2021年11月20日／第74回日本薬理学会西南部会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける自閉スペクトル症様行動の発現／2022年3月7日／第95回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
認知機能に寄与する食品・成分に関する調査研究	社福協研究事業	2021年4月～2022年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	HPの亢進作業やトッピクスの掲載を行い、入学募集が増加するよう努めた。
薬学部学生員会	委員	クリーンキャンパス運動、保護者会や卒業式の準備を行い学生生活の向上に貢献した。
薬学部入試募集委員会	委員	東翔高校や活水高校において出張講義を行い、薬剤師の職能や薬学部の魅力について講義を行い、入学者増加の向上に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

進路ガイダンス参加（薬剤師の職能に関する出張講義）/5月27日/東翔高等学校
進路ガイダンス参加（薬剤師の職能に関する出張講義）/3月10日/活水高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」に基づく研修会（関節リウマチ治療薬）	2月18日	長崎県薬剤師会館	長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬理学会	学術評議員	平成25年～現在に至る	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

講義に関しては、前期の薬理学Ⅰが対面とオンラインのハイブリッドであり、薬理学Ⅱは対面での講義であった。授業評価は例年通り、評価に関しては問題なかったが、2年生になると全ての科目が専門科目であるため学生にとっては薬理学の単位の取得は困難であると考えられる。来年度は補習を行うなどの対策を講じる予定である。

研究に関しては、科研費が不採択であり、来年度は申請書の書き方ならびにテーマを再考する必要がある。研究成果に関しては、現在論文を執筆中である。

大学への貢献に関しては、広報委員や入試募集委員ととして進路ガイダンスとして出張講義を行うなど学

生募集に貢献した。
来年度も鋭意努力する所存である。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 早川　正信

1．教育理念

臨床の薬剤師としての確かな知識、技能を習得し、医療に貢献できる、豊かな人間性と倫理観をもつ人材を養成し、社会の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師の育成を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	3/15(前期)	1.5	102	③
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
調剤学(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	1	③
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	0/30(通年)	2	3	なし
卒業研究（6年）	0/30(通年)	4	3	なし
実務実習（病院）	0/274(通年)	10	4	なし
実務実習（薬局）	0/274(通年)	10	4	なし
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
医療統計学	15/15(後期)	1.5	105	③
調剤学	8/15(前期)	1.5	92	③
生物薬剤	8/27(後期)	3	90	③
処方箋解析	8/27(後期)	3	90	③
総合実習	17/17(後期)	1	89	③
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	③
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	③
総合基礎学習Ⅱ	3/15(通年)	0.5	104	③
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	③
調剤Ⅱ	32/32(前期)	2	91	③

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

評価が平均以下であったため改善が必要と考えております。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

臨床研究におけるデータ解析の手法開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	国際交流委員会委員として留学生の選出などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県薬剤師会研究倫理委員会	委員	2016年～現在に至る	佐賀県薬剤師会
鳥栖三養基薬剤師会	理事	2001年～2013年	鳥栖三養基薬剤師会
佐賀県薬剤師会　薬局委員会	委員	2013年～2018年	佐賀県薬剤師会
佐賀県みやき町立中原小学校	学校薬剤師	2013年～2019年	佐賀県みやき町

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍の問題もあり他施設との共同研究がなかなか進まなかったことを反省し、今年度はコロナ禍前と同じように研究を行いたいと考えております。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 深澤　昌史

1．教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人（薬剤師）を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する５つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えている。さらに近年は韓国人留学生に対する学修支援も活動に加わり、国際理解力を含めたコミュニケーション能力の向上を教育理念に加えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
生化学Ⅲ(再履遠隔)	8/15(前期)	1.5	3	①⑨⑩⑪
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑪
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
ゲノム創薬学	7/15(前期)	1.5	108	②④⑨
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	91	①⑨⑩⑪
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	102	②④⑨
機能形態・生化学演習【A】	3/15(後期)	0.5	63	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習【B】	3/15(後期)	0.5	19	①②⑨⑪
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
生化学実習	7/7(後期)	1	99	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
分子標的予防学特論	4/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年、担当コマ数の多い生化学Ⅲについて授業アンケートを実施している。2019年度の満足度が3.7とかなり低かったため、改善を試みたが、2020年度は新型コロナ禍により遠隔講義で、しかもアンケートは未実施だった。今年度は満足度が4.2とかなり改善されたが、遠隔講義を経験して動画配信も行っているため、復習の機会が与えられているのが評価されていると分析している。自由記述では肯定的な意見が多いので、大きく内容を変えるのではなく、手法を少しずつ改善することにより教育効果（特に成績下位層に対し）を高めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	1	74

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2	102	2021年5月17、20日
生化学Ⅰリメディアル補習	1	28	2021年10月27日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 学修支援体制の整備と評価
② 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）及び肝転写因子ChREBPに関する基礎的研究
③ 天然物由来成分による抗ウイルス作用の評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	1	1	33万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

花粉症等アレルギー疾患予防食品の開発／共著・編著／2021年7月／シーエムシー出版／共著　129頁～138頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

焼成ホタテ貝殻より得られる水酸化カルシウムのウイルス不活性化に関する評価／2021年12月3日／2021年　室内環境学会学術大会

焼成ホタテ貝殻より得られる水酸化カルシウムの ウイルス不活性化に関する評価／2021年11月13日／第３８回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
針無しミツバチ由来蜂蜜に関する研究	有限会社ダブ	2021年7月～2022年7月	33万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員	学修支援部門長と薬学分室長を兼任し、特に薬学分室長としては、後期1人体制になった中で、関係各所と連携しながら特に成績下位者に対する学修支援に努めた。具体的には ①SA制度の管理、②留年生保護者会の開催、③リメディアル補習、④6年勉強合宿引率、⑤入学前教育とスクーリングの実施 等が挙げられる。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

文化系サークルであるNIU天文会の顧問を継続して勤めた、但し新型コロナ禍のため、大学祭参加を含めて活動を実施することは出来なかった。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第10回夏休み薬学研究体験/8月10、11日/場所：本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	出席

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
コロナについて知ろう	7月2日他	テレビ出演	TVS（テレビさせぼ）放送部
ワクチンてなあに？	7月16日他	テレビ出演	TVS（テレビさせぼ）放送部
第14回猶興館高等学校体験学習	11月15日	本学	猶興館高等学校
佐世保西高校2年理系課題研究	11月26日	本学	佐世保西高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①佐世保市猪害対策に関する打ち合わせ/4月～
②薬局見学及び九十九島パールシーを活用した生物学・環境科学，SDGsの実践学習（主催）/2年留学生対象/12月18日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本薬学会第142会年会・ポスター発表学生優秀発表賞審査員

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、オンライン講義主体の影響からか成績上位と下位の差がさらに開き、留年生の増加に転

じてしまったため、関係部署と連携して補習の強化などを行ったが、現在のところ目立った改善がみられていないため、さらにリメディアル教育を強化する必要がある。
研究に関しては、肝臓の脂質代謝改善を目的とした乳酸菌代謝産物の研究において、執筆中の学術論文が完成間近である。また、抗ウイルス作用検証のためのP2施設を整備したので、受託研究を1件獲得し、今後も増える可能性がある。さらに、佐世保市からは猪害対策の共同研究の提案があり、研究チームに参画した。このプロジェクトは、2022年度佐世保市の事業として採択された。このように、今年度は活動の幅が広がり、地域貢献やSDGsに関する取組みを今後進めることが可能となった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 室　高広

1．教育理念

薬学部での教育は、6年制カリキュラム導入を機に「臨床」上必要な知識と技能態度を習得させるためのカリキュラムのウエイトが増した。私は、病院薬剤師として長年臨床現場で勤務してきた経験を活かし、本学の教育理念である①専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成②地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成③異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を行い、これらを基盤とした「臨床現場で必要とされる薬剤師」になるための教育を実践する。実習や講義のみならず、研究においても、臨床現場で研究を行うために必要な研究マインドの育成と、研究手法の指導を行い、「臨床現場で研究できる薬剤師」を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①②⑧⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①②⑧⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①②⑧⑨
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	①②
実務実習（病院・薬局）	1/274(通年)	20	94	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①②
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
実務実習（病院）	1/274(通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
実務実習（薬局）	1/274(通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①②⑧⑨
医薬品情報論(再履遠隔)	7/15(後期)	1.5	4	①②④⑨⑪
病院薬学	5/15(後期)	1.5	107	①②③⑨
薬事関係法規	8/15(前期)	1.5	84	①②③⑨
生物薬剤	11/11(後期)	3	90	①⑪
処方箋解析	11/11(後期)	3	90	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
総合実習	7/7(後期)	1	89	①②③⑪
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑩⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑪⑫
治験コーディネート論	7/15(前期)	1.5	19	①②③⑨⑩
調剤Ⅰ	15/15(前期)	2	92	①②⑪
調剤Ⅱ	12/12(前期)	2	91	①②⑪
薬事関係法規演習	8/15(前期)	0.5	75	①⑧⑨
医薬品情報論	7/15(後期)	1.5	101	①②④⑨⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医薬品評価・管理学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの学生自身の授業態度を除く平均点は前期（薬事関係法規）4.4、後期（医薬品情報論）4.2であり、授業公開の意見も好評だったと考える。アンケートでの意見を踏まえてさらに授業をより良いものに改善してきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
4年生CBT対策補講　薬学と社会	2	42	2021年12月14日
総合演習ⅢA	1	108	前期
総合演習ⅢB	1	109	後期
総合演習Ⅱ	1	100	通年
総合演習Ⅰ	5	103	前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ナショナルデータベースを用いた市中肺炎における血液培養検査が抗菌薬使用方法と入院期間に与える影響に関する調査
ケミカルハザードドラッグによる職業曝露を軽減するための研究
セルフメディケーションにおける医薬品等の使用実態に関する疫学研究
アスリートのドーピング防止に関する研究
若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究
外来化学療法実施時の体重測定タイミングに関する研究
NDBを利用した処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	5	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Adverse events following COVID-19 virus vaccination in Japanese young population: The first cross-sectional study conducted by a questionnaire survey after the first-time-injection／20210804／MedRxiv／doi: https://doi.org/10.1101/2021.10.01.21264393／共著／論文

AST薬剤師のパス介入活動に対する診療科受諾率に及ぼすガイドラインの影響／20210901／日本化学療法学会雑誌／383-386／共著／論文

大学生を対象にしたドーピングに対する意識調査／20211101／九州薬学会雑誌 74／53-57／共著／論文

入院患者からの不眠訴え時の対応フローの評価／20211101／九州薬学会雑誌 74／59-62／共著／論文

Adverse events following COVID-19 vaccination in young Japanese people: A case-control study of the risk of systemic adverse events by a questionnaire survey／20220105／Arch Clin Biomed Res 2022 6(1)／9-29／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

市中肺炎患者の血液培養検査に関する実態調査／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会　シンポジウム29

薬学教育現場における医療情報活用やコーディングに関する教育の実際／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会　シンポジウム68

小学生の薬の適正使用に関する基礎知識と薬教育の効果／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会

大学生のドーピングに対する意識調査／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

小学生の薬の適正使用に関する基礎知識と薬教育の効果／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員	学生生活支援に関する企画立案及び実務として学籍移動、各種奨励制度、離学防止対策検討等、審議検討した。
薬学部CAI活用委員会	委員	CAI活用に関する実務として問題の評価修正、学生質問対応等行った。
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部学生委員会	副委員長	学生生活支援に関する企画立案として、特待生制度等に係る審査、クリーンキャンパス運動、各種奨励賞該当者の選定等行った。
薬学部在宅医療福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	特になし
薬学部事前学習運営委員会	委員	事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	実務実習支援として学生と実習施設のマッチング作業の確認、コロナ対策の検討、実習時の交通手段の審議等行った。
薬学部図書選定委員会	委員	特になし

薬学部生涯学習教育委員会	委員	研修会の企画立案に携わった。
大学内薬局開設検討委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（3回）
職域接種時のワクチン調製の際には積極的に運営に携わり、接種後の有害事象調査を行い２報の論文執筆を指導した。これに伴いプレスリリースや記者会見等で大学の広報活動へ大きく貢献した（8月23日薬事日報、9月2日長崎新聞、西日本新聞、9月3日毎日新聞、読売新聞へ掲載）。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本病院薬剤師会編集委員会	委員	令和2年6月から現在	日本病院薬剤師会

長崎県薬事審議会	委員	令和3年5月から現在	長崎県知事
第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	実行委員	令和3年6月から現在	第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会大会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

若年者への医薬品教育を実施することで、セルフメディケーションが推進され、有限である医療リソースの適正配分が可能となり、「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」に貢献した。また、医薬品教育の対象が薬学部学生以外にも拡大することにより、「SDGs4.質の高い教育をみんなに」にも貢献した。
学術雑誌の査読に協力した。
中断されていた長崎医療センター、佐世保市総合医療センターでの本学職員研鑽制度の再開に努め地域の薬剤師との連携の強化と地域医療へ貢献した。
本学主体で行ったワクチン職域接種、地域薬剤師に対するワクチン調製研修、ワクチン接種研修に計画段階から主体的にかかわった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

令和3年度長崎国際大学学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」SDGs賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は授業アンケートでも高評価を得ることが出来た。引き続き質の高い講義を行っていく。地域貢献としてコロナワクチン関連の各種業務ではこれまでの臨床経験やマネジメント経験を発揮し、業務に大きく貢献できたと考えている。研究分野では、研究室助教の研究体制基盤の構築と論文執筆に関して、目的を達成できた。佐世保市総合医療センターと、先方の職員を研究指導するだけでなく、当研究室学生が臨床データを利用した研究を実施できるような研究連携体制を確立した。この成果は当薬学部の地域貢献や学生研究対象の拡充をもたらす大きな成果であると考える。また、日本薬剤師会と共同でレセプトデータベースを用いた薬剤師業務の評価を行うこととなった。これにより本学の研究成果が本邦の薬剤師の診療報酬の適正化に貢献できることとなり、疫学研究者として非常に喜ばしく感じている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 山口　拓

1．教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識（疾病学、病態生理学、病理学）、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識（生化学、生理学、解剖学など）を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。
・卒後の実臨床を念頭において、薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本的知識を修得することができる。
以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	②③⑧
総合演習ⅢA	2/15(前期)	1.5	102	②③⑧
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	②③⑧
薬物治療学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	1	①②③⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	②③⑧
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	②③⑧
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	①②③④⑥⑦⑩⑪
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	5	①②③④⑥⑦⑩⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	②③⑧
薬物治療学Ⅰ(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	8	①②③⑨
薬物治療学Ⅲ	9/15(後期)	1.5	95	①②③⑨
薬物治療学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	95	①②③⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②③⑨
薬理学実習	8/8(後期)	1	105	①②③④⑥⑦⑩⑪
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	88	①②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	4/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演

習は薬物治療学のみならず薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では薬剤師を題材にした漫画「アンサングシンデレラ　病院薬剤師 葵みどり（荒井ママレ著）」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患（高血圧症、アナフィラキシー）や救急医療と薬剤（アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン）に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。
前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。しかし、今年度はオンライン講義後の動画配信の義務による著作権の都合から、理解度を深めるための講義関連項目に関する動画による解説を取り入れることができなかった。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行い、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断･治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。今年度から成績評価の10％に相当する課題として10回の小テストを実施した。
一方で、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校衛生看護科	薬理学	14/30(2021)	不明	53
九州文化学園高等学校看護専攻科	薬理学	3/15(2021)	不明	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB（補習）	2	109	2021年10月1日、10月12日
総合演習Ⅱ（補習）	2	99	2021年12月15日、2022年1月7日
総合演習Ⅰ（補習）	4	103	2021年6/11,7/15,11/14,11/22
総合演習ⅢB（補習）	1	109	2021年4月15日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・幼若期ストレスによる成長後の抑うつ様行動に関する神経行動薬理学的研
・注意欠如･多動性障害の発症機序の解明とADHD治療薬の作用機序に関する神経行動薬理学的研
・覚醒剤依存症における退薬症状の発症機序に関する神経行動薬理学研究
・大麻の薬理作用ならびに脳内カンナビノイドの病態生理学的役割に関する研究
・抗不安薬および抗うつ薬の候補物質探索に関する神経行動薬理学研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	10	2	2	4654万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ストレスによる脳内カンナビノイドの量的変化／8.26-27, 2021／生体機能と創薬シンポジウム2012

嫌悪記憶の想起におけるエンドカンナビノイド分解酵素阻害薬の増強および抑制作用／8.26-27, 2021／生体機能と創薬シンポジウム2012

ストレスによる脳内カンナビノイドの量的変化／8.28, 2021／次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2012

メタンフェタミン退薬後に発現する行動異常に対するカンナビノイドCB1 受容体拮抗薬の効果／11.13, 2021／第38回日本薬学会九州支部大会

恐怖記憶の想起における脳内カンナビノイドによる制御機構／11.13, 2021／第38回日本薬学会九州支部大会

拘束ストレスによる脳内カンナビノイドの変化／11.20, 2021／第74回 日本薬理学会西南部会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける社会性行動の低下／11.20, 2021／第74回 日本薬理学会西南部会

タンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する感覚情報処理機能障害に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬AM251の効果／3.16-18, 2022／第95回日本薬理学会年会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける自閉スペクトラム症様行動の発現／3.16-18, 2022／第95回日本薬理学会年会

幼若期薬理学的ストレスによる成長後の抑うつ様行動と縫線核内GABA神経機能の異常／3.16-18, 2022／第95回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究(C),（代表）幼若期ストレスによる精神機能発達障害と養育行動の機序解明からの薬物治療戦略	日本学術振興会	2019年度～2022年度	403万円
科学研究費補助金　基盤研究(A),（分担）ゲーム依存の社会浸透を防げるか？統合的科学評価と早期依存対策に向けた基盤研究	日本学術振興会	2021年度～2024年度	4251万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会（薬学科）	委員長	薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
国家試験・CBT対策委員会（薬学科）	副委員長	本学における薬剤師国家試験の合格率向上のために、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。
動物室管理担当者（薬学科）	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会（薬学科）	委員	薬学部における研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会（薬学科）	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
共同機器管理委員会（薬学科）	委員	薬学部における共同実験機器の運用および機器購入に関わる円滑な遂行に貢献した。
学生実習委員会（薬学科）	委員	薬学部における学内学生実習の実施計画および運用に関わる円滑な遂行に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎ＩＲ研究会	委員	IR（カジノを含む統合型リゾート施設）が地域に与える影響について調査、検討する。
長崎薬学・看護学連合コンソーシアム運営委員会	運営委員	活動期間：2011.4～現在

(3) 課外活動の指導等

実務実習（病院・薬局）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加、特に保護者懇談会（2021年7月25日、8月8日、9月20日、2022年3月20日）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	11

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」に基づく研修会」	令和3年12月10日	長崎県薬剤師会館	長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等	外部委員	令和3年～現在に至る	長崎川棚神医療センター
北海道大学大学院医学研究科	客員研究員	2011/04/01～2022/3/31	北海道大学大学院医学研究科
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012～現在	神経行動薬理若手研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012～現在	日本アルコール・アディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012～現在	日本神経精神薬理学会
日本薬学会学術誌編集委員会	Editor (YAKUGAKU ZASSH：薬学雑誌、Biological and	2019 ～ 2022	日本薬学会
日本薬学会ファルマシア委員会	ファルマシア委員	2021～現在	日本薬学会
薬剤師国家試験問題検討委員会病態・薬物治療部会	委員	2012年度～2021年度	日本私立薬科大学協会
薬剤師国家試験問題検討委員会薬理部会	委員	2017年度～2021年度	日本私立薬科大学協会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	2017年度～現在	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等において
外部委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、科研費採択継続中の研究課題を遂行し、３つの学会においてオンライン、２つの学会で現地開催の対面による発表となり、一般発表を実施することができた。今後、これまで継続している研究課題および科研費採択継続中の研究課題を勢力的に遂行すること、研究成果の論文執筆に注力したいと考えている。また、本年度から長崎大学病院精神科、長崎大学大学院歯学研究科歯科薬理額との共同研究を開始することとなった。しかし、学内運営業務および講義・演習の準備に費やす時間が大半を占め、さらに講義等においてはオンライン講義のための準備やフォローアップに非常に時間を要したため、研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。厚生科研課題である大麻に関する調査研究では年次報告書を作成した。学会活動として、評議員、代議員に就任している学術学会での学術発表、学会優秀賞の審査、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。

次年度より大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、全学学生委員会委員、薬学部学生委員会委員長として、本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。特に、学園祭である開国祭の企画運営に携わり、コロナ禍ではあったが運営委員の学生と共に成功裏に開催できた。さらに、薬剤師国家試験対策委員会副委員長として本学の薬剤師国家試験合格率の向上のために、学生の学習環境の整備、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。

教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。また、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。昨年から(公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エデュケーター」の資格を取得し、資格継続のためのポイント取得も完了した。この「薬理学エデュケーター」の資格は、研究面および教育面に活かしていきたいと考えている。

社会貢献では、本年度から国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等において外部委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。本件においては地域貢献の一環として積極的に参画したいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 山口　泰史

1．教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場でほかの職種の方から尊敬（respect）は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
薬化学総論(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	1	②⑨
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
有機薬化学Ⅰ(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	1	②⑨
有機薬化学演習(再履遠隔)	8/8(後期)	0.5	1	②⑨
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	108	②⑨
創薬化学	7/15(前期)	1.5	107	②
有機薬化学演習	8/8(後期)	0.5	102	②⑨
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	①②④
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	117	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【総評】
・　前期1科目（薬化学総論）と後期1科目（有機薬化学Ⅰ）、アンケートを実施した。
・　授業に対する満足度の評価結果は、5点満点中、4.6点と4.4点であった。
・　上記結果は、平均点以上であり、学生からは、それなりの評価を得られた、と理解している。
・　その他の項目も、4.4-4.8位であり、おおむね良好であった。

【具体的な事例】
・　授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
・　学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。
・　90分授業の途中に、1－2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した）
・　厳格に出席をとることで、欠席者を若干減らした。
・　MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
・　有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
・　科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。

【問題点】
・　アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、成績とアンケートの評点に乖離があるように思う。
・　薬学部に課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。
・　1年次を終わった段階で、5割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。
・　しかし、一方で、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。
・　ほとんど毎年、満足度4.3-4.6程度で変化がないのは、学生の二極化のため、と考えられる。満足度を上げるだけなら、面白おかしく授業を行えばよいが、それでは、薬剤師を育てることができない。
・　後期に成績不良者20数名に対し、7回の補習授業を行った。しかも、毎回教員5人が参加した少人数教室であった。ある程度の成果はあったが、十分かは疑問である。
・　1年次の学習態度・習慣が、有機化学のみならず、全ての科目の理解度を決定する、と言われている。この問題に対して、学部で取り組んでいるが、万能の解決策は見つからない。一人でも多くの学生を薬剤師へと、育てていくのみである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学大学院医歯薬研究科	創薬プロセスⅣ	1/7(後期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB	1	109	2021年9月30日
総合演習Ⅰ（前期）	8	103	2021年4月15日　他
有機薬化学演習　補充授業	7	121	2021年12月1日　他
有機薬化学演習(再履遠隔)　補充授業	7	4	2021年12月1日　他
有機薬化学　1年生補習	7	26	2021年10月4日　他

３．研究活動

(1) 研究テーマ

- アデノシン三リン酸（ATP）をキーワード とする医薬品化学および生物有機化学
- 抗感染症薬を目指す創薬研究
- 抗原虫活性をもつ四環性イリドイド・オルワシンの化学とその標的タンパク質へのアプローチ

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	4	4	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

現場で役に立つ！臨床医薬品化学／共著・編著／2021年4月9日／化学同人／共著：48頁～79頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

脱硫黄的ホウ素化を基盤とするシステイン変換反応の開発／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費基盤B	日本学術振興会	2021年度	0万円
化血研究助成	一般財団法人　化学及結成療法研究所	2021年度	0万円
JST_START プロジェクト支援型	JST	2021年度	0万円
創薬ブースター	AMED	2021年度	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する申請を審議した。
薬学研究科　大講座医療基盤薬学	講座責任者	出講科目の日程および担当者の管理。
日本薬学会九州支部大会準備委員会	委員長	2022年11月の九州支部大会の準備を行う。
NMR管理	管理責任者	・　液体ヘリウム充填管理 ・　その他

薬学部教務委員会	委員	学生成績の管理　他
薬学部図書選定委員会	委員	図書選定推薦を行う。
CAI運用・活用委員会	委員	CAIシステムの運用と試験等への活用をサポートする。
学内実習委員会	委員	薬学部内で行う学生実習のコーディネート。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第106回薬剤師国家試験問題検討委員会　基礎薬学部会委員会	委員	・　本学の物理・化学・生物分野のアンケート結果を編集集計し、回答した。 ・　5月8日に行われた（遠隔）部会に参加した。
第16回有機化学系教科担当教員会議	委員	・　事前のアンケートに回答。 ・　2021年10月2日、「第16回有機化学系教科担当教員会議」・「病態・薬物治療関連教科担当教員会議」合同（遠隔）会議に、本学代表として参加した。 ・　議題「コアカリキュラム改訂と人材育成について」

(3) 課外活動の指導等

実務実習：
実務実習担当教員として、学生1名を指導した。具体的には、事前訪問、中期訪問、毎週の報告書へのコメント記載、最終評価である。今年度は、コロナウイルスのため、直接訪問ができず、電話での事情聴取となった。

共用試験OSCE：
共用試験OSCEで評価を担当した。令和3年12月19日。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

募集活動：
・　7月、8月に実施された3回のオープンキャンパスにおいて、高校生と会話を行った。
・　7月25日のオープンキャンパスでは、ルミノール反応の実験を主催した。
・　薬学部リーフレットの新規配布先2か所を開拓した。（佐世保市歯科医師会130部、株）智翔館100部）

就職活動：
・　研究室所属の学生に対し、医薬品開発業務等について、説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	副支部長	2021年4月1日～3月31日	日本薬学会九州支部
CBT問題管理委員会	一般委員	2021年度	特定非営利活動法人薬学共用試験センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。今年度も、新型コロナウイルス蔓延のため、遠隔授業への対応が大きな課題であった。この難しい状況下、教育の量と質どちらも、一定以上の成果を出せた、と思う。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アン

ケート等の数字である。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1年生の有機化学関連科目3科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、小テスト実施を含め努力した。また、今年度、正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を担当した。本学大学院の講義を15回中1回担当した。学外の教育活動として、長崎大学大学院　医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。（継続の依頼であった。）

薬剤師国家試験問題検討委員会　基礎薬学部会委員会の物理・化学・生物分野のアンケート結果をまとめた。コロナウイルスのため、会議は遠隔で行われ、最終文章作成に本学代表として参加した。また、薬学教育協議会主催・第16回有機化学系教科担当教員会議のアンケート回答をまとめた。また、その遠隔会議に、本学代表として、参加した。その他、6年制薬学における実務実習担当教員（1名）として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、実習先訪問および電話での事情聴取を行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

利益相反マネジメント委員会委員として、利益相反に関する申請を審議した。薬学部では、薬学部教務委員会の委員等として、学部運営にも貢献した。また、大型機NMRの管理業務を行った。大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。オープンキャンパスを通して、広報募集活動にも参加した。

学会および社会活動では、昨年度に引き続き「薬学共用試験センター　2021年度CBT問題管理委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。（このため、4年生への補習授業を減らした）

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 教授　　氏名 淀　光昭

1．教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
薬品製造学Ⅰ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	2	①②③⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	①⑨
薬品製造学Ⅱ(再履遠隔)	12/15(後期)	1.5	2	①②③⑨
構造解析学	8/15(前期)	1.5	106	①②③④⑨
薬品製造学Ⅱ	12/15(後期)	1.5	102	①②③⑨
薬品製造学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	106	①②③⑨
放射線化学	6/15(後期)	1.5	115	①②③④⑨
創薬化学	6/15(前期)	1.5	107	②
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	①②④
分析化学・放射線化学実習	4/9(前期)	1	102	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

薬品製造学Ⅰ（前期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）はR01年度3.82からR03年度4.27と大きく向上した（R02年度未実施）。半数対面・半数遠隔のハイブリッド授業であったが、授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施して授業内で復習する機会を与えたこと、また、授業動画をYouTubeで限定公開したことなどが評価結果向上につながったと考える。

薬品製造学Ⅱ（後期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）は、R02年度4.23からR03年度

4.29へと僅かに向上した。薬品製造学Ⅰの授業と同様、小テストの実施、授業動画の公開を行ったが、薬品製造学Ⅱでは授業内容に関連する国試過去問を講義資料に取り入れて、薬剤師国家試験に向けた意識付けを行ったことも効果的だったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢAの補習	2	109	4/15, 5/25
総合演習ⅢBの補習	1	109	10/14
総合演習Ⅱの補習	1	99	12/10
総合演習Ⅰの補習	4	103	4/27, 7/16, 10/5, 11/1

３．研究活動

(1) 研究テーマ

病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	薬学科の教務委員として、定例・臨時の教務委員会参加、編入学者の修得単位読替え、対面授業希望調査、定期試験監督者割り振りなどを行った。
就職委員会	委員長	就職委員会を開催し、キャリアセンターと連携して学生の就職・進学に係る企画立案などに関する事項を審議した。
放射線障害予防委員会	委員長	委員会会議を開催（6/4, 1/13）し、放射線管理状況報告書の提出と、放射線業務従事者の被ばく状況と健康診断結果の確認を行った。
地域連携センター	アドバイザー	地域連携センター会議に出席し、アドバイザーとして同センターの運営と活動に助言を行った。
薬学教務委員会（薬学科）	委員長	薬学科時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、編入学志願者の受験資格判定（単位読替え）、オープンキャンパス保護者懇談会での教育体制の説明、教務部長会への参加などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

新型コロナウイルスワクチンの職域接種において、薬剤師免許を有する教員としてワクチン調製と解熱鎮痛剤の投薬を行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：担当した全ての講義科目の各授業において、途中と最後にmanaba小テストを2回実施し、確認問題を提供し、また授業動画をYouTubeで限定公開したことは、履修者に復習を促すうえで効果的であったと思われる。
研究活動：教務委員長業務、講義・演習の準備、各種作問に時間を取られ、研究活動に殆ど時間が割けず、研究面での成果が出せなかった。
委員会活動：薬学部教務委員長として、薬学科時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、定期試験成績管理、編入学志願者の受験資格判定（単位読替え）などを行い、薬学部の教務活動に貢献した。
その他：本学における新型コロナウイルスワクチンの職域接種において、薬剤師免許を有する教員としてワクチン調製と解熱鎮痛剤の投薬を担当し、円滑な接種実施に貢献した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 宇都　拓洋

1．教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。
薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。
地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。
異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①⑫
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	92	①⑫
生薬学Ⅱ(再履遠隔)	12/15(後期)	1.5	3	①②⑨
生薬学Ⅱ	12/15(後期)	1.5	96	①②⑨
生薬学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	101	①②⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	⑥⑦
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	105	①②⑨
生薬学実習	7/7(後期)	1	95	①②③④⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度に構築した遠隔講義の手法の良い部分と対面講義を融合させた新しい講義形式を目指した。具体的には、動画配信による振り返り、講義開始時の復習プリント、書き込み式の講義資料により、学習効果を高めることが出来た。この講義形式は学生にも好評で今後も続けていきたい。授業アンケートはアンケー

トを実施したすべての科目において満足度は学内平均を上回る。その他の質問項目もほとんどが平均値以上である。自由コメント欄もポジティブコメントがほとんどである。各種演習は、過去の国家試験を分析したデータを公開し、得点力アップに直結するような内容にした結果、模擬試験等では生薬分野は全国平均より高い得点率である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
早稲田大学人間科学研究科	食薬融合研究からの新しいヘルスケアサイエンス	3/7(夏季集中)	1	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	22	2022/02/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析
尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献すること目指す。
② オートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明
我々は、国内外で用いられている伝統医薬からオートファジー制御能を持つ天然物を同定し、その作用機序解析を目的として研究を行っている。これまで数種の生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序解析を行ってきた。現在、メラノサイトやケラチノサイトなどの皮膚細胞において、生薬エキスライブラリーのスクリーニングからオートファジー制御能を持つ天然物の探索研究を行っている。
③ 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究
薬用植物は、漢方薬や医薬品の原料として用いられているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための１つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位（非薬用部位）の有効利用が注目されている。我々はこれまでサイコ地上部からがん細胞増殖抑制成分の単離同定を行い、またトウキ地上部が根と同様に強い抗炎症作用があることを見出した。そこで本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化および推進するための科学的エビデンス提供を目指す。現在、ジオウの地上部に種々の活性を見出しており、成分解析を行っている。
④ 生薬成分に対するモノクローナル抗体を機軸とした分析法の開発と応用
我々はこれまで生薬成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、これらのモノクローナル抗体をツールとしたユニークな分析法や応用・活用法を開発し世界に発信してきた。本年度はカンゾウのグリチルリチンとリクイリチゲニンに対するモノクローナル抗体を用いたダブルイースタンブロッティングに成功した。カンゾウには500種以上の成分が含まれるが、その中から2成分のみを色分けして検出出来るのは本法のみで画期的な手法と言える。
⑤ 出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明
生薬エキスは多種多様な成分からなる多成分系薬物であり、生薬エキスとしての薬理作用と、個々の含有成分の作用機序や成分間の相乗効果との因果関係は解明されていない部分が多い。我々は、ケミカルジェネティクス的手法により約4000株の遺伝子破壊出芽酵母株を用いてカンゾウエキス高感受性株の網羅的解

析を行ったところ、カンゾウエキスは既知の薬剤とは違う経路を標的としていること、さらに制御する遺伝子の機能は多岐にわたり、特異的な細胞内局在はないことを明らかにした。本研究では、他の生薬エキスでも感受性株の変動パターンを解析し比較することで、エキス中に混合物として存在する条件において、個々の生薬成分が標的分子群にどのように作用するのかを明確にする。さらに、エキス高感受性株の解析により、混合物条件下での生薬成分の真の標的分子および成分間の相乗効果の解明を行い、生薬・漢方製剤の新たな科学的エビデンス提供に貢献することを目指す。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	6	7	3	3	2240万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

医歯薬学系博物館辞典／共著・編著／2021／株式会社雄山閣／257項～271項

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Effective methods for increasing coumestrol in soybean sprouts.／2021年11月／PLoS One, 16(11)／e0260147. doi: 10.1371/journal.pone.0260147. 2021.／共著／原著論文

Steroidal saponins isolated from the rhizome of Dioscorea tokoro inhibit cell growth and autophagy in hepatocellular carcinoma cells.／2021年7月／Life, 11(8)／749／共著／原著論文

Costunolide and dehydrocostuslactone from Saussurea lappa root inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma.／2021年11月／Journal of Natural Medicines, 75(1)／240-245／共著／原著論文

(+)-Magnolin enhances melanogenesis in melanoma cells and three-dimensional human skin equivalent; Involvement of PKA- and p38 MAPK-signaling pathways.／2022年2月／Planta Medica, In press.／In press.／共著／原著論文

Silibinin promotes melanogenesis through the PKA and p38 MAPK signaling pathways in melanoma cells.／2022年2月／Biomedical Research, In press.／In press.／共著／原著論文

Immunological separation of bioactive natural compounds from crude drug extract and its application for cell-based studies.／2021年12月／Antibodies (Basel), 10(4)／48. doi: 10.3390/antib10040048.／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Morinda lucida に含有する tetracyclic iridoid 類の化学構造と定量分析法の開発／2021年9月15日／第63回天然有機化合物討論会

Morinda lucida 由来成分ML-2-3 の精子活性化作用／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

ホルモノネチンに対する特異的モノクローナル抗体の作製および間接競合ELISAへの応用／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

LC-MSによるジオウ葉部成分の一斉分析法／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

チョウジに含まれるメラニン合成促進成分とその作用機序／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

Morinda lucida 葉部に含有する tetracyclic iridoid の精子活性化作用／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

シャルコー・マリー・トゥース病治療薬を志向した生薬成分の探索／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明	科学研究費助成事業・文部科学省	2019年4月1日～2023年3月31日	442万円
天然医薬資源を基盤とした希少難病の革新的治療法の開発	科学研究費助成事業・文部科学省	2020年4月1日～2024年3月31日	1768万円
共同研究	一丸ファルコス株式会社	2021年4月1日～2023年3月31日	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	副委員長	委員長、委員、事務局と連携して7回の委員会会議および案件対応を行った。
薬学部教務委員会	委員	入学時オリエンテーションの準備および実施を中心に委員活動を行った。
薬学部国家試験・CBT対策委員会	委員	6年生の単位認定試験の編集および実施を中心に委員活動を行った。
薬学部CBT実施委員会	委員	CBTの実施に・運営を他の委員と連携して行った。
薬学部図書委員会	委員	図書の選定を実施した。
薬学部入試募集委員会	委員	高校訪問およびオープンキャンパス等を他の委員と連携して行った。
薬学部実習委員会	委員	薬学部実習の調整などを実施した。
薬学研究センター運営委員会	委員	薬学研究センター運営に伴う訪問研究員などの審査などを行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	園長	附属薬用植物園の管理運営を行った。
日本薬学会九州支部大会準備委員会	評議員	2022年度開催の支部大会の実施に向けて対応した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 高校ガイダンス、佐賀清和高等学校（佐賀県佐賀市）、オンライン講義、2021年10月14日
② 夢ナビライブWeb WEEK（インターネット配信）、講義ライブ・質問対応、2021年10月2日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Journal of Natural Medicines (JONM) Editorial Board Member	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本生薬学会
薬学雑誌（YAKUGAKU ZASSHI）編集委員	編集委員	2021年4月～現在	日本薬学会
Chemical and Pharmaceutical Bulletin (CPB) Editorial Board Member	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本薬学会
Biological and Pharmaceutical Bulletin (BPB) Editorial Board Member	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本薬学会
日本フードファクター学会（JSoFF）評議員	評議員	2016年12月～現在	日本フードファクター学会
日本生薬学会代議員会	代議員	2016年4月～現在	日本生薬学会
日本生薬学会関西支部委員会	委員	2018年4月～現在	日本生薬学会関西支部
日本薬学会九州山口支部幹事会	幹事	2020年4月～現在	日本薬学会九州山口支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 2021年9月 長崎国際大学SDGs推進奨励制度 ESD賞、代表者、「花のキャンパスライフ！ロスフラワー

活用と街の花屋応援活動」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

① 2021年9月：長崎国際大学SDGs推進奨励制度 ESD賞

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】昨年度の遠隔講義のノウハウを取り入れて、コロナ禍における新しい講義形式を構築出来たと思う。従来の対面講義よりも学習効果は高く、学生アンケートの満足度のスコアも高い。今後、さらに効果的な教育を目指したい。

【研究】原著論文5報、総説1報、書籍１件であるが、ファーストもしくはコレスポンディングオーサーとして目標としていた数字には届かなかった。研究は、コロナによる影響もあり計画通り進めることができなかった。

【大学運営等】昨年同様、高校生へ遠隔での講義や質問対応を行ったが、高校生の反応・アンケート結果も良かった。今後も高校生が薬学の学びに興味を持つように活動を続けたい。委員会活動は円滑な業務遂行を厳守した。

【全体】コロナ禍における新しい講義形式や研究実施が求められる中、試行錯誤しながら努力した。教育面は、対面講義も始まり、例年と同等もしくはそれ以上の質を維持できたと思う。しかしながら、研究面は、目標には届かず猛省すべきと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 太田　一寿

1．教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。
・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	1/30(前期)	2	24	⑪
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	⑪
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	⑪
疾病学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(前期)	1.5	0	⑥
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	⑪
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	⑪
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	⑥
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	⑥
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	⑪
在宅医療概論	1/15(前期)	2	249	⑩
医療生命倫理	8/15(後期)	1.5	120	⑤⑦⑩
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	45	④⑨⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	②④⑩
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	109	⑥

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当専門科目「疾病学Ⅱ」「臨床生理学演習A」に関しては平均的な評価をいただいた。評価が伸び悩んだ原因として、成績下位者の理解度を底上げできなかったことがあげられる。次年度には改善を目指したい。「医療生命倫理」においては携帯電話を用いた双方向教育を展開し、生徒の反応は良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母などの微生物を用いた病態モデルシステム、新規測定システムの構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Proximity labeling and imaging of components of cytoplasmic membraneless organelles in Saccharomyces cerevisiae／2021年12月／第44回日本分子生物学会年会

出芽酵母のストレス顆粒の会合状態および構成成分を変化させるポリペプチドの調製／2022年3月／日本薬学会第124年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP健康・医療・福祉専門委員会	委員	特になし
IR研究会	構成員	特になし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

本学開催のオープンキャンパスのみ

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国際生物学オリンピック日本委員会	委員	2021年4月1日から現在に至る	国際生物学オリンピック日本委員会
長崎県高等学校総合文化祭【自然科学部門】	評価委員	2021年11月６日（土）	長崎県高等学校文化連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

新型コロナワクチンの大規模接種事業に問診医として参加（本学・佐世保市）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は医師としての活動が目立った一年であった。来年度は研究者としての活動に注力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和３（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 神谷　誠太郎

１．教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。
研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。
自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。
教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	4/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	2/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	4/30(後期)	2	92	①⑨
製剤学(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	1	③⑨
薬物動態学	15/15(前期)	1.5	87	①⑧⑨
製剤学	15/15(後期)	1.5	104	③⑨
統計学	15/15(前期)	2	78	④⑨⑩
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	8	⑥⑦⑩
薬剤学実習	7/7(後期)	1	106	③⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
医薬品評価・管理学演習	2/2(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業結果は製剤学４．１と昨年の３．８から平年通りに評価が戻った。昨年度は動画が授業で
画像が見えにくいなどの多くの指摘をいただいたが、通常の対面授業ではそのようなクレームが無くなり、
平常運転に戻ったようである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

新規手法によるナノ粒子の調製。
ナノ粒子の保存方法。
新規投与ルートの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ケトプロフェン含有ナノ粒子製剤の調製／2021年11月13日／日本薬学会九州山口支部

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	本年度はコロナなどもあり、委員全体として、ボランティア活動は行っておりません。

安全衛生委員会	委員	安全や衛生に関することを通常通りに行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

サイエンス広場で遊ぼう／１月３０日／佐世保市旧保立小学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

薬物動態学は3.8と低評価であった。評価では、動画が見ずらいの評価を多く受けた。来年度は改善していきたいと思う。製剤学の授業評価は4.1で平年の評価であった。統計学は4.6であった。統計学は本年度初めて評価を受けた。統計学は、一昨昨年までは人間社会学部や健康栄養学部の学生が受講していたが、薬学部の受講生が半分以上になった為に、高めの評価を受けたと考えている。
研究活動はほとんどしておらず反省している。来年度は薬剤学の薬物動態学分野から解放されるため、論文の方を執筆していきたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 神田　紘介

1．教育理念

私は、本学赴任まで、多くの臨床経験と教育経験も積んできた。どのような人材が現場や患者から求められているのか、理解してきたつもりである。薬剤師は、患者に寄り添う存在であり、また、医療人として、自己研鑽だけでなく、後進の育成も行う必要がある。そのため、ホスピタリティーの精神が必須であり、その模範となるべく、自ら実践する。また、現代医療は、エビデンスに基づいた医療が行われており、混合玉石の情報を科学的に正しく評価、取捨選択し、応用することで問題解決していくことが求められている。学生時代に十分にトレーニングしておくことが、今後の薬剤師人生において強い武器となる。卒業研究においては、医療現場に通じる実践的な課題を設定し、科学的問題解決のプロセスを経験させることで、問題解決能力をもち即戦力となりうる人材育成を目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①②⑧⑨
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①②⑧⑨⑫
総合演習ⅢB	7/30(後期)	2	92	①②⑧⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	107	②⑨⑫
医薬品安全性学	7/15(前期)	1.5	88	①②⑫
生物薬剤	11/11(後期)	3	90	①②③④⑩⑫
処方箋解析	7/11(後期)	3	90	①②⑪
総合実習	17/17(後期)	1	89	⑨⑫
総合基礎学習Ⅱ	5/15(通年)	0.5	104	①⑤
ホスピタリティ演習Ⅰ	7/7(後期)	0.5	97	②④⑤⑥⑩
調剤Ⅰ	8/11(前期)	2	92	①②⑪
調剤Ⅱ	8/11(前期)	2	91	①②⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
医薬品評価・管理学演習	1/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は医薬品安全性学、後期は病院薬学について授業アンケートを実施した。
初年度のため、前回との比較はできないが、授業の満足度は4.2とおおむね良好であった。
大事なところは丁寧に説明し、教科書だけでなくなるべく現場の経験を盛り込んだ授業を心掛けた結果であると思われる。またその他のすべての項目で4以上と大きな問題はないと考えている。自由記述についての指摘に関しては、わかりやすかったとのポジティブな声もある一方、配布資料に関すること、後期は

音声についての指摘が見られたため、これらについては真摯に受け止め改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	2	99	12/8, 1/6
総合演習Ⅰ	4	14	4/28, 6/16, 7/6, 7/13

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・がん化学療法の副作用軽減に関する研究

抗がん薬はすばらしい新薬が次々と開発され、がん患者さんのQOLに大きく貢献しています。その一方、薬と上手に付き合う上で、副作用マネジメントが非常に重要になっています。現在、私は、抗がん薬による悪心・嘔吐について、研究を行っています。悪心・嘔吐のコントロール環境は、制吐薬やガイドラインの整備により、私が薬剤師になった頃と比べるとずいぶんよくなっています。しかし、吐きはしないがムカムカした感じが残るなどまだまだ不十分な場合も多いと考えています。今年度は、卒業研究生とともに悪心・嘔吐の動物評価系の立ち上げに成功しました。本評価系を使用し、抗がん薬の催吐刺激性に関する研究、制吐療法の開発を行っていきたいと考えています。

・医療データベース等を活用した医療薬学研究

現在は日本医療機能評価機構が収集しているヒヤリハット事例を使用し、持参薬に関連するヒヤリハット事例やその対策について、テキストマイニングの手法を用いて卒業研究生とともに解析を行っています。解析は終了しており、論文作成を検討しているところです。

・薬剤師の実務教育に関する研究

DX、コロナ禍のなか、オンライン診療が開始、医療の効率化の観点から今後は進んでいくことが考えられます。しかし、これらに対応する教育は追いついていません。薬学生のみならず、現場の薬剤師にも教育が必要と考えており、現状と教育ニーズの薬局薬剤師に対する全国調査を行いました。また、画面越しのみで薬学的管理を行うため、現在行っているフィジカルアセスメントの方法も変化すると考えられます。薬学部における時代に対応したフィジカルアセスメント教育の在り方についても検討が必要です。調査データをもとに、卒業研究生とともに検討する予定にしています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Adverse Events Following COVID-19 Vaccination in Young Japanese People: A Case-Control Study of the Risk of Systemic Adverse Events by A Questionnaire Survey／2022年2月／Arch Clin Biomed Res／9頁-29頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ナルデメジン導入後の下痢発現に関する予測因子 ナルデメジンによる下痢に併用薬が与える影響の探索／2021年3月／ 日本臨床腫瘍薬学

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部事前学習運営委員会	委員	事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部実務実習運営委員会	委員	実務実習に関する企画立案及び実務に従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎運営	委員	特になし
長崎薬学コンソーシアム	委員	特になし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（第1回は免除、第2回～4回参加）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	出席
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	欠席
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度教員免許状更新講習「医薬品と幼児児童生徒の健康」	2020年5月29日	Web開催	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師研修協議会	委員	2020年9月～	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学術雑誌の査読（臨床腫瘍薬学会誌：1件）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

教育活動記載分のほかに、卒業研究（6年次3名、5年次2名）の指導を指導責任者、主査として実施した。2名の卒業研究の副査を担当した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

赴任初年度であり、講義準備に多くの時間を要し、さらに、当研究室が主催する事前学習生物薬剤実習の企画、準備、運営やOSCE準備・運営、卒業研究（6年次3名、5年次2名）を行うなど多忙を極めた。期間中は苦しいこともあったが、振り返ってみると、非常に密度の濃い1年を送れたことで、早く環境に慣れることができたと環境に感謝している。

講義や実習においては、現場で経験したことをなるべくわかりやすく伝えることを心掛け、実務教員ならではの講義となるように工夫した。授業アンケートでは、学生の率直な意見を聞くことができる貴重な機会であるため、もらった意見を参考にしながら、来年度以降の講義をブラッシュアップしていきたいと考えている。

卒業研究として、がん化学療法の副作用軽減に関する研究、医療データベースを使用した医療薬学研究、薬剤師の実務教育に関する研究についてのスタートアップを行った。来年度以降、学生とともに発展させ、その成果を社会に還元することを目指す。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 田中　宏光

1．教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動
日本の教育制度の充実は、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。
社会の発展は、特定の人の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の需要な要素として教育環境があげられる。
最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
分子生物学(再履遠隔)	8/15(前期)	1.5	0	①⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑦⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	5	④⑤⑦⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	108	①⑤⑩
基礎の生物学【観/福】	15/15(前期)	2	20	②⑨
医療生命倫理	3/15(後期)	1.5	120	⑤⑥⑩
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	108	②④⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	102	②④⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑩
分子生物学	8/15(前期)	1.5	116	①⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	122	②③⑩⑪

微生物学・免疫学実習	3/9(前期)	1	108	①④⑤⑩
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	202	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
分子標的予防学特論	3/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

和田先生が退職され、本年初めての授業や項目を担当することになった。心に残る授業になるように、毎回の授業の感想をもとに進めたい。そして、前年度同様に、外部試験で生物学の成績が全国平均以上になるように進めたい。「ゲノム創薬」に関しても、国家試験の合格に役立つことはもちろんであるが、薬剤師に就いた後にも、臨床現場で大学で講義を受けたこと知識が役に立つように心に残る授業にしたい。

担当の授業をzoomで行った。前期、分子生物学、ゲノム創薬の授業アンケートの結果が非常に悪かったが、試験では全員が単位を取得できる到達目標に達することができた。アンケートの結果を反省し、よりzoomに適した資料の作製を心掛け、もう少しゆっくり授業を進めることにしたい。今年から薬学入門、生命倫理をオムニバスで担当することになった。学生のレポートを読む限り、生命工学に関しする薬剤師としての課題について伝えることができたと考えている。全学の基礎の生物学はアンケート結果もよく、生物に関する基礎知識を伝えることができたと考える。また、地域連携に関する授業は、薬学部の先生のオムニバス授業の中から、一番多くの学生が私の授業を選択し、レポートを提出してくれた。私の講義に関心を持ってくれたものと考えている。初めての授業になる後期生命倫理では、薬剤師としての倫理観をうまく伝えられたと考える。アンケートの結果もよく今後も同様に進めていきたい。６年生５人の卒業研究をまとめ、５年生２名の実務実習、大学院の講義を終えることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 生殖細胞で特異的に発現する遺伝子群の解析とその結果の臨床応用

日本では、７組のカップルに１組以上が不妊症と報告されています。そのうち約半数が男性側の要因で、男性不妊症の約半数が原因不明である。私たちは、精巣に特異的に発現する遺伝子の網羅的クローニングとその解析を進めてきた。その結果、男性不妊症患者の１割の原因となる遺伝子多型を診断するキットの開発に成功し、さらに、生薬の甘草から体外受精の効果を上げる物質を発見した。現在、不妊症の診断と食品の提供を進めている。

② HASPINキナーゼの解析と臨床応用

私たちが世界に先駆けてクローニングと解析を進めてきたHASPINキナーゼは、ほとんどすべてのがん細胞で発現していること、さらに、HASPIN阻害剤が多くのがんの増殖を抑えることを明らかにした。現在、HASPINの機能について、分子生物学の技術を駆使し、詳細な解析を進めている。一方、天然のHASPIN阻害剤を多く含むもやしの栽培法を開発し、その方法で栽培したもやしの販売を始めた。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	1	1	8	3	4	4	460万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Medical Science Digest／単著／2022年3月／ニューサイエンス社／２

コンパス　分子生物学　改訂第３版／共著・編著／2021年3月／南江堂／307

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Rat in vitro spermatogenesis promoted by chemical supplementations and oxygen-tension control.／2021年2月／Scientific Reports／3458／共著／論文

Identification and characterization of the antigen recognized by the germ cell mAb TRA98 using a human comprehensive wet protein array.／2021年3月／Genes to Cells／180-189／共著／論文

Tsga8 is required for spermatid morphogenesis and male fertility in mice.／2021年4月／Development／dev196212／共著／論文

Evaluation of the antiproliferative effects of the HASPIN inhibitor CHR-6494 in breast cancer cell lines.／2021年4月／PLOS ONE／e0249912／共著／論文

The expression of human testis-specific actin capping protein predicts in vitro fertilization outcomes: A novel biomarker of sperm function for assisted reproductive technology.／2021年8月／Reproductive medicine and Biology／537-542／共著／論文

Inhibitory Effect Of HASPIN Inhibitor CHR-6494 On Pancreatic Cancer Cell BxPC-3-Luc.／2022年2月／Cell Journal／in press／共著／論文

Pervasiveness of intronless genes expressed in haploid germ cell differentiation.／2021年5月／Reproductive medicine and Biology／255-259／共著／総説

「精子細胞特異的に発現するイントロンレス遺伝子について」／2021年4月／長崎国際大学論叢／157-162／単著／総説

Effective methods for increasing coumestrol in soybean sprouts.／2021年12月／PLOS ONE／e0260147／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生殖細胞を特異的に認識するモノクローナル抗体TRA98の抗原同定とその機能の解析／2021年6月／第40回日本アンドロロジー学会

冬虫夏草二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響／2022年3月／日本薬学会142年会

冬虫夏草の抗肥満作用／2022年3月／日本薬学会142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金　基盤Ｃ　代表	文科省	2021-2024	300万円
アルプス薬品工業　委託研究	アルプス薬品工業	2020-2021	100万円
大阪大学共同研究	大阪大学	2021	10万円
一般社団法人医療経済研究・社会保険福祉協会　受託研究	厚労省	2021	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	大学で行われる研究活動についての倫理審査を委員として、自分の研究経験を活かし、滞りなく審査を進めることができた。
動物実験委員会	副委員長	すでに13年間、動物実験委員、副委員長を務めた。本年も滞りなく、長崎国際大学の動物実験施設を運営し、動物実験に関する倫理審査も滞りなく進めることができた。
長崎国際大学薬学部　共同機器委員会	委員	共同機器委員として、今までの研究経験を活かし、薬学部の共通実験設備が大学で適正に快適に運営できるように、活動した。
長崎国際大学薬学部　学生委員会	委員	薬学部の学生委員として、薬学部学生が快適に学生生活がおくれるように、また国家試験に勉学ができる環境を整えるために活動することができた。
長崎国際大学薬学部　研究倫理委員会	委員	薬学部の研究倫理委員として、学生等を対象に「遺伝子組み換え実験に関する講習会を行った。また、大学で行われる研究活動についての倫理審査を委員として、自分の研究経験を活かし、滞りなく審査を進めることができた。教育および審査委員として活動することができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

全学　軽音楽部　顧問
活動を学生主体の活動に、コロナ禍での軽音楽部の支えてきた。定期演奏会にも参加し、学生主体の活動要望をかなえてきた。さらに交流を深め、多くの学生が集うクラブに展開したい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

全オープンキャンパスに参加。１回は分子生物学の研究室紹介、さらに他研究室の紹介のサポートを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

●昨年度から佐世保市との共同で佐世保市で増えているイノシシを駆逐するプロジェクトに長崎国際大学からの協同研究員として参加している。今年度は、佐世保市でプロジェクトが予算化され、実際の研究活動を進める準備が整った。続けて来年度も、本プロジェクトに参加し、問題化している野生のイノシシの駆除を進める。

●長崎国際大学での研究の紹介として、私たちの研究室の６年生研究がSDGsの取り組みとしてが、長崎新聞の別冊記事「NR」い取り上げられ紹介された。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

分子生物学研究室の研究成果をもとに、４年前に立ち上げた大学発ベンチャー企業「リプロム」が、ライセンス料と製品の販売をもとに今年度初めて黒字化を達成した。さらに今年度研究成果をもとに「佐世保食品科学工房」を設立し、あらたな製品の販売を進めた。商品は、「佐世保のふるさと納税」対象品となり、私立大学の専門新聞紙に記載された。さらに、長崎新聞の紙面にも取り上げられ、売れ行きは好調

で、単年度黒字は間違いない。これらの商品の成果はに関しては、本年度特許１件と昨年度提出した特許の審査を進め、長崎国際大学の知財として保護できる体制が構築した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【講義】　和田先生の退職されたあと、薬学入門（1/15）、医療生命倫理（3/15）、に関して新たに担当、さらに分子生物学 (8/15コマ)、ゲノム創薬学 (6/15コマ)の後半部分の応用編を担当した。前期に開講された分子生物学、ゲノム創薬学に関して、学生アンケートの結果が良くなかった。来年度はゆっくり授業を進めてた。最近の遺伝子分野に関する国家試験は、実験応用問題が出題される傾向にある。ゲノム創薬では、実験問題に多用できるように講義に加え、授業外の課題を増やし、国家試験対策を進めたい。全学での講義である基礎の生物学、地域の理解と連携を含む、その他の薬学の授業に関しても、今後も学生からの評価を落とさないように、現況に合わせた講義を進めるために、工夫を凝らしたい。
【広報活動】　オープンサークルにすべて参加し、研究室紹介では、研究成果であるGFPマウスを紹介し好評を得た。さらに、佐世保ふるさと納税対象品の開発でインターネット及び長崎新聞紙面で取り上げられ、長崎国際大学の宣伝に貢献できた。
【研究活動】文科省科学研究費基盤C、その他外部からの委託研究２件を取得し、論文７報、著書１報　、特許一件を出版及び提出できた。大学内の多くの先生方、外部の大学の先生方とも共同研究を進め、研究成果を上げることができた。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 准教授　　氏名 山田　耕平

1．教育理念

医療、化学技術、社会構造がダイナミックに変化する時代において、社会に貢献する薬剤師の育成には、資格取得に必要な知識・技能の伝達のみならず、取得後も学び続ける姿勢、すなわち成長を楽しむ心の育成と、医療人としての責任感、すなわち人間力の育成が必須である。私はこれらの育成を以下のように実践したい。

(1) 成長を楽しむ心の育成

成長を楽しむ心を醸成できれば、社会貢献の意志とその遂行能力の向上も伴うと考えられるため、重要な素養であると言える。成長を楽しむことができるようになるには、成長を実感し、やればできるという自信をつける必要がある。成長を実感できる教育には以下の３点が肝要であると考えているので実践したい。

① 基礎の涵養、② 応用事例を紹介し関心を持たせる事、③ 小さな達成感の積み重ね

授業前半：前回の内容の小テストを行い、継続的な努力と理解を促す（③）。授業中盤：基礎知識を繰り返し説明し、知識の定着を図る（①）。授業後半：創薬研究や医薬品に応用されている事例や、関連する薬剤師試験問題を紹介することで、今勉強している内容が将来に繋がっていることを認識させる（②）。

(2) 人間力の育成

よりよい社会を創造する人材には学力だけではない、以下の3点の人間力が求められるので、その向上を支援したい。

① チャレンジ精神と行動力、② 他者と協働するコミュニケーション力、③ 高い倫理観

授業内容に関連する医療・環境などの社会問題を提起し、学生間でディスカッションする時間を設け（②）、知識を整理し論理的に説明する経験をさせる（①）。そして、自らが社会に対して何ができるかを自問する契機を与える（③）。

私の教育理念は、本学の建学の理念「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意志と健康な身体」と合致する。常に学生と向き合い信頼関係を築き、ポテンシャルを引き出す努力を続けたい。学生に対してホスピタリティを尽くすことで建学の理念を体現し、学生にその精神を伝えていく所存である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	②③⑪
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	96	②③⑪
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	2/30(通年)	2	3	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究（6年）	0/60(通年)	4	3	なし
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	②③⑪
薬品製造学Ⅱ(再履遠隔)	3/15(後期)	1.5	2	②③

薬品製造学Ⅱ	3/15(後期)	1.5	102	②③
生物有機化学	13/15(後期)	2	82	②③⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	①②③④⑤⑦⑩⑪
有機薬化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	83	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の有機薬化学Ⅱでは初めて担当した講義であり、かつハイブリッド講義であったため不慣れな点も多く、本学学生の学習達成度を見誤ったため、相対的に難しい内容となってしまった。そのため、学生からの評判は今一つであった。一方で、後期の生物有機化学では、これらの点を手直ししたため、従業満足度は改善した。今後も精進していきたい。
有機薬化学実習では、化学構造の理解を促すために、分子模型を用いた実習を取り入れた。結果、分子の空間的配置や軌道論の理解が進み、学生からの評判も上々であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	109	210416
総合演習Ⅱ	1	100	220111
総合演習Ⅰ	4	103	211116, 211026, 210622
一年生補習	7	28	211004, 211013, 211027, 211110, 211124, 211206, 211215

３．研究活動

(1) 研究テーマ

光レドックス反応を用いたペプチド変換反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	429万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

脱硫黄的ホウ素化を基盤とするシステイン変換反応の開発／20220327／日本薬学会第142年会（名古屋）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
光レドックス反応を基盤とするタンパク質へのN-結合型糖鎖導入反応の開発	日本学術振興会　科研費	201904-202203	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢の作成、第22回学術研究報告会の運営
安全管理委員会	委員	毒物劇物管理状況の調査、廃液処理
共通機器委員会	委員	NMRの管理運営
就職委員会	委員	なし
教務委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（体験実験、学内機器案内）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬学研究発表会	1110	長崎国際大学	薬学部教授会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

令和３年度長崎県高等学校総合文化祭　第２７回科学研究発表大会審査員

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全ての業務に関して大過なく遂行できたと思う。多くの事柄は与えられた仕事であることから、今後は自らが立案して積極的に大学運営に携わっていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 石原　知明

1．教育理念

私は、AIやロボットで置き換わることのできない、次世代で活躍することのできる薬剤師を養成することを目指して教育活動に取り組んでいます。

これからの薬剤師には、医師などの医療スタッフと協力して治療に関わることのできる能力がこれまで以上に求められます。そのために、「高度な専門的知識」を持つことはもちろんのこと、それに加えて「問題・課題の発見能力」、「それらを解決するための情報調査能力・論理的思考力」、「それらを適切に伝えるプレゼンテーション力と内容を議論する力」が必要不可欠であると考えます。これらの能力はいわゆる通常の講義形式の授業では習得することが難しいため、研究室での教育活動を通してこれらの能力が習得できるように、一対一での徹底的なトレーニングを行っています。これにより、将来的に活躍が期待される、真に患者さんの治療に貢献することのできる薬剤師の養成が可能になると考え、日々学生さんと向き合っています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	①⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	108	①⑤⑩
細胞生物学	6/15(後期)	1.5	86	①②⑨
基礎の生物学【薬A】	15/15(前期)	2	67	②⑨
分子細胞生化学演習	2/15(後期)	0.5	102	②④⑨
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	442	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	8	⑥⑦⑩
生化学実習	7/7(後期)	1	99	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

コマ数は昨年度に比べて大きく増加したが、十分な準備ができ、受講生の満足度の高い授業が展開できた。実際に、前期の「基礎の生物学」と後期の「細胞生物学」については授業アンケートを実施したが、いずれも学生の満足度は4.6をこえていた。毎授業後には必ずポートフォリオによるアンケートを実施し、学生の疑問点などにきめ細かく対応できたこと、各論を説明しながら全体像における位置づけなどを解説していたことが良かったのではないかと考えている。また、感想として生物が好きになったというコメントをもらえたことは大きな喜びであった。

来年度もさらにコマ数が増加することから、十分な準備を行い、さらに生物の面白さを感じてもらえるような授業を展開していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
対馬高校	進路ガイダンス	1/1(前期)	不明	なし
佐賀清和高校	校内進路ガイダンス	1/1(後期)	不明	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	15	2021/06/24
１年生補習	3	28	2021/11/15, 2021/12/08, 2021/12/25

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体には多様な脂質分子種が存在し、それらの質的・量的な制御は生体恒常性において重要である。加齢とともに脂質代謝変化が現れることが知られているが、どのような脂質分子種が変動しているか、またその変動が個体の老化や加齢関連疾患の発症においてどのような影響を与えるかについては十分に明らかになっていない。

本研究では、(1)加齢に伴う脂質代謝変化を包括的に解析すること、(2)その脂質代謝変化のキーとなる代謝酵素を同定すること、(3)脂質代謝変化と老化に関連する表現型との因果関係を明らかにすること、を通して、老化および加齢関連疾患に関わる脂質代謝系の変化とその役割について分子レベルで明らかにすることを目指す。

本研究により、老化と脂質代謝変動の関係の全体像が明らかとなり、新しい老化制御法の確立を通じて健康寿命延長の実現につながることが期待される。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	3	3	445万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Eosinophils maintain corneal homeostasis via the 12/15-lipoxygenase pathway／ 2021年03月／ Journal of Japanese Ophthalmological Society／181／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
鈴木謙三記念医科学研究応用財団　調査研究助成	鈴木謙三記念医科学研究応用財団	2021年12月～2022年11月	100万円
2022年度　基盤研究(C)（一般）	日本学術振興会	2022年4月～2025年3月	320万円
学長裁量経費　科研費チャレンジ	長崎国際大学	2021年4月～2022年3月	25万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員	入学前教育 ホスピタリティ概論
入試募集委員会	委員	オープンキャンパス企画・運営 高校生体験学習「生命の設計図、DNAを見てみよう」 薬学部紹介youtube作成 高校での進路ガイダンス（２件）
安全管理委員会	委員	医療用廃棄物の廃棄 水銀の廃棄 毒物・劇物・爆発物などの管理
作問委員会	委員	薬学部入試問題の作成（生物）
教務委員	委員	一年生学年主任

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
一年生学年主任	委員	一年生が学生生活を円滑に送れるように情報提供を行なった。 成績下位の学生を対象に、特別補習の運営を行なった。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

進路ガイダンス（対馬高校・佐賀清和高校）
薬学部紹介動画（youtube）作成
スタディサプリ撮影

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	後日出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和３年　対馬高校　進路ガイダンス　「薬学への招待」	7月2日	対馬高校	対馬高校
令和４年　佐賀清和高校　校内進路ガイダンス　「薬学への招待」	3月7日	佐賀清和高校	佐賀清和高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2021年6月　新型コロナウィルスワクチン職域接種（ワクチン充填・投薬）
2021年7月　新型コロナウィルスワクチン職域接種（ワクチン充填・投薬）
2022年3月　新型コロナウィルスワクチン職域接種（ワクチン充填・投薬）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
細胞生物薬学研究室セミナー	研究発表会	6月4日	細胞生物薬学研究室

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

既存医薬品の再評価（ドラッグリポジショニング）に関する研究にも従事している。本研究成果により、SDGs（特に「全ての人に健康と福祉を」と「働きがいも経済成長も」）の達成につながることが期待される。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関しては、薬学モデルコアカリキュラムの内容に準じて講義をすることを心がけた。また、生物に興味を持ってもらうために、科学の歴史やその裏側での出来事、最新の研究状況などを雑談として盛り込んだ。今年度は対面での授業を行うことができたので、絵を書かせたり、映像資料を使ったりしながらわかりやすい説明ができたのではないかと評価している。加えて、ポートフォリオで質問や授業の感想を集め、それらに一つ一つ対応、改善しながら講義を展開した。これらの取り組みの結果、授業満足度も高く、多くの学生に単位を授与することができたと考えている。今後はこれらに加えて、アクティブラーニングの割合を増やす、試験問題を記述式にするなどし、さらに学生の理解度の向上を目指す。

研究活動に関して、論文を発表することはできていないが、現在３報分の論文について投稿準備を進めている。また、研究費については合計３件の助成金を獲得することができた。来年度は論文発表に加え、何件かの学会発表を行いながら、さらなる研究の発展とともに、外部へのアピール活動も進めたい。また、学内の数名の教員とともに定期的な研究報告会を行うことを企画しており、多くの教員を巻き込みながら一人ではできない研究を展開できるように取り組んでいきたい。

職域接種・学年主任・各種委員会での活動に関して、当事者意識を持ちながら責任感を持って取り組むことができた。特に、学年主任としては、中心的な役割を果たすことができたと評価している。学部として初めての取り組みである成績下位者を対象とした補習については、より良い取り組みになる様に積極的に自分の意見を述べながら貢献することができたと自己評価している。来年度はさらに多くの業務に関わることが決まっているので、引き続きこの姿勢で臨みたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 榎本　彩乃

1．教育理念

私の教育理念は、実践の場でも確かな知識をベースとして応用力・判断力を養成し、かつ生涯を通じて医薬品の専門家として社会に十分な貢献をできる獲得させ、「質の高い健康と福祉を人々に提供する」というSDG目標に大きく貢献できる薬剤師を育成することである。。
近年では、AI・機械化の波により、ある程度の質の高い医療の提供は可能になってきたものと考えられる。しかしながら、その影響により、従来のピッキングなどの自動化・機械化が可能な部分では薬剤師業務が必要とされず、代わりに求められるのは直接患者や他の医療スタッフとのコミュニケーションのなかで、的確かつ論理的に相手の意向、状態、対応を判断できるスキルである。
そのスキルの基盤となるのは確かな基礎知識であり、人々の健康に資格を持った薬剤師として貢献するためには一見必要ないと思われがちな基礎科目が重要である。
そのため、生涯にわたって活用できる基礎知識を、実践と結びつけながら教示していきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨
卒業研究（5年）	0/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑨⑪⑫
卒業研究（6年）	0/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬品物理化学Ⅱ(再履遠隔)	7/15(後期)	1.5	5	①④⑧⑩
薬品物理化学演習【B】(再履遠隔)	15/8(後期)	0.5	1	①④⑧⑩
物理学演習【B】	12/8(後期)	0.5	35	②③⑨
基礎の物理学【薬B】	15/15(前期)	2	30	②③⑨
薬品物理化学Ⅱ	6/15(後期)	1.5	87	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	94	①④⑧⑩
総合基礎学習Ⅱ	15/15(通年)	0.5	104	①④⑥⑨⑪⑫
薬品物理化学演習【B】	12/8(後期)	0.5	31	①④⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	108	①④⑧⑩
生薬学実習	7/7(後期)	1	95	①②③⑤⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

苦手とする学生が多い物理系科目で可能な限り理解できるように講義動画以外にもオリジナルで解説動画作成や、資料作成を行いおおむね好評ではあった。しかし、実際の成績には結びつかなかった、成績の悪い学生についてはそもそも動画資料などを見ないなどの問題があったため、今後は解説動画を見るように促す努力をする。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
4年生総合演習I（4留）	2	103	2021年5月14日,7月19日
4年生総合演習I	1	18	2021年6月1日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

臨床用オーバーハウザー効果MRIのための要素技術の開発と実証
OMRIを用いた糖尿病性網膜症の早期診断手法の構築
OMRIによる悪性黒色腫腫瘍深達度評価方法の構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	4	4	2739万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Imaging analysis for multiple paramagnetic agent using OMRI and electrophoresis／2022年9月／Journal of clinical biochemistry and nutrition／103-107／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Development of dual channel array coil resonator for OMRI／2021年8月／ISMAR-APNMR 2021

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
臨床用OMRI技術基盤の構築と実証研究	日本科学技術振興機構(JST)	2021年4月～2024年3月	2000万円
磁気共鳴法による定量的な悪性黒色腫腫瘍深達度評価手法の新規構築	日本学術振興会(JSPS)	2020年4月～2022年3月	429万円
【分担】マルチファンクション電子・核磁気共鳴イメージング法の開発	日本学術振興会(JSPS)	2018年4月～2022年3月	160万円
【分担】磁場スイッチDNP-MRIによる臨床代謝計測装置の試作・実証研究	日本学術振興会(JSPS)	2021年4月～2024年3月	150万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部国試CBT対策委員会	委員	週間試験の問題編集・解析をはじめ各種印刷業務を行った
薬学部学生委員会	委員	保護者会、卒業式等のイベント準備を行った
薬学部CAI活用委員会	委員	各種試験の際の会場準備、コンピューター管理を行った
薬学部動物室管理委員会	委員	動物室の清掃等を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学学長特別表彰　受賞
長崎国際大学ベストティーチャー賞　受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

講義・研究共にバランスよく取り組むよう心掛け、また学内の委員会活動についても積極的に参加した。

講義については、前年度に比較し担当コマ数も増えたため、準備負担が大きくまた、学生の学力レベル低下に伴い教え方の工夫などを試行錯誤した結果、教育の方に時間がかかりすぎ、研究の時間があまり確保できず成果も上がらなかった。一方で研究費は取得できたこと、論文一報、また未掲載ではあるが総説のアクセプトという面では時間が限られた中でも最低限の業績はできた。教育の面においては、時間をかけた効果もあり、アンケート評価は前年度よりも良かった。今後は成績向上に結び付くよう理解度確認を頻繁に行う。
学内委員については、様々な準備など、人手がいない中でほぼすべてに参加したため、役職にはついていないものの、活動には十分に参加できたと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 太田　智絵

1．教育理念

私は講義や研究室での教育を通じて、学生に生薬・天然物化学に興味を持ってもらい、自ら進んで学習してもらいたいと思っている。生薬・天然物化学の知識をただ単に説明するのでなく、授業で学んだ知識が医療現場においてどのように活用できるかを重点に置き、学生が薬剤師となってからも役立つものにする。さらに、学生の卒業後の漢方薬・生薬認定薬剤師などの認定に興味を持つきっかけをつくれればと思う。
さらに私は1年生の化学も担当しており、本科目は学生にとって化学の基盤となるものと考える。
そのため、しっかりとした知識を出来るだけ詳細に、わかりやすく教授するように心がけている。学生には薬学の基礎となる化学の面白さを知ってもらい、有機化学や分析化学、天然物化学などの応用科目につなげていってもらいたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
化学演習(再履遠隔)	12/12(前期)	0.5	2	①⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
生薬学Ⅱ(再履遠隔)	6/15(後期)	1.5	3	①②⑨
基礎の化学【薬C】	15/15(前期)	2	20	①⑨
生薬学Ⅱ	6/15(後期)	1.5	96	①②⑨
化学演習【C】	12/12(前期)	0.5	17	①⑧⑨
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	①②④
生薬学実習	7/7(後期)	1	95	①②③④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	2/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は前期は基礎の化学、後期は生薬学Ⅱで授業アンケートを行った。
どちらの科目も学生満足度が全体平均を超えることができ安心した。講義に不満を感じている学生も少ないことから、来年度も今年度を踏襲した形で講義を行っていく。
どちらの科目も書き込み式の配布資料を作成し、学生が重要ポイントを学習しやすいようにした。復習問題や自習用問題を作成し、学生自ら学修に取り組めるように工夫した。

また、基礎の化学は化学演習と、生薬学Ⅱは生薬学実習と連動した講義を行うことで、講義の理解が進むように心掛けた。
授業アンケートの結果は概ね良好であったと思われる。板書が速いや早口であるなど、講義の進行が速いとの指摘があったので、来年度は書き込み部分を減らす、進行を遅くするなど工夫していく。来年度も理解度が低い学生が多いと思われるが、分かりやすい講義を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習の補習	1	40	2021年5月20日、27日、6月16日、7月7日、8月16日
薬化学総論の補習	1	36	2021年8月18日
有機薬化学演習の補習	1	28	2021年10月4日、13日、27日、11月10日、12月6日、15日
総合演習Ⅰ補習	4	103	2021年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①伝統医薬中の抗がん、抗炎症、メラニン合成、オートファジー調節作用等を持つ成分探索とその作用機構解明
国内外で用いられている伝統医薬から、抗がん、抗炎症、神経細胞分化・保護作用、メラニン合成、オートファジー調節作用、メタボリックシンドローム予防等に効果のある活性成分を単離・同定し、さらに活性成分の作用メカニズムの解明を行っている。これまで、エキスライブラリーの薬理活性スクリーニング、さらに活性画分の調整と活性評価を繰り返すことで、新規化合物を含む多くの活性成分を単離・同定し、分子レベルでの作用機序を解明してきた。現在クズに含有する化合物のメラニン合成調節作用について解析を進めている。
②薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究
これまで利用・研究されていなかった非薬用部位の有効利用を目的に含有成分の探索および活性評価を行っている。これまでに柴胡の地上部の含有成分が抗癌作用を持つことや、当帰の地上部が根と同様に強い抗炎症作用を持つこと、地黄の葉が降圧作用を有することを見出し報告してきた。現在地黄の葉に含有する化合物の定量分析を行っている。
③不妊症に効果のある生薬成分の探索研究
現在社会的問題になっている不妊症に効果のある天然物を探索し、その作用機序解明を行っている。これまで甘草の成分が精子を活性化し、人工受精率を上昇させることを見出し報告してきた。現在甘草以外の天然物からの活性成分探索を行っている。
④ECDスペクトル計算を用いた化合物の絶対立体配置の決定
ECDスペクトルの実測値と量子化学計算により得られる同スペクトルの計算を比較することで、化合物の絶対立体配置の決定を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	9	11	2	2	2249万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

(+)-Magnolin Enhances Melanogenesis in Melanoma Cells and Three-Dimensional Human Skin Equivalent; Involvement of PKA and p38 MAPK Signaling Pathways／2022年2月／Planta Medica／DOI: 10.1055/a-1740-7325／共著／論文

Chemical structures and induction of cell death via heat shock protein inhibition of the prenylated phloroglucinol derivatives isolated from Hypericum erectum／2022年1月／Fitoterapia／156:105097／共著／論文

Immunological Separation of Bioactive Natural Compounds from Crude Drug Extract and Its Application for Cell-Based Studies／2021年12月／Antibodies／10(4):48／共著／総説

Construction of sulfur-containing compounds with anti-cancer stem cell activity using thioacrolein derived from garlic based on nature-inspired scaffolds／2021年11月／Organic & Biomolecular Chemistry／20(1):196-207／共著／論文

Effective methods for increasing coumestrol in soybean sprouts／2021年11月／PloS one／16(11):e0260147／共著／論文

Cell death-inducing activities via P-glycoprotein inhibition of the constituents isolated from fruits of Nandina domestica／2021年8月／Fitoterapia／154:105023／共著／論文

Linderapyrone: A Wnt signal inhibitor isolated from Lindera umbellata／2021年8月／Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters／45:128161／共著／論文

Steroidal Saponins Isolated from the Rhizome of Dioscorea tokoro Inhibit Cell Growth and Autophagy in Hepatocellular Carcinoma Cells／2021年7月／Life／11(8):749／共著／論文

Limonoids isolated from the Fortunella crassifolia and the Citrus junos with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell／2021年5月／Journal of Natural Medicines／75(4):998-1004／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Morinda lucida 葉部に含有する tetracyclic iridoid の精子活性化作用／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

LC-MSによるジオウ葉部成分の一斉分析法／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

チョウジに含まれるメラニン合成促進成分とその作用機序／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

シャルコー・マリー・トゥース病治療薬を志向した生薬成分の探索／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

ホルモノネチンに対する特異的モノクローナル抗体の作製および間接競合ELISAへの応用／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

カノコソウ（Valeriana fauriei）より得られた新規化合物の化学構造およびがん幹細胞に与える影響／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

抗がん剤抵抗性の改善を目指した新規プレニル化フロログルシノールのHsp105阻害活性評価／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

Morinda lucida 由来成分ML-2-3 の精子活性化作用／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

クロモジ含有成分 linderapyrone の化学構造，合成，および wnt / β-catenin 経路阻害活性評価／2021年9月20日／日本生薬学会第67回年会

ヒカイおよびモッコウ含有化合物のがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用／2021年9月19日／日本生薬学会第67回年会

Morinda lucida に含有する tetracyclic iridoid 類の化学構造と定量分析法の開発／2021年9月15日／第63回天然有機化合物討論会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2021年度科学研究費補助金 若手研究（代表）	文部科学省および日本学術振興会	2021年4月～2025年3月	481万円
2020年度科学研究費補助金 基盤研究B（分担）	文部科学省および日本学術振興会	2020年4月～2024年3月	1768万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	学生のジェンダーに関するアンケートの実施（薬学部1年生）
薬学部教務委員会	委員	4年生学年主任（オリエンテーションの実施やCBT対策補習の準備など） 外部講師の対応
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	模試・販売・学内模試準備 CBT対策担当 夏期合宿（6年）での質問対応
薬学部学生委員会	委員	各賞授与式の準備および実施
薬学部CAI活用委員会	委員	化学（1年生）の問題入力 化学（1年生）の補習実施 課題（4年生）の実施 4年生のCAI試験の準備・待機担当
薬学部薬用植物園運営委員会	主任	薬用植物の栽培および管理

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
共同機器管理	管理担当	NMR装置、MS装置、分取HPLCのメンテナンス・管理担当およびトラブル発生時の対応、渉外など

(3) 課外活動の指導等

①6年次勉強合宿（夏および冬）での質問対応/8月10日、1月17日
②第7回地域の期待に答える実践活動サポート/11月8日

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

ホームページの更新

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

SDGs推進奨励制度 ESD賞受賞「花のキャンパスライフ！ロスフラワー活用と街の花屋応援活動」への協力

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

2021年度学長特別表彰受賞

8．活動全般についての自己点検・評価

教育：授業アンケートでは、前・後期ともに授業満足度が4.6であり、平均よりも高い評価を得ることができた。来年度以降も本年度の方法を踏襲していく予定である。また、基礎の化学・化学演習の補習では、グループ学習やCAIを活用したものを確立した。

研究：今年度は共同研究を活発に行うことができ、原著論文は8報であった。しかし、筆頭著者の原著論文は1報であり自身の成果は不十分であった。一方、学会発表は天然有機化合物討論会、九州支部会等で行うことができた。

大学運営：CBT・国試対策委員会、教務委員会、学生委員会、薬用植物園運営委員会およびCAI活用委員会を中心に、担当した業務は責任を持って遂行するよう心掛けた。来年度も継続し、しっかり取り組んでいく。

社会貢献：ワクチン調整・投薬業務など行い地域の健康増進に寄与した。また、オープンキャンパスに参加し学生募集に努めた。

全体：授業に対する学生の満足度は概ね高評価であった。しかし、今年度は担当講義が増えたこともあり講義資料を新たに作成したので、準備にかなりの時間を費やした。研究面では共同研究を積極的に進めることはできた一方で、自身の研究が疎かになった。来年度は業務の効率化を図ることで、自身の研究に尽力できるよう努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 相田　美和

1．教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	②
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	②
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	⑥⑪
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	⑥⑪
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
香粧品学（再）	3/15(後期)	1.5	3	②
裁判化学	15/15(前期)	1.5	107	②⑨
処方箋解析	4/12(後期)	3	90	⑪
総合実習	6/7(後期)	1	89	⑪
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	⑤⑥
教養セミナーB【薬】	10/15(後期)	1	7	⑥⑦
毒性学	9/15(後期)	1.5	106	②
衛生薬学実習	7/7(前期)	1	108	②⑩⑪
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

裁判化学(前期) 満足度4.2
教養セミナーA（前期）満足度4.7
毒性学（後期）満足度4.2
今年度は、遠隔授業の際のzoomのチャット機能やmanabaアンケートを介した質問が昨年度に比べて少な

かった。対面授業が増えたことや物珍しさがなくなったことが原因かもしれないが、複数の窓口を用意することとその積極利用を呼びかけることは続けたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	組織・発生学	10/10(通年)	1	27

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	109	2021年5月28日
総合演習１（再）	2	10	2021年5月12日、6月21日
総合演習Ⅰ	1	106	2021年11月25日
総合演習ⅢB	1	109	2021年10月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

気道における匂い成分の生理作用の解明を目指している。
匂い成分は鼻などの嗅覚神経細胞に発現する嗅覚受容体に認識されるとその情報が嗅球に送られて匂いとして感知される。揮発性である匂い成分は吸気として呼吸器と接するが、呼吸器に異所性に発現する嗅覚受容体の働きは不明な点が多い。そこで、ヒト正常気道細胞株と発現する嗅覚受容体およびそのアゴニストを用いて、気道における匂い成分の嗅覚受容体を介した生理作用を解析している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

気道上皮細胞におけるCinnamaldehydeの生理作用／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	事案や冊子改訂等の委員会活動に参加した。
教務委員会（学部）	委員	6年生オリエンテーションの準備および進行を担当した。
国試・CBT対策委員会	委員	5年生単位認定試験の実施および成績解析を担当した。また、薬剤師国家試験に国家試験に帯同し、学生のサポートにあたった。
OSCE実施委員会（学部）	委員	OSCEの円滑な実施に努めた。
就職委員会（学部）	委員	就職活動に関する学生からの相談に応えた。
学内学生実習委員会（学部）	委員長	安全に必修を実施できるよう努めた。
薬学部動物室管理委員会（学部）	委員	特になし。
研究等倫理委員会（学部）	委員	倫理申請の審査に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスに参加して生徒や保護者とコミュニケーションをとった。9月実施回では研究室紹介を担当した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会委員	委員	令和3年11月10日~令和5年11月9日	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について：薬学部3年生の専門科目、4年生の事前学習、4～6年生の総合演習および全学共通科目を1コマ担当した。全学共通科目はバックグラウンドが異なる学生に対して一定レベルの理解を求めるのためには、丁寧すぎるくらいの説明が必要だったので、次年度以降考慮したい。
研究活動について：実験室を使わせていただるようになったので、卒業研究の学生と同時に自分でも研究活動ができる環境になった。学会発表まではできるが論文にたどり着かないので、適当なところで区切りをつけることを考えていきたい。
大学運営活動について：ハラスメント対策委員会（全学）、国家試験・CBT対策委員会、教務委員会、学

内学生実習委員会、OSCE実施委員会等、学生の教育、支援に関わる運営活動を中心に行った。新型感染症の影響はまだ続いており、引き続き柔軟な対応が必要だと思われる。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 髙崎　伸也

1．教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出てから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/2(前期)	2	24	①
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
臨床検査学（3次ｶﾘ）（再履遠隔）	15/15(後期)	1.5	0	②⑪
臨床検査学（3次ｶﾘ）	15/15(後期)	1.5	106	②⑪
基礎の数学【観/福/栄】	15/15(前期)	2	23	②⑪
臨床医学概論	12/15(前期)	1.5	98	②⑪
総合実習	17/17(後期)	1	89	①②④⑪
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	①②④⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑩
調剤Ⅱ	32/32(前期)	2	91	①②③⑪
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.3-4.4と高評価で落ち

着いており、現状のスタイルでよいと考えている。
　また、今年度は新型コロナウイルスの影響で講義形式をオンライン形式に変えざるを得なかったがうまく双方向
　大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学(1年生)	15/15(後期)	2	26
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学国試対策演習(3年生)	2/2(後期)	2	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB	2	110	2021年
総合演習Ⅱ	1	112	2021年
総合演習Ⅰ	2	114	2021年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母を用いた液-液相分離現象の解明および治療への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Proximity labeling and imaging of components of cytoplasmic membraneless organelles in Saccharomyces cerevisiae／2021年3月／第44回日本分子生物学会年会

出芽酵母のストレス顆粒の会合状態および構成成分を変化させるポリペプチドの調製／2022年3月／日本薬学会第124年会

出芽酵母のプロセッシングボディの構成成分に対する種々のストレスによる影響／2022年3月／日本薬学会第124年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	自分らしい人生を実現させるために、効率よい時間の使い方という観点で、家族、地域、社会の在り方を問うアンケートを、薬学部の1年生に対して行い集計した。
国試・CBT対策委員会(薬学科)	幹部委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
同窓会薬学部門支援委員会	副委員長	同窓会薬学部問の支援全般
ネットワーク調整委員会	委員	ネットワーク調整全般
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパスの運営、酸化を行った。出張講義などで高校訪問(対面3回)により広報活動を行った
OSCE実施委員会	委員	OSCEの実施の企画および実施のサポートを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部入試作問および他学部入試校閲	一般	薬学部の数学の入試問題の作成および他学部の数学の入試の校閲を行った。採点も行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・壱岐高校、佐賀学園高校および佐賀清和高校に訪問し、薬学、薬剤師および大学の広報を行った。
・全てのオープンキャンパスの運営、参加を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席

2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・大学外の講義を受託し、社会貢献した。
・薬剤師として、新型コロナワクチンの調製およびカロナール錠の処方及び服薬指導を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.3-4.7と

今までで一番の高評価を得ることができた。現状のスタイルでよいと考えている。また、専門でない科目の基礎の数学などの担当も取り組み問題なく行うことができた。他大学での講義も高評価を得ることができている。研究面では新たに立ち上げた研究分野で多くの結果を出すことができ、自身及び指導した学生3名の学会発表を行うことができた。また、大学運営では、薬学国試対策、広報、入試作問、男女共同参画など多岐に渡り貢献できた。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 出口　雄也

1．教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「（２）情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	⑥⑪
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	7	⑥⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	なし
地球環境論	15/15(前期)	2	111	①③⑧⑩⑫
食品機能学	10/15(前期)	1.5	100	①②③⑧⑨
衛生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	96	①②③
臨床栄養学	15/15(前期)	1.5	96	①②⑩⑫
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	108	①④⑧⑩
衛生薬学実習	7/7(前期)	1	108	①②④⑤⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医薬品評価・管理学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は教養セミナーA、地球環境論、臨床栄養学の3科目、後期は衛生化学Ⅰの1科目で授業アンケートを行った。対面授業は学生の反応をみながら進行できるので、やはり対面授業の方がやりやすいと感じた。衛生化学Ⅰは今年度から15コマすべてを担当することになり、授業内容も昨年のオムニバスの範囲の2倍となったが、しっかりと準備することができ、高い満足度が得られた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
調理師専門学校	食生活と健康	15/15(前期)	2	14
調理師専門学校	食生活と健康	18/15(後期)	2	11
歯科衛生士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2	29
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	27

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	109	2021年5月19日
総合演習Ⅰ（4留）	1	15	2021年6月7日
総合演習Ⅰ（4留）	1	15	2021年7月12日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・大気微小粒子および粗大粒子中のタンパク、エンドトキシンの解析
・錠剤型市販食品の崩壊性に関する研究
・機能性表示食品の安全性に関する研究
・アスパルテームの安定性の及ぼす因子に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

錠剤型市販食品の崩壊時間に及ぼす硬度の影響／2021年6月11日／日本食品化学学会第27回総会・学術大会

京都市と佐世保市におけるPM10の生物学的成分と化学成分の関連性／2021年10月9日／第71回日本薬学会関西支部総会・大会

佐世保市大気中の硝酸イオン及びカルシウムイオンの濃度と火山活動及び黄砂飛散の関連性／2021年10月9日／第71回日本薬学会関西支部総会・大会

佐世保市大気中のエンドトキシン及びβ-1,3-グルカンの濃度の季節変動と気象の関係／2021年10月9日／第71回日本薬学会関西支部総会・大会

佐世保市大気中のPM2.5による炎症性サイトカインIL-33の発現／2021年10月9日／第71回日本薬学会関西支部総会・大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	全学就職委員会への参加、卒業生メッセージの依頼した
【薬学部】教務委員会	委員	教養セミナーBにおいて、「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の事例集」について進行と取りまとめを行った
【薬学部】国試・CBT対策委員会	委員	週間試験の取りまとめ、6年生の夏季および冬季勉強会の実施を担当した
【薬学部】CBT実施委員会	委員	体験受験、本試験、再試験にあたりPC管理者として準備、実施を担当した
【薬学部】就職委員会	委員	就職登録カードの提出の周知、ガイダンスのサポートを担当した
【薬学部】生涯教育委員会	委員	メール会議に参加した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパスに参加
・リユース市の取組が毎日新聞、西日本新聞、長崎新聞に掲載

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
サイエンス広場で遊ぼう	1月30日	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学長裁量経費で「卒業生と新入生をつなぐ、持続可能な廃棄物削減プロジェクト」が採択され、卒業生から無料で回収した家電、家具を新入生に無料で提供する取り組み（抽選会：3/19、リユース市：3/26～27）を実施した

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

昨年度と授業コマ数は同じではあるが、前期科目の衛生化学Ⅱを倉岡先生に引き継ぎ、後期の衛生化学Ⅰを全て担当することになったことから、前期に集中していた授業、実習が若干解消された。これまでは前期に研究計画を立てにくかったが、今年は前期の空き時間に少しでも研究をすすめようと研究計画を立てて取り組むことはできたことは良かった。しかし、測定データがたまる一方でデータの解析までには至っておらず、研究面では学会発表5件、論文0報と不十分な結果となった。4月で一旦終える研究成果を来年度は論文として公表できるよう取り組んでいきたい。今年は学長裁量経費で採択されたSDGsの取組として3月26日、27日にリユース市を開催した。家電、家具を卒業生から無料で引き取り、新入生に無料で譲渡することで、SDGsが掲げる廃棄物削減に貢献できたとともに、卒業生は引越し時の処理費用を、新入生は新生活準備費用の軽減につながり、高い満足度が得られる事業となった。ただし、かなりのマンパワーを要し、2～3月の多くがリユース市の準備に時間を取られたことは次年度に向けた課題でもある。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 縄田　陽子

1．教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

（実践内容）

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあってこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

（実践内容）

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	⑧⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	⑧⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）（再履遠隔）	9/15(前期)	1.5	4	②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	⑧⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	4	①②⑤⑥
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	①②⑤⑥
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	⑧⑨
薬理学Ⅳ（中枢）（再履遠隔）	15/15(後期)	1.5	1	②③⑨⑩
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	106	②③⑧⑨

薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	104	②③⑧⑨
総合実習	2/17(後期)	1	89	①⑪
専門基礎学習Ⅰ	9/10(通年)	0.5	93	⑧⑨
ホスピタリティ演習Ⅰ	3/7(後期)	0.5	97	⑤⑦⑩
調剤Ⅰ	15/33(前期)	2	92	⑪
調剤Ⅱ	0/33(前期)	2	91	なし
薬理学実習	8/8(後期)	1	105	④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

主要担当科目である薬理学Ⅳについて記載する。
本科目の授業評価アンケートに記載の学生からのコメントでは配布用講義資料および授業進行について学生目線に立った内容を提供出来てきていると感じた。また、定期試験では、本試験の平均点が71点となり、学生の学力獲得にも繋がっているものと考えている。今後は、再履修者に対していかに理解を促していくかに重点を置き、講義資料の作成および授業を提供していく予定である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校看護専攻科	薬理学	3/15(通年)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ（留年生対象）	3	20	前期
総合演習Ⅰ	1	106	後期
総合演習Ⅱ	1	100	後期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明および神経精神疾患治療薬への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	3	3	431万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

嫌悪記憶の想起におけるエンドカンナビノイド分解酵素阻害薬の増強および抑制作用／2021年8月／生体機能と創薬シンポジウム2021

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける社会性行動の低下／2021年11月／第74回日本薬理学会西南部会

恐怖記憶の想起における脳内カンナビノイドによる制御機構／2021年11月／第38回日本薬学会九州山口支部大会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける自閉スペクトラム症様行動の発現／2022年3月／第95回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業（若手研究）	日本学術振興会	2020年4月　～2024年3月	320万円
学長裁量経費（SDGs）	長崎国際大学	2021年10月～2022年3月	11万円
令和４年度研究助成金	公益財団法人山口記念科学振興財団	2022年4月～2023年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員	動物実験室運営
入試・募集委員会（薬学）	委員	・オープンキャンパス運営（当日、施設紹介パネル設置担当） ・出張講義、ガイダンス等
国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	総合演習Ⅲ試験編集
生涯学習委員会（薬学）	委員	生涯学習セミナーの企画・開催

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①進学ガイダンス

・佐世保東翔高校ガイダンス（2022年3月14日）への参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

昨年度に引き続きコロナ禍での講義実施ということで遠隔講義での学生のフォローが必要とされた。遠隔講義では対面でのやり取りが減ることからレポートや課題を用い学生とのコミュニケーションを図った。

２．研究活動について

本年度は、外部資金獲得よおび学会発表において研究活動を前進させることができた。また、製薬企業との共同研究では、１件の特許を出願した。一方で、成果発表としての論文投稿が叶わなかったことから、次年度は論文受理を第一目標に掲げ研究活動を進めたい。

３．大学運営活動、社会活動および国際交流について

大学運営活動では、昨年度同様に貢献できたと考えている。特に、生涯学習委員会主催のセミナーでは、ホスト側として企画および当日の運営に携わった。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 藤井　佑樹

1．教育理念

人間性と専門性を修得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出させるため、薬剤に関する知識、自身で疑問を解決する習慣、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞の構造やはたらきに関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの他の科目、学問と関連していることを意識させ、学問を俯瞰出来る力を修得させる。
研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される問題に対して対応できる力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、自身の研究を簡潔に人に説明できる力を身につけさせる。これは医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立つことが期待される。
勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことを意識し学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、大学のブランディングとともに社会貢献を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	5/15(通年)	1	99	なし
卒業研究（5年）	10/30(通年)	2	4	なし
卒業研究（6年）	10/60(通年)	4	5	なし
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
機能形態学Ⅱ(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	1	なし
薬学英語	2/15(前期)	1	108	なし
基礎の生物学【栄】	15/15(前期)	2	50	なし
機能形態・生化学演習【A】	2/15(後期)	0.5	63	なし
機能形態・生化学演習【B】	2/15(後期)	0.5	19	なし
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	なし
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	なし
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【薬】	15/15(前期)	1	122	なし
機能形態学実習	7/7(前期)	1	101	なし
薬剤学実習	7/7(後期)	1	106	なし
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	117	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

後期に開講され、退職した教員より引き受けた薬学専門科目「機能形態学II」を担当し、約120人ほどの学生が受講したが、授業の満足度に関し5点満点中4.9点の評価を得ることができた。授業を楽しむことにコンセプトを置き講義を行ってきた。次の課題は学力の向上や学習内容の知識の定着によりつなげることである。次年度より、練習問題なども準備し、より講義の質を上げていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	形態機能学	15/15(集中)	2	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

本教員は以下のテーマの研究を行っている。
・海洋生物由来糖鎖結合性タンパク質レクチンを用いた細胞制御機構の研究
・ポスト分子標的薬の開発を目指した人工レクチンの創製と機能解析
・ムール貝レクチンの生理的機能の研究
・メラノソーム機能阻害に関する研究（美白の科学）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	8	4	1	1	30万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Synthesis, Antimicrobial, Anticancer, PASS, Molecular Docking, Molecular Dynamic Simulations and Pharmacokinetic Predictions of Some Methyl beta-d-Galactopyranoside Analogs.／2021年／Molecules／7016-7016／共著／論文

Diverse Localization Patterns of an R-type Lectin in Marine Annelids.／2021年／Molecules／4799-4799／共著／論文

Antiproliferative and Anitmicrobial Potentials of a Lectin from Aplysia kurodai (Sea Hare) Eggs.／2021年／Marine Drugs／394／共著／論文

Pharmacokinetics and Molecular Docking Studies of Uridine Derivatives as SARS-COV-2 Mpro Inhibitors.／2021年／Physical Chemistry Research／385-412／共著／論文

Characterization, and Molecular Docking Against a Receptor Protein FimH of Escherichia coli (4X08) of Thymidine Derivatives.／2021年／Journal of the Mexican Chemical Society／163-172／共著／論文

Synthesis of new series of pyrimidine nucleoside derivatives bearing the acyl moieties as potential antimicrobial agents.／2021年／Pharmacia／23-34／共著／論文

In silico DFT study, molecular docking, and ADMET predictions of cytidine analogs with antimicrobial and anticancer properties.／2021年／In silico pharmacology／42-42／共著／論文

Synthesis, characterization, synergistic antimicrobial properties and molecular docking of sugar modified uridine derivatives.／2021年／Ovidius University Annals of Chemistry／6-21／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

分子科学計算に基づくMytiLec-1の糖鎖結合認識および二量体形成メカニズムの解析／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

冬虫夏草二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響／2022年3月26日／日本薬学会142年会

冬虫夏草の抗肥満作用／2022年3月26日／日本薬学会142年会

β-トレフォイル型レクチンによる免疫制御機構の解明／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
一般公募型共同研究「人工レクチンの糖鎖認識原理の解明」	糖鎖生命コア研究所（岐阜大学、名古屋大学）	2021年12月-3月	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	委員	5年生対象の寄付講座の実施準備を行った。
国家試験対策委員会（薬学）	委員	6年生の単位認定試験を担当し、試験問題の編集などの準備に貢献した。
学生委員会（薬学）	委員	新1年生のためのレクリエーションを企画し、上級生との交流する機会を設け、離学防止や学習意欲の向上につなげた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

今年度の8月上旬に開催された夏休み薬学研究体験にて長崎県、佐賀県の高校生に抗原抗体反応の仕組みの説明や実験のサポートをした。それを通じて本学薬学部の面倒見の良ささをアピールした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

8月10日夏休み薬学体験を本学で行い、長崎・佐賀県内の高校生に実験や講義のサポートを通じて、薬学。理系学部の面白さを伝えた。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

3月23日17:00にフランスの糖鎖生物学者 ヤン・ゲラルデル博士による海洋生物グライコーム ウェビナーを横浜市立大学とともにZoomで開催し、座長を担当した。参加者はバングラデッシュ人、フランス人、イタリア人、イギリス人、日本人と多国籍の研究者が参加し、活発な議論が行われた。その告知をHPにて行った。

7．受賞等

特筆すべき事項なし。

8．活動全般についての自己点検・評価

教育、研究、大学運営の業務をバランスよく行うことができた。
教育では後期に全学共通科目で初めて行う講義があり、受講者が楽しくなるような内容を考えていきたい。研究では今までの研究結果を取りまとめ、査読付き主論文を発表していきたい。また教育や大学運営業務とのバランスを考えながら、他大学との共同研究にも力を入れていきたい。
大学運営としては、来年度より入試募集委員として業務を行っていく。コロナ禍を鑑みると、学生の入学には高校への出張講義など、工夫がいることが想像できる。今までの委員会と両立しながら、同委員と綿密なうち合わせを行いながら、入学者の増員を勝ち取ることを目指す。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 藤木　司

1．教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	②⑨
分子生物学(再履遠隔)	7/15(前期)	1.5	0	②⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	②⑨
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	5	①⑤⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	6	①⑤⑫
薬学英語	2/15(前期)	1	108	①⑤⑩
食品機能学	5/15(前期)	1.5	100	②⑨
基礎の生物学【薬B】	15/15(前期)	2	49	②⑨
総合実習	12/17(後期)	1	89	②⑧⑨
微生物・免疫学演習	3/15(前期)	1	91	⑧⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	⑥⑦⑩
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑩
分子生物学	7/15(前期)	1.5	116	②⑨
調剤Ⅰ	12/33(前期)	2	92	②⑧⑨
薬剤学実習	7/7(後期)	1	106	④⑩⑪
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	108	④⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	2/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度の講義と比較して本年度は対面講義が復活したこともあり、より一層、学習の理解度と満足度を意識した講義内容となるように努め、アクティブラーニングにも配慮した内容で講義を提供できるように工夫を行った。新規講義や新規内容での講義も増えたため資料作成や講義内容に関して不十分なところもあったことについては授業アンケートにおいて若干指摘があったが、概ね例年通り学内平均を上回る評価を得ることができた。1年生の基礎の生物学につては理解度の低いクラスということもあり、本年度も補

習を実施し学習の補助を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の生物学【B】	2	30	2021/7/12
総合演習ⅢA	1	108	2021/4/30
総合演習ⅢB	1	108	2021/10/18
総合演習Ⅰ	1	96	2021/5/31
総合演習Ⅰ	1	96	2021/6/3

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Age-related functional decline of human B cells／2022年1月／Cytotechnology／9／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	ＣＨサポートセンター運営に関するサポート及びNPSサポート業務
国試・CBT対策委員会（学科）	委員	学科内試験、演習、外部模試、遠隔講義実施運営・成績管理
入試・募集委員会（学科）	委員	入試・募集に関わる広報活動及び出張講義
安全管理委員会（学科）	委員	アルコール担当
CAI運用・活用委員会	委員	学内CAI試験設定・実施・運営・成績管理
教務委員会（学科）	委員	教務に関わる業務、運営
OSCE実施委員会（学科）	委員	OSCEに向けた準備、実施、運営に関するサポート業務
薬用植物園運営委員会（学科）	委員	薬用植物園運営、維持、管理に関するサポート業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

NPS研修会の企画、参加など。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパス／7月25日／長崎国際大学
②第2回オープンキャンパス／8月8日／長崎国際大学
③第3回オープンキャンパス／9月20日／長崎国際大学
④出張講義（遠隔）／10月14日／宮崎県延岡星雲高等学校
⑤推薦入試A日程／11月23日／熊本会場
⑥第4回オープンキャンパス／3月20日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本動物細胞工学会	評議委員	2021/4～2022/3	日本動物細胞工学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

クリーンキャンパス活動／11月26日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

2021年度は講義教育面においてこれまでの授業の成果が評価され授業アンケートでは平均以上の評価を得ることができた。対面講義が復活したが遠隔講義との併用もありより一層の教育効果、満足度が得られるよう工夫して取り組んだ。研究面では学術研究論文を投稿できたので一定の成果はあったが、未発表データについて更なる業績を詰めるように努力したい。また外部資金獲得についても改善や努力を行っていきたい。同時に各種委員会における活動においても教育の質や効果の向上を目指して精進したいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 藤本　京子

1．教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講なので、医療分野とのつながりを意識できない学生が多く存在している。そこで、本授業では細胞と食を関連付け、細胞と組織、細胞と個体、さらに疾病を連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心をもち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
生化学Ⅲ(再履遠隔)	7/15(前期)	1.5	3	①⑨⑩⑪
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	3	①④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	①⑨
生化学Ⅰ(再履遠隔)	15/15(後期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	116	①⑨⑩⑪
生化学Ⅲ	7/15(前期)	1.5	91	①⑨⑩⑪
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	102	②④⑨
機能形態・生化学演習【A】	2/15(後期)	0.5	63	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習【B】	2/15(後期)	0.5	19	①②⑨⑪
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【薬】	6/15(後期)	1	121	②④⑪
生化学実習	5/7(後期)	1	99	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	2/9(前期)	1	108	①④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
分子標的予防学特論	4/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は対面授業が増え、教室も1教室で行えたため非常に教えやすかった。授業後の動画配信は、規定では1週間のみの配信となっていたが、1週間では足りないとの要望が多く上がったため、長く配信をすることにした。これは、教育効果上昇につながり、授業アンケートにおける学生の満足度も上がったのだと思う。授業後すぐに復習する習慣を身につけることが大事だが、各々の理由により時間が取れない学生もいる。また、授業中ではプロジェクターの解像度により文字が見えにくい場合もある。その他、教卓にはアクリル板が設置しているため、学生側からは反射してなにも見えていないこともある。これらの理由から、動画配信期間をなるべく長く設定し、勉強をする機会を多く与えたいと考えている。また、授業に関する質問は、みんなで共有するためマナバの掲示板を利用して公開した。これは多くの学生から便利だったとの意見があったので、次年度以降も取り入れたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	栄養生化学	15/15(前期)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	108	2021年4月23日
総合演習Ⅰ	4	106	2021年5月10,13日、6月7,10日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.乳酸菌生産物質の有用作用に関する研究
豆乳培地を用いたPS-B1（乳酸菌などによる発酵食品）のさまざまな機能を解析している。
2.腸管腫瘍発生に関する遺伝子群の同定
腸管腫瘍発生のメカニズム解明を目指すとともに、個人差と疾患の多様性に関する分子的背景を明らかにする一歩として、ヒト大腸がんモデルマウスの解析により、腫瘍の増大化に関与する因子を探索している

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Trefoil factor (TFF)2 遺伝子の役割とがんへの影響／2022年3月6日／長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学図書選定委員会	委員	必要図書の選定を行った。生化学に関する視聴覚教材の選定を行い、委員長への提案を行った。
薬学教務委員会	委員	各学年のオリエンテーション準備や、司会進行などを行った。
薬学CBT実施委員会	委員	CBT本試験、追試験の準備と実施を行った。
薬学入試募集委員会	委員	オンラインを活用した薬学案内や、高校訪問において進路指導の相談などを行った。薬学部パンプレット作成や、オープンキャンパスの準備や円滑な進行を務めた。
薬学ハラスメント相談員	相談窓口	学部内ハラスメントにおける相談を受けた。
薬学実習（学内）委員会	委員	実習室の管理や、共通消耗品の管理などを行った。
薬学部動物室管理委員会	委員	動物室や洗浄室において、清潔な環境維持に努めた。共通消耗品の管理や、SPFの環境維持を徹底した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
生化学科目担当	担当者	全国薬学部生化学科目担当者会議への出席、指導内容の検討などを行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

夏休み薬学研究体験「PCRを学ぶ」8月10-11日、高校生を対象に薬学部教室棟実習室にて行った。長崎新聞やNIBなどの取材があった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献	2021年12月4日	九州文化学園高等学校	学長裁量経費

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

SDGsの目標１、２，４にのっとり、NPO法人を通して生活困難な地域への寄付を毎年行っている。（今年は、5月と11月に行った）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

後期の期間中、教育支援センターが中心となりスケジュールを組み、1年生で授業についてこれていない学生を対象に、授業や演習の他の時間で補習を行った。生物系だけでなく、化学系の科目も併せてオムニバス方式で補習活動を行った。

7月に山口県立下関中等教育学校から「大学等ゼミ訪問」の依頼を受けた。生徒が当大学のホームページを見て興味を持ったとのことで、ホームページ更新の必要性を感じた。卒業研究を兼ねており、「整腸薬について」というテーマに関してディスカッションを繰り返した。実際の訪問は実現できなかったものの、Zoomを利用して指導を行い、高校生の柔軟で新鮮な発想に多くの刺激をうけ、良い経験ができた。

7．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞　学生による授業アンケート部門

8．活動全般についての自己点検・評価

今年もコロナという環境には変わりはなかったが、本大学はワクチン接種のおかげもあり、対面授業が昨年度に比べ増えたことは、非常に有難いと感じた。対面授業は、学生の顔を見ながら進行速度を決めていくことができ、学生側も周りの友達の背中を見ながら緊張感をもって授業に臨むことができ、また、授業後には疑問点をすぐに質問することができるという多くの利点があった。一人一人の理解度を図ることもできたこの一年間は、あらためて教室で授業ができる有難みを実感できた一年だった。

研究面に関しては、腸管腫瘍発生予防の観点から発酵食品の効果を調べることを行ったが、有意な腫瘍数減少は見られず、予想に反して腫瘍数増加傾向が見られた。この分子メカニズムの解明を次年度以降慎重に検討していき、研究成果をまとめていく所存である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 講師　　氏名 吉田　達貞

１．教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することです。よって、担当の授業では、（１）薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、（２）医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視します。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことが無いような問題にも取り組み、独自の答えを与える力が要求されます。したがって、学部の低学年から論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じています。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えています。その手助けをすることが私の教育の責任です。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めて参ります。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	①⑨⑩
卒業研究（5年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（6年）	30/30(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	①⑨
物理学演習【A】	8/8(後期)	0.5	35	②③⑨
宇宙と薬学（2次ｶﾘ）	15/15(前期)	1.5	8	②③⑨
基礎の物理学【薬A】	15/15(前期)	2	34	②③⑨
教養セミナーA【薬】	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB【薬】	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
薬学統計学	15/15(前期)	1.5	91	①②⑨⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	108	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
分子標的予防学特論	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

物理学演習【A】では、満足度4.8、理解度4.5の評価を得ることができました。授業進行自体は前期開講の「基礎の物理学」との接続を意識した構成にできたと思います。しかし、これらの両項目の評価と演習問題や試験内容の難易度とは、少なからずの逆相関あるいはトレードオフの関係があるものと認識しています。もう少し難易度を高く設定した上で今年度の評価を維持・上回ることができるように努めて参ります。授業の方法に関しても、対面型とZoomでの遠隔型（配慮申請学生用）の同時進行ながら、いずれの項目も4.7以上の比較的高い評価をいただくことができました。演習科目であることから、講義中のほとんどの時間を問題を解かせその解説を行うことに充てましたが、学生の興味も4.7を維持することができました。また、今年度も受講者の1名が単位を取得することができなかったことが非常に残念でなりません。次年度は今年度の講義動画の主要部分を抜粋したものを予習教材として反転学習的にmanabaで事前公開し、学生に提供して参りたいと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習IIIB（補習）	1	108	2021年後期
総合演習I（補習）	1	103	2021年前期
総合演習I（補習）	1	103	2021年前期
基礎の物理学（補習）	1	9	2021年8月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分子科学計算を用いた医薬品及び生体関連分子の活性・機能発現メカニズムの詳細解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	4	1	1	286万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Limonoids isolated from the Fortunella crassifolia and the Citrus junos with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell／2021年5月／Journal of Natural Medicines, vol. 75／998／共著／論文

Cell Death-Inducing Activities via P-Glycoprotein Inhibition of the Constituents Isolated from Fruits of Nandina domestica／2021年8月／Fitoterapia, vol.154／105023／共著／論文

Linderapyrone: A Wnt Signal Inhibitor Isolated from Lindera umbellata／2021年5月／Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, vol. 45／12861／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

β-トレフォイル型レクチンによる免疫制御機構の解明／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

ピラノキノリチン骨格を基盤とする凝集 誘起発光性化合物による癌の光線力学療法／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

分子科学計算に基づく MytiLec-1の糖鎖結 合認識および二量体形成メカニズムの解析／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

新規有機蛍光色素のAIEE特性と構造的特徴の解析／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究(C)	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	286万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員	卒業生アンケート、大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」の実施に協力し、その集計結果より、学部内における課題の抽出と対策の提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	2021年度教育基盤センター紀要にIRセンター部門として薬学部の状況報告を行った。
CAI運用・活用委員会（学科）	委員長	CAIシステムの運用と整備に従事した。1年生向けのリメディアル科目の登録問題数を720問まで拡充した。従前どおりに週間試験および単位認定試験問題の追加登録も進めた。 各学年の学内CAI試験の準備とその円滑な実施に努めるとともに、長期休みや実務実習中の課題、留年生向けの課題等の管理を行った。また、年間を通してメールでの疑義照会の受付に対応した。
国試・CBT対策委員会（学科）	委員	4～6年生の各総合演習において、CAIを用いた単位認定試験の準備と円滑な実施、成績集計を担当した。
CBT実施委員会（学科）	委員	本学のCBT体験受験、本試験、再試験において、管理者として試験の円滑な実施に従事した。

入学前・初年次教育委員会（学科）	委員	物理・数学系の担当として、入学者の教育教材の選定ならびに入学前教育の一環として課題の添削・指導等を行った。
図書選定委員会（学科）	委員	図書選定に携わった。
教務委員会（学科）	委員	新入生および保護者向けの出席管理システムマニュアル、実習生向けの生涯メールマニュアルをそれぞれ作成した。
薬学部内LAN受付担当（学科）	委員	新任教員の先生方のPCおよびネットワーク設定のサポートに従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育協議会・物理化学系教科担当教員会議	委員	新型コロナウイルス感染症のまん延のためにオンサイト会議は開催されず、メール会議に参加した。

(3) 課外活動の指導等

該当なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加/2021年7月25日、2021年8月8日、2021年9月20日、2022年3月20日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学内クリーンキャンパス運動に参加/2021年5月19日、2021年12月1日/本学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：　今年度より初めて開講する4次カリ科目や大学院講義もありましたが、授業アンケートの結果は概ね満足のいくものでした。次年度も初めて開講する科目や実習の担当が増えるため、早目にスライド資料等の作成にとりかかりたいと思います。研究室配属の6年生2名が無事に卒業要件を充足し、国家試験にも合格できたことに安堵いたしました。2年連続原級留置となってしまっていた5年生も、保護者や教育支援センターの先生方のご協力により何とか進級が決まり、安堵いたしました。研究室では、継続して学修サポートをして参りたいと思います。

研究活動：　外部資金獲得を獲得することができたため、実験機器を新規に導入することができました。これを活用し、来年度はさらに研究を発展させて参りたいと思います。科研費以外の外部資金の申請にもより積極的に挑戦して参りたいと思います。

大学運営活動：　昨年度からCAI運用・活用委員会委員長を拝命しました。今年度も周囲の先生方の的確なご助言と献身的なサポートのおかげで大きなトラブル等なくすべての学内CAI試験を終えることができました。同時に、特定の一部の委員の先生方のみに相変わらず大きな負担をかける結果となってしまいました。来年度も委員長をすることがあれば、業務配分を見直して参ります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 大神　正次

1．教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①②⑧⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	⑧⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
基礎の化学【薬A】	15/15(前期)	2	55	①②③⑥⑨
放射線医療学	0/15(前期)	1.5	101	なし
化学演習【A】	11/11(前期)	0.5	55	①②③④⑨
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	98	②⑦⑨⑩
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	102	②⑦⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2021前期授業アンケート　（基礎の化学、化学演習）

満足度は4.8と非常に高い評価が得られた。この数値はこれまでの授業評価の中でも最も高い値であり、これまでの授業方法やアクティブラーニングへの取り組む方の改善が活かされた結果であると考えられる。

学生の質問や疑問に対して可能な限り丁寧に細かく回答した。また、授業演習に関連する興味を引くような内容を出来るだけ取り入れ、レスポンやmanabaのアンケート機能を利用してクイズやクロスワード形式で答えさせるように工夫した。授業初回のオリエンテーションでは「アクティブラーニング」の重要性を説明し、アウトプットに重点を置くように指導することで、疑問や質問を積極的に出してもらうように促した。

授業内容については4.7～4.9と概ね満点に近い高い評価が得られた。この項目も過去の授業評価での指摘を参考に、シラバスでの到達目標を明示することで「何を学習するか」「どこまで理解できればよいか」を示すことができた結果によると考えられる。化学に関連するトピックス（主に薬や毒物、化学反応、時事問題など）を毎回取り入れるように工夫した。その感想を授業後のアンケートに書いてもらい、manaba上で紹介したり次回の導入部分で復習として利用した。

授業方法についても4.8～5.0と概ね満点に近い高い評価が得られた。特に「熱意の感じられる授業である」との項目で5.0であった点に関してほぼ全員に熱意が伝わったと思われ非常に嬉しい限りである。明瞭に伝わるように話し方やスライドの見せ方にも配慮した。1年生の前期ということもあり遅刻や私語はほとんどなかったが、学生のコメントで「周囲の私語が気になる」などがあった場合には全体的に注意を促した。初回のオリエンテーションでの授業態度に関する説明を徹底したこともあり、遅刻や私語はほとんどなく多くの学生が積極的に参加してくれたように思う。

過去になく高い授業評価を受け非常に恐縮ではあるが、今年度の1年生（化学Aクラス）は大変まじめで素直な学生が多かったことに恵まれたようにも思う。加えて、過去これまでの授業アンケートの結果で指摘された点を気をつけながら「楽しく化学を学ぶ、学生に興味を持たせる」という目標で熱意ある授業を心掛けた。その熱意が上手く受講生に伝わったことにより、教員学生間や学生間でお互いに良い刺激になったように感じた。自由記述欄にも肯定的・好意的なコメントをたくさんいただき、前期の大変だった時期の苦労が報われた想いである。

2021後期授業アンケート　（総合演習IIIB）

満足度の評価結果は4.5で全体平均と同程度であった。約6割が満足、約3割がやや満足、約1割が普通という回答であり、不満足という回答はなかったが、無回答が2名であった。オムニバスの演習科目であったため直接的な経年推移比較はできないが、昨年度後期の総合演習I（同演習範囲）と比較すると各項目とも0.3～0.5pt程度改善することができた。さらに満足度を上げるための改善策としては、関連する内容の範囲で学生の興味のありそうなトピックスを取り入れたり、6年後期の演習であれば国家試験や単位認定試験に対応するための重要なポイントを明確に示すなど、なお一層の工夫を心掛けたい。

manabaやResponを多く活用し、できるだけ学生の意見を聞きそれに対する回答・フィードバックに重点を置くように心掛けた。

評価の平均はいずれも4.4で他の科目の全体平均と同程度であった。少ないながらも２をつけた学生もいるので、より授業構成を改善するように次年度に向けて今から準備を進める。国家試験や模擬試験に出題された内容を分析し、どのような部分を学生が苦手としているかなどを解析したい。

4.5または4.6という値でありこれらの値も全体平均と同程度であった。この項目の中では、7（熱意の感じられる授業であったか）および11（学生の授業参加を促すような工夫があったか）と点がわずかながらではあるが高かった。これらの項目は特に意識して取り組んでいたので、引き続き今後もより良い評価となるように明瞭に話し、熱意をもって授業演習に取り組みたい。

Q１を除くすべての項目で全体平均と同じような分布を示し、概ね高い評価が得られていると感じた。私個人としては他の教員には負けないつもりで自分なりに熱意をもって真剣に授業演習に取り組んでいるつ

もりであったが、ここまでしてもまだまだ極めて平均的な部類なのかと落胆するとともに、正直これ以上の改善・向上は容易ではないとすら感じている。もちろん他の先生方も各々工夫や努力をされているのでそれを見習い、授業参観等を活用して良いところを積極的に取り入れていきたいと思う。
ただし、折れ線グラフで示された全体平均という指標が、数人単位のごく少数の授業や教養セミナーなども母数に含んでいるのであれば、評価4.4～4.6という数字は悲観するものではないと思う。今後もこの評価を継続できるように励みたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習　補習	5	30	5/20、5/27、6/16、7/7、8/16
総合演習 IIIB	1	108	10/22
総合演習I	4	106	9/27, 10/12他
1年生（後期）補習、化学、放射、特別補習	11	20	10/4, 10/13, 10/27, 11/10, 11/17, 11/24, 12/1, 12/6, 12/13, 12/15, 12/25

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）生体内分子イメージングを可能とする放射性プローブの開発
（２）重粒子線感受性に影響を与える抹消性NMDA受容体の解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員	(1)安全管理および施設管理の実施担当者、(2)教育訓練および健康診断の実施、記録、(3)放射線管理状況報告書の作成、(4)委員会の議案作成、(5)放射線障害予防規程関連細則等の作成、(6)使用許可証変更届手続き　　など
学生委員会（薬）	委員	特待生等選考（薬GPA算出）、卒業式準備、など
国試・CBT対策委員会（薬）	委員	週間試験編集解析業務　など
入学前・初年次教育（薬）	化学担当、教育支援センター兼任教員	プレイスメントテスト作成、クラス分け、化学の補習　など 入学前教育（オンラインスクーリング、模擬授業） 1年生後期特別補習　など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
RI施設管理担当者	放射線取扱主任者、安全管理担当者、施設管理担当者	放射線源の安全使用に関する管理、管理区域に立入る者の入退域管理、放射線被曝および放射線汚染の管理、ならびに放射線取扱施設の点検等に関する業務全般　など
初年度教育担当	化学担当	化学取りまとめ、プレイスメントテスト実施および集計、補習の実施、個別対応　など

(3) 課外活動の指導等

・薬学サッカー部　顧問兼監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・共通入学試験入試　試験監督
・オープンキャンパス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席

2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。
大学運営面においては、放射線管理のほか、薬学部学生委員会、国試CBT対策委員会、初年次教育などで貢献できていると考えている。特に後期は教育支援センター兼任教員として主に1年生の補習に尽力した。
研究面では、大学施設外での共同研究（千葉市・放射線医学総合研究所）が継続することができずに停止

した状態にある。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 大久保　伸哉

1．教育理念

私はこれまでに、病院の薬剤師として実務実習に励む薬学部生へ指導した経験があり、その中で長崎国際大学の学生および他大学の学生のどちらにも指導したことがある。その際に私は、長崎国際大学の学生は他大学の学生と比較して、患者のみならず職員に対する気配りも上手で心の優しい学生が多い印象を受けた。これは、長崎国際大学の建学の理念の「人間尊重」の重要性を学生が理解し、「ホスピタリティの探求・実現」を実行しているからだと思う。このことは、長崎国際大学の強みであり魅力でもあると考え、私もそのような学生を育てる教育を行いたいと考えている。そのために、以下の理念と方法を掲げる。
講義においては、私の病院および薬局での勤務経験を活かし、ひとつの事項に対し病院薬剤師あるいは薬局薬剤師の視点から内容を吟味した講義を実施する。例えば、薬剤師として患者から求められる知識・アドバイスにおいて、病院と薬局で共通する点あるいは異なる点を区別しながら示す。それによって、病院薬剤師と薬局薬剤師の役割や求められる職能の違いを、学生がより具体的にイメージできるようになり、非常に有意義な講義となる。
演習では、私の担当する分野の国家試験過去問題を解かせ、解答の解説に力を注ぎ、確実に点をとれるような演習を実施する。また、私の担当分野においては、問われていることが倫理的な部分である場合もあるので、正答の選択肢の解説よりも、誤りの選択肢の適切でない点を時間をかけて解説し、学生が誤解なく理解できるような演習にする。知識の習得のみならず、人間尊重の理念に基づいた、薬剤師にふさわしい倫理観を構築できるような演習にする。
実習では、臨床の現場は作業スピードと正確さを重要視することから、素早いスピードを保ちつつ正確さを損なわないような動き方や考え方を、学生に自ら考えさせるような指導を行う。その際には、ホスピタリティの探求を意識させ、効率を優先するあまり、共に作業にあたる者の気分を害するような動き方になってしまわないよう留意させる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①②⑧
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①②⑧
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①②⑧
調剤学(再履遠隔)	4/15(前期)	1.5	1	①②③
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	①②⑧
実務実習（病院・薬局）	548/548(通年)	20	94	⑦⑫
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①②
実務実習（病院）	274/274(通年)	10	4	⑦⑫
実務実習（薬局）	274/274(通年)	10	4	⑦⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①②⑧
在宅医療概論	1/15(前期)	2	249	②
調剤学	4/15(前期)	1.5	92	①②③
生物薬剤	13/27(後期)	3	90	⑤⑥⑩

処方箋解析	13/27(後期)	3	90	⑤⑥⑩
総合実習	17/17(後期)	1	89	①②
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	①②④⑤⑥⑨⑩
調剤Ⅱ	32/32(前期)	2	91	①②④⑤⑥⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

大学教員就任2年度目としては、まずまずの評価であったのではないかと自己評価した。今年度は『前年度の評価を下回ることがないよう、作成済みの講義資料のアップデートを行い、講義で説明する際に用いるセリフを磨き、理路整然とした分かりやすく熱意のこもった講義を実施する。』という目標を掲げていたが、おおむね実行できたのではないかと考えている。来年度以降も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。
1年目から2年目を経たことによる、私自身の教育能力の向上を実感できている。学生が理解しやすい表現や、重要なことを続けて述べる場合の印象に残りやすいしゃべり方（おもに間）などは、昨年度よりもはるかに理解できているように感じている。今後も自分自身も成長を続け、授業等の評価もおおむね良好な状態を維持できるよう精進していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
令和2年度臨地実習Ⅳ学内実習（健康栄養学科）NSTラウンドロールプレイ【薬剤師役】	1	30	2020年9月16日
4年生 総合演習Ⅰ（4留生含む）の補習	2	50	2021年度前期
令和3年度臨地実習Ⅳ学内実習（健康栄養学科）他職種による講義【薬剤師】	1	20	2021年9月1日
令和3年度臨地実習Ⅳ学内実習（健康栄養学科）NSTラウンドロールプレイ【薬剤師役】	1	20	2021年9月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『医療用医薬品成分に対するモノクローナル抗体を用いた応用研究』
医療用医薬品として使用される薬用成分に対するモノクローナル抗体を作製し、薬物濃度を測定するためのELISAおよび新規測定法の開発を目標に掲げ、日々研究に取り組んでいます。最終的には、臨床における血中薬物濃度測定への応用を目指しています。

『オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究』
漢方薬の素材である生薬に着目し、約130種の生薬エキスライブラリーの中からオートファジー制御活性

を有する生薬エキスを見出しました。さらに、それらに含有される活性成分のオートファジー制御作用および作用機序の解析を行い、がん細胞のオートファジーを阻害する活性成分を発見しました。今後は、がん細胞がオートファジーを介して獲得する様々な細胞防御機構に対して、見出した活性成分の機能評価を行うことで、オートファジー制御を介した新たな抗がん剤開発の礎となれるような研究を行っていきます。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	7	13	2	2	300万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Berberine Induces Apoptotic Cell Death via Activation of Caspase-3 and -8 in HL-60 Human Leukemia Cells: Nuclear Localization and Structure-Activity Relationships／2017／The American Journal of Chinese Medicine, 2017; 45(7)／1497-1511／共著／査読付き国際学術論文

Antiproliferative Activity and Apoptosis Induction by Trijuganone C Isolated From the Root of Salvia miltiorrhiza Bunge (Danshen)／2018／Phytotherapy Research, 2018 Apr; 32(4)／657-666／共著／査読付き国際学術論文

Screening of Crude Drugs Used in Japanese Kampo Formulas for Autophagy-Mediated Cell Survival of the Human Hepatocellular Carcinoma Cell Line／2019／Medicines, 2019 Jun 3; 6(2):63／63-74／共著／査読付き国際学術論文

Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells／2020／Journal of Natural Medicines, 2020 Jun ; 74(3)／525-532／共著／査読付き国際学術論文

Costunolide and dehydrocostuslactone from Saussurea lappa root inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma cells／2020／Journal of Natural Medicines, 2021 Jan ; 75(1)／240-245／共著／査読付き国際学術論文

Steroidal Saponins Isolated from the Rhizome of Dioscorea tokoro Inhibit Cell Growth and Autophagy in Hepatocellular Carcinoma Cells／2021／Life, 2021 Jul 26;11(8):749／749-760／共著／査読付き国際学術論文

Identification of traditional Japanese Kampo medicines and crude drugs that upregulate brain?derived neurotrophic factor in human peripheral cells／2021／Acta Neurobiologiae Experimentalis, 2021;81(4)／393-404／共著／査読付き国際学術論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ベルベリン特異的モノクローナル抗体を用いた癌細胞アポトーシス誘導能解析／2010年12月11日／第27回日本薬学会九州支部大会

丹参から単離したTrijuganone Cのがん細胞増殖抑制作用とその作用機序解析／2017年9月10日／日本生薬学会第64回年会

牛蒡子成分Arctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制の作用機序解析／2018年8月27日／第2回食薬ヘルスイノベーション研究会

牛蒡子に含まれるArctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制作用／2018年9月17日／日本生薬学会第65回年会

ゴボウシ成分Arctigeninのオートファジー阻害の作用機序解析【ポスター】／2019年3月23日／日本薬学会第139年会

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキスの探索【ポスター】／2019年3月23日／日本薬学会第139年会

ヒカイおよびモッコウ含有化合物のがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用／2019年9月13日／第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキス探索【ポスター】／2019年9月13日／第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

牛蒡子に含まれるアルクチゲニンのオートファジー阻害作用と展望／2021年3月7日／第2回長崎県薬剤師学術大会

ペルオキシダーゼ標識モノクローナル抗体を用いたELISA法によるレボフロキサシン濃度測定法の開発【ポスター】／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会年会

医薬品副作用データベースJADERを利用したメトトレキサートの間質性肺疾患発現に影響する因子の解析【ポスター】／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会年会

アルカリホスファターゼ標識抗ダビガトラン抗体を利用したドットブロット法によるダビガトラン濃度測定法の開発【ポスター】／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンによるシスプラチン耐性ヒト咽頭がん細胞KCP-4のシスプラチン耐性減弱効果【ポスター】／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2018年度笹川化学研究助成対象研究（代表）	日本科学協会	2018年4月1日～2019年2月10日	60万円
2021年度 若手研究（代表）	科学研究費助成事業－科研費－	2021～2023年度	240万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部　国試・CBT対策委員会	委員	おもに外部主催の模試（薬学ゼミナール等）の準備、当日の運営・回答用紙の主催者への郵送および成績の解析。 5年生の単位認定に関連する試験の取りまとめ、当日の運営および採点・解析。
薬学部　OSCE実施委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　事前学習運営委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　実務実習運営委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　就職委員会	委員	会議等への参加
薬学部　生涯学習・教育委員会	委員	会議等への参加
同窓会薬学部門支援委員会	委員	薬学部1期生に対する事務連絡等を行う幹事（兼任）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2021年6～8月、2022年2～3月　「第1～3回長崎国際大学新型コロナワクチン職域接種」　ワクチン調製作業および解熱鎮痛剤の配布および服薬指導

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

令和1年9月_①第3回食薬ヘルスイノベーション研究会　口頭発表賞
令和3年5月_②長崎国際大学ベストティーチャー賞ベストプラクティス部門（研究活動等）

8．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、今年度は昨年度作成した講義資料をより分かりやすくなるよう改良した。また、調剤Ⅰ等の実習においては、昨年度の経験を活かしながら重要な変化を加え、より分かりやすい調剤の方法や効率的な動き方・考え方が習得できるような指導（授業）を行った。授業評価等もおおむね良好であった。基本的に毎年、少しずつ改良できるように努めていく。

研究に関しては、生涯で初めてとなる科研費（若手研究）に採択された。助成期間の3年間で、論文が執筆できるよう研究に尽力したいと考えている。また、昨年度同様今年度も原著論文1報掲載の目標は達成できた。さらには、この1年間で私が担当した学生の研究活動において、計4名の学生がそれぞれ学会で発表した。学会発表に備えて、データ解析を含めた発表資料作成における助言や研究内容の理解を深めるためのディスカッションを適宜行い、無事に発表を行うことができた。

最後に1年間の総括として、大学教員2年目になり、日常の各業務にかかる時間を昨年度よりは短縮することができた。その分研究に時間を多く回すことができた。特に、総合演習ⅢBにおける薬物動態の作問にかかる時間は、昨年よりかなり短くなった。来年度も現在のモチベーションを維持しながら業務遂行に努め、教育活動と研究活動の両立に努めたい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 倉岡　卓也

1．教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
衛生化学Ⅱ(再履遠隔)	6/15(前期)	1.5	1	①
病原微生物・ウイルス学(再履遠隔)	1/15(前期)	1.5	2	①
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	92	①
衛生化学Ⅱ	6/15(前期)	1.5	101	①
微生物・免疫学演習	2/15(前期)	1	91	①
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【薬】	5/15(前期)	1	122	①
生化学実習	3/7(後期)	1	99	⑪
微生物学・免疫学実習	6/9(前期)	1	108	⑪
病原微生物・ウイルス学	1/15(前期)	1.5	94	①

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートを実施した科目では概ね問題のないアンケート結果となった。しかし、今年度から初めて担当した授業では、内容の深さに改善の余地があり、来年度は授業資料の質を向上させたい。また、生化学実習においては実習全体の方針及び前任者の方法を踏襲したが、学生の帰宅時間が著しく遅くなるため、来年度は改善して実施したいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	30/30(前期)	2	72

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢAの補習	1	26	2021年4月29日
総合演習Ⅰの補習	1	14	2021年4月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（1）抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発：微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られています。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出しました。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を試みています。現在はカンジダ細胞壁マンナンと冬虫夏草の研究を通して、その有用性を検討しています。

（2）冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索：昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体（低分子化合物）の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性の探索に邁進しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	325万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Assignment of H1-C1 cross peaks on the two-dimensional NMR map corresponding to mannose residues of pathogenic yeast Candida tropicalis cell wall mannan／2022年3月／長崎国際大学論叢第二十二巻／187頁～191頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

病原性酵母Candida norvegensis細胞壁マンナンの化学構造について／2022年3月26日／日本薬学会第142年会

人工培養した国産冬虫夏草類のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
人工培養した国産冬虫夏草の大規模生理活性スクリーニング	日本学術振興会	2020年5月-2022年5月	325万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション等の準備
国試・CBT対策委員会	委員	出席管理、アンケート準備及び集計
CAI運用・活用委員会	委員	CAIの試験設定、試験の管理
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会薬学部門の活動報告

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特に無し

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

特に無し

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①11月21日「地域の期待に応える実践活動」代表として開催、主催：長崎国際大学、協力：佐世保市薬剤師会、佐世保市役所

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は担当する授業や実習が増え、資料作成に追われたが、アンケートでは概ね良好な結果が得られた。しかし、内容はまだまだ薄く、来年度はさらに質の高い授業を目指す。研究では、年度末にこれまでの成果を論叢及び学会で発表することができたため、引き続き努力していきたい

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 末廣　真理恵

１．教育理念

薬学教育においては、６年制薬学部を卒業し誕生した薬剤師の現状を点検・評価し、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が進んでいる。その中で、今後臨床系の科目や病院・薬局における実務実習のさらなる充実を図る必要性が強調されている。私は、薬剤師の実務を経験した教員として、臨床の場で働くために必要な知識や考え方を学生に伝え、学生自身が能動的に学習する意欲の向上に貢献していきたい。また、私自身が長崎国際大学薬学部の卒業生で、６年制教育を受けて薬剤師になり、実際に実務実習や国家試験を経験していることから、比較的学生に近い立場の教員として学生の意見を学部の運営にも活かしていけるよう努力していきたい。

これからの薬剤師に求められる資質の１つとして「研究マインドを持った薬剤師」が挙げられる。実際に病院薬剤師として勤務していると、様々な職種の医療スタッフが専門性をそれぞれ発揮する「チーム医療」において「薬剤師の視点」が他の職種から強く求められていると感じることが多くある。薬学部の学生は共用試験や国家試験に合格することにばかり目を向けがちだが、学部の学生のうちに研究に触れておくことは、将来の選択肢を増やすとともに薬剤師として働くために必要な資質や生涯学び続ける姿勢を養う上で非常に大切である。私が実務系の教員とし現場の薬剤師の視点を生かして研究活動を行うことで、今後、薬剤師となっていく学生に「研究」を身近に感じてもらうことができると考えている。さらに研究に興味を持った学生が、将来薬剤師として活躍する中で自分自身の視点で臨床現場における問題点を見つけ発信できるように、そして、1人1人の学生が医療現場で必要とされる存在となれるような指導を行いたいと思っている。その結果として長崎国際大学薬学部を、薬剤師として活躍するために必要不可欠となる「問題解決能力」を醸成する大学としての位置づけを確固としたものとすることに微力を注ぎたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	2/30(前期)	2	24	①
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
実務実習（病院）	0/274(通年)	10	4	なし
実務実習（薬局）	0/274(通年)	10	4	なし
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①
病院薬学	5/15(後期)	1.5	107	①②③④⑧⑪⑫
薬事関係法規	7/15(前期)	1.5	84	①
生物薬剤	27/27(後期)	3	90	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
処方箋解析	27/27(後期)	3	90	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫

総合実習	17/17(後期)	1	89	①②③④⑤⑨⑩⑪⑫
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
調剤Ⅱ	32/32(前期)	2	91	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
薬事関係法規演習	7/15(前期)	0.5	75	①⑧⑨
学際連携研究	1/15(前期)	2	214	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の自主的な学習を促すような講義になるよう気を付けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	4	18	2021年4月13日・20日、６月15日・22日
総合演習Ⅱ	2	99	2021年12月15日、2022年1月12日
総合演習ⅢB	1	111	2021年10月26日
総合実習OSCE直前補習	10	70	2021年12月8・9・10日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・ケミカルハザードドラッグによる職業曝露を軽減するための研究

抗がん剤の職業暴露は、医療現場で問題となっており、個人防護具の着用や、調製後の不活化剤による作業など労力と経費を要している。これらを軽減するため、光触媒塗布による抗がん剤の不活化効果に関する研究を開始した。2021年度はシクロホスファミドに対する不活化効果を明らかとした。今後は他の抗がん剤に対する効果や臨床応用に向けた検討をすすめていく。

・アスリートのドーピング防止に関する研究

セルフメディケーションが推奨される中で、アスリートによるうっかりドーピングの事例も散見されている。2021年度は、本学学生に対する調査委により、アスリートはドーピングの知識はあるものの、うっかりドーピングを避けるための薬剤師への質問や自ら調査するといった行動にまでは至っていないことが明らかとなった。今後、ドーピング防止効果に対する有効な介入方法に関する調査を行っていく。

・若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究

セルフメディケーションの推進で薬の購入が容易となり、低年齢層の薬購入の機会は増加している。このため、より早い段階での薬の適正使用の知識を得ていることが望まれるが、わが国の中学校以前の学校教育には薬の適正使用に関する内容は含まれておらず、その基礎知識と教育効果は明らかとなっていない。

そこで、若年者の薬の適正使用に関する基礎知識と薬教育の効果を把握することを目的とした研究を開始した。

・新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究

新型コロナワクチンの接種が開始となったが、開始当初はモデルナ製ワクチンの本邦での有害事象の報告は乏しく、高齢者に対するファイザー製ワクチンの情報しかなかった。そこで、本学の職域接種による接種者に対する調査を行った。今後は、これら接種者の抗体価を測定し、抗体価の推移や、有害事象との関連について調査する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Adverse events following COVID-19 vaccination in young Japanese people: A case-control study of the risk of systemic adverse events by a questionnaire survey／2022年1月／Arch Clin Biomed Res／9-29／共著／論文

大学生を対象にしたドーピングに対する意識調査／2021年11月／九州薬学会雑誌／85-88／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

小学生の薬の適正使用に関する基礎知識と薬教育の効果／2022年3月／第142回日本薬学会年会

大学生を対象にしたドーピングに対する意識調査／2022年3月／第142回日本薬学会年会

職業曝露の軽減における光触媒の有用性の検討／2022年3月／第3回長崎県薬剤師学術大会

小学生の薬の適正使用に関する基礎知識と薬教育の効果／2022年10月／第31回日本医療薬学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・新聞報道　５紙（新型コロナワクチン関連）＋１紙（研究紹介）
・TV報道　（新型コロナワクチン関連）多数
・テレビ佐世保（こどものミカタに出演）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和3年度教育免許状更新講習	5月29日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
佐世保市立広田中学校職業講話	11月22日	佐世保市立広田中学校	佐世保市立広田中学校
九文小学校おくすり教室	２月15日	九文小学校	九文小学校
九文小学校職業体験	1月13日	九文小学校	九文小学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県新型コロナワクチン接種会場にてワクチン調製作業をおこなった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度はワクチン接種やコロナ対応等であわただしい日々を過ごしていたが、研究、教育ともにとても充実できた。来年度は今年度より引き続いている研究を進めるとともに、学生の成績向上のための活動にも力を入れていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 中島　健輔

1．教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に着けて欲しいと考えている。
日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	1/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	2/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	なし
調剤学(再履遠隔)	4/15(前期)	1.5	1	なし
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	なし
実務実習（病院・薬局）	2/20(通年)	20	94	なし
総合演習Ⅱ	2/15(通年)	1	99	なし
実務実習（病院）	1/274(通年)	10	4	なし
実務実習（薬局）	1/274(通年)	10	4	なし
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	92	なし
調剤学	4/15(前期)	1.5	92	なし
生物薬剤	27/27(後期)	3	90	なし
処方箋解析	27/27(後期)	3	90	なし
総合実習	17/17(後期)	1	89	なし
専門基礎学習Ⅰ	4/10(通年)	0.5	93	なし
ホスピタリティ演習Ⅰ	1/7(後期)	0.5	97	なし
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	92	なし
調剤Ⅱ	10/10(前期)	2	91	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの点数は申し分なく安心した次第である。
学生からの指摘点は次年度に改善したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

中枢性疾患薬の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	2	2	490万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Upregulating Effect of Wheat on Brain-Derived Neurotrophic Factor in Human Lung Adenocarcinoma A549 Cells／2021／J Oleo Sci／867-874／共著／論文

Identification of traditional Japanese Kampo medicines and crude drugs that upregulate brain-derived neurotrophic factor in human peripheral cells／2021／Acta Neurobiologiae exp／393-404／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト肺がん細胞における未精製小麦の脳由来神経栄養因子産生促進効果／2021年7月／第74回日本栄養食糧学会

脳由来神経栄養因子産生促進を機序とする 新規抗うつ物質の探索に向けたin vitro 評価系の構築／2022年3月6日／第3回長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
末梢組織が産生する脳由来神経栄養因子に着眼した うつ病予防に有用な穀類の探索	エリザベス・アーノルド富士財団	2021年8月～2022年7月	70万円

カンキツ成分に着目した末梢組織を作用点とするうつ病予防・改善薬創製の試み	科研費基盤C	2022年4月～2025年3月	420万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
実務実習運営委員会	なし	分かりやすい講義を心掛けた。
教務委員会	なし	特筆すべきことなし
入試募集委員会	なし	志願者の増加のため、高校訪問を工夫して行った。
ＯＳＣＥ実施委員	なし	OSCE合格のため工夫を凝らした
事前学習運営委員	なし	特筆すべきことなし
教育支援センター運営委員	なし	特筆すべきことなし
動物室管理担当者	なし	特筆すべきことなし
共同機器管理委員	なし	特筆すべきことなし
同窓会薬学部門支援委員	なし	特筆すべきことなし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	－	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	欠席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

授業アンケートが高評価で安心しました。
論文、外部資金などもとれたので安心しました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 中村　沙織

1．教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。
よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
機器分析学(再履遠隔)	8/15(後期)	1.5	3	①②③④
分析化学演習	6/15(前期)	0.5	99	①②③④⑨
機器分析学	8/15(後期)	1.5	87	①②③④
日本薬局方概論	6/15(後期)	1.5	94	①②③④
生物薬剤	10/10(後期)	3	90	①②④⑥⑦⑨
総合実習	6/6(後期)	1	89	①④⑪
分析化学・放射線化学実習	6/9(前期)	1	102	①②③④⑤⑩
基礎の数学【薬B】	15/15(前期)	2	28	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（機器分析学）満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4→4.5と推移している。今までで一番高い評価だったので、対面講義の重要さを実感した。講義の内容構成や配布プリントを毎年改善している。資料

に加え要所で板書を用いて説明しているが、今年度は遠隔受講者がいたため、板書を少なめにし、直接スライドに書き込むよう心掛けた。講義内容を振り返り足りなかった点を補いつつ、対面・遠隔どちらでも対応できるようさらに向上させていきたい。
（基礎の数学）満足度は4.1→4.4→3.7→4.1→4.6→4.7とここ数年で一番評価が高かった。講義中の様子を見ながら個々に声かけしたりとこちらから積極的に関わっていった結果だと感じる。この結果を維持できるよう、個々の学生に気を配っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	108	2021年5月11日
総合演習Ⅰ	2	103	2021年4月20日、6月22日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
②脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
③動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

重粒子線照射マウス脳及び腸管におけるアミノ酸関連物質のHPLC分析／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	履修の手引の編集、新入生担当割り振り、オリエンテーション・新入生物品販売等
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス、出張講義（進学ガイダンス）等
薬学部学生委員会	委員	特待生継続審査、保護者会・卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	週間試験準備・成績解析、模試・販売・学内試験準備等
薬学部OSCE実施委員会	委員	事前学習・総合実習担当、OSCE準備等
同窓会薬学部問支援委員会	委員	第8回地域の期待に応える実践活動に参加
入学前・初年次教育委員会	委員	1年生初年次教育

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部広報受付	受付担当	HP掲載のための学部受付

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①沖縄・興南高等学校進路ガイダンス参加／8月4日／本学（遠隔）
②西海学園高等学校進路ガイダンス参加／10月4日／西海学園高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園小学校職業体験学習	1月13日	九州文化学園小学校	社会福祉法人和敬会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県都市計画審議会	委員	平成27年3月～現在に至る	長崎県土木部都市政策課
長崎県公共事業評価監視委員会	委員	令和3年6月～現在に至る	長崎県土木部建設企画課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育面では、前期25コマおよび学生実習、後期16コマおよび学生実習・事前学習を担当した。対面（一部遠隔）講義であったが、一方向にならないよう心掛け、ポートフォリオやresponを活用した講義を行った。授業アンケートでは例年よりも高い評価を得られ、対面授業の重要性を実感した。次年度も対面・遠隔どちらにも柔軟に対応できるよう、今回の経験と反省を活かしていきたい。

・研究面では、学生の卒業研究の指導を行い、6年生3名の卒業論文を仕上げた。今年度はオンラインで1件学会発表した。今回の内容を論文の投稿につなげていきたいと考えている。

・学部運営面では、今年度新たに新入生の学年主任（入学前・初年次教育委員会）を担当した。薬学部国試CBT対策委員会では週間試験の準備・解析や、外部講師資料の準備、実力試験準備担当の割り振り等を、薬学部教務委員会では主に履修の手引きの編集を担当している。薬学部学生委員会では特待生継続審査等を、薬学部入試募集委員会では出張講義やオンライン相談会に2回参加した。また、薬学部広報受付、OSCE実施委員会および同窓会薬学部問支援委員会でも活動を行っている。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 波多江　日成子

1．教育理念

・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	0/15(前期)	1.5	6	なし
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	なし
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	なし
基礎の化学【薬B】	15/15(前期)	2	46	①⑨
化学演習【B】	8/8(前期)	0.5	45	①⑧⑨
物理化学実習	7/7(前期)	1	108	①④⑧⑩
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、遠隔授業受講者でも対面受講者と同様の課題提出・中間試験を行い、なるべく差異が無いよう努めた。さらに補講を複数回行い、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。

臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、アンケートの結果も良好であった。今年度も半分は動画での実習も行ったが、その評価は概ね良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学演習（補習）	4	30	5/20,27,6/16,7/7
１年生特別補習（有機薬化学）	7	28	10/4,13,27,11/10,24,12/6,15
6年生総合演習IIIA補習	1	108	5/17
4年留年生総合演習I補習	2	15	5/13,6/17
4年生総合演習I補習	1	107	11/24

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「赤血球膜タンパク質バンド３の３次元構造解析」

本研究は、赤血球が適切に酸素を組織へ運搬・供給するのに重要な役割を演じている膜タンパク質バンド3（anion exchanger 1; AE1）の高分解能三次元結晶構造解析を行い、その陰イオン透過分子機序の解明を目指すものである。

バンド3は大きく外向き型と内向き型の２つの形態をとり、近年我々は外向き型バンド3でモノクローナル抗体との共結晶（3.4Å）及びバンド3単体（4.5Å）の構造解析を行うことができた。そこで次のステップとして、内向き型バンド3の結晶構造を共結晶型・単体型で解析し、外向き型・内向き型両面の高次構造から、赤血球膜における陰イオン透過の詳細なメカニズムを提唱することを目的とする。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

トロンビン特異的なペプチド基質S-2238を用いた血中ダビガトランの抗凝固能検査法の開発／2021年11月／第61回日本臨床化学会

血液凝固制御因子プロテインCの定量的総活性測定法の開発と欠乏症評価への提案／2021年11月／第61回日本臨床化学会

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2022年3月／日本薬学会第142年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法の開発／2022年3月／日本薬学会第142年会

血液凝固制御因子プロテインCの定量的総活性測定法の開発と欠乏症評価への提案／2022年3月／日本薬学会第142年会

Lipidic Cubic Phase法を用いたヒト赤血球膜タンパク質Band3の立体構造解析／2022年3月／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科）	委員	オリエンテーション、シラバス資料づくり
国試CBT対策委員会（学科）	委員	試験準備、資料印刷・配布、薬ゼミzoomセッティング、試験監督割り当て
CAI運用・活用委員会（学科）	委員	CAI利用試験の問題確認、修正

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外

2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

NIU疾患検査センターの副センター長として検査、市への結果の報告などを行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、バンド３タンパク質と基質であるPLPとの共結晶の条件を検討中である。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 福森　良

1．教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	1/30(前期)	2	24	①⑨
総合演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	102	①⑨
総合演習ⅢA【過年度生】	1/15(前期)	1.5	6	①⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）（再履遠隔）	6/15(前期)	1.5	4	①②⑨
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	96	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	99	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	92	①⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	6/15(前期)	1.5	106	①②⑨
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡA【薬】	10/15(前期)	1	2	②④⑪
総合基礎学習Ⅱ	8/15(通年)	0.5	104	①④⑥⑨⑩⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【薬】	15/15(後期)	1	121	②④⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	101	①②⑥⑦⑩
薬理学実習	8/8(後期)	1	105	①②③④⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育面においては、「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。リモート講義と対面のハイブリッド形式での講義となったが、授業アンケートによる満足度の平均は「4.2」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	看護薬理学	15/15(通年)	2	32
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	薬理学	15/7(後期)	2	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患（認知症や統合失調症など）の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。
また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに意欲・動因の生起に関係する脳内報酬系を念頭に置き、薬物依存症の動物モデル（薬物自己投与法を使用）の確立とそれを用いての、薬物依存症の再燃・再発機構の解明を試みています。この研究では、カンナビノイド受容体の変容に焦点を当てた神経化学的アプローチも試みています。本研究の成果により、①薬物への渇望の再燃機構が解明され、また依存症治療薬の開発に寄与できるだけでなく、②精神疾患で見られる再燃・再発のメカニズムさらには、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。このように、薬物依存症を含めた精神疾患発症のメカニズムについて脳内報酬系ならびに脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	1	1	210万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

内因性カンナビノイドはストレスにより制御される／2021年8月／生体機能と創薬シンポジウム2021

ストレスによる脳内カンナビノイドの量的変化／2021年8月／次世代を担う若手のための 創薬・医療薬理シンポジウム2021

メタンフェタミン退薬後に発現する行動異常に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬の効果／2021年11月／第38回日本薬学会九州山口支部大会

拘束ストレスによる脳内カンナビノイドの変化／2021年11月／第74回日本薬理学会西南部会

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する感覚情報処理機能障害に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬AM251の効果／2022年3月／第95回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費若手研究 大麻主要活性成分Δ9-THCの第二世代マウスにおける影響	日本学術振興会	3	210万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	3度の出張講義（リモート）及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器・動物室の管理運用を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画検討中である。 その他に、内定・進路調査を行った。
薬学部CAI運用活用委員会	委員	５年生の実務実習中CAI課題の運用、総合演習Ⅱ CAI試験の運用を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、管理・監督を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部入試募集委員として県内外の３つの高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席

2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	－	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	－	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

特になし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育面においては、「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。リモート講義と対面のハイブリッド形式での講義

となったが、授業アンケートによる満足度の平均は「4.2」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。
・大学運営面においては、薬学部委員として、就職ガイダンスや薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努めた。また、薬学部入試募集委員としては今年度現在までに2校の高等学校においてリモートでの「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。
・研究面においては、「第38回日本薬学会九州支部大会」「第74回日本薬理学会西南部会」で口頭発表を行った。また、その他３件の学会でポスター発表を行った。現在、２報の論文投稿に向けて準備を進めており、今年早い時期での投稿を目指して作成している。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助教　　氏名 松下　博昭

1．教育理念

私の教育理念は、自ら主体的に学び、考え、行動できる専門家の育成である。よって授業ではアクティブラーニングを用いた専門力の向上を重視している。学生には、授業に自主的に参加し、学んでほしいと考えており、そのために主体的に学ぶ授業を取り入れるように努める。授業では学生の主体性を引き出すための課題を出し、それをもとにグループディスカッションなどを経て専門力とコミュニケーション力の育成を目指す。また講義中心の授業の中にも演習を取り込み、その解決を通して情報収集力や課題解決力を高め、主体的に行動できる専門家の育成に努める。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢB【過年度生】	0/30(前期)	2	24	なし
総合演習ⅢA	0/15(前期)	1.5	102	なし
総合演習ⅢA【過年度生】	2/15(前期)	1.5	6	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	96	なし
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	99	なし
総合演習ⅢB	0/30(後期)	2	92	なし
基礎の化学【観/福/栄】	15/15(前期)	2	44	①②④⑥⑧⑨⑩
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【薬】	15/15(前期)	1	122	②④⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【薬】	15/15(後期)	1	121	②④⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	101	①②⑥⑦⑩
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑦⑩
薬剤学実習	7/7(後期)	1	106	④⑩⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠA【福】	15/15(前期)	1	64	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠB【福】	15/15(後期)	1	61	③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の満足度は前回のアンケートと同様に高い満足度であった。さらに授業内容を改善し、満足度の向上に繋げたい。本年度もZoomを用いてコンピュータの授業を実施し、チャット機能を利用して学生からの質問を受け付け、その場で回答した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．アミロイドーシスの病態解析と治療
２．健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療
３．宇宙空間でアミロイドは形成されやすいかを探る研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	3	1	1	1	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ユニークな自律神経障害を呈する疾患 ATTRアミロイドーシス／共著・編著／2021年3月／自律神経／58(1) 12-16

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Glavonoid, a possible supplement for prevention of ATTR amyloidosis.／2021年10月／Heliyon／7(10) e08101-7 e08101／共著／論文

Plasma growth differentiation factor 15: a novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis.／2021年4月／ESC heart failure／8(2) 1178-1185／共著／論文

Amyloid fibril formation is suppressed in microgravity.／2021年3月／Biochemistry and biophysics reports／25 100875-100875／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

グラボノイドによるトランスサイレチンの四量体安定化作用／2021年11月／第8回日本アミロイドーシス学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
健康長寿の切り札、天然化合物を用いたTTR アミロイドーシスの予防戦略	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)	2019年4月 － 2022年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部就職委員会	委員	なし。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

5．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

新型コロナウイルス感染症の検査希望者の検体採取業務（NIU疾患検査センター関連）を週2回担当した。

７．受賞等

なし。

８．活動全般についての自己点検・評価

新型コロナウイルス感染症の検査希望者の検体採取業務を担当した。
教育活動ではオンライン授業を実施しチャットを用いて学生からの質問に答え理解の向上に努めた。また薬学部の試験監督も積極的に引き受けた。
研究活動では日本アミロイドーシス学会（東京）にて研究成果を発表した。さらに英文学術雑誌に査読付き論文が採択された。また科学研究費B分担を獲得した。
来年度も引き続き教育、研究、大学運営に積極的に参加したい。

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助手　　氏名 上田　亮太

1．教育理念

自ら学ぶ学生を育てる。私は、教育において最も大切なことは、学生の勉強に対する義務感を取り去ることだと考えている。留年や卒業延期等への恐怖を利用して学生に勉強させることは簡単であるが、その方法に頼っていては勉強に対するネガティブな印象を強化する結果となる。勉強にネガティブな印象を持つことは、卒業後の生涯学習に対する意欲を低下させることになりかねない。それに対し、自ら学習する学生は、必要な知識を積極的に吸収し、ゆくゆくは社会に大きな社会に大きな利益をもたらすことが出来ると考えられる。そのため、義務感ではなく、自らの学びたいという意思を原動力として勉強するような学生を育てていきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

チロシナーゼタンパク質の分解に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Molecular mechanisms of tyrosinase recognition, ubiquitination and degradation by membrane-bound ubiquitin ligase RNF152／2021年10月23日／第30回日本色素細胞学会学術大会

膜結合型ユビキチンリガーゼRNF152によるメラニン産生調節機構に関する研究／2021年11月13日／第38回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
長崎国際大学同窓会　薬学部門	会計	卒業式用のフラワースタンドおよび退職教員宛ての花束の発注を行った。 薬剤師国家試験受験生の応援のために、菓子類の配布や弁当の発注を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	欠席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

新型コロナウイルスPCR検査　検体採取係

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究活動は学会参加2回と前年度より充実度が向上したため、次年度はさらに向上させていきたい。
学生の学習意欲向上に貢献した実感は感じられず、教育理念の実現には障壁を感じた。学生と積極的にコミュニケーションを取ることから始めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 3（2021）年度

学科 薬　　職名 助手　　氏名 髙島　啓吾

１．教育理念

「いつも、人から。そして、心から。」をモットーに、薬学教育・研究で得られた知識や技能を持って、医療人として国民の命を守り、健康を確保するという任務を全うできる人材を育成することを基本とする。

・患者中心の医療を実践するため、ホスピタリティ精神あふれる薬の専門家を育成する。
・幅広い専門知識と臨床技能に加え、知性、感性、人間性の備わった医療人を育成する。
・論理的思考力と科学的視点を有し、薬学研究を推進できる医療人を育成する。
・探求心と想像力を有し、薬剤師としての新たな職能の開拓・発展に寄与できる医療人を育成する。
・地域から愛され、地域社会に貢献できる医療人を育成する。
・異文化を理解し、グローバルに活躍できる医療人を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当した機能形態学実習、臨床生理学実習、生物薬剤実習、処方箋解析実習、総合実習の５つの実習において、実習経験者及び薬剤師国家試験合格の経験を生かし、積極的かつ親身に対応した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　　ヒト赤血球膜タンパク質「Band3」のX線結晶構造解析

赤血球に存在するBand3と呼ばれる膜タンパク質は、赤血球内外の陰イオンを交換するIon exchangerであり、塩素イオンと重炭酸イオンを交換することで、ヘモグロビンの酸素放出を制御する役割をしている。このBand3の立体構造を解くことで、遺伝性の血液疾患の解明や、治療薬の薬剤設計、更には人工血液の開発につながると期待されている。現在、JAXAの協力のもと、国際宇宙ステーションでの微小重力下結晶化実験や、Lipidic Cubic Phase法を用いた結晶化を行い、SPring-8の放射光を利用したX線結晶構造解析を行っている。

② マラリア原虫の赤血球侵入メカニズムの解明

マラリアは年間2億人が感染し、40万人が死亡する熱帯・亜熱帯地域で流行している重篤な原虫感染症である。マラリア原虫は、蚊を媒介して体内に侵入し、肝細胞を経て赤血球に侵入したのち増殖し、全身を巡ることで重篤化する。このマラリア原虫の赤血球への侵入メカニズムは不明な部分が多く、生物学的理解が感染制御及び薬剤開発につながると考え研究を行っている。現在、マラリア原虫に発現しているタンパク質と、赤血球の膜上に存在するタンパク質の結合様式の解明を目指し、構造生物学的手法を用いて実験を行っている。

③ 赤血球を担体とした薬物輸送システムの開発

赤血球を担体としたDDS研究は、急速に進展している分野であり、近年ようやく臨床試験に移行している段階である。自己赤血球に薬物を封入し体循環に戻す方法は、キャリア赤血球と呼ばれ、赤血球の長期循環性や生体適合性などの様々な特徴により有用だと考えられている。具体的には、抗悪性腫瘍薬や抗炎症薬、抗菌薬や抗ウイルス薬などの幅広い薬物が封入され、薬物の抗原性を低めたり、徐放性を高めたりする研究がされている。現在、抗腫瘍作用を持つ薬物を封入したマウス赤血球を体循環に戻し、マウスに移植した癌細胞に対する退縮効果の検証を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Lipidic Cubic Phase法を用いたヒト赤血球膜タンパク質Band3の立体構造解析／2022年3月／第142回日本薬学会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法の開発／2022年3月／第142回　日本薬学会

トロンビン特異的なペプチド基質S-2238を用いた血中ダビガトランの抗凝固能検査法の開発／2021年11月／第61回　日本臨床化学会

血液凝固制御因子プロテインCの定量的総活性測定法の開発と欠乏症評価への提案／2021年11月／第61回日本臨床化学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会	会員	国家試験、及びCBT経験者として積極的に意見を述べた。
OSCE実施委員会	会員	OSCE経験者として積極的に意見を述べた。
就職委員会	会員	卒業生と連絡をとり、在学生に向けた職場PR資料を作成してもらったり、セミナーを開いてもらうことで、就職活動を促した。
地域連携委員会	会員	地域に根ざした薬剤師の普及を目指し、在学生と地域の薬剤師とが交流できるイベントを催した。
同窓会薬学部門支援委員会	会員	同窓会薬学部門のHP作成・編集に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

特になし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2021/4/1	第142回-1	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/2	第142回-2	-	新着任教員対象FD	対象外
2021/4/8	第143回	第1回	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2021/4/28	第144回	第2回	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2021/4/28	第145回	第3回	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2021/8/31	第146回	第4回	教育基盤センター、QSP共同FD･SD	出席
2021/9/1	第147回	-	研究倫理研修	出席
2021/9/1	第148回	第5回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2021/9/22	第149回	第6回	利益相反マネジメント研修会	出席
2021/12/10	第150回	-	新任教員授業研修会（第3回）	対象外
2022/2/15	第151回	第7回	「修学上の配慮申請学生」の外部機関への情報提供に関する研修	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

地域の期待に応える実践活動（地域連携委員会）
夏休み薬学研究体験（地域連携委員会）
新型コロナワクチン集団接種会場におけるワクチン充填業務（長崎県薬剤師会）
新型コロナワクチン集団接種会場における予診票チェック業務（佐世保市薬剤師会）
新型コロナウイルスのPCR検査及び検体採取業務（NIU疾患検査センター）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

７．受賞等

特になし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育では、担当した機能形態学実習、臨床生理学実習、生物薬剤実習、処方箋解析実習、総合実習の５つの実習において、実習経験者及び薬剤師国家試験合格の経験を生かし、積極的かつ親身に対応した。
研究では、臨床化学会においてポスター発表を行った。また、基盤研究Cに申請を行なったが、不採択であったため、挑戦的萌芽に申請を行なった。
社会貢献では、新型コロナのPCR検査員として、また、薬剤師会の集団接種会場のワクチン充填業務及び予診表チェック業務を行うことで、地域医療の一端を担い、地域社会に貢献した。